普及版

フロイド著

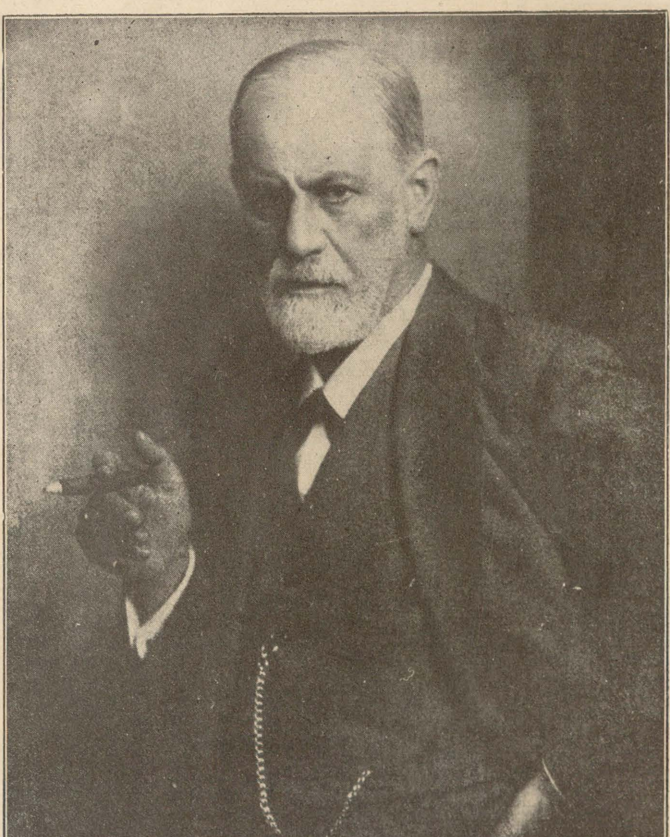
精神分析入門

上巻

安田徳太郎訳

ARS

VORLESUNGEN ZUR EINFÜHRUNG IN DIE PSYCHOANALYSE



ジグムンド・フロイド

(1922)

普及版

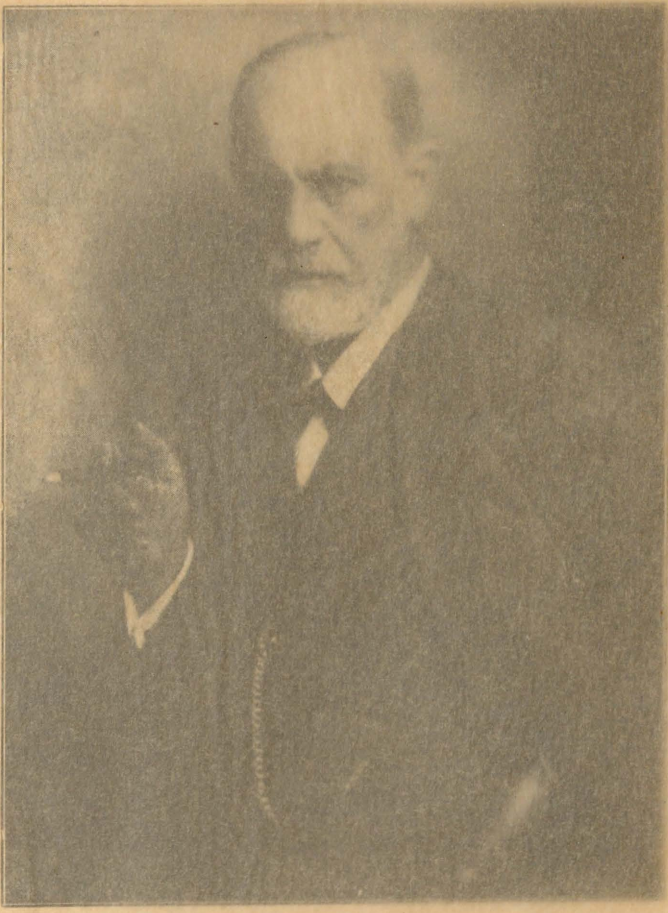
精神分析入門

フロイド著

上卷

安田徳太郎譯

ARS



ジグムンド・フロイド

(1922)

普及版

精神分析入門

フロイド著

上巻

安田徳太郎譯

ARS

序

私がこのたび「精神分析入門」といふ書物を出版するのは、既に刊行されてゐる斯學の紹介書と角逐するがために計畫したものでない。(Pfister, Die Psychoanalytische Methode, 1913; Leo Kaplan, Grundzüge der Psychoanalyse, 1914; Régis et Hesnard, La Psychoanalyse des névroses et des psychoses, Paris 1914; Adolph F. Meijer, De Behandeling van Zenuwzieken door Psycho-Analyse Amsterdam 1915.) 本書は私が維納大學で、丁度、一千九百十五年から一千九百十六年、一千九百十六年から一千九百十七年にかけて醫者及び一般人の男女聽講者に公開した二回の冬期講演の草稿である。

本書が讀者に與へる一種獨特な體裁はそのやうな成立條件に基づいてゐる。說明に際して飽く迄も科學講義に必須な冷靜を保つのは私には不可能だつた。講師はむしろ二時間講義の間、絶えず聽衆の注意をそらさないやうに努力しなければならなかつた。そしてその瞬時瞬時の效果といふものを顧慮して、例へば初めは夢の解釋、あとでは神經病問題に結びつけて、已むなしに同一題目を反

復するに到つた。材料の配置に關しても當然、一、二の重要な題目、例へば無意識といふやうなものを一箇所で詳論し盡すことが出來なかつた。そしてこれ等の題目に幾度も觸れては罷め、さらに新しいよい機會を捕まへて、その智識を補はなければならなかつた。

精神分析の文獻に親しんでをられる讀者は、私の「入門」からは、もつと詳しい他の既刊書にも載せてないやうな新事實を學ばれることは少いと思ふ。然しながら、著者は材料を圓滑に總括する必要上、二、三の章（恐怖の病理、ヒステリイ空想）で、今日まで發表せずにゐた研究を紹介することになつた。

一千九百十七年早春。

維納

フロイド

譯序

私はかねがねフロイドの書物を翻譯してみたいと望んでゐた。日本の讀者に最も概論的に精神分析の眞髓を傳へるために、フロイドの數多の研究、例へば「ヒステリイの研究」、「夢判斷」、「性慾說」、「日常生活の異常心理」、「トオテムとタブウ」、「洒落」、さらに最近の「快感原理の彼岸へ」、「群集心理」などを直ちに紹介するのは不適當だと私は考へてゐる。私達はフロイドの築き上げた心理學の大觀を知りたいのである。勿論日本にも早くから數種の精神分析の入門書が存してゐる。併し、在來の紹介書は果してフロイドの眞の風丰、フロイドの精神を傳へる點で完全であらうか。私達はフロイドの名前だけで飽きたらない。精神分析の新術語の羅列だけでは辛抱が出來ない。かういふ考への下に、私は一千九百十七年に出版されたフロイド自らの「精神分析入門」の講演、その「Vorlesungen zur Einführung in die Psychoanalyse」の翻譯に手を染めたのである。

フロイドの學說に對して、多くの非難、反駁、罵詈、揶揄がはなたれてゐる。私とてフロイドの學說がすべて眞實であると主張はしないが、何等特別にフロイドに就て研究しない人までが、單に

性慾の名に反感をいだいて、その精神分析の學説を悉く葬り去らうとするのは極めて遺憾である。學説を批判する前に、私達は十分冷靜な態度で、フロイドの著書を讀破し、精神分析の概念をわがものとせなければならぬ。然しながら、その原書は誰の手にも容易に屆くものでない。その學説は確かに難解であり、正しい智識を贏ち得るためには、幾多の專門知識と鋭利なる觀察を必要とする。私自らも果してフロイドの語るところを正確に移植し得たか極めて疑問である。多方面に分岐したこの學説は科學界のあらゆる方向から眺むべきである。精神分析の研究は神經學者、性學者、心理學者、教育家、人類學者、社會學者、文學者の各方面の人士にまかすべきである。だが、フロイド自らが醫者である以上、醫者としての私の翻譯にはある特色があらうと信じてゐる。

正統醫學、所謂物理化學と生物學を基調とした現代醫學を一途に辿つて來た人達には、必然ある時期に、ある疑惑とある寂寥が擡頭してくる。あらゆる人間の行動、疾患のあらゆる表現をひたすらに、精密なる機械と實驗によつて説明し、理論づけようとする努力に對して、限りなき絶望がこみ上つてくる。この時に突如として私達の心の底から、形而上學へのあこがれが湧出してくる。物理化學と生物學に、さらに新しい醫學的心理學の必要を感じてくる。シヤルコオの門に學んだ當時の若きフロイドは一介の神經醫であつた。時に彼は私達と同じに顯微鏡と試驗管をひねくつて迷走

神經の研究に沒頭したこともあつた。一千八百八十六年彼は深い懷疑につつまれて巴里から維納に歸つて來た。彼は斷乎として正統醫學に叛逆し、多くの同僚と袂を別かち、彼自らの懷抱する目的に足をむけたのである。この道は先人未踏の曠野であつた。ブロイエルとの共同研究である、一千八百九十五年の發表にかかる最初の業蹟たる「ヒステリィの研究」は單に神經學者に新しいショックを與へる以上を出なかつた。催眠術の方法をすて、ブロイエルから獨立し、自由聯想を應用して、彼は自らの精神分析を創始した。學界の嘲罵のうちに彼の學說は强大に成長して行つて、一千九百年來彼の天才は狹隘な醫學の畑から飛躍した。彼の學說は忽ちに民衆の視聽を集め、民衆の興味を唆り、つひに文化科學に於て確乎たる地步を占むるに至つたのである。

フロイドも申すやうに、精神分析學は決して、アプリオリを求めてやまぬ形而上學でない。精神分析は一つの科學である。不完全なところに若き科學の面目がある。物理や化學と同じに、その究極の概念は不鮮明であり、その假設は絕對でなく、嚴密なすべての決定は將來にかかつてゐる。その學說は常に革新さるべきものである。讀者はこの「入門」に於て、巧みなるフロイドの說明によつて、「間違ひ」「夢」さらに「神經症」の各部門の中から新しい智識と新しい暗示を學ばれるに相違ない。そして讀者は精神分析に對して、在來の紹介書より一步進んだ正しい概念を贏ち得らるる

ことと思ふ。

大正十五年二月

京都

安田德太郎

目次

間違ひ。

第一章 緒言……三

第二章 間違ひ……一八

第三章 間違ひ（續講）……四一

第四章 間違ひ（終結）……七三

夢。

第五章 難關と最初の試み……一〇九

第六章 臆說と解釋術……一三五

第七章 夢の顯在內容と潛在思考……一五六

第八章 子供の夢……一七六

第九章 夢の檢閲官……一九二

第十章　夢の象徴……………………………………………………二三三
第十一章　夢の仕事……………………………………………………二四二
第十二章　夢の分析例…………………………………………………二六四
第十三章　夢の大古性と小兒性………………………………………二八七
第十四章　願望實現……………………………………………………三二一
第十五章　疑點と批判…………………………………………………三三四

精神分析入門

緒言。間違ひ。

第一章 緒言

一體諸君は精神分析に就て、書物からさては世人の噂からどの程度の智識を學ばれたかを私は存じてゐない。併し、「精神分析初等入門」と言ふ講演題目を標榜した以上、私はどこ迄も諸君を全然精神分析の智識に不案內な、是非初等入門を必要とする聽講者と取扱つてみても差支へなからう。

尤も諸君は精神分析は神經病患者を醫學的に治療する一方法であることを夙に承知してをられると推定してもよからう。そこで早速に私はこの精神分析の領域ではその方法は、醫學に於て普通施行されてゐるものといろいろの點でその趣を異にし、時には全くあべこべの事さへあるといふ例を與へることが出來る。醫者がある患者を、その患者には始めての新療法に紹介する時は、常に、それに伴ふ困難を最小限度にしてやり、彼にその治療の效果が十分信賴出來ることを保證してやらねばならない。これは全く正しい。さういふ態度ですれば奏效の確率を高めると私は考へる。然しながら、神經病患者に精神分析療法を施す時は全く樣子が違つてくる。私達は患者に、治療方法がむづかしいこと、それに時間がかかること、犧牲や努力を多分に拂はなくてはならぬこと、そして、

その效果に至つては、私達がきつぱりと約束出來ないこと、いつに彼の態度、彼の理解、彼の素直さ、彼の忍耐に懸つてゐるなどと申すのを常としてゐる。何故そのやうな意地の悪い態度を採らなくてはならぬかには立派な根據があるので、諸君もあとになつて多分思ひあたる節があらう。

私が諸君を早くもこのやうな神經病患者なみに取扱ふのを悪くとつて呉れては困る。そして諸君が私の講演を二度も聞き直しに來られないやう私から注文しておく。この機會に私は精神分析の教授に際して幾多の不備が拔け切らないこと、自分一個の見解に達することがいかに至難であるかを諸君に篤と說明したい。さらに諸君の受けた在來の教育の全方針及び諸君の考へ方は必然に精神分析に敵對するやうに出來てゐること、諸君の本能的な敵愾心を屈服さすために、諸君がどれ程打克たねばならぬことを示したい。私の講演から諸君が精神分析の智識をどの程度迄得られるか豫言など勿論出來ないが、諸君が私の講演を聞いただけでは到底、どういふ手順で精神分析研究に着手すべきか、どんな風にその治療を行ふべきかやを決して學ぶことが出來ないことだけは前以て十分に御約束が出來るのである。併し、萬一諸君のうち精神分析を駈足で知るのに飽き足らずして、もつとしんみり親しみたいと望まれるお方があるなら、私はさういふ人に出席をお斷りするばかりか、さういふ人に直接警告を與へておきたい。現狀を眺めて見ても分かるとほり精神分析といふ職業を

選擇したところで、大學で雇つて吳れる見込なぞ立たないし、若しこの道の熟練した醫者となつて實社會に跳び込んでみたところで、彼の努力を理解しないばかりか、彼を曲解し、彼を敵視し、その心底に巢作つてゐるあらゆる惡なる靈が彼の面前で爆發する恐ろしい社會の最中に立つてゐることに氣付くばかりである。諸君は今日歐羅巴の天地を荒れ狂つてゐる戰爭に伴ふいろんな現象から、いかに無數の敵意が存在し得るものか枚擧する遑のないことを想像されるだらう。無論いつの世にも、このやうな不都合に怯まずに、新智識と申すものに、温い同情を懷いて吳れる人が澤山あるものだ。諸君のうちにもさういふお方が少數あつて、私の警告には一向お構ひなしに若し明日二度出席されるなら、諸君が私を歡迎して下さるといふ意味にとれる。ともあれ只今諸君はみんな精神分析の困難が一體どういふものかを知る一つの權利を持つてをられるのである。

先づ第一に精神分析の教授法と講義に伴ふ困難を示してみることにする。諸君は醫學の教授法で厭ほど見馴れていらつしやる。解剖學のプレパラアト、化學反應の沈澱、神經刺戟の結果である筋肉攣縮を見られたらう。それから諸君の知覺を通して、患者とか、疾病の徵候とか、病理過程の產物、さらに幾度も、分離狀態にある病原菌にさへ親しまれたであらう。外科の方に行くと患者に施行する處置を目擊され、時には自ら執刀して手術をも試みられるだらう。精神病學でさへ諸君に患

者を供覽して、その變化した顏貌、その話ぶり、その振舞に於ける無盡の觀察から深甚な印象を受けられるであらう。醫學の教授と申すお方は、專ら、恰も諸君を博物館を一順見物させて呉れるあの案內者の役目をやつていらつしやるのである。そして諸君の方でも、そのやうな物品に親しく接觸し、自らの認識を通して、成程新事實の實在は肯定出來ると納得されるのである。
遺憾なることに精神分析では總てが違つてゐる。分析療法では單に醫者と被驗者の間に言葉を交換するに過ぎない。患者は話をする。自分の過去の經驗と現在の印象を語り、訴へ、自分の希望と感情を告白する。醫者はそれを傾聽し、患者の思考の流れを指揮しようと努め、回想せしめ、彼の注意を一定方向に集中さし、彼に說明を與へ、患者に惹き起こされた肯定若くば否定の反應を觀察するのである。私達の患者の教養のない親戚共は——さういふ程度の人達は、目に見えるもの、手に摑み得るもののみに心を奪れ、丁度活動寫眞を見るやうに、行動といふものを最も愛好するのである——「單に話をするだけで病氣に對してどんな效果があらう。」といふ疑問を極まつたやうに起こしてくる。さういふ考へ方は勿論不合理であり近眼である。なんとなれば、彼等もまた、精神病患者は單に自分の病氣を空想してゐるのだと信じてゐる人達と同列にあるのだ。言葉といふものはその起原は魔術である。今日でも言葉はその古い魔力を多分に保存してゐる。言葉の力によつて人

は他人を淨化せしめ、言葉の力によつて一轉して他人を絶望の淵に追ひ詰めることが出來る。言葉を通して教師は學生にその智識を傳授し、言葉を通して辯士は集會の議事を進行せしめ、その批判と決議を纏めるのである。言葉は感情に火をつける。言葉は人類相互を結びつけ、或ひは離叛さす常套手段となつてゐる。それ故に心理療法に言葉を用ゐることを輕蔑してはならぬ。若し私達が分析者とその患者の間に交換される言葉の傍聽者となり得るなら至極滿足であるのだ。

併しこの事さへ許されない。精神分析療法で行はれる會話へ傍聽者がまぢつてはいけない。その會話は決して供覽すべきものでない。精神病學の講義では教授は學生に神經衰弱患者とかヒステリイ患者を供覽することもある。その時患者は自分の病歷とか徵候とかを語つて吳れるが、決してそれ以上を出ない。分析を要するやうな報告は、その患者が醫者と特別親しい感情の理解を持つた時にだけ可能である。若し自分と緣も因りもない第三者が聞いてゐると氣付けば、患者は立所に口を緘してしまふのである。といふのは、さやうな報告は彼の精神生活の最も秘密なものに屬してゐる。總てのものは、社會的に獨立出來る一個人として、他人の前に隱蔽しなくてはならぬものなのだ。さらに、總てのものは、統一ある人格として、自分自身にも許さうとは欲しないものなのだ。

この理由から諸君は精神分析療法に侍ることは出來ない。諸君は精神分析の話を聞くことが出來

るだけである。卽ち言葉の嚴密な意味から申せば、諸君は精神分析を人の噂を介して聞き嚙るに過ぎないのである。セコンド・ハンドと譬へてもよいこんな敎授法から到底正しい理解などは望み得られない。精神分析の理解は明らかに、諸君が報告者にどれ程の信用を置くことが出來るかに懸つてゐるのである。

精神病學の講義でなしに、まあ歷史の講義を聽きに來たと想像し給へ。そして講師がアレキサンダア大帝の事蹟と侵略を語つてゐるとし給へ。どういふ動機を土臺として、諸君は一體全體その講師の報告が噓でないと信ずるのか。どう見てもこの時の事態は精神分析の場合よりも遙に不都合である。歷史の敎授なるものは諸君と御同然何もアレキサンダアの遠征に參加してゐたのではない。これに反して精神分析家は少くとも、自分自身が携はつた事物だけを報告するのである。併し次に全體歷史家を信じてよいのは、どういふ證據に基づくのかといふ問題が湧く。歷史家は諸君に、同時代若くばその事件に近い頃に存命してゐた、昔の著述家の報告といふやうなもの、例へばヂオドル、プルタルクとかアルリアンなどの書物を史實として示すことが出來る。歷史家は現今迄保存されてゐる貨幣とか大帝の肖像の複寫を見せて吳れ、イッソスに於ける戰爭を刻んだポンペイのモザイクの寫眞を順順に廻して吳れるだらう。嚴密に言へば、これ等の記錄は總て、アレキサンダアが

實在してゐたこと、彼の事蹟が本當であることを、昔のその昔の人達が既に知つてゐたのだといふ事實を證明したに過ぎないのだ。そして諸君はこの事實を基點として勝手に新しく批判し直してもよいのである。かくて諸君はアレキサンダアに關する記錄の皆が皆まで眞實でないこととか、その眞僞をどこ迄も糺明しなくてならぬこととかを知るのである。然しながら、私は諸君がこぞつてアレキサンダア大帝の實在を疑つて講堂を去られるとは假定出來ない。諸君が下す判決は專ら次の二つの思慮から極められる。第一は講師自らもどうも怪しいと睨んでゐる事實を諸君に本當のやうに思ひ込まさうとする見透いた動機を示さない時。第二にどんな歷史書を探索してもこの事實を殆ど同樣に記載してゐる時。諸君が古文書を檢討する時は同じ要素を顧慮されよう。卽ち信賴の置ける保證人の良心と、おのおのの史家に一致點があることを顧慮されるだらう。檢索の結果アレキサンダアの實在は確かに信用してもよいことになるが、それがモオゼスとかニムロドのやうな人物になると多少眉唾物になつてくる。同樣に諸君が果して精神分析の報告者を信ずべきかにどの程度の疑問をさしはさみ得るかを、あとになつて十分に知られるに相違ないのである。

偖て諸君は次の疑問を提出する權利がある。若し精神分析を客觀的に信ずる途がなく、それを供覽する事が不可能であるなら、一體どうして精神分析を學び、その主張の眞實とするところを確め

ることが出來るのか。實際精神分析を學ぶのは容易でない。精神分析學を正式に修めた人はほんに數へるしかない。だがこれに達する道は勿論開かれてゐる。先づ諸君は精神分析を自分のからだに試みて、自己の人格の研究によつて學ぶことが出來る。これは所謂自已觀察と申す意味とは全然趣を異にしてゐるが、一寸適切な言葉が見付からないので、今のところさういふ言葉で形容しておかう。精神分析法をちよつぴり學べば、分析材料に出來る、誰にでも頻發する、誰でもが知り拔いてゐる精神現象が無數に轉がつてゐる。さういふ材料を分析することによつて、諸君は精神分析の記載する現象が眞實であること、精神分析の學說が噓でないことを確信されるだらう。尤もかういふ方法ではある境にしか進めない。さらに深く進まうと思へば、專門の分析家に自分を分析して貰ひ、分析の效果を自分の自我で體得し、さらに、その分析家が用ゐる分析の微妙な術式を觀察してみる機會を利用するに如くはない。勿論こんな好都合な方法は、個人個人にのみ限られてゐて、決してクラス全體の學生に望まれるものでない。

精神分析を理解しようとする時に起こる第二の困難は最早精神分析に關係してゐるものでない。少くとも諸君が今日迄醫學研究に從事していらつしやるなら、諸君自らがその責任を負はなくてはならぬと私は考へてゐる。諸君の在來の教育は諸君の思考活動を精神分析とは非常に遠隔した方向

にむかしめてしまつた。諸君は有機體の機能や疾患を解剖學の基礎の上に建てて、化學的乃至物理學的に解釋し、生物學的に觀ずるやうに教育されて來た。その結果諸君の興味の一部だに、驚くべく複雜なこの有機體の進化の絕項にある心理生活に向けることはなかつたのである。かういふ教育のために、心理學的思考法の素養が缺如して、心理生活を疑惑の眼で眺め、それに科學といふ本性を賦與するを怠り、心理生活を素人、詩人、哲學者、神秘家のなすが儘に放任してしまふ習慣がついてしまつた。このやうな制限は確かに諸君の醫者としての能率を侵害するものでなからうか。總ての人事關係に洩なく、諸君が患者を診る時に先づ第一にその患者の精神的外貌にぶつつかるからである。そして諸君の求めてゐる治療勢力の一部を、諸君が極力輕蔑してゐる鍼醫者、自然療法家及び神秘家の蹂躙に任かしてゐるといへる。私は諸君のかやうな放慢の罪を衷心恐れてゐるのである。

諸君のこれ迄の教育の缺陷に對してどのやうな辯明が現れるか私は十分想像出來る。が、とにかく諸君の醫學的見解に十分役立ち得る哲學的治療法が缺損してゐるのである。思索哲學とか記述心理學とかさては感覺生理學を土臺とした實驗心理學と申すものは、丁度學校で習得されたやうに身體と精神に介在する關係を知る上に大して役立つたとは申されない。さらに、それ等は諸君に精神

機能の起り得べき疾患を理解する鍵を準備することも出來なかつた。醫學の領域に於て、精神病學は、その觀察した精神障害を記述し、臨床的症狀に總括する仕事に從事してゐるが、正直な所を白狀すれば、精神病學の純記述的といふその陳述が果して科學の名に背かないかと精神病學者自らが疑つてゐる次第である。病症を組み立ててゐる徵候の由來、そのメカニズム及びその相互關係は未だ不明瞭である。それ等の徵候は精神の解剖學的器官で證明出來る變化と全然一致してゐないし、さういふ解剖學的變化だけを基としてそれ等の徵候を說明することも不可能である。かやうな精神障害にあたつて、ただ例外なのは、それがある有機的障害の合併症であると分かつた時だけ、その有機的障害を除けば治療的效果が達せられるのである。

精神分析が埋めようときばつてゐるのは丁度この空隙である。精神分析は精神病學に今迄に失はれてゐた心理學的基礎を與へようとしてゐる。精神分析は、身體と精神の障害を結びつけて理解しようとするあの緩衝地帶を曝露してやらうと望んでゐる。この目的の下に、精神分析は解剖學的とか化學的、さては生物學的本質の緣も因りもない假說から解放されて、徹底徹尾純心理學的立場の上から研究を進めなくてはならぬ。かういふ理由から、私は、精神分析が諸君に奇怪な感を與へるだらうと恐れてゐる。

第三の困難は諸君、諸君の教育若くば諸君の心理狀態に責任があるとは申さない。精神分析はその懷抱する二つの信條のために、全世界の怒を買ひ、剩へ反感さへ惹き起こしたのである。その信條の一つは教養的偏見と衝突し、その一つは審美的、道德的偏見と衝突したのである。これ等の偏見をあまり樂觀的に考へずにおいて欲しい。彼等は威力ある敵である。人類の進化の上に役立つた、いや必要であつた沈澱物である。彼等は感情力によつてこびりついてゐて、彼等に挑む戰鬪は非常に難いものであるからである。

精神分析の懷抱する人好きのしない主張の一つは、精神現象はそれ自體が無意識的であり、意識的現象は全精神生活の一行動一部分に過ぎないと言ふ信條である。諸君は反對に精神と意識を同一視する習慣がついてゐるのを思ひ浮べるだらう。私達から見れば意識とは明らかに精神を限定しようとする特質であつて、心理學は意識內容を硏究する學問である。この事實は自明すぎる程自明なもので、それに喰つてかかるのは愚の骨項だと確信してゐるが、それにも拘らず、精神分析は意識と精神の同一視は信ぜられないといふやうな抗議を申込まざるを得ないのである。精神分析の抱く精神なるものの定義は、精神とは感情、思考及び欲望といふ本質の過程であるに盡きてゐる。そして精神には意識的思考と無意識的欲望が存在してゐると主張しなくてはならぬ。だがこの信條が祟

つて、精神分析は初めつから四角四面な科學なる一切の友達の同情を失つて、闇に棄き濁流に魚釣るあの荒唐無稽な秘密教の嫌疑を蒙つたのである。諸君は當分のところ、私がどういふ權利の下に在來の、「精神は意識である」といふやうな抽象的な定義は偏見だと喝破しなくてならなかつたかを理解して下さることは覺束ない。若しこんな定義が存在しなくてならぬなら、私達のいふ無意識を否定するためにどういふ手順を辿らなくてはならなかつたか、さらに、この定義を否定する時に、どのやうな利益が生じ得たかを諸君は忖度することは出來ない。精神と意識は分離され得るものでないとか、精神は意識の遙か外まで擴がつてゐる筈だとかいふ文句は結局空虚な口論である。一方私が無意識なる精神過程を假定したことによつて、世界及び科學に新しい方向が開拓された事は諸君に十分な自信で斷言することが出來るのである。

精神分析のこの第一の大膽な信條が、次に述べようとする第二の大膽な信條とどれ程密接な關係を有してゐるかを諸君は想像することはむづかしい。精神分析がその業蹟の一つとして發表した第二の定義は、世人が狹義にも廣義にも性として解してゐる衝動は、神經病及び精神病の誘因に今日迄重視されなかつたある特別に偉大な役目を演じてゐるといふ主張である。いやそれ以上に。この性衝動は人類の精神の最高の文化的、藝術的、社會的創造に莫大な貢獻をしたのである。

私の經驗を回顧すれば、精神分析研究のこの歸著に對して放たれる嫌忌は、精神分析の遭遇した最も手嚴しい反駁の中心點であつた。私達が性慾をどう說明するかを知りたいと望まれるか。文化とは生存競爭の軋轢の下に、本能享樂を犧牲にすることによつて生み出されたものである。文化の大部は次から次へと新しく人類社會に這入つて來た各個人が本能享樂を社會全體の幸福のために繰返し繰返し犧牲にすることによつて、永遠に改造され革新されるものである。かやうに利用された本能力のうちでも就中性慾は最もめざましい威力を持つてゐる。性慾はその時實事に昇華されたのである。換言すれば性慾はその本來の性的なる目標から背いて社會的に一そう高い、最早性的でない目標にさしむけられるのである。然しながら、かやうな方法で築かれた建築物は不安定である。といふのは、性慾は制馭されにくいものである。文化事業に參與する責任ある人達の心底に、自分のうちに燃える性慾を社會的に昇華するのを回避しようとする危險がうごめいてゐる。性慾が解放されて、性慾がその本來の目標に再びさしむけられる時程、社會は文化に對して大きな脅威を感ずるものはない。社會は自分の建設に與つたこの痛い部分に觸れられるのを好まない。社會は性慾の威力が承認されて、性生活の意義が各個人に啓蒙されることに何の興味も示さない。社會はむしろ教育と申す見地からこの性なる全領域へ人の注意が集中されないやうな方法を發見したのである。

この理由から社會は精神分析が闡明した研究の歸著に堪え切れなかつたのである。社會は躍氣となつてそれに審美的に抵觸した、道德上から咎むべき、ある時は危險この上もないものだといふ烙印を燒きつけることを切望したのであつた。併しかやうな非難は科學研究を標傍して立つた吾人の客觀的業蹟を寸毫も搖がすことが出來ない。正正堂堂と論陣を張る積りなら、當然その反駁は學問といふ名前で出直してこなくてはならない。自分の好まぬものを眞實でないと貶したがるのは人性の常である。そして人は早速にそれに喧嘩を吹つかけたがるのである。社會も同樣に自分の思召に適はぬものは眞實でないと觀じて、精神分析の學說を、むしろ感情一天張から、一應尤もらしい、かなり筋道の通つた議論でやつつけようとし、やりこめられても更らに性も懲もなく、偏見と分かり切つてゐる攻擊を續けてゐるのである。

併しこのやうな非難の多い學說を提唱する際に、私達は飽く迄も時流に媚びなかつたと公言しても憚からない。私達は一生懸命に努力して本當だと信じた事實だけを發表したいと志したのである。私達に再考を强いようとする杞憂が果して正しくないかを私達が判決する前に、科學研究へさやうな實生活への躊躇をふりかざして干涉するのを無條件で擊退する權利を今日でも要求してゐるのである。

只今述べたことは諸君が精神分析を學ばんとする際に遭遇される困難のうちの二、三に過ぎない。講義の劈頭にあたつてこれだけ述べば十分である。諸君がこれ迄の勸告にも動じないだけの膽が極まつてゐるなら、私達はこれから講義にとりかかることにする。」

第二章　間違ひ

假設でなしに、一つの研究から始めることにする。この目的に非常に頻繁に現れる、人が皆知り拔いてゐる、その癖あまり注意が拂はれてないある現象、どんな健康な人にも觀察の出來るといふ點から、病氣と何の關係もないらしいある現象を選んでみる。ある現象とは所謂人類のしでかす間違ひである。例へば、何か言はうと思つてつひうつかり違つた言葉を滑らす「言ひ間違ひ」(Versprechen)。あとになつて氣が付くこともあり、氣が付かぬこともあるが、同じ事は字を書く時にも現れる。また印刷とか書き物で元の字とは違つて讀む「讀み誤り」(Verlesen)。自分に言はれた事を間違つて聞く「聞き違ひ」(Verhören)。勿論聽覺力に有機的障害のある時は別だ。同じやうな現象の第二部類は長い間でなしに、ほんの一時的の忘却(Vergessen)として知られてゐるものである。例へば、いつでも口にしてゐるが、そして顏だけは浮んでくるが、どうもその人の名前が口先きに出てこなかつたり、あとでは思ひ出すが、ある目論見の履行をつひ失念する。卽ちほんある時間だけ忘れてしまつてゐることがある。第三の部類ではこのほん短時間といふ條件が缺けてゐる。例へ

ば品物をどこかへ片附けてしまつて、次の時にどこへ入れたかすつくり忘れてしまふ「置き忘れ」(Verlegen)がある。これと全く相似の「紛失」(Verlieren)もこの部類に這入る。これは忘却の一種であるが、普通の忘却と別種に取扱はれてゐる。この時人は早速思ひ出さうとせずに、忘れたのに我ながら呆れたり、忘れたので氣がむしやくちやする。これに關聯して「思ひ違ひ」(Irrtüme)といふ奴がある。思ひ違ひには矢張この一時的といふ要素が含まれてゐる。卽ち自分がさうでない事をそれ以前にも承知してゐたし、それ以後にもはつと氣が付くが、兎に角暫時さうだと信じてゐることがある。多數の同じ現象はいろいろに命名されてゐる。

これ等の現象はお互に皆深い續き合ひがあつて、獨逸語では Ver（フエル）といふ接頭字のついた言葉で表されてゐる。このやうな現象は總て、その本質から見ても論ずる價値はないし、ほん一時的しか持續しないし、人間生活にも大きな意義があるものとは申されない。そのうちで物品の紛失といふやうなことは、實生活にある必要があるが、これとて稀有で、大抵微弱な感動を惹き起こすだけに止まつて、大した注意も拂はれてゐない。

そこで諸君は只今から一つこのやうな現象に注目して欲しいのであるが、諸君は怫然としてかう抗議されるかも知れない。「廣い世界にも狹い精神生活の世界にも盡し限れない大きな謎があり、

精神の狂ひの世界にも、說明を要し說明に價する驚異が數へ切れない程轉がつてゐますのに、何を好きこのんで、こんな取るにも足らぬ瑣細な事に精力と興味を浪費することが出來ませうか。先生が私達に、どうすれば健全な耳目を具へてゐる私達がこの白日の下にあつて、そこに實在してゐない事物事象を耳に聞き目に見る事が出來るか、又どういふ譯で今の今迄愛し切つてゐた人達が俺を迫害するといふやうな觀念が突然に湧き出てくるか、又どうして子供にさへ馬鹿らしく思はれる狂氣の姿が現れるかの原理をきつぱり敎へて下さるなら、精神分析の聞き甲斐もありませうが、精神分析が、やれ司會者がどういふ譯で口滑りをやつたとか、やれ家婦がどういふ譯で鍵を置き忘れたとか、やれ何とかといふ、そんな取るにも足らぬ問題を研究する以上を出ないなら、私達は折角の時間と興味をもつとためになる別の事に捧げたいと考へます。」

私は諸君にかう返答する。「辛抱し給へ。諸君の批評は的が外れてゐるとしか思はれない」。成程精神分析は今迄一度も瑣細な事を研究題目としなかつたと法螺を吹く譯には行かない。いや全くこれと反對に、精神分析派は、ほかの科學からなんだ詰らないとおつぽり出された陳腐な材料、換言すれば、現象界の無用物をその觀察の題目に拾つてくるのを常としてゐる。併し諸君は批評に際して、問題の宏大といふことと、表示の顯著といふことを混同してはゐないだらうか。非常に意味深

い事物が、ある時、ある條件の下に極く目立たない表示しか現せなかつた事がないだらうか。私はいつ何時でもそのやうな實例を澤山お目にかけることが出來るだらう。ここにをられる青年達は自分が女に惚れられたことを瑣細な表示から知るではないか。諸君は口づからの戀の告白とか、情熱のこもつた抱擁とか迄待つだらうか。いやこつそり秋波を送るとか、一寸媚を呈するとか、一秒間も握手をして呉れるとか、それだけでもう十分でなからうか。或ひは諸君が檢事となつて殺人犯の訊問に携はつた時に、犯人が現場に住所姓名の書いた自分の寫眞を置き忘れて呉れることを豫期するつもりか。いや諸君はごこ迄も犯人の殘した薄弱な不確實な證據物件で十分でなからうか。この理由から瑣細な表示を輕蔑してはいけない。十中の八九迄この小さい證據から大きい證據に到著することに成功するのである。だが私とても諸君と同然世界及び科學界の大問題が第一番に私達の興味をひきつける權利を持つてゐると考へてゐるが、この大問題、あの大問題をこれから一意專心に研究するのだと決心したところで、大概のところあまり效力はないものである。そんな決心をしたところで、一體何から始めてよいか皆目見當がつかない。科學研究では、丁度手近に轉がつてゐるもの、既に研究の道が開けてゐるものに手を染める方が前途の見込が多い。若し人がこの手近なものをこつこつと、何の豫想も何の期待もなしに白紙のままで研究するなら、そして人が幸運といふ

ものを持ち合はせてゐるなら、絡み合つてゐる相關關係を辿つて、結局小さいものと大きいものを結びつけ、さらに見込のないやうな研究から大問題への手掛りを發見することが出來るのである。

このために私は諸君の興味を一見極くつまらない、健康な人に現れる間違ひといふ問題の研究にむけようと申すのである。これから一つ私達が精神分析の智識のないある人に向つて、「一體君はこのやうな間違ひといふ現象をどう說明する積りか。」と質問を吹つかけてみることにする。

質問されたその人はまづ次のやうに答へよう。「ふん。そんなものは說明する値打もないものだぜ。とるにも足らぬ偶然だね。」この返答はどういふ意味なのだらう。この人は、宇宙の現象界の因果律にはひれない程小さい、彼等が實在するやうには實在し得ない程小さい、そんな小さい現象が存在してゐると言ふ積りだつたのだらうか。若しこの人がこんな風に自然界の因果律を單に一點で破壞してしまふなら、この人は要するに科學的宇宙觀を無視したことになる。諸君はさういふ人に、神の特別の意志がなければ燕は屋根から落ちるものでないと斷定するあの宗教的宇宙觀はこれ以上に因果律を奉じてゐるではないかと指摘してやるとよい。この人は自分の最初の返答を推論して行くのを喜ばないだらう。彼は一本參つて、若し僕でもこのやうな現象を研究し續けるなら、やがてその說明が發見出來ると答へるに相違ない。この問題は機能の輕度の脫線、精神行動の不正確

に歸してよい。それ等の條件はとうの昔に發見されてゐるのだ。あの男がいつもは正確に話が出來るのに、演說にあたつて言ひ間違ひをしたとする。その時の條件は、一、その男が一寸氣分が惡いとか一寸疲れ氣味であつた時、二、その男があがつてゐた時、三、その男の注意が全く他の事に奪はれてゐた時。この條件を證明することはなんでもない。實際言ひ間違ひといふものは疲勞してゐた時とか、頭痛がしてゐた時とか、偏頭痛の發作が近寄つてゐる時には特に頻繁に起こるものである。同じ狀態で固有名詞の忘却がよく現れる。そして固有名詞がこのやうに思ひ出せない時に偏頭痛の發作がいよいよ迫つたと豫想する習慣のついてゐる人が多數にある位だ。あがつたり興奮したりした時にも、言葉ばかりでなくよく事物を混同し失態（Vergreifen）をやらかす。そして注意力が散漫になつてゐる時、換言すれば何か他の事に注意力が奪はれてゐる時は、豫定計畫を忘却するとか、思ひもかけない失態を繰返す。このやうな放心の有名な例は「フリイゲンデ・ブレツテル」を抱へた敎授である。彼は自分の蝙蝠傘をどこかへ置き忘れ、他人の帽子を冠つて出てくる。といふのは、敎授は次の書物に書かうとする問題に熱くなつてゐるからである。同樣に、例へば、極めた計畫とか、誓つた約束は途中に何か一生懸命に熱中しなくてはならぬ事件が起こつた時は、すつくり忘れてしまふ事實は、諸君自らの經驗から知り拔いていらつしやる筈だ。

何もめづらしい事實ではない。これに對して兎角の異論は出ない積りだ。勿論素敵に面白いとは申されないし、期待した程のものでない。私達は間違ひに對するこれ等の說明をもつと仔細に檢べてみよう。間違ひといふ現象が惹起される條件はどれもこれも同種でない。不快とか血行障害は健常な機能作用の侵害にある生理的基調を與へるものである。興奮とか疲勞、放心は今日世人が心理生理的と名付けることの出來る他種の條件である。これ等はたやすく學說となつたのである。疲勞とか放心さては一般興奮に依ても注意力の逸散が惹き起こされ、この結果、當面の仕事に注意力の集中される事が少くなつてくる。こんな狀態で仕事をやれば、その仕事は特別容易にかきみだされ不正確にしか果たし得ない。輕度の病氣、神經中樞に於ける血液分布の變化も同一作用を逞しくする。卽ちそれ等が決定的因子となつて、同樣に注意力の配布に影響を與へるのである。だから今迄の實例では有機的原因乃至心理的原因に基づく注意力障害の效果如何が問題の焦點となつてくる。

併しこんな事柄は精神分析的興味を大して唆るとは思はれない。私達はこんな題目を早速棄ててしまひたい氣になつてくる。尤も、觀察をさらに細密に進めて行けば、間違ひの皆が皆迄この注意力の學說に一致してゐないこと、少くとも間違ひはこの學證から眞直に演繹する事がむづかしいことを知るだらう。このやうな間違ひや忘却は、疲勞してゐない、放心してゐない、興奮してゐない、

それどころか、どの點から見ても常態にある人にも現れることを私達はよく經驗から知つてゐる。人は丁度折よく間違をしでかしたために、その人が興奮してゐたのだとあとになつて言ふが、當人はその時自分の興奮などには一向氣付いてゐないのである。ある行動といふものは、その行動に注がれた注意力の亢進によつて立派に遂行され、その注意力の抵下によつて滅茶苦茶になるものだとさう簡單に片付けられるものではない。純粹に自動的に、大した注意力も注がれずに運ばれ、至極正確に成就される行動が山程あるではないか。散步してゐる人は、自分がどの方向に足を向けてゐるかを殆ど知らずにゐる。それでも道を誤まらずに、正しい道を通つて目的地に達する。少くとも日常生活では萬事は大抵この通りである。熟練したピアニストは頭で考へなくとも正しい鍵をたたく。ピアニストは勿論時折間違ひをやるかも知れないが、萬一自動的な彈奏が奏き損ひに陷る危險を高めることがあつても、不斷の練習によつて全く自動的に彈奏出來るやうになつた泰斗が大概この危險に陷る。丸で反對に、多くの行動は、特別に强い注意力を必要としない對象なら却つて特別滑かに遂行され、人が正しくやらうと特別にきばる時、卽ち間違ひを起こすに必要な注意力の逸散がどう見ても存してゐないと思はれる時に、却つて間違ひといふ失態をしでかすのである。これこそ「興奮」の結果なのだと言ふ人があるかも知れないが、私達は何故に興奮が斯程迄に興味を傾注

してゐる目的物に向つて注意力集中を高めてやらないかを解するに苦しむのである。何人かが大切な演説とか講演にあたつて、自分の言はうと思つてゐることと全く反對のことをつひうつかり滑らしたとする。その時この言ひ間違ひを心理生理的とか注意の學說でもつて巧みに說明する人は殆ど皆無であらう。

間違ひにはなほ小さい副現象が無數に伴はれてゐる。そんな副現象は到底理解出來るものでないし、從來の說明ではつきりさすこともむづかしい。例へば人の名前を暫時忘却した時は、氣がむしやくちやし、何とかして思ひ出さうときばつて、そのため他の仕事に手がつかない。いくら思ひ出さうと苛苛しても、「口先に出かかつてゐる」その名前、かうだと人が言つて吳れば卽座に思ひつくその名前にどういふ譯で自分の注意力がうまく集中しないのだらう。さては間違ひが雜多な姿をとり、互にからみ合ひ、互に補ひ合つてゐる場合もある。ある青年は最初はランデヴウの約束を忘却してしまひ、次回はもう今度は決して忘れないと誓言したにも拘らず、今度も矢張約束時間をすつかり間違へてゐたのに心付いた。又忘れた言葉を一つ迂回して思ひ出さうと試る。さうするうちに、例へば第一の言葉を搜し出す段に役立つた第二の言葉の方は忘れてしまふ。今度はこの第二の言葉を追ひまはすならば、第三の言葉の方は忘れてしまふ。同樣な事柄が植字工の間違ひと稱して

ゐる誤植の場合にも起こるのは人のよく知るところである。ある時社會民主黨の機關新聞にこの種の頑固な誤植が紛れ込んでゐたといふ話を聞いた。卽ちある祭典の記事をかう書いてゐた。「當日の式場に畏くも Kornprinzen（コルンプリンチエン）も御臺臨あらせられた。」翌日の新聞に誤植訂正が出た。新聞は陳謝して次のやうに書いてゐた。「前日の記事は當然 Knorprinzen（クノルプリンチエン）の誤植である。」世人はかういふ出來事を誤植の惡魔とか植字箱の妖怪と呼んでゐる。この比喩のこもつた命名はどう考へても心理生理的學說以上のあるものを仄かしてゐるのである。（譯註。「當日の式場に畏くも Kronprinzen（クロンプリンチエン）（皇太子殿下）も御臺臨あらせられた。」と書くつもりであつた。）

丁度暗示をかけたやうに言ひ間違ひを滑らせる事實を諸君が知つてをられるかどうか私は一向知らないが、この事實に就て次のやうな珍談がある。嘗て新米役者が芝居で大切な役割を仰せつかつた。それは丁度「オルレアンの少女」の演物（だしもの）で王樣に「Connétable（コンネタブル）が刀をお戻しになりました。」と注進する場面である。ところが試演中に主役が揶揄半分に臺本の代りに「Komfortabel（コンフォールタベル）が馬をお戾しになりました。」とおどおどしてゐる新米役者に何遍も洒落をやつた。主役は自分の目的を果たしたのである。といふのは、新米役者はあまりに注意し過ぎてゐたためか、いやむしろあまり注意し過ぎた結果、可哀さうに本當に主役の揶揄つたあの違つた注進を滑らしたのである。

（譯註。Komfortabel（コンフオルタベル）は維納の俗語で一頭だての馬車ださうである。）

間違ひのこのやうなこまかしい特徴は先刻の注意力逸散の學說だけでは到底說明し盡されないだらう。併し何もこの理由を楯にこの學說が違つてゐると言ふのではない。この學說だけでは物足りない。この學說にある物、學說を申分ないやうにするためにある補足が必要である。さらに間違ひの多くのものはなほ他の見地から眺めることが出來ないだらうか。

間違ひのうちでも私達の研究に適切なものとして言ひ間違ひを選んでみよう。同時に、書き損ひや讀み違ひを選んでもかまはない。先程からどういふ時、どういふ條件の下で人が失言するかといふ疑問だけを提供し、この疑問だけにははつきりした解答を與へておいたことをもう一度反復しなければならぬ。併し、諸君の興味の中心を他に向けて、何故人は丁度かういふ工合ひに失言し、他の工合には失言しないかを敎へて吳れと希望されても差支へない。諸君は言ひ間違ひの本質を考察する事が出來るのである。この疑問に解答が與へられぬ以上、そして、言ひ間違ひの效果が、闡明されぬ以上、たとへ生理學的には立派に解釋がついても、心理學の見地から見たこの現象は已然一つの偶然であるのだ。私に言ひ間違ひが起こる時は私は明らかに無限に多數な仕方で口滑らせたかも分らない。ある一つの正しい言葉の代りに他の數千のうちのどれか一つの言葉を滑らし、その正

しい言葉を無限に多様に變形出來たかも知れない。このやうに無數の可能性が許されてゐる特別な場合に、私に失言の丁度この一つの仕方を押附けようとする何かあるものがないだらうか。さもなくば、それは矢張偶然であり任意であつて、この疑問には最早どうしても理性的な何物をも與へることが出來ないのだらうか。

丁度一千八百九十五年にメリンゲルとマイエルの二學者（言語學者と精神病學者）が彼等の立場から言ひ間違ひの疑問を氷解しようと試みたのである。二人は例證を蒐集した。そして先づ純敍述的見地から記載したのである。勿論この例證には未だ説明は附してなかつたが説明への緒口は開かれてゐた。メリンゲルとマイエルは當人が言はうと思つてゐた本來の言葉が口滑りを通つて變形する歪みを分類して呉れた。即ち「交換」Vortauschungen、「前置」Antizipationen、「後置」Postpositionen「混成」Kontaminationen、「代用」Substitutionen と分類したのである。私は諸君にこれ等二學者の示した例證の主要な範疇を示すことにする。交換の例は「ミロのヰナス」と言ふ代りに「ヰナスのミロ」と言つた時である（言葉の順序の交換。）。前置の例は「Es was mir auf der Brust so schwer」（心配で胸が重たい。）と云ふ代りに「Es war mir auf der Schwest」。後置の例はあの有名な滑稽な祝盃。「Ich fordere Sie auf, auf das Wohl unseres Chefs aufzustossen.」。(譯註。諸君。我が恩師の健康を

祝して反吐をはきませう。」本來は乾盃をあげるといふ anstossen が aufstossen に變つたのである。）この言ひ間違ひの三つの形はあまりよく出るものでない。これ等よりもつとよくあるものは、言ひ間違ひが省略とか混成の形となつて飛び出る場合である。例へば、ある紳士が街頭で見知らぬ令孃にかう挨拶した。「Wenu Sie gestatten, mein Fräulein, möchte ich Sie gerne begleit-digen.」この混成した言葉の中に begleiten（見送る）といふ言葉の外になほ beleidigen（凌辱する）が明瞭に含有されてゐる。（譯註。本來は「お孃さん。どうか僕にお見送りいたさせて下さい。」と言はうとしたのである。）（こんな怪しからぬ青年紳士は到底御令孃への近附きになれつこはない。）さらに代用の例として、「Ich gebe die Präparate in den Brütkasten」（標本を孵卵器に入れておく。）の代りに「Bri fkasten」（書翰箱）と言つたのを擧げてゐる。

この二學者がその例證の蒐集から導いた說明法は到底完全とは申せない。彼等は一つの言葉の發音と綴字はそれぞれ異つた價値を有してゐて、價値の高い語音の神經傳達は價値の低い語音の神經傳達をかきみだすやうに動くと考へたのである。彼等は大して頻繁に現れないこんな前置と後置の例を土臺として推論を樹てたのである。言ひ間違ひの別の形では、そんなに一つの語音力が他より立勝ると言ふことは、よし實在してゐるとしても、わざわざ眼中に置く必要などないのである。一

番よく起こる形は、一つの言葉の代りに、それと非常に類似した違つた言葉を口滑らす例である。この類似といふことは言ひ間違ひを説明する上に一番役立つことが多い。例へば某教授が就任演説で「Ich bin nicht geneigt (geeignet), die Verdienste meines sehr geschätzten Vorgängers zu würdigen.」「私は尊敬すべき我が先輩の地位に就任するを好みません。(就任するに適しません。)」又他の例で、ある教授は「Beim weiblichen Genitale hat man trotz vieler Versuchungen......Pardon: Versuche;......」「女子の性器官に就ては、無數の誘惑にも拘らず、......いや失敬失敬、無數の研究にも拘らず......。」

併し言ひ間違ひの最も普通の最も注目すべき形は、自分の言はうとしてゐる言葉の正反對の意味の言葉を滑り出すことである。この形は無論發音關係とか類似作用と何等關聯するところがない。その代りに、諸君は對偶と申すものは、二つの間に意味の上から親しい聯絡を有してゐて、心理聯想に於て相互に特別密接してゐる事實に氣が付かれるだらう。この形の失言には歴史的な例證がある。ある時衆議院の議長が次の言葉を以て開會を宣した。「諸君。代議員の出席數をお檢べいたし、直ちに閉會を宣します。」

同樣に普通のありふれた聯想が對偶關係をとつて不意に浮び出て、その結果折角の場が白けてし

まふことがある。例へば御承知であらうがかういふ話がある。ヘルムホルツの子供と有名な發見者であり大工場の所長たるシイメンスの子供の結婚披露宴であの命名ある生理學者のヂユボア・レイモンが一場の祝辭を述べた。この生理學者は音吐朗朗たる祝賀文を次の言葉で結んだ。「Also es lebe die neue Firma: Siemens und Halske!」（ここに出來た新しい合名會社、シイメンス・ハルスケの成功を祈る。」ハルスケとは勿論あの古い會社の名前で、この二つの名前の聯想は、丁度維納の人が、リイデル・ボイテル合名會社といふやうに伯林人には非常にありふれたものであつたに相違ない。

だから今迄の發音關係と言語類似の上になほ言語聯想の影響を附加しなければならぬ。併しこれだけでは不十分である。言ひ間違ひのある類型では適當な説明を與へる前に、先づ言ひ間違ひをした前にどんな言葉を語つたか、若くば單にどんな事を頭に浮べてゐたかを觀察しなくては到底物にならない。從つてメリンゲルの力說したやうな後置といふ言ひ間違ひは非常に遠い淵源に發してゐると申せる。私達は只今言ひ間違ひの理解を今一步進めたなど申せないと白狀しなくてはならぬ。

只今試みた研究中に言ひ間違ひの實例から、さらに檢索を必要とするある新しい印象を受けると公言したとて、決して私の言ふことを履違へない事を切望しておく。これ迄は言ひ間違ひが一體ど

ういふ條件で起こるか、それから、言ひ間違ひによつてどういふ種類の歪みが決定されるかといふ問題を研究したが、言ひ間違ひの效果の本體を、その起原に關してでなしに、全く獨立しては一度も觸れてはみなかつた。若しこの本體に觸れることを決行するなら、結局ある少數の例では、言ひ間違ひとなつて滑り出たものも又一つの意味を含んでゐると斷定しなければならなくなつてくる。言ひ間違ひが意味を持つとは一體何のことか。それはかう返答するとよい。言ひ間違ひの效果は、それ自らの目的を追究しようとする正當な心理行爲であり、又内容と意義を藏してゐる表現と解されてもよい權利を持つてゐるのだ。これ迄私達は常に間違ひ行爲を問題としてゐたが、今となつて考へ直してみると、間違ひ行爲はある豫期し若くば意圖した他の行爲の位置へ出しやばつた、全然正式な行爲であつたやうに思はれるのである。

間違ひ行爲が含んでゐるこの意味は、ある場合では、極く理解しやすい、決して見逃し得ないものである。議長が衆議院の開院式で、開會と言ふべきを閉會と口滑つた時に、この口滑りが出現した當時の事情を突いてみれば、この間違ひ行爲は意味深長だと考へずにはをられない。議長は此度の議會は我黨に不利と豫期してゐる。そして、早速に解散を命ずる事が出來るなら誠に欣幸の至りだと考へてゐたのである。このやうな意味を嗅ぎ出す事、換言すれば、このやうな口滑りを解釋す

る事は決して困難ではない。ある貴婦人がお世辭の積りで「Diesen reizenden neuen Hut haben Sie sich wohl selbst aufgepatzt?」と言つたとすれば、世界のどんな科學の學說でもこの口滑りから「Dieser Hut ist eine Patzerei.」といふ意味を嗅ぎ出したのに敢て異議をさしはさまないだらう。（譯註。貴婦人は「この新しい高襟な帽子はあなたに本當によく似合ひますわ。」と言ふために aufgeputzt と言ふ積りであつたが aufgepatzt と滑らしたのである。口滑りの中には「この帽子は素人細工だわ。」といふ考へが含まれてゐる。）他の例で女天下として令名ある夫人が「あたしの夫はお醫者さんに一體どんな食餌を採ればよいかと尋ねましたが、特別な食餌なぞ要らないさうですわ。夫はあ゚た゚し゚の好きなものだけ飮み食ひしなくてはゐけないのです。」と語つた時に、この口滑りは一面明快にある必然な計畫を表現してゐるのである。

言ひ間違ひ、いや一般に間違ひ行爲の極く少數のものだけが意味を含んでゐるのでなくて、その大多數のものが意味を含んでゐると推定しなくてならぬなら、今迄問題としなかつた間違ひの意味なるものは私達にとつて興味深深たるものとなり、これと並べば他の一切の論據は當然驅逐されてしまふ。總ての生理的要素乃至は心理生理的要素を追つ拂つて、私達はこの意味なるもの、卽ち間違ひ行爲の意義、間違ひ行爲の目的なるものを純心理的に硏究しなくてはならなくなる。從つて何

はともあれ多數の觀察資料をこの見地から檢討する事を怠つてはならない。

この計畫を斷行する前に私と一緒に別の緖口を探すやうに諸君を案內してみたいものである。度度見る事だが、詩人は言ひ間違ひ若くば他種の間違ひを詩的描寫の技巧に利用する。この事實だけでも、詩人が間違ひ例へば言ひ間違ひを何か意義あるものと考へて、わざわざ作つたものである事を立證してゐる。詩人がうつかり書き損ひをやつて、その書き損ひが、詩中の人物の言ひ間違ひとなつて殘るなどはあり得べきものではない。詩人は口滑りに依つて、讀者にあるものを洩らさうと欲するのであらう。そして私達もその口滑りが一體どんなものか、果して、詩人が私達にその詩中の人物がぼんやりしてゐたとか、疲れてゐたとか、さては偏頭痛の發作に襲れかかつてゐたとかを仄かす計畫であるかを再考する事が出來る。詩人の口滑りは意味深長なものだと申しても、私達は何もそれを過重しようとは考へてゐない。口滑りは實際に意味のない心理的偶然であることもあらう。若くば非常に特殊な場合にのみ意味を含んでゐることもあらう。そして詩人は技巧の上に言ひ間違ひを驅使するために、口滑りに意味をこめて、口滑りを精練する術を解してゐたのであらう。言語學者や精神病學者より何倍か、言ひ間違ひは詩人に就て學ぶべきところが多いと申しても、決して大袈裟な口吻ではないのである。

このやうな言ひ間違ひの例がワレンスタイン（ピッコロミニ。第一幕。第五場。）の中にある。第四場でマックス・ピッコロミニは熱烈に侯の味方をする。そして姫君に陣營迄扈從する旅路の間に悟つて來た平和の幸福を侯にむかつて眞心こめて說きつける。それからピッコロミニは呆然としてゐる自分の父と朝臣クエステンベルグをあとにしてその場を去る。第五場はこれに續く。

クエステンベルグ。ああ。これはまたどうしたことだ。
友よ。われわれ共はこの妄想の中に彼を驅りやることが出來ようか。われわれのもとから彼をはなすことが出來ようか。一刻も猶豫なく彼を呼び戾すことが出來まいか。今速刻にこの場で彼の目を開いてやることが出來まいものか。

オクタヰオ。（深い沈思からわれにかへつて。）
今といふ今この俺の目をば彼が開いてくれたのだ。目が開いた俺は思ひのままにいろんなものが見える。

クエステンベルグ。まあなんといふ。友よ。

オクタヰオ。この旅に禍あれ。

クエステンベルグ。なに。どうしたと。

オクタヰオ。まあ來い。俺は、この俺の目に見える不幸なしるべを今すぐに辿らねばならぬ。俺と一しよにやつてこい。――

（彼を促がさうとする。）

クエステンベルグ。ええ。ごこへ行くと。

オクタヰオ。（せきつて。）姫のもとに。

クエステンベルグ。姫のもとへと。

オクタヰオ。（言ひ直して）侯のもとへ。さあ行かう。

オクタヰオは侯のもとへと言ふつもりを、つひ言ひ間違つたのである。姫のもとへといふオクタヰオの言葉は少くとも私達に、自分の息子の若い騎士が平和に味方をする背面に動いてゐる影響を彼が明白に見拔いてゐたことを曝露して吳れてゐる。

さらに感銘深い例をランクが沙翁で發見した。「ヱニスの商人」の有名な場面、幸運な求婚者が三つの匣を選ぶといふあの場合にある。私はランクの短い記述を諸君に朗讀する方が却つて分かりいいと思ふ。

「詩情の上から實に微妙な動機を有し、技巧の上から放業のやうに活用した言ひ間違ひ、フロイド

がワレンスタイン（日常生活の異常心理。第二版。四十八頁。）で示して呉れたものは、詩人が間違ひのメカニズムと間違ひに含まれてゐる意味を呑み込んで、讀者もそれを承知してゐると豫想してわざと作つた事を教へてゐる。同じ例が沙翁の「ヴエニスの商人」（第三幕。第二場。）でも發見出來る。父の遺言に基づいて未來の夫の選擇を籤できめるやうに縛られてゐるポオシヤ姫は、今日迄のところ、自分の厭ひな求婚者から偶然の幸運のお蔭で逃れることが出來てゐた。ところが最後に自分が眞底から慕つてゐるバッサニオが自分への求婚者であることを知つて、姫はバッサニオも萬が一正しい匣をひき損ふ羽目になるかもしれぬと戰く。たとへひき損つてもわたしはやつぱりあなたを愛するが、わたしのたてた誓言のため二人の間は阻まれると姫はバッサニオに語りたかつたのである。詩人はこの内部葛藤に悶悶たる姫の口からこの愛戀切なる求婚者に向つてかう語らしてゐる。

ま、お待ち遊ばせ。お選び遊ばす前に、せめて一日か二日御猶豫なさいまし。何故ならば、若しお間違へ遊ばすと、お別れせねばなりませんもの、ですから、ま暫らく、お待ち遊ばせ。何となくわたしはいつまでもいつまでも御一しよにゐたいのですの。でもこれは愛ではありません。……どの匣を選べばよいかお教へすることも出來ますけれど、さうしては誓言を破らねばなりません。ですから申さない。ですから貴下がお間違へ遊ばすでせう。さうなつた時には、

ああ誓言を破ればよかつたといふやうな、大それたことを思ふやうになるでもありませう。怨めしいは貴下のお眼です、そのお眼のためにわたしの心は二つになつて、半分は貴下のもの、それから殘つた半分は貴下のもの、ではない、あのわたしのものなのですけれど、（One half of me is yours, the other half yours—mine own, I would say.）わたしの物は貴下のものなのですから、つまりみんな貴下のものなのです。

姫が眞底から打開けてはならないために、そつと男に仄かしたかつたもの、卽ち、籤ひく前でもやつぱりわたしは全部あなたのものだ、わたしはあなたを愛してゐるといふことを、詩人は心理的の驚歎すべき微妙をもつて、口滑りの形でおもてに出してやつたのである。この技巧を通して、堪え切れない愛人の不安と籤引の結果はいかにと片唾をのむ觀劇客の緊張にほつと安堵を惠んでやつたのである。

最後の間一髮に、いかに微妙にポオシアが口滑りの中にこめられてゐる二つの宣言を妥協さし、いかにポオシアが二つの宣告に横たはる矛盾を和睦さし、そして結局は、

……but if mine, then yours,
And so all yours.

と言ひ切つて、その口滑りを却つて正當にさしたところに留意して欲しい。

醫學に縁遠い思想家もまた時時自らの觀察を通して間違ひに含まれてゐる意味なるものを發見して、私達の研究前にこの方面の開拓に先鞭をつけておいて與れた。「ゲエテが洒落をやらかす時は洒落には問題が隱れてゐるぞ。」とゲエテに就て申した、あの機智に溢れた諷刺作家リヒテンベルヒ（一千七百四十二年――一千七百九十七年）を御存じだらう。問題の氷解も時にまた洒落によつて啓示されることがある。リヒテンベルグは機智と諷刺が横溢してゐる自分の覺書の中に「この男は „angenommen“（アンゲノンメン）と讀むのをいつでもうつかり Agamemnon（アガメムノン）と讀んでゐたのだ。」といふ文句を書きつけてゐる。それ程この男はホメロスに傾倒してゐたのであつた。この文句は確かに讀み損ひの學説を道破してゐる。

次回は間違ひの含む意味といふ見解がいかに詩人の見解と合致するものかを檢べてみたいと思ふ。

第三章　間違ひ（續講）

前回の講演で、間違ひに依つて攪亂された故意の行爲といふ關係から間違ひ現象を觀察せずに、間違ひそれ自體を觀察するやうになつた。そして、間違ひは、ある少數の場合ではそれ獨特の意味を表現してゐるやうな印象を受けた。若し間違ひが意味を有してゐる事實を大規模に立證出來たなら、この意味なるものの研究は、間違ひが惹起された條件の研究よりも一そう興味あるものだと申しておいた。

もう一度一體心理現象の「意味」なるものを私達がどう解釋すべきやを協定しておきたい。この意味なるものは、その意味に含まれた目的に外ならない。心理連鎖に於ける彼の地位に外ならない。私達の研究では、この「意味」なるものを「目的」又は「傾向」と言ひ直しても差支へない。若しこの意味と申す中に一つの目的を認める事が出來ると確信した以上は意味は單に間違ひ現象の僞瞞的假面とか詩的技巧と片付ける譯に行かなかつた。

私達は言ひ間違ひの例だけに制限して、この種の觀察の多數のものを瞥見してみることにする。

その結果、口滑りの目的、卽ち口滑りの意味が一目瞭然に理解出來る全範疇が發見出來る。第一に自分が口に出さうとしてゐたものと正反對の對偶が飛び出す場合がある。議長が開院式の演說で「直ちに閉會を宣します。」と失言した。この失言は決して曖昧でない。この間違つた演說の意味と目的は議長が議會の閉會を希望してゐたことになる。ある人は「議長は口だけでさう言つたのだ」と言ふかも知れないが、私達には彼の言葉だけで十分なのだ。こんな事はあり得ない。議長が閉會しようなどと思つてゐなかつたのは確かだ。自分の意向の大審院と認定出來る彼自らが開會を希望してゐた事を立證して吳れよう。さういふやうな抗議を私にふりかざして來て吳れては困る。諸君は私達が間違ひを先づ一個の獨立したものとして觀察しようとする立場にあるを忘れてゐる。間違ひとそれによつてかきみだされた意向との關係の方はあとで議論しようと思つてゐるのだ。諸君こそ論理上の誤謬を犯してゐる。その結果、丁度英語で begging the question と申してゐる通り、諸君は論じようとする問題を事勿れ主義で誤魔化さうとしてゐるのである。

運よく正反對のものを口滑らなかつた場合でも、言ひ間違ひの中に丁度正反對の意味が表現されてゐる事がある。例へば「私は尊敬すべき先輩の地位に就任するを好みません。」といふ例で geneigt は geeignet の對偶ではないが、この場合教授が言はなくてはならぬ狀況と照し合せば明かに正

反對の意志を告白してゐることになる。

さらに他の例を求めれば、言ひ間違ひは一つのめざす意味に簡單に第二の意味を補遺することがある。この時は失言となつて現れた文句は多數の文句の省略、簡略、壓縮のやうな外觀を呈するのである。例へば女天下として知られてゐる夫人が「夫はあたしの好きなものだけ飲み食ひしなくてはいけないのです。」と言つたのは恰も夫人が「夫は夫の好きなものだけ飲み食ひ出來る。でも一體夫は何が欲しいのだらう。その選擇の權利は私の掌中にあるのだ。」といふ意味を語つてゐるやうだ。言ひ間違ひは屢屢このやうな省略の印象を與へる。例へば解剖學の敎授が講義が終つてから、學生に鼻孔に就て本當に分かつたかどうかと問ひ返へした。皆がよく分かりましたと口をそろへた時に敎授はかう續けた。「どうも信ぜられませんね。鼻孔に就て本當に理解してゐる人は、數百萬人も住むこの町でさへ、この一本の指……いやいや……五本の指で數へる位しかゐませんからね。」この省略された文句には「本當に理解してゐるのはたつた一人、このおれ樣だ。」といふ意味が含まれてゐるのである。

言ひ間違ひがそれ自體の意味を表現する部類と對照して、又一方、言ひ間違ひが何等の意味をも與へずに、どこ迄も私達の期待に反抗しようとする部類がある。口滑りの形で固有名詞を曲げたり、

若くば普通に言はないやうな言葉を作り出す事はよく惹き起こる現象である。そしてこの現象からでも總ての間違ひとなる行爲は意味を含んでゐるか否かといふ疑問は早速に含んでゐると決定出來るやうに思はれる。この種の例をなほ深く追求してみるだけでも、かういふ歪みがどういふものかが容易に理解出來、さらに、この意味の見付からない言ひ間違ひも、旣に話した意味が曉れる言ひ間違もさして大差のない事に氣が付くのである。

馬の持主であるさる男がおまへさんの馬の病氣は近頃どうだいと問はれた時に、「Ja, das draut… Das dauert vielleicht noch einen Monat.」と返答したので、一體おまへさんは何と言ふ積りだつたのかと問ひかへされて男はかう說明した。「Das sei eine traurige Geschichte.」といふ積りが「dauert」と「traurig」が結合して「draut」となつたのである。(メリンゲルとマイエル。)(譯註。この男は「うん。可哀さうな事だ。未だ一月はかかからうね。」といふ積りであつた。「dauert」續くと「traurig」可哀さうの二つが結合したのである。)

ある男が自分が反對したある事柄の話をしてから續けた。「Dann aber sind Tatsachen zun Vorschwein gekommen.」……問き返へされて男は實はこの事柄を Schweinereien と名付けたかつたのであると說明した。卽ち「Vorschein」と「Schweinerei」とが一緖になつて、この「Vorschwein」といふ

へんてこな言葉が出來上つたのである。(メリンゲルとマイエル。)(譯註。この男は「眞相は結局分かつてきたがね……事柄は猥褻だよ。」と言ふ積りであつた。zum Vorschein gekommen…… 分かつてきたと Schweinereien 猥褻が一緒になつたのである。)

諸君は見知らぬ娘に begleitdigen しようとした靑年の例を思ひ出すだらう。私達はこちらで勝手にこの言葉を「begleiten」と「beleidigen」と別けたのであるが、この解釋はわざわざ說明を附ける必要がない程明瞭である。諸君は今の例から、意味の掴めない言ひ間違ひも同樣、この異つた意向の衝突、卽ち干涉から說明出來ると推察されよう。そして、言ひ間違ひの前者の部類では、一方の意向と他方の意向がすつくり入れ換つて、全く正反對のものが口滑りとなつて現れたが、後者の部類では、一方の意向が他方の意向を歪め、若くば變形さす以上を出ずして、その結果多少意味を含んだやうな畸形が出來上つたのである。これが兩者の相違點である。

ここに到つて私達は言ひ間違ひの大多數の謎を氷解したと確信出來る。この見解をしつかり呑み込めば、これ迄の解し難い部類も自然に理解出來る。だから、例へば名前の歪みに於てはいつでも相似た、しかも別種の二つの名前が競爭したのが原因だと假定出來ない。併しこの時でも第二の意向を探すのはさうむづかしいものでない。名前の歪みは言ひ間違ひ以外にもよく現れる。名前のも

ちりは、本來の名前を耳障り惡く響かしたり、幾分下品に響かす目的に使はれて、惡口の普通の形となつてゐる。教育ある人はさういふ事を愼むやうに、早速に仕込まれたが、それでも內心はなかなか拔け切れないのである。洒落としては勿論下品な部類のものだが、今日でも廣く利用してゐる。名前のもぢりの野卑な汚い例として、私はある人が佛蘭西共和國の大統領ポアンカレ Poincaré の名前を最近「Schweins Karré」ともぢつたことを知らしておかう。（譯註。Schwein は獨逸語では本來は豚の意味だが下品な人を罵る卑しい俗語となつてゐる。日本語で助平といふやうなものである。）言ひ間違ひの時にもこんな赤面するやうな、口にも出せない意向がその歪みの中に浸潤してゐる事を今更ら事新しく述べる必要はない。私達の主張する見解をぐんぐん進めて行けば當然、喜劇又は可笑しさの效果を藏してゐる地口のある種類を同じ工合に說明する事が出來る。「諸君。我が恩師の健康を祝して……」と言ふあの例では、反吐といふ空想を換び起こす一つの言葉が不意に侵入して折角の祝宴氣分が興醒めてしまつたのであらう。そして私達は侮辱とか敵愾を示す言葉の類型から、おしつけがましい尊敬に力の限り反逆しようとする傾向が首を擡げて、「謝恩會とはなんぢやら可笑しい。口先だけのお世辭だぜ。あんな奴なんか吹き飛ばちまへ。」と言はうと思つてゐた事を臆測するに難くないのである。同樣な說明は、例へば Apropos を Apopos ともぢつたり、

Eiweissscheibchen を Eischweissweibchen ともぢつたりするやうに、何でもない言葉を態と野卑な猥褻な言葉に變へようとする地口にも適用出來るのである。あたりまへの言葉を態と猥褻な言葉にもぢつてある快感を抱く傾向が多數の人間に存してゐる事を知つてゐる。それが卽ち洒落となるのであるが、實際さういふ事を口に出した人に、果してその言葉を態と洒落として口に出したか、或ひはうつかり口滑りとして言つたかを一應訊いてみる必要がある。

私達は大した手數も取らずに間違ひの謎を實事に解決したのである。間違ひは決して偶然でないや。眞面目な精神行爲であり、それ固有の意味を含んでゐる、二つの相異つた意向が共力――もつと旨く申せば相互干渉して出來上つたものである。ところが只今諸君は私に疑問や質問の雪崩を浴せかけようと待ち構へてゐる。だから私達の硏究の最初の業蹟に勝鬨をあげる前に、先づ諸君の抱くその疑問や質問を解決してあげて、了解を求めておかなくてはならぬ。と申して何もさう解決を焦る必要はない。次から次へと總ての場合を冷靜に批判して行かうではないか。

諸君の言分を聞いてみよう。只今の說明は言ひ間違ひの總ての場合、或ひはある特殊な場合にだけあてはまると先生は考へてゐますか。同一の見解は他の多數の間違ひ行爲、例へば讀み間違ひ、書き損ひ、忘却、失態、置き忘れにもあてはまりますか。疲勞、興奮、放心、注意力の逸散といふ

要素はやつぱり間違ひの心理本質に意義がないでせうか。さらに、二つの相干渉する傾向のうちの一つが常に間違ひ行爲に現れ他の一つはいつでも現れないと言ふなら、現れてゐない他の傾向を引出すにはどうすればよいのですか。それを引出したと自分で信じても、それが果して確からしい、いや、唯一の正しいものだと證據だてるにはどうしたらよいのですか。諸君にもつと疑問が湧いて來るか。これ以上疑問が湧かなければ、今度は私の方から話を續けることにする。私達は何も專心間違ひと申す現象を研究しようと志したのでなくて、間違ひの研究から單に精神分析に關してある價値あるものを知らうとした事は諸君の記憶にも新しいところだ。そこで次の問題を提供しよう。かやうに他の意向に干渉する事が出來る意向とか傾向は一體どんな正態のものか。かきみだす傾向とかきみだされる傾向の間にどういふ關係が存在してゐるか。この問題に解決が著けば早速に次の新しい研究が始まるのである。

それでは、私の建てた說明は言ひ間違ひの總ての場合にあてはまるか。私はあてはまると信じたいのである。といふのは、言ひ間違ひのある場合を研究すると例外なく、私の申したやうな說明をもつてそれが解き得る事に氣が付くのである。併し言ひ間違ひはかやうなメカニズムを通らなくては現れ得るものでないなぞと迄は斷言出來まい。さう斷言出來ないかも知れぬが、私達にはそんな

問題なぞ理論的にはどうでもよい。その譯は精神分析入門で得ようとする結論は、たとへ言ひ間違ひの極く少數の例だけを私達の學說のメスにかけたにしても、正しいものはどこ迄も正しいのである。そして實際は何も少數の例からでない。第二の疑問、言ひ間違ひで發見した說明は他の種類の間違ひ行爲にも等しくあてはまるかの疑問に對しては、私はあてはまるときつぱり返答したい。書き損ひ、失態等の例をあとで研究する時に、諸君は自らそれに合點が行く筈であるが、只今のところ、術式の方面から、もつと根本的に言ひ間違ひを研究し盡す迄、さういふ研究を延期する事を提案しておきたい。

大家諸先生の力說するやうな血行障害、疲勞、興奮の諸要素、さては注意力の學說が果して、間違ひに意義があるかどうかといふ疑問に對しては、今迄述べ來たつたやうな言ひ間違ひのメカニズムを假定する時に始めて、十分な解答を與へる事が出來ると思はれる。私達とて何もこの諸要素を沒却してゐるのでない事は賢明な諸君にもお分かりのことである。精神分析が他の學界で主張された學說を否定するやうな事は極めて稀有と申せる。精神分析の標語とするところは、在來の學說に何か新しいものを附加する事である。そして今日迄看過されたものが、たまたま精神分析に依つて新しく補正されたことは實に斯學の誇りとするところである。輕度な不快、血行障害、疲勞狀態に

よつて醸される生理狀態が言ひ間違ひの現出に與つて力がある事實は十分に承認出來る。諸君も每日自らの經驗からそれを承知していらつしやる筈だ。然しながらそれだけで萬事が說明されるだらうか。第一それは決して間違ひを惹起さす上に不可缺な條件とは言へない。言ひ間違ひは完全に健康な正常な狀態でも現出する。換言すれば、このやうな肉體的要素は、言ひ間違ひの獨特な精神的メカニズムをたやすくし都合よくさす上に價値があるだけに過ぎない。この點に關して私は嘗て一つの譬話を申した事があつた。ここでも同じ比喩を繰返す事にしよう。私は現在のところこれ以上に適切な比喩を求める事が出來ないからである。ある暗い晚私は淋しい街路を步いてゐたと假定する。その時私は無賴漢に襲はれて時計と財布を捲き上げられた。追剝の顏がはつきり見えなかつたので、近所の交番所へ次の言葉で訴へ出たとする。「只今寂寞と暗闇が私の貴重品を捲き上げました。」と。巡査は私の訴へにかう返答するだらう。「どうもあなたの御言葉は極端な物質論者の口吻のやうに思はれますが、どうも不當であります。本官ならその時の事情をむしろかう申したいのであります。暗闇と寂寞を奇貨として、追剝が私の貴重品を捲き上げましたと。あなたの訴へに際して一番大切な任務は警官が泥棒をとつつかまへるといふ事のやうに思はれます。よろしい。私達は多分その泥棒からあなたの貴重品を取り戾す事が出來るでありませう。」

興奮、放心、注意力の逸散といふ心理生理的要素は明かにわれわれの目的には大した效を奏しない。彼等は單に字句である。西班牙の壁である。私達は勇敢にその壁の奥を探知しなければならない。この場合、むしろ、一體何が興奮とか注意力の特別な逸散を釀成したかといふ事が問題の核心となつてくる。だから發音關係、言語類似及び言語にからまる一般の聯想に意義を認めねばならぬ。彼等は言ひ間違ひを容易にさすものだ。卽ち、言ひ間違ひが歩いてもよい道を指示してやるのである。だが私の面前に道が開けてゐるからと言つて、私は必つとその道の方に足を向けるといふ理屈が成立するだらか。その道をとらうと決心するには今一つの動機が必要である。その道を通つて前進するためにはさらに一つの力が必要である。この理由から發音關係とか言語類似と申すものは身體の素質と同じに單に口滑りを發しやすからしめるものである。決して間違ひの本質を突きとめる說明を與へるものでない。現に私が使つてゐる言葉は、發音類似のために他の言葉を聯想せしめるとか、對偶の關係に依つて正反對のものと密著してゐるとか、その言葉に普通な聯想がからまつてゐるとかの條件の下に私の講演はいろんなところで擾亂されると申せない事を一寸考へて御覽になるがよい。言ひ間違ひとは、身體が疲勞したために、聯想傾向が本來の言はうとしてゐる意向に打克つた時に現れるといふ哲學者ヴントの意見に今日でもまだ贊成する人がある。ある部類の例では

身體的素因の方が缺け、他の部類の例では聯想的素因の方が缺けてゐるといふ事實を證する經驗とヴントの學說が矛盾しないならば、誠に傾聽に値すべき學說である。

特に興深いのは諸君の提出する次の質問である。「どういふ方法をもつて先生は相干渉し合ふ二つの傾向を決定するのでありますか。」諸君はその決定がどれ程むづかしいものかを豫期しないだらう。二つの傾向のうちの一つ、卽ちかきみだされる傾向の方は大抵分かるものだ。間違ひ行爲を犯した當人がその傾向を知つてゐたらその傾向を認めて呉れる。ところが疑問や躊躇の焦點となるのは他の傾向卽ちかきみだす傾向である。さて私は今迄の多數の例からこのかきみだす傾向はかきみだされる傾向と同樣に分かるものだと既に申しておいたし、諸君の耳にもしつかり殘つてゐる筈である。私達が言ひ間違ひを言ひ間違ひとして發せしめる勇氣だけを有してゐるなら、このかきみだす傾向は、この言ひ間違ひの效果の中に明瞭に現れてゐるのだ。正反對の事を口滑つた議長は――自分が議會の開會を欲してゐたのは明白だが、又彼が議會を閉會したいと欲してゐたのも同樣に明白である。この例は一向解釋なぞ要せない程分かり易いものだ。ところがかういふ例がある。かきみだす傾向が、すつかり頭を出さずして、その本來のものを歪めるだけに留まつた時には、どうして、その出來た歪みだけから、そのかきみだす傾向をひき出す事が出來ようか。

ある部類では、非常に簡單なしかも非常な確かな方法、丁度さつき私達がかきみだされた傾向を決定したと同一の方法を踏襲すればよい。即ち、このかきみだす傾向は口滑りをやつた當人が直接に報告して吳れる。換言すれば口滑りをやつたら早速に本人自ら初めに言はうと思つてゐた言葉を言ひ直す。「Das draut, nein, das dauert vielleicht noch einen Monat.」この例で人は歪められた意向を本人自らの口から發せしめた。「ええ。どうして君は初めに draut と言つたのかね。」とこの男が質問された。男はかう答へた。「僕は實は Das ist eine traurige Geschichte といふ積りだつたんだが。」と。又他の例、あの「Vorschwein」の口滑りで、當人は初め「Das ist eine Schweinerei」と言ふ積りだつたのが、猥褻といふ言葉が和げられて他の方向に外れてしまつた事を諸君に立證して吳れた。だからこの例から歪められた傾向と同じ程確實に歪める傾向をも發見したのである。私がここで、私や私の學派の人達が研究し解決したのでない別派の人の例を引用したのは目的あつてのことである。しかも別派の人のこの例に於ても、言ひ間違ひの氷解を進行さすためにある干涉が必要であつた。卽ち、當人に、おまへは何故さう口滑つたのか、一體本當はどう言はうと思つてゐたのだいと質問しなくてはならなかつたのである。さう突込まなかつたら恐らく本人は何の說明も與へずに、口滑りは口滑りの儘で通つてしまふのであつた。ところが矢庭に質問されて、彼は自分に

浮んだまつばじめの聯想をもつて說明したのである。そして今や諸君は、この小さい干涉とこの干涉の結果こそ精神分析であり、私達がさらに廣く述べようとする精神分析的研究の雛形であることに氣が付かれよう。

精神分析と申すものの序幕が諸君の面前に展開されたたつた今、諸君の心中に、精神分析に對する反抗が擡頭しかけてゐると憶測する程私は疑ひ深いといふか。諸君は、言ひ間違ひをやつたあとで問ひ返された當人の言ふ報告なぞ全然當にならないと私に反駁する氣はないか。諸君はかうも考へるだらう。問ひ返された當人は勿論こちらの要求ごほりになつて、自分の口滑りに理屈をつけようときばるだらう。その果ては說明に都合がよいなら、自分に浮んだ考へのうちで一番適應するものを言ふに相違ない。口滑りはこのやうにして發したのだと絕對に保證する證明なぞはありつこはない。さう說明してもよいし、ああ說明してもよいのだ。彼には恐らくこれとは違つた說明が浮ぶことが出來、その說明はこの口滑りに前のと同等に、いやもつとうまく適應するかも知れないと。

諸君が心底においていかに精神事實に敬意を拂はないかは呆れ果てた事だ。ある物質の化學分析を試みて、その物質の成分に對して、幾何瓱といふ重量を得たと假定する。そしてこの重量を土臺としてある結論を立てるのである。その時諸君は、分離した物質はひよつとすると別の重量かも知

れぬといふ理由から、自分の結論を否定するやうな考へがこの化學者に浮ぶと信ずるだらうか。誰でも、この物質は丁度この重量で決して他の重量でなかつたといふ事實の前に屈伏し、この結論を信頼して、さらにその上にそれ以上の結論を建てようとするのである。然るに質問された人に浮ぶ考へはかうであつてああでないといふ精神事實に對する時だけ、諸君はその主張を正しとせずに、これとは別の考へが浮ぶかも知れぬと言ふのである。諸君は恰も精神の自由と申す妄想に囚はれて、その妄想からどうしても抜け切らうとしないやうだ。私がこの點に關して、諸君に手厳しい抗議を申込まざるを得ないのは私として誠に遺憾であるのだ。諸君はこの一點だけを破棄して、ひたすらに他の見解を通さうとされる。諸君は續ける。「私達は分析される人の口から直接にその問題の解決を語らしめるのが精神分析の獨特の術式だと言ふことを學びました。別の例を擧げるのをお許し下さい。あの司會者が來賓の前で恩師の健康を祝して反吐をはくことを要求しましたね。先生はあの例でかきみだす傾向は輕蔑の意向だ、卽ち祝すると言ふ表現とは正反對のものだと申されました。併しこれは口滑りから全く離れた觀察を土臺とした我田引水の説明に過ぎないぢやありませんか。先生が口滑りをやつた當人に直接質問されますなら、彼は恩師に輕蔑心を懷いてゐたとはよもや申さないでせう。彼は寧ろ極力抗辯するに極まつてゐます。何故先生はこの分かり切つた否定に對し

て飽く迄も根據のない理屈を押し通さうとされるのですか。」

此度は私の方が一本參りさうだ。私はこの未知の司會者を一つ描いてみよう。この司會者は多分この祝賀される恩師の助手か、ひよつとするともう私講師になつた前途有望な青年であるかも知れない。私はこの青年に詰め寄つて、君の胸底に主客を祝すべき要求に相反する何物かが蠢いてゐないだらうかと尋ねたとする。首尾よく行つた。彼はむつとして突然嚙んで吐出す。「何。この際そんな訊問は罷めて欲しい。失敬千萬な。貴樣の疑惑から俺の前途は滅茶苦茶になる。俺は anstossen と言ふ積りをつひうつかり aufstossen と言つただけなのだ。といふのは俺はその前の方に二回も auf といふ言葉を使つたからなのだ。これは丁度メリンゲルが後置と名付けた奴だね。俺の今の口滑りに變な疑惑など入れる餘地なぞないよ。分かつたかね。おしまいだよ。」うん。これこそ驚くべき反應である。力限りの抗辯である。この青年の緘幕には私とてもう取り付く島もない。だが、この青年は自分の失態が何の意味も含んでゐないといふ點を力說するところに强い個人的な興味を曝露してゐるのだと私は考へてゐる。諸君もまたこの青年が純學術的研究に對してかやうな亂暴な態度を示すのは當を缺いてゐると認められよう。併し結局は、この青年は自分の言はんとしたところと、言はうまいとしたところを本當に知らなくてはならぬと思惟されるだらう。

ぢや、彼はさう言はなくてはならぬか。これは矢張疑問として殘る。

今度こそとうとう私を係蹄にかけたと諸君は信じられよう。「それが先生の術式ですね。」と諸君が囃子たててゐる鹽梅だ。「ロ滑りを犯した當人が何か先生の見解に適切な說明を申した時は、先生はその說明をこの問題の最終の權威だと宣告される。『彼の口から申したのだ。』と仰しやる。併し彼の申すことが先生の思ふ壺にうまくはまらぬ時は、手の裏を返したやうに先生は、彼の言ふところは噓八百だ、到底信用なご置けぬと頑張られるのである。」

確かに仰せのとほりであるが、私はここで非道を極めた、これとよく似た審理を語らう。被告が裁判官の前である犯罪行爲を承認した時に、裁判官は被告の告白を本當だと信じた。ところが、被告がその犯罪行爲を否認した時に、裁判官は被告の陳述を虛僞だと信じた。若し否認をその儘否認だと信せば、刑法なごを施行する必要がなかつたかも知れぬ。そして諸君は、時には誤審も免れぬが、この制度は矢張無難に行はれてゐるではないかと仰しやるに相違ない。

「それは兎に角として、先生が裁判官であるなら、先生は、口滑りを犯した人を被告として告發する積りですか。それでは口滑りは一つの犯罪を構成しますか。」

私達自ら何もこの比喩で尻込みする必要はない。だが諸君が若し間違ひ現象の表面いかにも剌の

ないやうな問題を一歩深く追究する時は、途方もない中身が現れてくる事に氣付かれよう。この中身、表面と中身のこの相違は今のところごう妥協さしてよいか私達も知らない。私は今の裁判官と被告の譬を例として一時逃れの妥協を諸君に申込んでおく。ある間違ひの意味なるものは、被分析者が自らさうと承認するなら、何等疑ふ餘地などないといふ私の言分を認められるだらう。それと同時に私は諸君に、若し當人が報告を拒むやうな場合にはこちらから忖度した意味が眞實だと直接に證明する事は不可能だと白狀したいのである。勿論これは被告が出頭しなくてわれわれに直接陳述を與へぬ場合にもあてはまる。丁度裁判と同じやうにそんな時私達は證據物件をつき出す。併し證據物件と言つても、ある場合では動かすべからざる確定を與へるが、他の場合では覺束ない確定しか與へないものだ。裁判所では實行上附帶證據に立つて犯行が確定するのである。私達にはそんな必要は毛頭ないが、時にはそのやうな證據を尊重するやうに餘儀なくされる場合がある。科學と言ふものが嚴密に證明され得る定理から成立してゐるものだと信ずるのは一つの迷妄である。さうあるべきだと要求するのは一つの非常識である。さやうな要求は、恰も敎義問答を何か他の科學的なもので代表しようと望むやうに權威崇拜の感情を煽動するに過ぎない。敎義問答の科學といふものには少數の明確な戒律しか存してゐない。敎義の大部分の內容は成程さうかも知れんといふ階段

迄やつと達したやうなあやふやな陳述に過ぎない。このやうに確かさの近似點で滿足するに留まつて、最後の斷定が缺けてゐるにも拘らず、綜合的な研究が繼續出來たとすれば、これこそ、むしろ科學的思考のお蔭であると申すべきである。

ぢや、被分析者の陳述が間違ひに含まれてゐる意味なるものを自ら說明しない場合は、私達の解釋の支點、私達の證明の證據品をどこに求むべきであるか。多方面からと申したい。第一に間違ひとそれ以外のある現象との類似點から。例へば、口滑りとなつた名前の振りは故意の名前の振りと同樣に輕蔑の意味を含んでゐるといふ私達の主張と照し合はせるとよい。さらにまた間違ひが惹起された心理狀態から、間違ひを犯した當人の性格に就ての旣知の知識と、當人が間違ひをやる前に遭遇し、必然にこの間違ひで以て反應を示したと想像出來る感情に就ての旣知の知識から。私達は一般原則を土臺として、間違ひの解釋を行ふやうになつてくる。だからこの解釋は初めは單なる臆測、解釋への緖口であるが、次いでその心理狀態を硏究することに依つて、その解釋が動かすべからざる確定味を具へてくるのである。時には、私達の臆測を確めうる前に、恰も間違ひ行爲に依て豫告された觀のある來るべき事件をも豫期しなくてはならぬことさへある。

問題を言ひ間違ひの領域に限る以上、この點に關する適切な證明を早速に諸君に與へる事はむづ

かしいが、只今とて勿論少數の立派な例には事缺かない積りである。娘に begleitdigen しようとした青年ははにかみ屋であつたに相違ない。夫は妻が欲するものを飲食しなくてはならぬと口滑つた婦人は、家庭に於て暴君になるを心得てゐる女天下の妻だと承知してゐる。「コンコルヂア」の總會で若い會員が激烈な反對演說をやつた。その演說中に會の大頭連を Ausschussmitglieder といふ代りに Herren „Vorschussmitglieder" としきりに呼びかけた。これは一見 Vorstand (社長) と Ausschuss (委員) の組合せのやうである。私達はこの青年の心胸に自分の反對に逆ふとする一つのかきみだす傾向が擡頭してゐた事を推察するに難くない。この傾向は何か Vorschuss (借金) と關係のある觀念の上に建つてゐるやうだ。實際私達はさる人から次の話を承つた。この青年はいつも金に窮してゐて、丁度その當時も借金の調達に奔走してゐる最中であつた。かやうな事實から、かきみだす意向は實際「さう手嚴しく反對なぞするな。あの人達は喜んでおまへに金を借して吳れる人だぞ。」といふ心の囁きに移し直すことが出來る。

さらに、私が他の間違ひ行爲の廣い領域に足を入れるなら、そのやうな證據物件を無盡藏に選んでお目にかける事が出來るだらう。

例へば某が自分に昵懇な人の名前を忘却したり、若くばいくらきばつても、ごうしてもその人の

名前を頭に叩込む事が出來ぬ時には、私達はその男はその名前を持つてゐる人に對して、あるものを懷いてゐて、若しその名前を思ひ出す時は非常に不愉快になり易いのだと假定してもよい。このやうな忘却の惹起される心理狀態は次の記述に遺憾なく曝露されてゐる。

「Yと名付ける男が靑年時代にある娘に結婚を申込んだが成就しなかつた。娘は間もなくXといふ男と結婚してしまつた。ところが、その後Yはある時代からXと懇意になつて、然も現在では每度Xと商賣上の取引をしてゐる間柄である。それだのにYはそのXの名前をいつも忘れ勝ちである。そして、彼がこのXに手紙を出す時には極まつたやうに、廻りの人達にその名前を訊ねねばならなかつた。」(ユングに據る。)

Yは明らかに自分の戀敵を考へまいと思つたのであらう。「あの男のことは綺麗さつぱり忘れてしまほう。」と思つてゐたのであらう。

又かういふ例がある。ある女が醫者に自分の極く親密な友達の消息を尋ねた。併し、その友達を娘時代の名前で訊ねたのである。といふのはその友達の結婚してしまつてからの名前はごうしても思ひ出せなかつたのだ。その女はその友達の結婚には極力反對であつた。そして今でもその友達の夫は大厭ひだと告白した。」(ブリルに據る。)

私達は名前の忘却に就て別の見地から多くを語らなくてはならぬ。目下のところ一番興味を惹くのは忘却が現れた當時の心理狀態である。

決意の忘却は一般にその反對潮流、卽ち決意を履行しまいとする感情に基づいてゐる。だが、この見解は何も精神分析に限られてゐるのでなくて、世人一般の見解である。さういふ人達は皆日常生活ではその見解を奉じておきながら、學說となると忽ち否定の態度を示すのである。パトロンがこちらの依賴を忘れたのを辯疏する時は被保護者たるものはそのパトロンの辯疏を聞き流すわけには行くまい。被保護者は早速にかう考へる。「俺のパトロンは俺になぞ好意を持つてゐないのだ。口だけでは約束したが心を割つてみれば本當は實行する氣なぞ微塵もないのだ。」この點で忘却は實生活でも誹謗の種を撒く。だから、間違ひ行爲に對する民間の見解と精神分析の見解には區別がないやうに思はれる。「おや。今日いらしたのでございますか。さうさう。今日お招待申し上げておいたのを、すつくり失念してゐまして。」といふ言葉でお客を迎へる細君を想像してみるとよい。或ひは、自分の戀人につひこの間約束したばかりのランデヴウをうつかり忘れてゐたと白狀する靑年を想像するとよい。この靑年は決して本當の事を白狀しないだらう。彼はむしろ口から出任せの、その時出られなかつたのに都合のよい、いい加減な口實を設けて、實はこの間からそれを通知する

ことが出來なかつたのだと申すに相違ない。軍隊では失念した時の辯解といふものは一向取上げて吳れぬ。辯解したとて刑罰は逃れられないことは皆知り拔いてゐるし、皆尤もだと考へてゐる。この點から、ある間違ひは意味に滿ちてゐて、その意味なるものが何であるかは卽座に滿場一致で承認されるだらう。何故にこの見解を他の間違ひ行爲に敷衍して、それを公然と承認するだけに條理正しいものでないのだらうか。これに對して當然一つの返答が存在してゐる。

決意の忘却の含む意味なるものを素人さへ疑はないとするのならば、詩人が同一意義に於てこの種の間違ひ行爲を尊重してゐるのを發見したとて毫も驚くに足らない。ショオの書いた「シイザアとクレオパトラ」といふ芝居を見又は讀んだ人は、丁度あの大詰で將に出發しようとするシイザアが未だ何か果さないものが殘つてゐると考へながら、どうしても頭に浮んで來ぬと思案する場面を記憶されよう。やつとしてからさうさうクレオパトラに別離の挨拶をしなくてはならぬと思ひ出す。詩人はこの小さい技巧に依て偉大なシイザアに、彼が所有してゐなかつた、彼が露だに求めてゐなかつた一つの優越感を賦與しようと試みてゐる。諸君は史學からシイザアはクレオパトラに自分を追つて羅馬に來るやうに申合はした事、シイザアが暗殺された時はクレオパトラは小さいセサリオンと一緒に羅馬に棲んでゐて、その後羅馬を落延びた事を承知していらつしやる筈である。

決意の忘却の場合ではその含む意味はしかく明瞭である。間違ひの意味なるものの確證をその心理狀態から摑まうとする私達の試みにはこの決意の忘却は大して役立たない程である。それ故に私達は特別こみ入つた、特別不鮮明な間違ひ卽ち紛失とか置き忘れの題目に話を轉じてみよう。紛失といふ、そんなに苦苦しい出來事に對しても、その當人に紛失してしまひたいといふ意向が存してゐたのだと申し立てたら、諸君はまさかと疑はれるに相違ない。だが、かういふ實例は山程私の手許にあるのだ。例へば、ある青年が常平素愛玩してゐるクレヨンをある日のこと紛失してしまつた。丁度その前日にこの青年は義兄から一通の手紙を受取つたのである。その手紙は次の文句で結ばれてゐた。「予は最早君の輕佻と怠惰を援助する興味も時間も御座なく候。」(*) ところがこのクレヨンは實は義兄の贈物であつたのだ。勿論こんな一致がなかつたら、この青年の紛失には義兄の贈物なごうつちやらかしてしまへと言ふ意向が加味されてゐたなごと主張する根據がなかつたかも知れない。これと同じ例は澤山ある。例へば何か物品を紛失したとする。その時は、その物品を吳れた人と仲違ひをして、もうあいつの事なご思ひ出すのも癪だと考へてゐる頃であらう。若くばその物品に飽きてしまつて、別な新しい物に變へてやらうといふ口實が旨く付いた時であらう。物を落とすとか、毀すとか、碎いた場合にも無論その物品に對して同樣な意向があると申せる。小學校に行

つてゐる年配の子供が丁度誕生日の前頃に自分の所持品、例へば懷中時計とかカバンなごを紛失したり、臺なしにしたり、裂いたりしたのを偶然の事だと濟ますことが出來ようか。

(*) B. Dattoer に依る。

自分で大切に仕舞つて置いた物品がごうしても見あたらないために困惑した經驗に富んでいらつしやる人は、自分の置き忘れに意向が含まれてゐるとはまさか信ぜられないだらうが、意向が含まれてゐる場合も稀有とは申されない。その物品を暫く若くば持續してごこかへ隱して置きたいと言ふ傾向が、この置き忘れと申す狀態に伴つてゐるのである。次の立派な例で合點が行かれよう。

ある青年が私に次の話をして呉れた。「二、三年このかた私と妻との折合がうまく行かなかつたのであります。私の妻に對する仕打は至極冷淡でありました。私とて妻のいい性質はよく呑込んでゐましたが、二人の間には一向愛情なぞは釀されずにそのまま同棲を續けてゐました。ある日の事であります。妻が外出から歸つて來ました時、私に一冊の書物を手渡しました。妻はこれは私にきつと氣に入るだらうと思つて買つて來たのであります。私は妻のこの心盡しに感謝しました。そして一つ讀んでみようと約束しながら、そのまま大事に仕舞ひこんで置きました。ところが、ごこに仕舞つたかそれ以來見當がつかないのであります。月日が流れて私は折にふれあの棄てられた書物

を思ひ出してもみましたが、いくら探しても駄目でした。それから約半年目に、當時私達と離れて棲んでゐた實母が病氣になりました。妻は姑の介抱に出掛けることになりました。母の容態はとても重症でありました。そして妻は甲斐甲斐しく、夜の目も寢ずに看病して呉れました。ある晩の事、私は妻の心盡しに對して、感激と感謝の念で一杯になつて家に歸つて來ました。私は――引出に近寄つて何の氣なしに、そして、まあごうでせう。丁度手品のやうな確實さでそのうちの一つの引出をあけたのであります。丁度その中に長い長い間見付からなかつた、あの置き忘れた書物がちやんと這入つてゐました。」

動機の消失と諸共に物品を置き忘れておく事にも覺が付いたのである。

私はこのやうな實例を出來るだけ澤山蒐集したが折角ながら只今お話する暇がない。諸君は私の著した「日常生活の異常心理」(Psychopathologie des Alltagslebens)(初版。一千九百一年。)をお讀みになれば間違ひの研究に山程の例を拾ふ事が出來るのである。(*) それ等の實例はみんな常に同一の結論を與へて呉れる。そして諸君に間違ひが一つの意味を持つてゐる事を領かせると同時に、ごうすれば間違ひに附帶してゐる心理狀態から、その意味を嗅出し若くば立證する事が出來るかを教へて呉れよう。今日は出來るだけ簡單に述べてみたい。精神分析の手引を與へる範圍内でこの現

象の研究に觸れておきたいからである。私はここで二種の觀察、卽ち反復され集合された間違ひ行爲と、それに續いて惹き起こつた事件が私達の解釋をいかに實證するかを述べることにする。

A. Maeder（佛） A. A. Brill（英） E. Jones（英） J. Stärke（和蘭）等の蒐集を參照。

反復され集合された間違ひ（Die gehäuften und kombinierten Fehlleistungen） は實にこの部類の最美の華である。私達は間違ひが意味を含んでゐると立證する事を問題の中核としたのだから、當然最初から問題が廣範に渡らぬやう制限して來た。何となれば間違ひの含む意味は鈍感な人にさへ勘付けるものであり、立ち所に批評的判斷が下せるものである。間違ひ行爲が反復される時は、殆ど偶發事とは觀ぜられないやうな、然も心底に巢くふ意向の豫定の計畫のやうな頑固さを示してゐる。最後に各種の間違ひ行爲が交互に發する時は、その行爲の緊要なもの、本質的なもの、換言すれば、その行爲の形式とかその行爲が利用した手段でなしに、その行爲を驅使し、手を替へ品を替へて目的を貫徹しようとする意向を私達に敎へて呉れるのである。私はここに幾度も反復された忘却の一例を提供してみよう。ジォンスがかう話してゐる。あの日のこと彼は自分にははつきり分からない動機から封した手紙を數日間引出の中に仕舞ひ込んで置いた。とうとう決心してそれを投函してしまつた。ところが附箋つきで舞ひ戻つて來た。といふのは先方の宛名を書くことをすつく

り忘れてゐたのである。そこで早速ちやんと宛名を認めて自分でポストへ持つて行つたが、今度は切手を貼ることを忘れてゐた。そして、結局彼はこの手紙をどうしても出す氣のないある理由を承認せざるを得なかつた。

又他の例では、思ひ違ひと置き忘れが集合する事がある。ある夫人が自分の義兄にあたるさる有名な藝術家と一緒に羅馬に旅行した。二人は羅馬在住の獨逸人から懇な歡迎を受けて、古代の金牌を贈呈された。ところがこの夫人は自分の義兄がこの美しいメダルに一向無頓着なのが氣に病めてしかたなかつた。やがて自分の姉がやつて來たので、一足先きに歸國した。ところが家に歸つて荷物を釋いてみると、どうした譯か、例のメダルを自分の行李の中に入れて來たのを發見した。夫人は早速に義兄に手紙を認めて、自分はうつかりあのメダルを持つて歸つたから、明日羅馬へ郵送しますと知らした。ところがその翌日になると、メダルをどこへ置き忘れたのか、どこをどう探しても見當らずに結局郵送することが出來なかつた。夫人は自分がこんなに放心する裏に、このメダルを自分の物にしたいといふ願望が動いてゐるのを氣付き始めた。(*)

(*) R. Reitler に依る。

私は嘗て以前に忘却と思違ひの集合した例を擧げておいた。卽ちある靑年が最初はランデヴウを

忘却し、次回には、決して忘れないと誓言したにも拘らず、言ひかはした約束時間でない時にのこのこ出掛けて行つた。科學にも文學にも興味を持つてゐるある友人がこれと同じ例の經驗を私に打あけて呉れた。友人はかう言ふ。「僕は數年前ある文學會の委員の選擧を快諾した。といふのは、この文學會に關係を付けておけば、いつか一度は僕の脚本の上演に便宜を計つて呉れると考へたからである。そして、あまり面白くなかつたが、毎金曜日に會催される例會には毎度缺かさずに顏を出しておいた。二、三ケ月前にいよいよ僕の脚本が市の劇場で上演されるといふ確報に接した。その時以來僕は毎金曜日の例會に出席するのを極まつたやうに忘れてしまふやうになつた。忘却の問題に關する君の著述を讀んだ時、僕の忘却の理由を悟つて赤面した。自分の計略を果たして、文學會の人達に用が無くなれば缺席し勝ちになる僕の卑劣さに恥入つて、今度の金曜日こそ決して決して忘れないぞと心に誓つた。僕は幾度もこの決心を心に浮べてみた。そしてとうとう次の金曜日に僕の決心を實行して、例會の催される部屋の戸口迄出掛けて行つた。驚いたことに、その戸は閉つてゐた。例會はとうの前に閉會されたあとであつた。いやさうでない。僕は日を取り違へてゐたのであつた。その日は土曜日であつたのだ。」

同じやうな觀察を蒐集するのは非常に面白い事だが、私はさらに前進してみたい。私は私達が下

した解釋が將來に於て必と正しいと實證され得るやうな實例を一つ諸君にお目に掛けたいと思つてゐる。

このやうな實例の重要條件は、現在動いてゐる心理狀態は、その當時は私達には未知のもの、確定がむづかしいものであるといふ事である。だから、その當時私達の下す解釋は、私達でさへ重要視する氣になれない、推定以上を出ない價値しか具へてゐない。ところが後日になつて、その當時に下した私達の解釋がいかに正しいものかを裏書するやうな事件が惹起されて來る。嘗て私はある結婚したばかりの若夫婦の家へ招待されたことがあつた。その時新婚の細君が笑ひながら自分の最近の出來事を語つて吳れた。話はかうだ。若い細君が新婚旅行から歸つた翌日たつた一人の妹を呼び寄せて、夫が會社に行つてゐる間に、妹を連れて娘時代のやうに買物に出掛けた。突然細君は街路の向側に一人の紳士が歩いて行くのに目が留まつた。細君は吶りながら妹に「ごらん。あすこにLさんが通つておいでよ。」と袖を引いた。細君はこの紳士がつひ二、三日前から自分の夫になつてゐるのを忘れてしまつてゐたのであつた。この話を聞いた時私は總身に戰慄を感じた。そして立入つて推測のメスをふるふのを躊躇した。それから數年たつて二人の結婚生活が破綻してしまつたと聞いて、私は再びあの時のところにもたらぬ話を思ひ出したのである。

メエダアも同じ話を報告してゐる。ある女が自分の結婚式の前日に晴衣の試着をすつかり忘却してしまつた。そしてその晩遲くなつてはつと氣付いて仕立屋が大まごつきをやつた。メエダアはこの女が結婚して間なしにその夫から離縁された事實とこの忘却にはある關係があると語つてゐる。——私は夫から離婚された女から、本當に離婚となる數年前以來財產管理の證書にたびたび自分の娘時代の名前の印形をおしてゐた話を聞いた。——又ある婦人は新婚旅行中にエンゲエジ・リングを紛失してしまつた。そして結婚生活を送つてゐるうちにこの紛失といふ出來事に意味がある事に思ひあたつたといふ話を聞いた。さらに實事な實例がある。この方はそんな不幸な結末でない。獨逸のある有名な化學者に就て坊間傳へられる所に依れば、この化學者は結婚式の時間を忘れ、教會へ行かずに實驗所へのこのこ出掛けて行た。そのために折角の結婚式がおぢやんになつてしまつた。彼はこの一事から將來を豫想する程に聰明であつた。そして一生涯獨身で押し通して高齢で死んだ。

これ等の實例を聞いた諸君は又間違ひといふ行爲は古代の人の言つた豫言若くば前兆の代りを務める事に氣付かれよう。そして實際前兆のある種類は間違ひ行爲に過ぎなかつたのである。例へば躓いたり轉んだりする事を何かの前兆と觀じた。前兆の他の種類は自覺的行爲よりむしろ他覺的事件の性質を多分に帶びてゐた。然しながら、ある出來事に遭遇して、それが前者の部類に這入るべ

きであつたか、はたまた後者の部類に這入るべきであつたかを決定するのがどれ程むづかしいかは諸君には想像がつかない。行爲と稱するものは、しばしば、他覺的事件の假面をかぶる術を心得てゐるからである。

自分の踏んで來た人生の長い經驗の道を回想するなら、若し人間同志の交渉に於て惹起された小さい間違ひ行爲を前兆と解し、自分の心底に未だ姿もあらはさずに潛んでゐる意向のしるしであると觀ずるだけの勇氣と度胸を持合してをれば、數多の落膽とか苦苦しい不意打を避け得たのにと公言出來る人があるかも知れない。だが大概の人はさう觀ずる度胸がない。いや科學といふ迷路を迂回して再び昔のままの迷信に墮するだらうといふ抗議を申込まれよう。前兆の皆が皆迄現實となるとは極まつてゐない。そして諸君は私達が今後樹立する學説から、前兆の總てが實現される必要のない事を合點されるに相違ない。

第四章　間違ひ（終結）

間違ひが一つの意味を含んでゐるといふ事實を、私達が努力して築き上げた結論として、今後の研究の土臺とすることにする。私達の研究の目的には主張なぞ必要でないが、惹起された間違ひのどんなものにもすべて意味が含まれてゐる――勿論私は十中の八九迄と考へてゐるが――とは決して主張しなかつた事をもう一度强めておきたい。私達の申したところは、さういふ意味が、間違ひのいろんな種類で比較的數多く證明出來れば十分であるのだ。なほこのやうないろんな種類は意味といふ見地からさまざまな姿を見せる。忘却に基づいてゐる間違ひの部類（名前の忘却、約束の忘却、置き忘れ等）は純粹な生理的基調から生ずるとは信ぜられないが、言ひ間違ひや書き損ひなどは純粹な生理的誘因の結果だと見做しても差支へない。紛失は可なり多數の例で故意でないと承認出來るものである。日常生活に現れる思ひ違ひにはある範圍迄私達の見解を適用する事が出來る。私達が間違ひ行爲とは心理的行爲で、二つの意向の干渉によつて惹き起こるといふ假說から出發する以上、諸君は只今の適用範圍を忘れずにおいて欲しい。

この假說こそ精神分析の最初の成果である。このやうな干渉の現出、さらにその干渉の結果として間違ひといふ現象が現れるといふ可能性に從來の心理學は一向氣が付かなかつた。私達は精神現象界の領土を廣範な域迄擴張した。そして昔では思ひもつかなかつた現象をわが心理學で征服したのである。

今暫く間違ひ行爲が「心理的行爲」であるといふ主張に踏み止まりたい。さてこの主張は前述した間違ひが意味を持つてゐるといふ歸著よりもさらに內容豐富であるか。私は豐富だとは信じない。この主張は前述の歸著より恐らく不正確で、もつと誤解を招來し易いものである。世人は精神生活で觀察出來る一切のものを、自分に好都合の時だけ精神現象だと名付ける。併し精神表現は直接に身體的、有機的、物質的の原動力から發するものかどうか。この研究は心理學の領分でない。ある精神表現は直接に他の精神過程から誘導されて來たものかどうか。この時はその過程の裏面に有機的原動力の連鎖が動き始めてゐる。一つの現象を精神的過程と命名する時に私達は後者の場合に留意してゐるのである。從つて研究の歸著を、現象は意味深長である、一つの意味を含んでゐるといふ公式で纏めるのが至當である。要するに私達は意味なるものを意義とか意向とか傾向とか、ある心理連鎖に於ける地位と解してゐるのである。

間違ひに非常に密接して、しかも間違ひといふ名前を冠するにふさはしくない現象が多數存してゐる。これ等を私達は偶發動作と徵候動作（Zufalls—und Symptomhandlungen）と名付けた。これ等の行爲は一見動機のない、意義のない、重大でないといふ性質を具へてゐるが、その上に顯著なのは餘計なものだといふ性質を具へてゐる。これ等が一方に於て間違ひ行爲と異る點は、衝突しようとする、かきみだされようとする一方の意向を缺いてゐる所である。この行爲は身振とか氣分の表現と見做してゐる動作と確然たる區別がつかない。例へば衣服とか、身體、さては手近の物品を恰も弄ぶやうに處理する、一見目的のない動作はすべて偶發動作の部類にはひる。同樣に、そのやうな動作を愼むこと、さらに鼻唄で歌ふ音律もこの部類にはひる。これ等の現象はすべて意味を藏してゐる。そして間違ひの研究と同樣な方法をもつて研究すれば、當然解釋が出來るものであり、これ以上に緊要な精神現象の小さい表示であり、純然たる心理的行爲であると私は主張した。併し、この精神現象界の新開拓に今のところ長く留まりたくない。これよりは、精神分析に必須な疑點をもつと鮮明にするために、私は話を間違ひの研究に戻すことにする。

先刻間違ひの研究で提出して未だ解決を與へてゐない最も興味ある問題は次の事實であらう。間違ひは二つの相異つた意向の干渉の成果であり、その意向の一つはかきみだすもの、他の一つはか

きみだされるものと命名しておいた。かきみだされる意向はもう問題にならぬが、一方かきみだす意向に關して私達の知りたいのは、第一他の意向の妨害者として現れる意向は一體どういふ意向であるか、第二かきみだす意向はかきみだされる意向に對して一體どういふ態度を採るものかの二つの疑點である。

この部類の總代として再び言ひ間違ひを選擇することにしよう。そして、第一の疑點よりは先づ第二の疑點を氷解しておきたい。

言ひ間違ひに於ては、かきみだす意向は、かきみだされる意向と內容關係を保つてゐる。卽ち、かきみだす意向はかきみだされる意向の反對、訂正或ひは補遺の意味を含んでゐる。若くばさらに不解なさらに興味ある例であるが、かきみだす意向はかきみだされる意向と何等內容關係を持してゐない。

この二つの關係のうち、前者の證明は前述した同種の實例で何の苦もなく發見出來る。反對のものを口滑る場合の殆どすべての實例では、かきみだす意向はかきみだされる意向の正反對を表現してゐる。妥協出來ない二つの衝動の葛藤が卽ち間違ひとなるのである。「私は議會の開會を宣することになつてゐるが、むしろ早く閉會してしまひたい。」と言ふのはあの議長の言ひ間違ひに含ま

れてゐる意味である。ある政治新聞が買收の非難を蒙つた。新聞社は紙上で辯明しようとした。そしてその辯駁文の劈頭に次の言葉を載せようとした。「わが讀者は本紙が常に私慾を棄てて（in uneigennützigster Weise）多年大衆の福利增進に盡瘁せるを推察されよう。」ところが辯駁文を一任された編輯者はつひ「私慾を持つて」（in eigennützigster Weise）と書き損なつた。卽ち編輯者は「俺はお役目に筆をとらねばならぬが、實はいろいろの醜聞を承知してゐるぞ。」と考へてゐたのである。カイザアに rückhaltlos（腹臟なし）に眞相を仰しやいませと肉迫しようとした一代議士は自分の大膽無敵に我ながら恐縮する聲が心中に響いて、rückhaltlos は rückgratlos（骨なしのやうに）といふ言ひ間違ひに轉化してしまつた。(*)

(*) 一千九百八年十月の獨逸國會にて。

壓縮と簡略の外觀を與へたあのお馴染の例では、言ひ間違ひの中核は訂正、補遺、若くば、繼續でそれによつて第一の傾向と並んで第二の傾向が出しやばつたのである。卽ち「眞相は結局分つてきたがね。ぶつちやけてしまへば事柄は猥褻だよ。」かういふために「Zum Vorschwein gekommen」の口滑りが起こつたのだ。――本當に理解してゐる人はこの五本の指で數へる位しかゐない。いや、本當に理解してゐる人は實はたつた一人しかない。だからこの一本の指の口滑りが起こつたのだ。

——又他の例で夫は夫の好きなものだけ飲み食ひ出來る。でも夫が好き放題に振舞ふのは我慢出來ない。だから夫はあたしの好きなものだけ飲み食ひしなくてはならないのですの口滑りが惹き起こつたのである。これ等の類例を眺めてみれば結局言ひ間違ひは、干渉した意向の內容から直接發してゐるか、さもなくば、その意向の內容と密著してゐるのである。

二つの干渉し合ふ意向の他種の相互關係は奇怪に働く。若しかきみだす意向が最早かきみだされる意向と內容上に何の連絡も持たぬ時は、このかきみだす意向は一體どこからやつて來たのか、さらに、どうして丁度さやうな場合へ妨害者となつて姿を見せたのであるか。これに對する解答は次の觀察である。卽ちその妨害者はその當人が言ひ間違ひをやる直前に、腦裡を領してゐた思考の流に源を發してゐて、その思考の流は、會話の中へ夙に表現されたか否かに一向無關係に、丁度間違ひといふ形で餘韻のやうに現出するのである。この觀察から、妨害者は實際餘韻として、作用したのだと名付けるのが適切であるが、餘韻といつても必ずしも先に口に出した言葉の餘韻でない事を承知しておいて欲しい。かういふ場合にも、かきみだす傾向とかきみだされる傾向の間には矢張聯想關係が存してゐる。併しその聯想は內容關係でなしに、むしろこぢつけた、大抵の場合非常に無理な連絡をとつてゐる。

この點に就て、私自らが觀察した簡單な一例を報告しよう。ある日私は美しいドロミテンで維納の二夫人に出合つた。この二夫人はどこかへ旅行するためか旅装をつけてゐた。私は暫く一緒に道連れになつて、旅の愉快さを語り合つたり、話がはずんで旅行家の處世難なども話り合つた。二夫人のうちの一人の方は終日旅行しつづけるのが可なり辛いと白狀した。「本當でございますわ。終日かんかん乾しで徒歩するのは決して愉快でございません。ねえ。ブルウゼとかヘムドは汗びつしよりになつて。」この時夫人は一寸行き詰りかけたが早速に續けた。「でもホオゼに歸つて着物をすつぽり着替へる時は…」私はこの口滑りを分析しなかつたが、賢明な諸君は容易にその意味をお解しになるだらう。この夫人は自分の身支度物をいちいち數へあげようとして、ブルウゼ(上衣)とヘムド(襯衣)それからホオゼ(腰卷)と言ひたかつたに相違ない。その時禮儀といふ動機からホオゼを口に出すのを淀んだ。ところが次に來た內容的に全く無關係な文句の中へ今の口に出せなかつたホオゼといふ言葉が、丁度ハウゼ(家へ)といふ發音の似た言葉の歪みとなつて現れて來たのであつた。

いよいよこれから私達が長い間お預りをしてゐた重大問題、卽ち突然に一つの傾向の妨害者として出しやばつてくる傾向は一體何者であるかを論じてみたい。勿論この問題は非常にとりとめないものだが、兎に角今は共通點を探してみたいと希望してゐる。さういふ實例を澤山研究してみると、

早速に三つの部類に分類する事が可能である。第一の部類には次の實例があてはまる。かきみだす傾向は話してゐる人にはよく分かつてゐるが、丁度言ひ間違ひ直前にはつと氣付かれる場合である。例へば「Vorschwein」の口滑りから話してゐる人は眞相を「猥褻」だと許したかつたのみならず、彼はあとでは口に出すのを憚つたが、初めは「猥褻」といふ言葉をそのまま、口に出したいと言ふ意向を有してゐたのを敎へて吳れる。第二の部類に適切なのは次の例である。卽ち、かきみだす傾向は話す人も恰も自分の心に存在してゐたものだと認めるが、言ひ間違ひの起る直前に自分の心に活動してゐたものだとはどうしても氣付かない場合である。だから彼は私達がその口滑りに解釋をつける時は、その意味を承認するが、ある程度その意味に我ながら面喰つてしまふのである。このやうな心理狀態はこの言ひ間違ひの例よりも、他の間違ひ行爲の方がもつと適切な實例を敎へて吳れる筈である。第三の部類はかきみだす意向の解釋はその話した人から極力否定される場合である。彼はさういふ傾向が口滑りの直前に自分の心中に蠢いてゐた事實を拒むばかりか、さういふ傾向を自分が所有してゐたとは實に怪異に堪へぬと主張するのである。あの「反吐」の例を思ひ出されるがよい。そして私がそのかきみだす意向をこの話手から摑み出した時に、彼が失敬千萬と極力否認したのを記憶されるであらう。このやうな場合に下した私達の見解が滿場一致で贊成されなかつた

事は諸君も御存じだが、司會者の反駁などは私には一向馬耳東風である。私は自分のその解釋が決して的を外れてゐないと確信してゐる。併し、諸君の方では、さう司會者が憤慨するのを見るに見兼ねて、さういふ言ひ間違ひには解釋など下さずに、矢張分析派以前の見解を以つて、その言ひ間違ひを純生理的行爲と承認してやる方が妥當ではないかと一思案されるだらうと私は考へてゐる。私は諸君を顰蹙さすものが何であるかをよく承知してゐる。話してゐる人に一つの意向が顔を出してくる。その意向は話す當人にさへ全く氣付かれないが、私は證據物件からその傾向の實在を推定する事が出來る。この假說を私の下す解釋が包含してゐるのだ。だがそのやうな新奇な、そのやうな前途有望な假設に對して諸君がたぢたぢされるのは無理からぬ事である。諸君の心持は私にはよく分かつてゐる。諸君の言分はある點迄正しい。が私達は次の一點だけを鮮明にしておきたい。即ち、若し諸君が間違ひに關して、私達が澤山な實例で固めたこの見解を理論的につきつめてみようと欲すれば、今述べた奇怪な假設を承認するやうに決心しなくてはならぬのだ。若し諸君がその假設を承認する事が出來なければ、やつと曙光が見えかけて來た間違ひの研究を再び中止しなくてはならぬである。

この三つの部類を結びつける、言ひ間違ひのこの三つのメカニズムに共通な點をさらに論じてみ

たい。幸運にもこの共通點は誰の目にもつきやすい。前者の二つの部類ではかきみだす傾向はその話す人には既知のものである。第一の部類ではその傾向は言ひ間違ひの直前に姿を見せたものだと附加しなくてはならぬ。ところがこの二つの部類ではこのかきみだす傾向は抑壓されたのである。話してゐる當人はその傾向を話の中へのぼすのを憚つたのである。その時、その傾向は言ひ間違ひの形で外に現れたのである。言葉をかへて申せば、その瞬間に抑壓された意向が自分の意志に反して迸り出て、丁度自分が口に出してもよいと許してゐる意向の表現を變形さし、或ひはその意向に混合し、さもなくば、恰もその意向の中へ割り込んだやうな形で捌口を見付けたのである。これこそ言ひ間違ひのメカニズムに外ならないのだ。

私の見地から第三の部類の過程も今述べたメカニズムに立派に一致さす事が出來るのだ。種種の力でさまざまに意向を抑壓する程度に依つて、この三つの部類が出來上ると附加しておかう。第一の部類ではその意向は早くも姿を見せてゐて、口滑りの現れる直前に本人がはつと氣付いたのである。その時その傾向を押込めようと思つた瞬間に、言ひ間違ひとなつて飛び出したのである。第二の部類では抑壓はずつと前に遡る。その意向は最早話の前にさへ姿を見せない。驚くべきは、姿を見せないこの傾向は口滑りの誘因としてやつぱり關與したことである。そしてこの狀態を土臺にと

れば第三の部類の過程も大變樂に說明出來る。私は大膽にかう前提しよう。間違ひ行爲となつて、ずつと長い時間前、いや多分もつともつと以前から抑壓されてゐる、その當人には寸毫も氣付かれない、從つて話した人自らが立派に否定出來る一つの傾向さへ顏を出す事が出來るのだ。併し諸君自らも、第三の部類の問題を除外しても、いろいろの場合の觀察を緖口として、ある事を口に出さうとする現在の意向を抑壓する事は卽ち言ひ間違ひが惹起する不可缺な條件になるといふ結論に到達せざるを得ないだらう。

今度こそ私達は間違ひの理解を一歩進めたと主張しても差支へない。間違ひは心理的行爲である。その行爲の中に立派な意味と意向が存してゐる事を知つたばかりでなく、間違ひ行爲は二つの相ひ違つた意向の干涉から出來たものだと知つたばかりでなく、なほその外に、この二つの意向の一つが、他の意向の妨害者となつて表現を求めるためには、その表現の實行にある程度の抑壓を加へなくてはならぬ事を知つたのである。一つの意向がかきみだす意向となり得る前に、その意向自らが先づかきみだされなくてはならぬのである。勿論これだけでは間違ひと命名する現象を完全に說明したと申せない。早速に無數の疑問が群つて來る。その疑問をさらに說明しようと焦れば、さらに新しい疑問が湧出してくる事を豫期しなくてはならぬ。例へば何故に間違ひはもつと簡單に行かな

いのかといふ疑問を提供する人があらう。ある一つの傾向の實現を許さずにこれを抑壓する意向が存するなら、その傾向を影も形も現れないやうに徹底的に抑壓しないのか。さもなくて、萬一抑壓にしくじつた時は、この抑壓すべき傾向はすつくり發顯してしまはないのか。いやさうあり得ない。間違ひは妥協の成果であるのだ。間違ひは二つの意向のうちのどちらかを半分成功さし半分失敗さす事を意味してゐるのだ。脅される意向は全部抑壓されぬし――いちいちの例をのぞいて――全部發顯されない。かやうな干渉若くば妥協が實現されるためには、特別な條件が存在すべきである事を當然私達は考へるが、その條件がいかなる種類のものかを今迄一度も察する事が出來なかつた。間違ひの研究をさらに深く掘り下げる事に依つて、われわれに未知のこの條件を闡明する事が可能だとは私でさへ自信をもつて申せないが、さしづめ必要なのは、この研究の準備に兎に角精神生活の暗黒な曠野を探檢しなくてはならない。第一に只今遭遇した相似點が、間違ひを徹底的に説明する上に必須なこれ等の假設を樹立するやうに私達を鼓舞して呉れる。第二にもう一つの點。精神分析界で私達が絶えず親しんだとるにも足らぬ瑣細な表示の研究は當然ある危險を伴ふ點である。結合的偏執狂（コンピナトリツチエ・パラノイア）と名づける精神病がある。これは小さい表示を誇大に尊重する病氣である。勿論私とてこんな小さい表示の上に建てられた結論を、飽く迄も正しいものだと頑張る氣はない。私達の觀察

界を擴大し、精神生活の多方面の領域からそれと類似の印象を蒐集する事に依つて初めて、この危險を脫する事が出來ると信じてゐる次第である。

この機會に一先づ間違ひの分析を打切る事にしよう。併し一言諸君に警告しておきたい。私達がごんな風に間違ひの現象を取扱つたかといふ態度を精神分析の雛形としてしつかり頭に叩込んでおいて欲しい。今迄の實例を眺めてみれば、私達の心理學の目標がいかなるものかを察する事が出來る。私達は單に現象を描寫したり分類したりしようとは欲しなかつた。むしろ現象を精神に潛む生命の徵候と觀じ、共力しつつ、さては排擠しつつ、目的に突進する傾向の表現と觀じたのである。私達は精神現象の力學概念（ヂナミッセ・アウフファスング）を求めてやまなかつた。われわれの概念をもつてすれば、現識現象よりも假定的なこの傾向の方が數倍威力あるものでなくてはならぬ。

這般の理由から、最早間違ひ行爲を深く研究しようとは思はぬが、既知の事實を確かめ、さらに二、三の新事實をも嗅ぎ出す目的に、もう一度間違ひといふ領域を隅から隅まで驅け歩いてみる事にする。この研究の冒頭で作つた間違ひの部類を思ひ直して欲しい。卽ち第一は言ひ間違ひである。それと同種のものは、書き損ひ、讀み誤り、聞き損ひである。第二は忘却である。忘却した對象（名詞、外國名、約束、印象）に依つてさらに細別が出來る。第三は失態、置き忘れ、紛失である。

私達が取扱ふ思ひ違ひと申すものは一部は忘却に一部は失態に屬してゐる。

言ひ間違ひは既に詳しく論じた積りであるが、なほ二、三の事實を追加しておきたい。言ひ間違ひには可なり興味ある小さい感情現象がからまつてゐる。何も好きこのんでわざと言ひ間違ひを滑らす人などないだらう。自分が言ひ間違ひをすればしばしば氣が付かないが、他人がすれば決して聞き逃さない。言ひ間違ひはある意味で感染的だと申せる。即ち、自分が自ら言ひ間違ひに陷らなければ、他人の言ひ間違ひに口を挾むことは容易といへない。秘密裡に隱蔽されてゐる精神過程に何等特別な報告が下されなくとも、言ひ間違ひの最も些細な形を導いた動機を摘發する事はさして困難ではない。例へば某が綴字の長い發音を、文字に這入りこんだある動機を持つた妨害物のために、短く發音したとすれば、その代りその次に來る綴字の短い發音を引き伸し、前者を代償するために一つの新しい言ひ間違ひを仕出來すことがあるやうに、一つの二重母音、例へば、eu（オイ）とか oi（オイ）を ai（アイ）とうつかり不純に發音した時その次に來る ai（アイ）を此度は eu（オイ）とか oi（オイ）に發音して前の誤謬を訂正しようとする。かういふ態度の裏面には、話手たる自分が母國語使用に對して無關心であると聞手が信じては困るといふ、聞手への顧慮が隱れてゐる。即ち代償の結果である第二の歪みは、初めの間違ひへ聞手の注意をひいて、話手たる俺でも自分の言ひ間違ひには氣が付いてゐるぞと聞手に

保證しようとする意向を有してゐるといへる。一番頻繁に起こる、一番簡單な、そして一番些細な言ひ間違ひの形は話の何でもない一寸とした部分へ現れる壓縮と前置である。例へば、長い文句を話す時に、恰も自分が目論んでゐる話の趣向の最後の言葉を前置するやうな口滑りをやる。かういふ言ひ間違ひはその文句を早く言つてしまひたいといふ、あるぢれつたさの印象を與へ、一般に、この文句の報告乃至話全體に對してある抵抗が存してゐる事實を證してゐるのである。かういふ見解から、私達は、言ひ間違ひに關する精神分析の概念と一般生理學の概念が互に混同してゐる緩衝地帶へやつて來た。こんな場合でも話の意向をかきみだす傾向が存してゐると假定したいのだが、單にさういふ傾向が實在してゐる事を示すに留まつてこの傾向は一體何を目指してゐるかを證明する事は不可能である。その傾向が釀した攪亂は必然何かある發音影響とか聯想關係とかに基づいてゐて、注意力が話の趣向から外れたのだと解する事が出來る。然しながら、この注意力の逸散や發動した聯想傾向は何等事件の眞髓を語るものでない。この說明はむしろ話の意向をかきみだす他の傾向の存在を暗示する以上を出てゐない。そして今度といふ今度はその傾向の本態を、丁度言ひ間違ひのすべての立派な實例で出來たやうには、單にその結果から摘發することは出來ない。

私がこれから轉じようとする書き損ひは、一向新しい見地を豫想出來ない點で、これ又言ひ間違

ひと同じメカニズムで行く。ただ書き損ひから、今迄の知識に一寸追加が出來るだけだ。誰にでも見られるこんな何でもない書き損ひや省略や後の字、特に最後の字を前置する事は、一般に字を書く事の面倒さ、字を書き上げる迄のぢれつたさを示してあまりありだ。書き損ひの著しい結果は、かきみだす傾向の本態と目的を敎へて呉れる。手紙の中に書き誤りを發見する時は、その手紙を書いた當人の心が當時統一を缺いてゐた事を知る。併しその統一を亂すものが何であるかを推定する事は可なりむづかしい。言ひ間違ひと同樣に書き損ひはそれを犯した人には氣付かないものである。次の觀察は敎へるところが多い。自分の書き上げた手紙はいつでも封をする前にもう一度讀み直す癖のある人がある。だが讀み直さずに早速封をする人もあるが、さういふ人が一度めづらしくも讀み直して見るなら、常に著明な書き誤りを發見して訂正する機會を得るであらう。この事實をどう說明したらよいか。これ等の人は手紙を書く時に恰も書き誤りを自覺してゐるやうにみえる。私達は本當にさう信じてもよいのだらうか。

書き誤りの實地上の意義に一つの面白い問題が結び付いてゐる。諸君にもあの殺人犯Hの判決は耳新しくないことだらう。この男は微生物研究所で最も危險な病原菌を培養してやらうと計畫して細菌研究家を志した。卽ちその培養菌を以て自分の近邊の人達を最も近代的な方法で殺してやらう

と企んだのである。さてある日のこと、この男は、自分に送られた培養菌が一向效力のない事を研究所の所長に訴へるために一本の手紙を認めたが、その時つひ書き誤つて、「私が二十日鼠《モイゼン》(Mäus-en)やモルモット(Meerschweinchen)で實驗したのに」と書く代りに「私が人間《メンシェン》(Menschen)で實驗したのに」とはつきり書いたのである。この書き誤りは研究所の醫者達の目にもとまつたが、醫者達は、私が知る限りは、この書き誤りから何の推察も下し得なかつたらしい。さて諸君はこれをどう考へるか。醫者達がこの書き損ひをむしろ一つの告白と認定して、搜査に著手すれば、この殺人未遂犯人を時を移さず檢擧する事が出來たのであらうに。この實例は間違ひに對する精神分析の學說が實地上最も大切であるのに世人が無知であるために、取返し難い手落を作つた事を敎へてゐないだらうか。そのとほりである。私でもそのやうな書き損ひを確かに大きな嫌疑と見て取る。併しその書き損ひを一つの告白として檢擧の證據とするには可なりの躊躇を要する。この問題はしかく簡單でない。書き損ひは確かに證據物件とはなるが、そんな書き損ひだけで搜査に著手するのはあまりに證據不十分であらう。この男が人間に病原菌を感染してやらうと不斷に腦中で企らんでゐた事實はこの書き誤りが證してゐるが、この思考が殺人計畫の斷乎たる決心に價するか、若くば實生活では一向役立たない空想に價するか、きつぱり決定するのはむづかしい。書き損ひを犯したこ

の男が道理にかなつた主觀的正當を以てこの空想を否認して、さういふ考は自分にはまるで見當も付かないものだと立證する事さへ可能である。今後私が心理的實在と唯物的實在の差違を考察する時に、諸君はこの可能點を最も明快に理解する事が出來るに相違ない。併し、兎に角この話は間違ひが後日思ひ設けぬ意義を持してくるといふ例になる。

讀み損ひでは、言ひ間違ひや書き損ひとは全然相違した心理狀態を發見する。讀み損ひの場合ではあの相葛藤する二傾向の一つは知覺刺戟によつて代表される。そのためにかこの傾向の抵抗は薄弱になる。人が讀まうとするものは、人が書かうとしてゐるもののやうな自己の精神生活の所產でない。この故に讀み損ひの多數は大抵置換である。讀むべき文字を他の文字で置換する。その時は原文と讀み損ひの結果の間に必ずしも內容的關係が成立してゐなくてもよい。卽ち大概發音類似を借りてくる。リヒテンベルヒが angenommen（アンゲノンメン）を Agamemnon（アガメムノン）と讀み損つたのはこの部類の立派な例である。若し讀み損ひを惹き起こすあのかきみだす傾向を知らうと思へば、讀み損つた原文を全く度外視して、第一はこの讀み損ひの結果を基點としてまつぱじめにごういふ聯想が浮び出るか、第二に讀み損ひがごういふ心理狀態から釀されたか、この二つの疑問を命題として分析研究に著手すればよい。時にはあとの心理狀態の智識だけを明かにすればひとりでに讀み損ひに說明が付いてく

る。例へば、ある男がある必要から不案內な町をうろつき廻つて、一階に出てゐる大きな字の看板を「Closethaus（クロオセットハウス）」（有料便所）と讀んだとする。彼はそんな看板があんな高い場所に掲げてあるのは可笑しいと訝るだけの餘裕を未だ持ち合はしてゐた。その時男はその看板の字は本當は「Corsethaus（コルセットハウス）」（コルセット屋）と讀むべきに氣が付いたのである。他の種類で原文とは全く內容關係を持たない讀み損ひは特に愼重な分析を必要とする。分析は精神分析の術式に通曉せずには、又精神分析を信賴せずには行はれ難い。併し大概の場合讀み損ひに說明を與へるのは比較的容易である。丁度あの「アガメムノン」の例のやうに、置換された言葉は攪亂が喚起された思考圈を洩らして吳れてゐる。例へば、今度の歐洲大戰の時に、世人は都市名、將帥の名前、軍隊語をいたるところで讀むやうになつて、それと發音の似た言葉に出くはすといつでも、さういふ言葉がその人の耳へも鳴り響いてくる習慣になつてしまつた。かやうにして、自分に興味ある、自分の心を領してゐるものは自分に關係のない自分に未だ興味を與へないものの代用を務めるのである。思考の與へる投影は新しい認識を曇らすのである。

さらに讀むべき原文自體がかきみだす傾向を喚起して、その結果、大抵の場合その原語と正反對のものに轉化してしまふ。かういふ種類の讀み損ひも可なり多い。人が何か自分の望まないものを

讀まなくてはならなかつたとする。分析の結果、その讀むべきものから逃げようとする熾烈な願望が、このやうな讀み損ひの主な原因となつてゐた事を知るのである。

第一に述べた一番頻發しやすい讀み誤りの種類では、間違ひのメカニズムに於て重要な役目を演じてゐると認めてゐるあの二つの要素卽ち第一は二つの傾向の葛藤、第二は間違ひの效果によつて自らを代償する一方の傾向の抑壓はあまり顯著ではない。讀み損ひでもこれと矛盾するものは發見出來ない。併し讀み損ひへと導いて行く思考內容の闖入は、豫めその思考內容に動いた抑壓よりも數倍も目立つことがある。丁度この二要素は忘却といふ間違ひが惹起される種種な狀態に於て最もはつきり觀察出來るものである。

約束の忘却はたつた一つの意味しか有してゐない。その含む意味は先刻申したやうに素人さへも否定しないだらう。決心をかきみだす傾向はいつでもそれの反對意向、決心の不履行である。何故その忘却がもつと違つた公公然たる形で表現を求めないかといふ問題だけは未だ闡明されずに私達に取り殘されてゐる。兎に角この忘却に反對意志が存在してゐる事は最早疑ふ餘地がない。時にはこの反對意志の隱蔽を必要とする動機のあるものを摘發する事に成切する場合もある。公然と反對を宣告すればやつつけられるのは極り切つてゐる。さういふ時は間違ひといふ形でこつそりと自分

の目的を果たすのである。若し決心とその決心の履行の間へ心理狀態のある重要な變化が這入つて來て、その結果決心の履行が最早問題とならぬ時には、たとへ約束の忘却が起こつたとしてもそれは最早間違ひといふ領域のものではない。人は最早約束の忘却に面喰はない。今さらあの決心を記憶するのは餘計な事だと考へる。やがてその決心は持續して若くば一時的に取消されてしまふ。この理由から、決心の忘却は、そのやうな取消が起こつたと信ずる事が出來ない時に、初めて間違ひと名づける資格があるのだ。

一般にいへば決心の忘却の實例は非常に平凡で、その意味は非常に透明であるから、研究したところで大した興味も起こらない。併しこのやうな間違ひを研究すると、二つの點である新事實を學ぶ事が出來る。既に申したやうに、忘却、換言すればある意向の不履行は、その意向に挑む反感を諷示することになる。確かにこれは眞實だ。反對意志は私達の研究結果によると直接及び間接の二種に區別出來る。間接的反對意志の意味する所は次の實例から最も立派に證明出來る。パトロンが自分の被保護者を第三者に推薦することを失念した時はこれは間接の反對意志といへる。何となればパトロンは實は自分の被保護者に大した好意を有してゐない從つて推薦といふことにも丸で氣が乘つてゐなかつたのである。被保護者たるものはパトロンの失念をいつでもこの意味に解すること

になつてゐる。併しもつと複雜な事を考へても差支へない。約束の履行に對する反對意向はパトロンには全く違つた方向からやつて來、全く別なところに反對意志の中心がある事がある。パトロンは被保護者とは無關係でむしろ推薦を依賴しようとする第三者に對してある反對意志を有してゐる。だから精神分析の解釋を實地に應用する事にはある躊躇を要すると諸君は考へられるだらう。いくら間違ひを正しく解釋したところで、被保護者たるものは、結局あまり疑ひ深くなつて、パトロンはけしからぬと怨訴する危險が存してゐる。又第二の例で、ある青年が履行を堅く誓ひ自分も履行しようと決心してゐたランデヴゥをつひ失念したとすれば、一番普通な理由は約束した女とあひびきする事が眞から厭だといふ事にある。併しこの場合分析を進めてみると、かきみだす傾向はその女に向つてゐずに、あひびきに指定した場所にさしむけられてゐる事實が證明出來る。その場所にからまるある苦痛な思ひ出がその場所へ彼の足を運ばせなかつたのである。さらに別の例で、ある人が手紙を投函するのを忘れたとする。その時反對意志は一途にその手紙の內容に懸つてゐるといへる。併し時には手紙自身には罪はなくて手紙の中の何かある物が彼にずつと以前に認めたある手紙を思ひ起こさして、その昔の手紙が反對意志の直接の要擊點となつた事が分明する場合もある。だから、この時の反對意志は、相當の理由を持つてゐたあの昔の手紙から何等理由のない現在の手

さらに愼重な態度をとつて欲しい。心理學から見れば同一意味のものでも、實地に應用する段になると、非常に多面な意味を持ち得るからである。

この種の現象は諸君に非常に奇妙に見えるだらう。「直接」の反對意志がある以上この過程は病的特徴を有してゐると主張されるかも知れないが、私はさういふ反對意志は健康な正常な領域に於ても現れるものだと自信してゐる。私の言ふ意味を誤解してはいけない。かう申したとて、これは何も私達の分析的解釋が根據のないものだといふ告白ではない。決心の忘却には無數の意味が含まれてゐたと申したが、これはいちいち實例に就て分析したのでなくて、單に私達の懷抱してゐる一般原則を土臺として解釋したに過ぎないのである。私達がその當人に就て分析を斷行してみるなら、常にその忘却が直接の反對意志か若くば間接の反對意志に由來してゐる事實をきつぱりと知る事が出來るのである。

第二の點はかう申せる。決心の忘却が一つの反對意志に由來してゐると無數の例に就て立證出來たなら、次に分析される人が私達の推理した反對意志の存在を快諾せずに全然否定してしまふといふやうな場合にもこの解釋を擴大する勇氣が湧いてくる。その例としてどこでも一番よく頻發する

出來事をとらう。即ち拜借した書物の返却を忘れたり、勘定や借金を仕拂ふのを忘れたりすることがある。さういふ人に書物を我がものにしようとか、借金を踏み倒さうとする意向が存してゐると豫想出來る程に私達は無鐵砲であるのだ。さう臆測された當人はさういふ意向の存在を否定はするが、さてそれでは自分のさういふ行動に對して私達の下したものと違つた說明を與へる事が出來ようか。當然君はさういふ意向を持つてゐるのだ、ただ君はそれに氣付かないだけだと私達は頑張らう。さういふ意向の實在は、忘却といふものが惹起されたがために表面に姿を見せたのだと思惟するだけで十分である。さう申せば、いや一寸忘れたばかりなのだと幾度も反復されるかも知れない。只今諸君はこの狀態が私が前に一度觸れたものだと合點されるだらう。私達が間違ひの正しと見做したかくも多面な解釋を論理的につきつめようとするなら、當然人類には當人が氣付かない間に活躍出來る傾向が存在してゐるといふ假設を厭でも應でも信ぜなくてはならぬやうになる。だがこの假設を主張する以上、私達は實生活及び心理學を風靡してゐるすべての見解に挑戰を宣した事になるのである。

固有名詞や外國名又は外國語の忘却も同樣その言語に直接乃至間接に動いてゐる一つの反對意向に由來してゐると申せる。この直接の反感に就ては旣に多數の例を紹介しておいた。だがこのやう

な場合には間接誘因の方が特別多數存してゐて、間接だと推定するためには十分愼重な分析を要求しなくてはならぬ。例へばわれわれの在來の無數の傾向をやむなく放棄さしたあの歐洲大戰時にあつて、固有名詞を記憶する能力は最も奇怪な連鎖のために非常に鈍くなつてしまつた。つひこの間私は次の經驗を持つた。敵の破壞から免れたメエレンの町なるビゼンツの名前が、ごうしても思ひ出す事が出來なかつた。分析をやつてみたのに、私はこの名前には直接の憎惡を持つてゐない事が分かつたが、私が過去に數回樂しい生活を送るのを常としたオルヰエトにあるパラッツオ・ビゼンチの名前がこのビゼンツとはよく似た發音を持つてゐた事が忘却の誘因となつてゐる事を知つた。名前の記憶に反抗する傾向の動機としてここに初めて一つの原則を提出する。この原則はあとになつて神經病の徵候の誘因に偉大な意義を有するやうになるからである。卽ち記憶は、不快な感情がからまつてゐる、そして、それを回想する時に新しく同じ不快が甦つてくるといふ事物事象を思ひ浮べる事を嫌厭するといふ原則である。このやうに記憶又は他の心理的行爲から不快をおつぱらうとする意向、不快からの心理的逃避を私達はただに名前の忘却に限らず、他の多數の間違ひ、例へば等閑とか誤謬なごに對する終審の威力ある動機と觀じてゐるのである。

然しながら、名前の忘却は心理生理學的に最も容易に說明が付くもののやうだ。從つて、不快動

機の干渉が立證出來ない場合にも、名前の忘却は起こるものである。例へば某が名前を忘却する傾向を持つた時は、諸君はその人に就て分析研究によつて彼がその名前を忘れるのは、その名前を好かないとか、その名前と一緒に何か不快なものを回想してくるといふためばかりでなく、彼の精神にあつてこの特殊な名前は、彼に密接な關係を結んでゐるある他の聯想圈に屬してゐる事を敎へて吳れるのである。この名前は恰もその聯想圈に根を下して、瞬間瞬間に發動しようとする他の聯想をひきとめてゐる。諸君が記憶術のしくみを思ひ出されるなら、名前を忘れまいためにわざとはめこんだ同一聯想が却つて、忘れまいとした名前の忘却を招くのを知つてびつくりされるだらう。このやうな事實を最もはつきり敎へて吳れるのは人名であつて、人名は明かに人めいめいに對して全く異つた心理的價値を有してゐるからである。例へばテオドルといふ名前を假りに拾つてこよう。テオドルは諸君のうちのある人にはとりたてた意味を持たないが、他の人にとつてはテオドルはその人のおやぢの名前であつたり、兄弟とか友達とかさては自分の名前であることがある。分析の經驗はかういふ事を敎へて吳れる。卽ち前者の人はある未知の人がこの名前を持つてゐる事を忘れるといふ憂はないが、後者の人は、自分と密接な關係を保有してゐるやうに思はれるこの名前を他人に冠するのを惜しむといふ傾向を持つてゐる。この聯想力の制止は不快原理の作用、さらに間接的

メカニズムに適合してゐると假定するなら、諸君は、名前を一時的に忘却する誘因がいかに複雜を極めてゐるかをはつきり想像する事が出來るに相違ない。そして巧妙な分析はこのやうな紛糾したすべての關係を物の實事に氷解して呉れるのである。

印象や經驗の忘却は名前の忘却よりもさらに明快に餘蘊なしに、不快なるものを記憶から遠去けようとする傾向の干渉を示して呉れる。勿論これ等はその全局から見て間違ひには屬さないが、われわれの普通の經驗を標準にして、例へば近頃の印象や重要な印象を忘却してしまつたり、立派に憶えてゐた記憶の連鎖からある一つが脱落して折角の連鎖が破れてしまつたとかいふ時には、その忘却は私達にとつては痛切であり、私達にとつて正當でないといふ點から明かに間違ひの範疇に這入る。どういふ工合に又何故に深刻な印象を殘したと確信出來る經驗、例へば子供時代の出來事を忘れようとする傾向があるか、これは全く別種の問題だが、確かにこの忘却の中に不快な感動に對しての防禦がある役目を演じてゐるのだ。だがこれだけで總てが闡明出來るとは思へぬ。不快な印象は忘れやすいといふ事は最早疑ふ餘地のない事實である。心理學者達もそれを認めてゐる。偉大なダァヰンもその事實を十分承知してゐた精か、自分の懷いてゐる學說に都合の惡いやうな觀察は特に綿密にノオトにとつておくのを自分の「黃金律」としてゐた。卽ちダァヰンはそのやうな觀察

こそ自分の記憶に粘著しにくいと信じてゐたからである。

忘却によつて記憶に蟠る不快を防禦するのだといふ原則を生れて初めて聞いた人はえてしてこれに抗議を申込みたがる。さうぢやありません。私自らの經驗からでも分かるやうに、苦痛なものこそ忘却しにくいのであります。例へば悲觀とか侮辱とかいふ記憶は私の意志に反して、私を煩悶さすために、いつもいつも甦つて來るのであります。成程この事實は一應御尤もだが、この抗議はどうも正鵠を失してゐる。精神生活とは相反撥する傾向の鬪爭場、逐鹿場であり、力學的の言葉を用ひば、精神生活は實に矛盾と桔抗から成り立つてゐるといふ事實を速成に呑込んで欲しい。ある傾向を證明したとて、それと桔抗してゐる傾向を度外視すれば何もならない。卽ち精神には二つの傾向の共存する餘地が許されてゐるからである。ただ問題となるのは、相反撥するものがどのやうに竝置されてゐるか、甲なる傾向がどういふ作用を與へ又乙なる傾向がどういふ作用を與へるかの點である。

物を紛失し又は置き忘れる事は、現象の多意味、換言すれば間違ひを惹起した傾向の多樣多岐なる點から特に興深いものである。すべての場合に共通な一點は、ある物を失ひたいといふ願望である。併し、いかなる理由から、いかなる目的から失ひたいのであるかといふ點になると、それぞれ

の場合によつて違つてくる。この物品が毀れてしまへばといふ時、この物品をもつと上等なものと取替へてしまひたい時、この物品の愛玩に飽がきた時、この物品が仲たがひをした人の贈物である時、この物品を思ひ出すのも不愉快なといふ境涯に買つてゐた時、さういふ條件の時に初めてこの物品を紛失するのである。物品を落とすとか、傷つけるとか、毀すといふ事にも同じ目的が行使されてゐる。社會生活の經驗から私達は、强制的な非合法的な結婚によつて生れた子供は正統な順序で受胎された子供より虛弱であり勝ちである事實を知つてゐる。さういふ子供が虛弱だといふために孤兒院のあらつぽい育兒法を原因に數へたてる必要はない。育兒の注意にある等閑があるだけで萬事說明がつく。物品の保存は同時に子供の保存にも適用され得ないだらうか。

さらにまたある怯えてゐる損失を免れるために、ある物を運命の生贄に捧げる意向が存してゐる時には、その物品の價値の幾分も傷つける事なしに、その物品は紛失される宿命を持ち得るのである。分析の結果によればかやうな運命の惡戲はわれわれにも非常に頻發するものである。この故にわれわれのいふ紛失はしばしば自由意志による犧牲である。同樣に紛失は遺恨と自責に奉仕する事が出來る。省言すれば、紛失によつて物品を遠去けようとする傾向に潛む遠い動機は容易に觀測出來るものでないのである。

他の思ひ違ひと同じに失態も自分が斷念しなくてはならない願望を遂行するために利用される。意向はこの時幸運にも偶然の假面をかぶつてゐる。例へば私の友達から聞いた話であるが、ある男がいやでいやでたまらなかつたが、どうしても郊外へ汽車に乘つて訪問をしなくてはならなかつた。ところが丁度乘替驛でつひ間違へて上りの列車に乘り込んだがため、この男は再び都會へひき戾されてしまつた。又ある例である男が旅行中にある中繼驛で何とかして滯在したいと思つてゐたが、ある已むない要件のためそんな餘裕が作れさうでなかつた。ところが男は連絡時間を間違へたためか列車に乘遲れたためか、とうから希望してゐた滯在をいやでもしなければならぬ羽目に陷つたのである。又他の例で、これは私の患者で知つたのであるが、私はその患者が自分の愛人を電話で呼び寄せたいといふのをいけないと言ひ含めておいた。ところが、この患者が私に電話をかけようと思つて、思ひ違つて、いやつひぼんやりして番號を言ひ損なつて、電話は突然その愛人の宅へつながつた。

ある技師が觀察した物品傷害の既往症は直接の過失に就て實事な、實生活にも有意義な實例を惠んで吳れる。

「數日前から私は數名の同僚と一緒に高等學校の實驗室で彈力性に關する複雜な實驗を行つてゐた。

この研究は私達が勝手に選んだのであるが、さて著手してみると豫想以外に手間取るやうであつた。あの日のこと私は同僚F君と連れ立つて實驗室に這入つた時に、F君は實は家に山程用件が積つてゐるのに、實驗で今日一日丸潰になるのはどうも堪らないと苦情を申し立てた。私としても勿論彼に衷心同情を禁じ得なかつた。そしてなかば戯談半分に丁度七日前に起こつた一つの偶然な出來事を仄かして『もう一度機械が毀れて呉れれば、仕事を斷念して、いつもより早く家に歸れるんだがね。』と言つた。

實驗の受持を極めることになつてF君は丁度壓搾器の捻子を調節する役にあたつた。卽ちF君は愼重に捻子を開いて、アックムラトオルから、徐徐に、壓搾液體を水壓のかかつてゐる圓筒に流し込んでゐた。實驗の主任が壓力計を眺めつつ丁度壓が一定に達した時に大聲で『よし』と叫んだ。ところがこの命令を聞いてF君は捻子を摑んで力を籠めて左へ（どんな捻子でも締める時は右へ廻すものだのに）廻はした。その結果アックムラトオルの全壓力が突然にかかつて來て、連結裝置に缺陷があつたためか忽ちに連結管が破裂してしまつた。——全く咎もない機具の缺陷から起こつたのだが、このために私達一同はその日の研究を中止して家に歸らなければならなくなつた。

事のついでに特記すべきは、それから暫くして私達がこの出來事を批評してゐた時に、問題のF

君は、私でもはつきり憶えてゐるあの戯談を一向記憶してゐなかつた事である。」

この話を傾聽された諸君は召使の手が自分の家の器具に危險極まる損害を及ぼすところのものは必ずしも無邪氣な偶然でないと猜疑の眼をはられるに相違ない。さらに進んで人が自分のからだに怪我を受けたとか、自分の一身が危難に瀕した時に、それが常に偶然といへるかどうかといふ疑問を放たれるに相違ない。これは諸君が機會ある毎に、自らの觀察を分析して、その價値を判斷して欲しい問題である。

間違ひに就て言ひたい事はこれだけで盡きたのでない。研究し討議すべきものは澤山あるが、諸君が今迄の議論を傾聽されて、諸君の心を領してゐた從來の見解の根柢がある度迄動搖して、われわれの新しく樹立した學說に一歩準備がととなへば私としてこれ以上を希望しないのである。未だ鮮明にされてゐない幾多の問題を諸君にお預けしておく事は私として誠に本懷の至である。間違ひの研究から私達の奉ずる學說を悉く說明することはとても出來ない相談である。さらに又間違ひと申す材料だけに立籠つて一切のものを說明しようと私は考へてゐない。私達の研究目的に間違ひが役立つた大きな便宜は、この間違ひと申す現象は非常に頻發すること、自分のからだに就ても容易に自ら觀察出來ること、絕對に病氣に由來してゐないといふ諸點である。結論の代りに諸君に未だ

解答してゐない疑問をもう一言述べておかう。諸君の疑問はかうである。「私達が澤山の實例から教示されましたやうに、若し人類が間違ひの智識に非常に精密に通曉しましたとします。そして、さういふ人達が恰も間違ひの意味を見越して行動したとしますれば、彼等は擧つて間違ひを、偶然な、意味や意義のない行動と觀じて、間違ひに下した精神分析の説明に力一杯反抗するやうな事が當然に起こつてきやしませんか。」

諸君の考は正しい。實際これは大變なことであり説明を必要とする事である。併し諸君にその説明を與へたくない、むしろ諸君を靜かに誘導して行つて、私が教示しなくてもひとりでに説明がつくやうにしてあげたいと望んでゐるのである。

夢



シユキンド作囚人の夢

第五章　難關と最初の試み

昔さる人がある種の神經病患者の現はす徵候には意味があるといふ發見をした。精神分析の治療法はこの發見に由來してゐる。(*)　この治療中に患者は徵候の代りに夢を訴へる場合に遭遇した。そしてこのやうな夢にも同じに意味がないものだらうかと臆測し出したのである。

(*)　一千八百八十年――一千八百八十八年に於けるヨセフ・ブロイエル。私が一千九百九年亞米利加でやつた精神分析學講演を參照して欲しい。

私達は精神分析學の史的發展の道をとらずに全く逆の道を辿つて神經病研究の準備に夢の含む意味なるものを證明したいと思ふのである。逆の道を辿る事は正しい。夢の研究は神經病研究の最良の準備であるばかりか、本來夢と言ふものにも、神經病的な徵候が含まれてゐるからである。その上に、夢は健康な總ての人にも現れると言ふ私達には掛替のない利益があるからだ。然り。人類の總てが健康でただ夢を見てゐたとすれば、神經病研究に到るに必須な殆ど一切の知識をこの夢なるものから拾ひ出す事が出來たに相違ない。

こんな理由から夢が精神分析研究の對象となつたのである。私達は性も慾もなしに間違ひ行爲と同様に一向實用向きでない、極めて陳腐な、とるにも足らぬ、そして健康な人にも現れる點で間違ひ行爲と共通點のある夢なる現象を取扱ふことになつたのだ。ところが今度の研究條件は前の間違ひ行爲の研究に比較すれば非常に都合が悪い。間違ひ行爲は科學から疎ぜられたものに過ぎない。世人はこんな問題に注意なぞ拂つてゐない。それに間違ひ行爲を研究したとて少くとも不名譽にはならなかつた。世人はかう言つた。この世にはもつともつと大切な研究があるが、まあそんな間違ひでも研究すれば何かの結果が拾ひ出せよう。ところが夢を研究する事は實用にならない餘計なことであるばかりか實に無禮極まる事だ。夢の研究は非科學的だと言ふ誹謗を齎すばかりか、個人の懐く神秘主義傾向を疑ひ出すことになる。神經病學とか精神病學にはうんと切實な問題が轉がつてゐるではないか。精神生活の器官を壓迫する林檎大の腫瘍、血液滲出、慢性炎、――この時は顯微鏡下に組織片をとつてそれの變化を實證する事が出來るのだ。さういふ現狀に際して醫者たるものは夢なぞに携つてならない。夢なぞはそれに較べばとるにも足らぬ研究にも値しない代物なのだ。

なほこれ等に加へて、夢の性質だけを考へても正確な研究の總ての條件を滿たして呉れさうでない。夢の研究ではその研究對象さへ覺束ないのだ。例へば、妄想と名づけるものは明確な一定の輪

精神病學者がいくらふんばつて研究しても皆目見當がつかないものもある。私は自分の臨床で起こ

ない精神病學研究の對象も存してゐる。例へば强迫觀念の幾多の實例に於て、尊敬すべき、秀れた言つて一方一定の輪廓を具へた明瞭な夢もあるし、同樣に不正確といふ特徵がどうしても拔け切らあるのだ。事物を見ただけで何の研究もなしに事物にその特徵を押附けるのは酷である。さうかとた積りだ。夢の不正確に關して申してもその不正確といふ點が他の特徵と同樣に夢の一つの特徵で足らないと言ふ事を議論しておいた。私達は重大な事物が小さい表示にさへ顏を見せてをると申しとする時にこのやうな抗議を振翳すのはちと大袈裟である。旣に私達は間違ひのところでとるにも批判にあたつてある一點を極力誇張すれば私達は當然懷疑に陷らざるを得ない。夢を研究の對象

になり得るものだらうか。

れ勝ちのものなのだ。果して夢といふ材料を解釋することが、科學的心理學とか患者の治療の基礎てしなかつたとは保證する事が出來ようか。大槪の夢は思ひ出し難いものである。小さい斷片迄忘の儘を話してゐるのだ、記憶が朧ろなために已むなしに話の最中に變形さしたり、紛飾したり決しうか。大抵のところ夢は話し難いものである。ある人が自分が現に見た夢を話す時に、俺は見たそ廓を具備して現れてくる。「我輩は支那の天子だぞ。」と患者は大聲で喚く。ところが夢はどうだら

つた最近の例を思ひ出す。ある女患者が次の言葉で私に自分の病氣を訴へた。「生物——まあ子供ですね。——さうぢやない。さうさう犬だわ。犬にね傷をつけてやつた、いや傷をつけてやりたい。いえ橋から突き落としてやりたい、——いえもつと違ふ事をやつてやりたい氣がしてたまりませんわ。」私達が夢見た人が語つて呉れるものが丁度、彼が忘れてしまつたとか、記憶の中で變更されてしまつたかも知れないなどといふ、餘計な心配をせずとも、そのまま正直に彼の夢だと保證が出來れば、夢の記憶の不正確といふ非難を兎や角論ずる必要がなくなるのである。さうして最後には夢なんぞは詰らないと大きな聲で主張する事が覺束なくなつてくるのだ。私達なごは夢から醒めた時の氣分はその一日中持續してゐるといふ事實をめいめいの經驗から知り拔いてゐるし、ある精神病はある夢と一緒に發病してこの夢に由來してゐる妄想が往來してゐたといふ實例を醫者達が報告してゐるし、又歷史的人物は夢から大事業の暗示を贏ち得たといふ話も傳へられてゐる位だ。だから私達は何の理由で科學界にあつて夢なる題目が侮辱されたかの質問を次に提出してみる事にする。

私はこれは昔に夢を過重した反動だと解してゐる。明かに過去に埋滅したものを再興さすことは決して容易でないが、確かに——一寸戲談ではあるが——三千年も以前のわれわれの祖先でも、現今私達が夢みると同じ工合に夢を見てゐたと假定しても決して差支へあるまい。私達の知つてゐる

限りでは、古代民族は夢の一切を非常に意義ある、實際上にも價値あるものと觀じてゐたのである。彼等は夢から未來の暗示を求め夢に未來の前兆を卜さうと試みたのである。希臘人とか東洋人は丁度今日の飛行偵察者のやうに、夢占者を參加せしめずに行軍するのを無謀としてゐたのだ。アレキサンダア大帝が遠征軍を組織する時は常に一流の夢占者をその幕僚に伴ふ事にしてゐた。當時未だ島の中に建つてゐたチルスの都が難攻不落であつたので、大帝は最早包圍を斷念しようかと迷つてゐた。その頃のある夜大帝はサチルの神が凱歌を奏しながら踊り狂つてゐる夢を見たので、大帝はこの夢を夢占者に告げたところ、これこそ大君がチルスのの都を陷落し給ふ前兆だと奉答した。大帝はさらに攻擊を命じ難なくチルスの都は占領出來た。エトルリヤとか羅馬では未來を卜するために他の方法が行はれてはゐたが夢占は全希臘羅馬時代を通じて一つの俗習として尊重されてゐた。當時の夢占に關する文献で少くとも傑作と名づけてもよいものは、ハドリアン帝治政時に編纂されたダリデスのアルテミドロの大著である。それからどうして漸次夢占の術が衰微し夢が不信用を博するやうになつたかの一部始終をお話する材料を持合してゐない。教育の發達がこれの衰亡の半ばの原因を成してゐるとは斷言出來ない。暗黑な中世紀には古代の夢占以上に荒唐無稽な慣習が廣く忠實に保存されてゐた位である。衰亡の眞因は夢に對する興味が漸次迷信に墮して、無教育者の手

に歸してしまつたからである。夢占の最後の墮落として富籤を當てるために富籤の番號を夢から極める事がなほ今日でも行はれてゐる。一方に現代の精密科學は幾度も夢の研究に手を染めたが、その研究の目的は單に生理學上の學說を夢に適用してみようとする範圍を出てゐなかつたのである。醫者の多くも勿論夢を心理現象と考へずに、精神生活の肉體刺戟の表現と解するに留まつた。一千八百七十六年にビンツは夢とは「肉體現象であり、一切の場合に無益な、多數の場合に病的な現象であり、丁度低き低き不毛の砂地の上に紺碧の大空が聳ゆるやうに、その上に高く宇宙の靈と不死が聳えてゐる。」と斷言したのである。モオリイは夢を恰も常人の均整のとれた運動とは正反對の、舞踏病者の亂れ勝ちな痙攣と形容した。古い比喩を以てすれば夢の內容は丁度音樂を解しない人が十の指でピアノの鍵をかきまはす時に鳴り出づる音響に比較されてゐる。

解釋するとはその隱れてゐる意味を發見する事になるが、夢の働きをこんな風に評價する以上解釋などは思ひも附かない事なのだ。諸君はヴント、ヨドルその他の近代の哲學者が企てた夢の記述を回顧するだらう。それは夢を輕侮するやうな態度で以て、夢の生活が覺醒時の思考と違つてゐる事實を數へたてて、聯想力の崩壞、批判力の減退、總ての智性の痲痺、低下した活動力のいろいろの特徵を力說する以上を出なかつたのである。夢の智識に對して精密科學に感謝すべき唯一の尊い

寄與は、睡眠中に加へられた肉體刺戟が夢の內容にどういふ影響を釀すものかと言ふ實驗位のところである。つひこの間死去した諸威の學者ムルリイ・ヴルドが實驗的夢の研究といふ尨大な二冊本(一千九百十年と一千九百十二年に獨逸語譯が現れた)を發表したが、この題目は四肢の位置をさまざまに變へるとどういふ夢が現れるかと言ふ研究に過ぎなかつたが、兎に角精密な夢の研究のお手本として推奬するを憚からない。偖ていよいよ私達は夢の含む意味なるものを發見しようとする研究にとりかかると聞けば精密科學は私達にどういふ口を利くかを想像して欲しい。多分以前に申立てたと同じ抗議だらうが、私達は一向そんなものに尻込みする者ではない。間違ひ行爲に意味が含まれてゐたなら、當然夢にも意味が含まれてゐる筈だ。見給へ。間違ひ行爲の多數の實例では正確な研究のやり甲斐がある位立派な意味が含まれてゐたではないか。私達は古代及び野蠻人の先見を奉じて、今から古代の夢占者の驥尾に附して行かうではないか。

先づ第一にわれわれの使命が那邊にあるかをはつきり定めて、夢の世界を一瞥しなくてはならぬ。ぢや夢とはどんなものか。一口で定義するのは大變むづかしい。誰にでも知れ渡つてゐる材料を論及するのだから、應爪らしい定義を探す必要などはないのだ。だが私達は夢の本質でもきつぱりさして置かねばならない。その本質をどの方向に求めたならよいか。私達が探檢しようと目指してゐる

る夢なる世界の領域には無數の差別が存し、私達が足を向ける方向に從つて又無數の差別が存してゐる。一體本質と名付けるものは、私達が恐らく總ての夢に共通だと立證出來るものを指すのであらう。

よろしい。總ての夢に共通と言ふ第一特徴は、その時私達が寢てゐると言ふ事實である。夢とは明白に睡眠中の精神生活で、睡眠は覺醒と一見類似して、然も非常な相違點があると、既に昔アリストテレスがかう定義してゐる。ところが夢と睡眠の間にはもつと密接な關係が存在してゐるらしい。私達はある夢から醒める事がある。又偶然目を醒ました時若くば無理やりに睡眠を妨げられた時しばしば夢を見てゐることがある。だから夢は睡眠と覺醒の中間狀態と見做せる。それでは睡眠とは一體どういふものだらうか。

睡眠とは生理學上若くば生物學上の大問題で今でも議論の餘地がある。私達は睡眠に就ては何等確乎とした智識を持つてゐないが、睡眠の心理學的特徴の方は定義出來ると考へてゐる。睡眠とは私が外界に就て何等知らうとしない、外界から私の興味が退いた狀態を言ふ。外界から退き外界の刺戟と絶縁した時に睡眠が現れてくる。さらに外界に倦怠した時にも睡眠が惹き起こつてくる。寢込む時には「私を靜かにして臭れ。私はねぶたいから。」と外界に言ふ。子供はあべこべに「坊は

ねぶくない。ちつとも疲れてゐない。もつと起きてゐたい。」と言ふ。卽ち睡眠の生物學的目的は休養と見做され、その心理學的特徴は外界に對する興味の消失と見做されてゐる。このやうに厭氣がさした時の外界と私達の關係は、丁度私達がやつと連絡を續けて外界を保つてゐる狀態と譬へられるやうだ。この故にわれわれは周期的に誕生前の狀態卽ち胎內生活に復歸する事になる。溫く、暗く、無刺戟である胎內生活は少くとも睡眠によつて作り出す事が出來る。ある人は狹い場所に押込められて、丁度子宮內で採つたやうな姿勢で寢込むのを見る。睡眠に際して私達大人にとつては外界は恰も全部でなしにその三分の二位にしか當つてゐないやうだ。殘りの三分の一は未だ生れてゐないと譬へられる。だから大人にとつては每朝の覺醒は一つの誕生と擬へても一向差支へない。同時に睡眠から醒めた狀態は丁度「私達は初生兒のやうなものだ。」といふ言葉で形容出來る。考へてみると初生兒の有する全感覺に就ては私達は全く誤まつた前提を立ててゐたのである。初生兒はむしろ非常に不快な感覺に浸されてゐると假定してもよい。私達は誕生する事を「日の目を拜む」とも名付けてゐる。

今述べたものが睡眠の本質とすると、夢と申すものは睡眠のプログラムの中に這入つてゐないことになる。夢はむしろ睡眠にとつては邪魔な狀態のやうに思へる。私達でも夢のない睡眠こそ唯一

の正しい最良の睡眠だと考へてゐる。本當の睡眠中には寸毫の精神活動も發現してはならない。萬一精神生活が活躍するならば、胎生的な安靜狀態を作る事が不可能となつてくる。ところがこの精神活動のある殘物はごうしても除き去る事が出來ない代物なのだ。この殘物こそ夢となるのである。併しかう考へてくると夢が意味を含む必要がないやうに思はれてくる。間違ひ行爲は夢とは大分趣が違つてゐた。間違ひ行爲は醒覺時の精神活動であつたからである。ところが、私達が一度寢に就いて精神生活が全部靜止し、その極く一部分の殘物だけが抑制を受けないとすれば、この殘部がごうしても何等かの意味を含まなくてはならぬとは申されない。私の精神生活の十中の八九迄が寢込んでしまふ限りはさやうな意味さへ使用出來なくなつてくる。だから夢の主題は單に痙攣樣反射、換言すれば肉體刺戟に直接に反應した一種の精神現象に過ぎないのである。從つて夢とは覺醒時の精神活動の睡眠をかきみだす殘物であると言ふことになる。そして精神分析の目的に不適當なこんな題目は早速抛棄する決心を固めなくてはならぬのである。

成程夢はつまらないものだ。だがつまらないなぞと言はれても相變らず夢は實在してゐる。そして私達は夢の存在になんとか說明をつけようと試みる事が出來る筈なのだ。ぢや精神生活は何故全部寢込まないのか。これはある精神に休養が許されないからである。若し刺戟が加はればその不休

の精神が反應しなくてはならないのである。從つて夢とはいかにこの不休の精神が睡眠時に加はつた刺戟に對して反應したかといふしるしと觀じてもよい。かう考へれば夢に對する理解が一歩開けてくる。次に私達はいろんな夢に就て、睡眠をかきみだし、夢をもつて反應する刺戟が一體どういふものかを突き詰めてみなくてはならなくなる。これですべての夢に通づる第一の共通點の問題が落著した事になるのだ。

それではもつと別の共通點があるか。ある。確かにあるが、その共通點をよく呑込んで記載する事は實にむづかしい。睡眠中の精神過程は覺醒時とはその性質を全く異にしてゐる。人は夢中にさまざまの事を經驗したと信じてゐるが、現實ではかきみだす刺戟以外何も經驗してゐないのである。夢中の經驗は專ら視覺の像で行はれてゐる。同時にその經驗に感情も存してゐて、さらに思考もそれを貫いてゐる。何か他の感覺で經驗したやうで、實はそれは一つの影像に過ぎないのである。夢を話すことが困難なのはその一部はこの影像を言葉で表し難いためである。この影像は頭に描く事はたやすいが、どうも口では言ひ表し難いと夢見た人がよく言ふところである。この狀態を捉へて丁度天才に對比した低能者の萎縮した精神活動だとは早斷出來ない。質的には成程幾分は違つてゐるが、それでは一體その相違はどんなものかと明言するのはむづかしいことだ。嘗てフエヒネルは

心の中で夢といふ劇が演ぜられる舞臺は、覺醒時の現識生活の舞臺とは餘程趣を異にしてゐると假定した事があつた。フェヒネルの言ふ所が何を意味してゐたのか私達には理解し難いものであり、この假定から何を學ぶべきかも私達は知らないが、兎に角大概の夢なるものが與へるところの奇怪と言ふ印象は實際に承認出來るものだ。さつき申したやうな、夢の働きとは丁度音樂を解しない人の演奏だといふ比喩はこの點では正鵠を得てゐない。と申すのは、ピアノは何でも出鱈目に鍵を敲けば、メロディは作らぬが、早速にいつでも鍵に應じた音で答へるものではないか。すべての夢に通ずるこのやうな第二の共通點は、成程むづかしいはむづかしいが、一つ仔細に研究してみる値打はあると思はれる。

さらにもつと共通點があるか。今のところこれ以上の共通點は見付からない。併しどの方向にも到る所に相違點がある。持續時間、鮮明さ、感情の配合、記憶などに關しては山程の相違點がある。これ等總ての相違點は私達が夢とは一つの刺戟に對する强制的な、不完全な痙攣樣の防禦といふ學說から推定出來るものとは大分趣が違つてゐる。夢の廣さに就て申しても、ある夢は非常に短い、單に一つの像、でなければ二、三の像、一つの思考、いや一つの言葉を含んでゐるに過ぎない。ある夢は素晴しい程內容に富んでゐて、物語を展開し、非常に長時間持續するやうである。ある夢は

現實の經驗程に鮮明で、醒めての後暫くは、それが夢だとは考へられない程はつきりしたものもある。ある夢は口でも言へぬ程朦朧として、影のやうに靄に閉ぢこめられたものもある。又同一の夢の中に極度に鮮明な部分と、殆ど捕へる事が出來ない程不鮮明な部分が交錯してゐる事がある。さらに筋の通つた夢や、ある程度迄撞著してゐる夢や、機智に溢れたものや夢幻的に美しい夢がある。又ある夢は馬鹿のやうに混亂し、荒唐無稽な、時には狂氣ぢみたものもある。醒めた後一向平氣な夢もあり、すべての感動力があまり切實で、悲痛のあまり泣いたり、恐怖のあまり飛び起きたり、驚嘆したり、恍惚とするやうな夢もある。大概の夢は覺醒後直ぐに忘却してしまふし、あるものはその一日中記憶にこびりついて、やつと夕方になつてだんだん薄れて行つて、斷片的にところどころが思ひ出される。ある夢は非常に明瞭に殘る。例へば子供時代の夢のやうに、その記憶が三十年後の今日になつても、なまなましい經驗のやうに記憶の中に浮んでくる。ある夢は人間のやうにたつた一度だけ顏を見せてどこかへ消え失せるし、ある夢は同一人に同じ姿で、ある時は少し變裝して繰返し訪れてくる。一言で申すなら、夜中の精神生活のかやうな一片は極力一つの尨大な演奏を命じ、日中に精神が出來るすべての事を實際に作るが、決して晝の精神とは同一には作る事は出來ないのである。

夢のこのやうな種種相を說明するためには、この種種相は睡眠と覺醒の間のいろんな中間狀態、不完全な睡眠のいろんな階段に相當してゐるといふ假定を設けば旨く行くかも知れないと諸君は思付くかも知れぬ。成程いい考へだが、そのやうな夢の場合心が漸次覺醒に近づいてくるに從つて、夢の働きの價値、內容、鮮明が增加すると共にそれが夢であると言ふ事も漸次に認めなくてはならなくなつてくる。だから鮮明な合理的な夢の斷片と並んで馬鹿らしい若くば不鮮明な夢の斷片が姿を見せその跡へ再び立派な夢の芝居が演ぜられる事は決してあり得ない事である。確かに精神と言ふものは猫の目のやうにそんなに急速にその睡眠の深さを變更するものでない。だからかういふ說明は一向役に立たない。併しこの問題に卽答などは全く無理な注文である。

私達は夢の含む「意味」なるものに當分觸れずにおいて、その代り夢の意味なるものを一步深く理解する一手段として、夢の共通點から火蓋を切らうと望んでゐる。夢と睡眠の關係から、夢とは睡眠をかきみだす刺戟に準じた反應であると結論しておいた。既に申した通り、これは精密實驗心理學が役に立つた唯一のとりえである。實驗心理學は睡眠中に加へられた刺戟が夢を作るといふ事を證明して吳れた。先刻のムルリイ・ヴルドの實驗に到る迄その方面の硏究は無數に報告されたものである。私達でさへ時時自分達の直接の經驗からこの結論を承認する立場にあるのだ。ここで私

は古いこの種の實驗の二、三を選んでみる事にする。モオリイはかやうな實驗を自分に試みてみた。夢の中にオオ・ド・コロンの香水を嗅がさした。その結果、彼はカイロのヨハン・マリヤ・ファリナの香水屋にゐた。そして、その夢の終り近くに狂氣ぢみた冒險が續いた。又頸をかるく抓らした。夢の中に發泡膏と子供時代にかかつた醫者の姿が現はれた。さらに額に一滴の水を落とさした。彼は伊太利にあつた。汗びつしよりになつて、オルヰエトの白葡萄酒を呑んでゐた。

　實驗的に作り出されたこの種の夢の特色は、「刺戟夢（ライツトラウム）」と名付けられてゐる別の一群を眺むればもつと明快に理解が出來よう。秀れた觀察者ヒルデブラントは目醒時計の鈴に反應した三つの夢を報告してゐる。

「春の朝私はそぞろ歩きをしてゐる。丁度青ばみかけた野原を彷徨ひつつ隣村までやつて來た。その時私は晴衣をつけ讃美歌集を小脇に抱へて村人がうち連れて教會さして行くのを見た。さうだ。今日は日曜日なのだ。朝の祈禱がもう始まる頃なのだ。私も參會しようと思ひ付いたが、少し逆せ氣味なので、教會をとりかこむ墓地で風を入れようと思つた。墓地でいろいろの墓銘を讀んでゐるうちに、塔から鐘が響き渡るのを聞いた。見あげると塔の天頂に祈禱の始めを告げる小さい鐘が目に付いた。しばしのうち鐘はじつと動かずにあつたが間もなく鐘は搖り始めた。——そして突然鐘

ははつきり耳もつんざく程に鳴り響いた――非常にはつきり、非常に鋭く。私の眠は破れた。その鐘の音は目醒時計から來てゐたのであつた。」

「第二の結合。晴れ渡つた冬の日である。街路は深く雪で掩はれてゐる。橇の遠乘を試みる約束をしたが、暫く待たねばならなかつた。やがて、橇が戸口に來たと告げられた。今や出發の準備がちやんと出來上つた。――毛皮が敷かれ、足のマフがかけられた。併し、少し出發が手間ごつた。馬は出發の知らせを今や遲しと待ち構へてゐる。とうとう手綱がひつぱられ、小さい鈴が激しく搖れ、あの懷しい土耳古の軍樂を奏で始めた。常非に高く。その瞬間夢の蜘蛛の巢は破れた。これもまた目醒時計の鋭い響に外ならなかつた。」

さらに第三例は。「下女が皿を十二枚重ねて食堂に通ふ廊下をやつてくるのを見た。この下女の抱へてゐる瀨戸物の柱は今にも重心が外れさうに見えた。氣をつけろ。手の物が滑り落ちるぞ。――と私が注意した。勿論その返事はいつもの通り、私達はこんな事には慣れ切つてゐますよ位のものであつた。私は矢張はらはらしながら見送つてゐる。だが案の定食堂の閾に躓いた。――瀨戸物は落ちた。床の上にがちやがちやと響いて粉微塵に毀れてしまつた。併しこのごこ迄も續く響は本當に皿が毀れた音でないぞと氣が付いた。――私が目を醒ました時に知つたやうに、この響は目醒時

計から來てゐるに過ぎなかつたのだ。」

これ等の夢は成程氣のきいた非常に美しい、あの夢の通有性たる撞著の影の微塵も混じてゐないものである。この點はとやかく爭ふ氣はない。これ等の夢に共通なのは、大詰がいつも一つの響に由來して、覺醒時に際してこの響が目醒時計の音だと氣付いてゐる點である。この例から夢がどうして作られるかを知る以外に、もつと別の點に氣が付く。卽ち、夢は目醒時計を知つてゐない。——夢の中に目醒時計が現れてゐない。——目醒時計の響を他のもので代用してゐる。夢は睡眠をかきみだす刺戟を解釋してゐるが、いつも違つた工合に解釋してゐる。これはどういふ譯だらうか。明確な答はないが多分勝手に選擇したものらしい。だが夢を理解するために、私達は何故夢が覺醒刺戟を解釋するために、この響を選擇して、他の何物かを選擇しなかつたのであらうかを說明しなくてはならぬ。同じ論法でモオリィの實驗を反駁しなくてはならない。卽ち與へられた刺戟は首尾よく夢中に現れたが、どう言ふ譯で、この刺戟が夢の中に丁度かういふ姿になつて現れたかを說明してゐない。さらにこれを睡眠をかきみだした刺戟の性質から說明する事も覺束ない。なほまたこの直接刺戟によるモオリイの實驗には他の數多の夢の材料がくついてゐるではないか。例へばオオ・ド・コロンの夢に現れたあの狂氣ぢみた冒險はどう說明してよいか見當がつかない。

偖てここで諸君は「覺醒夢」こそ睡眠を亂す外來刺戟の影響を決定する好箇の例だと考へられようが、他の大概の夢はこんなに旨くは行くものでない。實際夢を見れば醒めるとは限つてゐないし、朝になつて前夜の夢を回想するなら、ごの點まで夜分に働いたと思へる刺戟を發見出來ようぞ。

嘗て私は、勿論特別な狀況に依つてであつたが、かやうな音響刺戟をあとになつてまんよく確定出來た。ある朝チロォルの高嶺に立つて俺は法王が死んだ夢を見たんだなあと考へて目醒めた。この夢をごう解釋してよいか見當がつかなかつたが、丁度妻が「あなたは明方町中のお寺や教會からがんがんがんと鐘が打たれたのを御存じですか。」と尋ねた。「いや俺は一寸も知らなかつた。ぐつすり寢てゐたんだなあ。」併し私はこの妻の報告のお蔭で私のこの夢が説明出來たのである。一體何度程、だが若しあとでこのやうに知らして貰へぬ時は、このやうな刺戟が寢てゐる人に働いて、夢を作つたのだとあてる事が出來ようか。ある場合は幾度も證據立てる事が出來ようが、同時に大抵の場合はうまくあてる事が出來ないに極まつてゐる。刺戟がごうしても證明出來ないなら、夢が刺戟から起こつたと斷言する自信なご持てない。睡眠をかきみだす外來の刺戟は夢の一部を説明するが、決して夢の全部を説明するものではないと知つた以上は、私達は最早かやうな方面を評價するのを思ひ止まらなくてはならなくなる。

と申して私達はこの學說をすつかり斷念してしまふ必要はない。なほ論究する餘地があるらしい。何物に依つて睡眠がかきみだされ、何物に依つて精神が夢を構成するやうに刺戟されたかはあまり大問題でなくなつたが、若し外來の感覺刺戟がその都度存在してゐると極まつてゐないなら、外來の代りに內臟から來た所謂「內臟刺戟」を一考してもよいだらう。この臆說は諸君にも非常にお馴染のもので、夢の起原の世俗の見解にも適ふものである。「夢は五臟のわづらひ」とよく承はるものである。併し殘念にも夜中に働いた內臟刺戟は覺醒後一向證明出來なくて、從つて自然根據のないものだと斷定しなければならぬ場合が頻頻と現れてくるのである。がまた一方夢が內臟刺戟に由來してゐる事を非常に多數の經驗から立證出來る事實を不問に附したくはない。內臟の位置が夢に影響を與へ得ると言ふ事實は最早疑ふ餘地がないものだ。多數の夢の內容は膀胱の充滿とか性器官の興奮狀態と深い關係を持つてゐる事は何人も看過出來ない程明瞭である。これ等の明白な實例から他の題目にはひらう。夢の內容を檢すると、少くともこの種の內臟刺戟が働いたと推測するのを正しいと考へてもよい場合がある。卽ち、夢の內容には、私達がこの種の刺戟の「推敲（フェルアルバイツング）」とか「描寫（ダルステルング）」とか又は「解釋（ドイツング）」と稱してもよいものが含有されてゐるのである。夢の研究者セルネル（一千八百六十一年）は夢が內臟刺戟に由來する事を力說してそれに關して立派な引證を擧げ

てゐる。例へばある夢で「ブロンドの髪の毛の、やさしい顏色の可愛い子供達が二列に並んで、喧嘩をしようと睨み合ひ、兩方から飛附き摑み合ひ、再び引き離れて元の位置に還つた。そしても一度喧嘩をおつぱじめた。」セルネルは子供達の二つの列を齒と解釋してゐるのはいかにも尤もらしい。そして、この喧嘩の光景に續いて「顎から一本の長い齒を引き拔いた」夢を見た事から、自分の解釋の自信を强めたらしい。「長い狹いうねうねした通路」を腸管の刺戟と解釋するのも尤もらしく、夢は先づ刺戟を與へた器官を、その器官と類似の物體に依つて描寫しようと努めると言ふセルネルの主張を裏書するやうである。

從つて夢中に內在刺戟が外來刺戟と同一の役目を演じてゐると認めなければならぬやうになるが、殘念にもここでも內在刺戟の評價に對して抗議が湧いてくる。澤山の夢の例を眺めて見れば、內臟刺戟の解釋は不確實であり、又根據の置けないものになつてくる。卽ち、總ての夢でなしに、一部の夢に於て內臟刺戟が夢の發生に與つたと言へるのである。そして結局のところ、外來の感覺刺戟と御同然、內臟刺戟の學說から夢とは刺戟に準ずる直接反應であるのだと解釋する事が覺束なくなつてくる。從つて夢の殘部がどこに由來してゐるかは已然暗黑の裡にあると言へるのである。

然しながらこれ等の刺戟作用を研究した際に遭遇した夢の生活の一つの特色に注意しなくてはな

らない。夢は受けた刺戟を單純に再現するのでなしに、その受けた刺戟を推敲し、それに彩色を施し、それに筋をつけ、それを他のあるもので置き換へようとするのだ。これこそ私達の興味の中心にある「夢の仕事(トラウムアルバイト)」の一側面である。卽ちこの概念に依つて私達は夢の本質に非常に奥深くはひる事が出來るからである。若しある人がある指嗾の下で何かをやつたとする。その人はこの指嗾このヒントに適ふ一切の仕事をし盡すと言ひ得るだらうか。例へば、セクスピアの「マクベス」は王が初めて三つの國土を併合した時の卽位式にあてこんだ際物劇であつたのである。併しこの歴史的好機は劇の內容を包容してゐるだらうか。この好機といふ事實が劇の偉大と神秘を説明してゐるだらうか。同樣に寢てゐる人に働く內外の刺戟は恐らく單に夢の指嗾者に過ぎないのだ。だからこの指嗾者なぞは私達の見た夢の本質を微塵も語る事が出來ない筈である。

夢のそれ以外の共通點、夢の精神生活の特殊性は一方に於ては解し難いものであり、他方に於てはさらに突き詰めた追求の緖口を惠むことが覺束ない。大概の場合視覺の形で夢を經驗するが、その時實際私達は視覺の刺戟を經驗してゐるのだらうか。視覺刺戟が夢の例で稀有なものであるのに、何故夢を視覺の形で經驗するのだらうか。さらに、會話の夢を見たと言ふ時に、睡眠中に會話とか會話に類似した雜音が耳に達したといふ事實を證據立てる事が出來るだらうか。私はかやうな可能

性を斷然と拒絶する事が出來ると思ふのである。
夢に共通した要素といふ問題から最早一歩も進路を切り開くことが出來ない以上、方向を一轉して夢の相違點の研究にとりかかつてみたい。夢はしばしば意味のない、渾沌とした、馬鹿らしいものであるが、又一方に意味深長な、筋の通つた、理性的な夢が存してゐる。試みに、この後者の意味深長な夢を土臺として、前者の意味のない夢に何かよい緖口が拾へないものかを檢べてみよう。ここへ一つある青年の打ち明けた、この筋の通つた種類の夢を語る事にする。「私はケルトネル街を散步してゐました。途中Xさんに出合ひました。しばらく連れ立つて步いてゐるうちに、私はとある料理店にはひりました。私に續いて一人の紳士と二人の婦人がはひつて來て、私のとつてゐる卓子に向つて腰を下ろしました。最初私はむつと癪に障りました。そして彼等の顏を見まいと努めました。ところが暫時してふと注目しましたのに、その人達が大そう感じの良い人なのに氣が付きました。」青年はこの夢を說明して吳れた。その前夜この青年は實際步き慣れてゐるケルトネル街を散步して、途中Xさんに出會つてゐるのである。夢の後段は直接の記憶でないが、ずうと以前にこれと類似した經驗に遭遇した事があつたのである。もう一つある夫人の筋の通つた夢を述べてみよう。夫人の夫がかう言つた。「ピアノの調子を合はせて貰はなくてはいけないね。」夫人は「琴槌

の革をしかへなくては駄目でございます。」と返答した。この夢はその前日に夫婦の間でとりかはした會話をその儘繰返してゐたのであつた。これ等二つの筋の通つた夢から一體何を敎へられるだらうか。卽ちこれは夢中に日常生活若くば日常生活に關係のある事實を反復したに過ぎないのである。若しこれが夢と名付けられる一切の姿を示してゐるとすると、大分樣子が違つてくるが、これは大した問題でない。むしろ夢の少數にあてはまるものである。大抵の夢ではその前日の經驗との深い關係が發見出來ない。そして意味のない、馬鹿らしい夢をこの方向から說明する光明はさしこまない。だがここで又一つの新しい問題に逢著した事を知る。私達は夢が何を語るものかを知りたいと望む以外に、今の例で見るやうに、若し夢の語るところが明瞭であるなら、何の理由で又どういふ目的で、私達は既知の事實、最近の經驗を夢中で反復するのであらうかを一步深く知りたいと望むのである。

今迄のやうな硏究をくどくどしく續けて行く事は私同樣に、諸君にも倦怠を催さすことだらうと信ずる。だが解決に到達するために蹈み堪のある一つの道でも發見しておかねば、問題を渦まいてたとへ百千の興味が湧いたとて一向役に立たないのである。今迄のところ私達はこの道を發見してゐない。實驗心理は刺戟が夢の指嗾者として意義があると言ふ非常に緊要な報告を惠んで吳れた以

外に大して役に立たなかつた。さらに哲學からは私達の研究題目が知識といふ上で卑しむべきものだといふ傲慢顔な非難を受ける以外に何物も恃むに足りない。神秘科學からは何の寄與もやつてこない。歴史と民間の意見は夢が意味深い大切なもの、豫言的なものと言ふが、これとて早速に受入れる事がむづかしく、これとて勿論根據のあるものだと判定出來ない。從つて私達の最初の努力も結局五里霧中を彷徨すると譬へられるのである。

然しながら、豫期しない、今迄に目も吳れなかつた方向から一つの暗示が現れてくる。古來の智識の堆積物とも名付けられる、偶然でない慣用語、尤もこれとて無分別に受けとれないものだが――私達の言葉は一見奇怪に響く「晝の夢（タアグトロイメン）」（Tagträumen）と名付けられる物の存在を知らして吳れる。「晝の夢」とは空想（空想の所産）である。これは非常に普遍的な、健康な人にでも病氣の人にでも觀察出來るものであり、自分自身に就ても容易に研究出來るものである。この空想的影像の特殊點は晝の夢といふ名稱の與へる通りで、夢のさきの二つの共通點とは何等の關係もないものである。卽ち睡眠狀態との關係に就ては、旣に名前が矛盾してゐるし、夢の第二の共通點に關して言つても晝の夢の中に經驗も幻覺も起こつてゐない。ただ單に空想するだけで、見るのでなくて、頭の中に考へるだけで足りるのである。この晝の夢は思春期前に現れる。早くも子供時代の後期にも

よく現れ、成熟の年迄持續し、次いで消失してしまふ事もあり、晩年迄こびりついて殘ることもある。この空想の內容は一つの非常に鮮明な動機の差圖を受けてゐる。場面とか事件の中に我儘な功名心や權力慾、さてはエロチックな願望が充たされて行く。青年では大概功名心の空想が第一で、女では功名心は戀の勝利を中核に置いてゐるためエロチックな空想が第一となる。併し男にあつてもエロチックな欲求がまたその背後に隱れてゐる。總ての英雄的行動や成功も畢竟するに女の賞讃と寵愛を求める手段と申せる。この「晝の夢」は非常に色さまざまであり、その運命に到つても非常な相違點を持つてゐる。その多くのものは單時間で消失し、それに代つて新しい內容がはひつて來、またあるものは固くこびりついて、長い物語に展開し、人生の浮沈に應じてその姿を變へて行く。例へば時と共に行進すると譬へられる。そして新しい境涯の影響によつて釀された「日附」に役立つのである。晝の夢は詩作の材料となつてゐる。詩人は自分の描く晝の夢を變形し、紛飾し、簡素にして、小說、物語、劇に盛るべき場面を作り出す。晝の夢の主人公は常に直接に自分自身か、さもなくば間接に自分を他の姿に包んで描出するのである。晝の夢の內容は、眞の夢の內容と同樣に現實的でない事實を示すため、現實に對する同一關係に基づいてかくは名付けられたのであらう。併し、二つが夢といふ名稱を共有する特點は、晝の夢がこれから私達が研究しようとする夢の未知

の心理特徴に接觸してゐるからである。考へ方に依つては、二つが夢といふ名稱を共有してゐるのは非常に意味深いと考へても決して不當でないのは今後說明するところから自ら理解出來よう。

第六章　臆說と解釋術

夢の研究を一歩進めるために、私達は新しい道、新しい方法を熱望する。それで私は極めて分かりよい一つの動議を提出することにする。今後の研究の大方針のために、夢とは肉體現象でなくて精神現象であるのだと言ふ臆說を想定したい。この臆說がどういふ事を意味するかは諸君も御承知だが、一體この前提には何の根據があるのか。根據などはないが、さう假定しても一向差支へないのである。その理由はかうである。夢が肉體現象であるなら、夢は一向私達の興味に價しないが、夢が精神現象だと言ふ臆說の下に初めて深深たる興味が湧いてくるのだ。卽ち、私達はこの臆說が眞實であると想定する時に、果してどういふ發見が現れてくるかを知りたい。やがて私達の研究の結果は、この假設を信賴してよいこと、この假說が出鱈目でなくて推理の結晶である事實を敎へて吳れるのである。一體われわれはいかなる目的ではたまた何を目指してこの研究を續行すればよいのか。私達は一般に科學が目的とするもの、現象の理解、個個の現象の因果關係、遠大な最後の目的として、科學の彼岸を越えて私達の力の擴大化が那邊まで可能であるかを求めて已まないのであ

る。

以上の理由からして、夢が精神現象であるといふ臆說の下で私達はこの硏究を續行することにする。偖て夢とは夢見た人の働き、夢見た人の表現ではあるが、私達の方から眺めてみれば、夢とは一向見當の付かない、一向理解の出來ないものである。私が若し諸君に理解出來ない事柄を表現したなら、その時諸君はどうする積りか。諸君は何ですつて？と私に反問するに相違ない。私達もこれと同じだ。夢見た人に一體あなたの夢は何を意味するのですかと反問するのは何故いけないだらうか。

諸君も旣にこれと同じ狀態に處した事を記憶されるだらう。あの間違ひの硏究、あの言ひ間違ひの例に於てある人が「Da sind Dinge zum Vorschwein gekommen.」と失言した時に、早速に私達はそれに質問したではないか。いや。質問したのは幸にも私達でなくて精神分析を全く知らぬお方であつた。精神分析と畑違ひの人がその不可解な失言が一體何の意味かと質問したのである。彼は早速に「Das waren Schweinereien.」（眞相は猥褻だよ。）と本當は言はうと目論込んだが、この意向をもう一方の穩當な「Da sind Dinge zum Vorschein gekommen.」に對して抑壓したのであると返答して吳れた。私はその時旣に、こんな風に報告して貰ふ事が精神分析硏究のお手本だと說明し

ておいた。そして諸君も丁度只今精神分析の術式とは、出來るならば、その謎の氷解を被驗者の口から漏らして貰ふやうに努力する事だと合點されるに相違ない。從つて夢見た人自らが自分の夢がどういふ意味かを私達に申告せねばならぬのである。

ところが夢の場合は明らかにしかく簡單に捗らない。間違ひ行爲ではこの方法は多くの例で見事に行つた。單にある例では質問された當人が口を緘してしまつたり、私達が忖度した解釋に憤慨して否認したやうな事さへあつたが、夢に於ては前者の例は至つて稀である。夢見た人はいつもかう言ふ。「私はこの夢に就ては一向知るところがありません。」と言つて私達は彼に何ものも與へなかつたのだから、夢見た人は私達の下した解釋をきつぱり否認することも出來ない。こんな時には矢張私達は研究を諦めなくてはならぬか。夢見た人はその夢に就て何も知るところがない。私達も何も知るところがない。第三者も勿論知るところがない。こんな風では到底解釋の施しやうがない。その通りである。若しお望とあらば研究を中止してもよいが、突貫して異れと申されるなら、諸君は私と一緒に同じ道を驀進されてもよい。私は諸君にかう言はう。といふのは夢見た人は自分の夢にどういふ意味があるかを全部とは言へないが、まづ十中の八九迄は知つてゐるのである。夢見た人は自分の夢が何を意味するかを「自分が知つてゐる」事を知らないだけで、自分で知らないと極

めてかかつてゐるのである。

この機會に私は再び一つの假設、卽ちこの簡單な內容を包括した第二の假設を紹介する。その結果私の術式に期待する諸君の信用を、この第二の假設ですつくり裏切つてしまふと警告して下さる人もあらう。第一は夢が精神現象だといふあの假設、第二は「自分が知つてゐる」事に氣付かずに知つてゐるある物が人類の精神に存在してゐると言ふ假設を提出してみたいのである。諸君がこの二つの假設の包含するあやふやなところだけに目を付けておいて貰へば、こんな假設から演繹される結論の持つ興味なぞ勝手にお捨てになつても一向かまはないのだ。

私はこれ迄に諸君を瞞著したり何物かを隱蔽するやうな事はなかつた。私は「精神分析入門」の初等講義を開催したが、in usum delphini（インウスムデルフイニ）の形式卽ち隱言葉を羅列し、諸君に總ての困難をこつそり隱し、空隙を塗布し、疑點を暈し、筋道にてきぱきと連絡をつけて行つて、誠に新智識であるぞと諸君に安心を與へるやうに敍述しようといふ根性は毛頭有してゐなかつたのである。いや。諸君は初步者である。この故に私は諸君に御覽のやうな曲折と難澁に溢れ、要求が多く、狐疑逡巡に充たされてゐる私達の科學をありのままぶちまく事が出來なかつた。この行き方は總ての科學でも同じことだ。他の科學では特に初步者にはこれ以外の道はないと私は考へてゐるし、さらに教授法と

しても學ぶ人には先づその困難と不完全を出來るだけ隱す方がよいと考へてゐる。だが精神分析ではその通り踏襲出來ない。だから先づ二つの臆說を提出したのである、そして、總てがあまり面倒臭くあまり賴りないと思惟される人、若くばもつと高い確實さ、もつと高尙な演繹にお親しみのお方は何もわざわざ私と一緒にさらに進まれる必要はない。さういふお方には心理問題に兎やかうのおせつかいはよして與れと忠言するに留めておく。といふのは、精神分析はさういふお方がこれ迄に親炙された正確な堂堂たる科學とは結局おかど違ひだと心配しておいてあげたい。何物かを本當に與へるを目的とする科學が聽講者と初步者を驅り集めなくてはならぬとは實に淺薄至極とも名付けられる。その科學が眞に承認されるかどうかは一つにその科學の業蹟に俟たなくてはならぬ。そして凡そ科學はその業蹟が當然天下の視聽を集める迄は氣長に待たなくてはならないのだ。

併し、この問題に踏みとゞまらうと欲せられる諸君に一言忠告しておきたいのは、私の提出した二つの假設は決して同價値のものでない事である。夢が精神現象だと申す第一の假設は私達の研究の結果に基づいて立證しようとする前提である。それから第二の假設は旣に他の學問界で證明されたもので、私はこれを單に旣知の事實として私達の問題に勝手に採用したまでのことである。

ぢや一體人類が全く氣付かずにゐる智識が存してゐるといふ事實はどこの學問界で證明されたの

か。又どうして私達が夢見た人にこの事實を假定しようと欲するのか。實にこの假設は特筆すべき、驚嘆に値する、從來の吾人の精神生活に對する概念を覆すに足る事實であつて、決してこの事實を抹殺してしまふ必要はない。なほこの事實は單に名前だけ申せば世人の嘲笑の矢面にたつ事實であるが、内容は全く正反對で、ある眞實味を有してゐるのである。この事實を隱蔽してしまふ必要は絕對にないのだ。世人がこの事實に就て何等の智識がないとか、世人がこの事實に一向無頓著であるからと言ふ理由でこの事實を誹謗する必要もないのだ。況やこの事實に決定を與へる觀察や經驗の一切と沒交涉な門外漢の人達からこの方面のあらゆる心理問題がとかくの誹謗を蒙つたなら私達は何等辯明する限りではないのである。

私の引用する證明は催眠現象の領域でなされた。一千八百八十八年にナンシイに於て、リエボオとベルンハイムの臨講に出席した時、私は非常に感銘深い實驗を目擊した。一人の男が夢遊狀態に置かれた。この狀態でその男に暗示によつて幻覺經驗のあらゆるものを行はさした。それから暫時して男は催眠からよびさまされた。最初男はその催眠術による夢遊時の出來事を何も知らないやうに見えた。その時ベルンハイムは催眠中に現れた事象を早速に語るやうに要求した。男は私は何も記憶するところがないと言ひ張るのみであつた。併し、ベルンハイムはそれを强制し、その男に詰

寄つて、彼がそれを知つてゐる筈だと默目をおし、それを思ひ起こさねばならぬと主張した。不思議な事に、この男はしばし躊躇つた。それから考へ始めた。そして先づ第一に彼に暗示された經驗の一つが影のやうに浮び始め、續いて他の一つ、やがて記憶は漸次鮮明味を增し次第に完全になり、とうとう記憶は一つの遺漏もなしに、白日の下に現れてしまつたのである。この事實はこの記憶が最初から男の心裡に存してゐたといふ結論を確めるものである。その記憶は彼にとつてただ觸れ難いものである。彼は自分が知つてゐる事を知らないのだ。自分で知る筈がないと極めてかかつてゐたのだ。卽ち私達が夢見た人に假設した事實はその儘この男にあてはめる事が出來たのである。

諸君はこの事實の生きた證據に驚嘆されよう。そして私は諸君に次の質問を提出されるやうに希望したい。「間違ひ行爲の硏究の時、例へば言ひ間違ひをやつた男の話の裏に自分の知つてはゐない自分が否認すべき意向を先生が摑み出した時に、何故この證明に觸れようとされなかつたのでありますか。當然記憶の中に織込まれてしまつてゐる筈の經驗に就て、彼が何も知るところがないと信じ切つてゐますなら、同樣に彼が何等氣付かない他の精神過程が彼の心底に動いてゐると言ふ假設は最早眉唾物でなくなつて來ませう。只今の先生の議論は確かに私達には感銘深かつたのです。そして若し先生がさういふ假設をもつと早く敎へて下さつたなら、間違ひが一そうはつきり理解出

來たのでありませうに。」諸君が仰しやるとほり私はその時に論及する事が出來なくて、もつと適切な機會を待ち構へてゐたのである。間違ひの一部は自然に說明がついた。そして他の一部の間違ひはその現象間の關係を理解するために、自分が全く知つてゐないこの種の精神過程が存在してゐる事實を推定すべき暗示を私達に惠んでおいて吳れたのである。ところが夢の場合ではその說明を何とかして引出さねばならぬ羽目に立ち到つた。加ふるに催眠術の畑からこの點の證明をごく樂に移植が出來ると見積つたのである。諸君は間違ひを犯した狀態を常態だと考へられるに相違ない。この狀態は催眠狀態と何等の類似點も有してゐない。これに反して、催眠狀態と夢見る條件である睡眠狀態の間には明白な關係が存在してゐる。催眠術とは人工的睡眠である。術者は催眠術をかけようと欲する人に「おねむりなさい。」と言ふ。そしてその人にかけた暗示は自然の睡眠中の夢に擬へられる。その心理狀態は兩者とも眞に同一と申せる。自然の睡眠では私達の興味は全外界から遮斷されるが、催眠狀態でも同樣に全外界から興味が遮斷される。ただ一つ違つた點は暗示をかける術者があつて、被驗者はその術者と關係を絕つ事が出來ないことである。例へば催眠狀態を「乳母のそひね」と譬へてもよい。この時は乳母と子供の間には切つても切れぬ關係がある。子供は乳母に搖り起されると極めば催眠狀態はある一面旨く常態に直つたことになる。だから催眠狀態を直ち

に自然の睡眠に移してくるのは決して亂暴な冒險ではないのだ。だから夢見た人も自分の夢に就て知識を持つてゐるが、彼は單にその知識に觸れにくい、從つて自分で知つてゐると信じないのだといふさつきの假設は決して無鐵砲な發明でない筈である。この假設の提供の下に夢に對して新しい第三の緒口が開けてくる事に氣付く。第一は睡眠をかきみだす刺戟から、第二は「晝の夢」から、第三は只今申した催眠狀態中に暗示された夢から新しい光明が差込んでくる。

今から大きな自信を懷いて私達の課業に後戻りしよう。夢見た人が自分の夢に就て知つてゐるのは非常に確からしくなつて來た。ただ問題となるのは、彼がその智識を見出し、それを私達に報告する事が出來るかどうかである。私達は何も彼が速刻に夢の意味を告ぐべきだとは命じないが、夢見た人が自分の夢がどういふ源泉、どういふ思考と興味の圈内に由來してゐるかを發見出來ると申すのである。間違ひ行爲の例で君はどうして「Vorschwein」と言ふ變な言葉を口滑つたのだと質問した。その時それに對する彼のまつぱじめの聯想が私達に說明を惠んだのを御存じだらう。夢に於て用ゐようとする術式は、單にこの例をそのまま踏襲した非常に簡單な方法であるのだ。私達は夢見た人にその夢に就てどういふ聯想が浮ぶかと質問する。そしてその時彼に浮んだ儘の解答がその夢の說明を與へると見做すのである。だから彼が自分の夢に就て何かを知つてゐると信じてゐると

か、信じてゐないとかの區別は一向問題でなくて、私達は二つの場合をただ一つとして取扱かうとするのである。

この術式は至極簡單であるが、私はこの術式が諸君の最も手厳しい非難を買ふことを恐れてゐる。「新しい假設、第三の假設。でもそのうちでも最も不確實な假設ではありませんか。夢見た人に、この夢に就てどういふ聯想が浮ぶと尋ねた時に、その直ぐ出て來た聯想が望んでゐる說明を齎すのですつて。ところが夢見た人は微塵も聯想なぞは持つてゐないかも知れませぬし、何を聯想するかは神こそ知らめでありましよう。一體どの聯想に信頼を置けばよいのでしよう。どの聯想がこの場合にぴつたり合ふかを極める上にはうんと批判力が必要ですね。さうなればなほなほ神の默示に頼らざるを得ないぢやありませんか。その上夢は間違つた言葉のやうに一つ一つの言葉ではありません。多數の要素から成り立つてゐます。そんな時には一體どんな聯想に信を置いたならよいのですか。」

諸君の仰しやる事は餘計な事柄だ。だが仰しやる事は總て正しい。夢が多數の要素から成り立つてゐる點でも夢と間違ひ行爲には雲泥の差がある。この點からでも當然、術式を何とか手加減しなくてはいけない。だから諸君にかう注文しておけばよい。卽ち夢をおのおのの要素に分解して、各

要素に就て別別に研究することにする。さうすれば言ひ間違でやつたと同一の方法をそのまま踏襲出來るだらう。さらに諸君がその夢の各要素に就て質問を受けた人が、それに就て一向聯想など浮びませんと答へるかも知れぬと心配されるのも至極尤もだし、私達でさへ時には聯想が浮ばないといふ返答を受ける事があるが、この說明は後日にすることにしよう。兎に角かういふ例から私達が却つてある確然たる聯想を引き出す事が出來るのは注意に値するものだ。併し一般に申せば夢見た人が何の聯想も起こらぬと拒む時には、その人に詰問し、答を强制し、聯想がきつと浮ぶと保證してやらねばならぬ。——そして最後に私の申した事が本當だと合點されるだらう。彼はそれに就て一つの聯想を浮び出してくる。所謂經驗的と名付くべき報告ならいつ何時でも喚び出してくる。彼は言ふ。「昨日經驗したやうな事ですね。」（丁度さつき話した筋の通つた夢の例のやうに）とか、「つひこの間出合つたやうな氣がする。」そしてこの調子で夢は前日の印象と最初に考へた以上に關係がある事に氣付く。最後に彼はこの夢を基點としてずつと以前に起こつた、時には殆ど過去に葬去られてゐる經驗を回想してくるに相違ない。

併しどうも諸君はその根本點に於て考へ違ひをしてゐるやうだ。夢見た人のまつぱじめの聯想が丁度求めてゐるものに相當するとか、若くば兎に角求めてゐるものに導くとか、聯想はむしろ全然

勝手氣儘なものだとか、聯想は求めるものと何の關係もないとか、われわれが何かを期待するならただ盲目に神の默示に頼る外しかないと諸君が勝手に極めてかかるなら、諸君は非常な誤謬を犯してゐる事になるのだ。諸君の胸底に心理的自由とか心理的選擇といふ根强い信仰がこびりついてゐる。併し、さやうな信仰は全然非科學的だ。私達の精神生活を支配してゐる決定論(デテルミニズム)の權威の前には早晩退却しなくてはならぬ信仰である。夢見た人に質問した時に浮ぶ聯想はただ一つの聯想であるといふ事實を事實として尊重して貰ひたい。私は何も一つの信仰に敵對して他の信仰を押賣する算段ではない。こんな風にして浮び出た聯想は決して勝手氣儘なものでないし、決して不確實なものでもないし、さらに私達の求めるものと無關係のものでない事が自ら證明されよう。然り。私は實驗心理でさへ――尤も私達は大した價値を拂つてゐないが――これと同樣な證明を齎した事を最近知つたのである。

この問題は實に重要だといふ理由から、この題目に對して諸君が特別な注意を拂はれる事を切望しておく。夢のある要素に對してごういふ聯想が浮ぶかと何人かに質問する時に、その人に要求して欲しい要件は、基點となる思考をしつかり極めた上で、浮んでくる自由聯想に委ねてしまつて欲しいといふ事である。このために、熟考とは全く違つた、熟考を全然排斥した注意の特別な態度を

必要とする。多數の人はかやうな態度をたやすくとるし、他の人は試問に際して信ずることも出來ぬ程下手な態度を示すものである。今このやうな基點となる思考を罷めて、例へば固有名詞とか數字を勝手に聯想さすやうにして、聯想をある種類にだけ限定してしまへば、聯想の自由は極度に高まつてくるのである。この時の聯想は夢の術式に於けるものより一見數倍も勝手氣儘であり、數倍も斟酌すべきたちのものに思はれる。ところが、この時浮ぶ聯想はそれが動いてゐる瞬間には氣に付かない、丁度間違ひを惹起さすかきみだす傾向や、偶發動作を突發せしめる傾向と同じに、一向意識されない心中の重大な内部傾向によつて嚴密に決定されてゐるのである。

私及び私のあとを次いで多數の人が同種の研究、卽ち出發點としてある特別な思考を與へずに、數字や人名を自由に勝手に聯想さすやうな研究を試み、その研究の二、三のものが發表されてゐる。この方法はかうである。この浮び上つた名前に續いて聯想の流が動き出す。だから順順に浮ぶ聯想は最早自由でなくて、丁度夢の要素に對する聯想が縛られてゐる風に一定に縛りつけられてゐて、この聯想の流は、丁度最初に與へられた刺戟が全部盡き果ててしまふ時に消失してしまふのである。同時にこれは名前に就ての自由聯想の動機と意義をも說明したことになつた。幾度繰返しても試問の結果は同一で、被驗者の與へる報告はしばしば豐富な材料を藏してをり、さらに詳細に進まねば

ならなくなつてくる。自由に浮んでくる數字の聯想は最も意義あるものである。その聯想は非常に迅速に次から次へと現れ、驚く程の確實さで隱蔽されてゐる目的地に驀進するのだから、當人自身が面喰つてしまふ位である。私は諸君にこの種の分析を一例だけお話しよう。その一例は少量の材料をもつて實事に仕上つたからである。

ある青年を治療してゐる時に偶然私はこの題目に觸れて、一寸考へれば選擇の自由がありさうだが、事實は被驗者の一番近しい境遇とか、被驗者の素質及びその人のその瞬間の狀態と離れる事の出來ない深い關係を含んだ名前しか聯想出來ないといふあの定義を話してやつた。ところがその青年は私の言ふ事を疑つてゐるので早速に當人に就て實驗しようぢやないかと提議したのである。私はこの青年が婦人や娘といろんな風に交際してゐた事を知つてゐたから、君が女の名前を聯想するとすれば、君が交際してゐるその多數の女の名前から隨分いろんな名前が選擇出來るだらうねと申した。青年は快諾した。私よりもむしろ彼がびつくりしたのには、青年は決して私に女の名前を雪崩のやうに次から次へと浴せかけなかつた。浴せるどころか青年は暫く沈默してゐた。「私には結局たつた一つだけ名前が浮んで來ました。Albine（アルビネ）といふ名前であります。」と告白した。――奇態な事だね。この名前と君とはどういふ關係があるかね。何人位アルビネといふ女を知つてゐるか

ね。」――不思議にも青年はアルビネといふ女を知らなかつた。そして、この名前から最早これ以上の何の聯想も浮ばなかつた。分析が失敗に終つたと早合點してはいけない。失敗ごころぢやない。分析は實事に成功したのだ。これ以上の聯想も必要としないのだ。この青年自身は男にはめづらしい程色が白かつたから、治療中に私は話をしながら何度もその青年をAlbino（白さん）とひやかした事があつたのだ。私達は丁度その頃この青年の體質に女の要素があるかどうかを決定する研究に沒頭してゐる最中であつた。卽ち彼自身がこのアルビネであつた。その當時最も彼の興味を領してゐた女はアルビネである自分自身であつたのである。

同樣に突然に浮んでくるメロディも、ある思考の流によつて決定されてゐる。ある思考の流に隷屬してゐる。卽ち當人がその流の活動に氣付かずに、然も彼の心を領する權利を有してゐる、ある思考の流に隷屬してゐる事が分明する。浮んだメロディはそのメロデイに附いてゐる歌とかその歌のいはれと深い關係のある事が容易に理解出來る。併し私はこの主張を天性音樂好きな人にまで適用するのを差控へなくてはならぬ。私はさういふ人から何等材料を得る機會がなかつたからだ。音樂好きな人ではメロディの音樂的價値の方がそのメロディが意識に浮ぶ機緣となつてゐるかも知れない。私はある青年から次のやうな話を聞いたことがある。この青年はある時「美しきヘレナ」の

一節のパリスの歌の氣持よいメロディが暫しの間頭の中を往來してゐた。分析してみると結局その當時彼の興味の圏内に「イダ」と「ヘレナ」が競爭してゐるといふ事に氣が付いたのである。だから自由に浮び上つた聯想がこんな風に決定されて、ある一定の關係を作つて配列してゐるとすると、一つの刺戟思考に縛られてゐる聯想は必ずおのおの密著して條件づけられてゐるのだといふ私達の結論は正しいことになる。そのおのおのの聯想は第一に私達が提出した刺戟思考にかたく縛られてゐるばかりでなく、第二に、その瞬間は氣付かない、換言すれば無意識裡にうごめいてゐる激情（アツフエクト）を持つた思考及び興味の圏卽ち「錯綜（コンプレックス）」(Komplex)に隷屬してゐると言ふ事實をこの實驗が如實に證明して呉れたことになる。

かやうに縛られてゐる聯想は興味深深たる實驗研究の題目で、その研究は精神分析の歴史上重要な一章であつたのである。ヴント學派が所謂「聯想實驗」を創始した。卽ち被驗者が與へられた掛け言葉「刺戟詞」に對して出來るだけ迅速に自分に浮んだ出鱈目の「反射」で答へるのである。このやうにして刺戟と反射にかかる時間、反射として應じた答の性質、そして後日同じ實驗を反復して生ずる誤差等を研究して呉れた。ブロイエルとユングの指導の下にチユウリッヒ學派が聯想實驗に於て現れてくる反射を說明した。卽ち、被驗者にかやうにして引き出された聯想に就て若し何か

特殊な點があるなら說明して吳れるやうに賴んだ。その結果、この奇異な反射は被驗者の錯綜によつて最も嚴密に決定されてゐる事が判明したのである。ブロイエルとユングはかくて實驗心理と精神分析に初めて棧橋をかけたと申せる。

かう申してくれば諸君は次のやうな口を利くかも知れない。「私達は自由聯想と言ふものが決定されてゐる事、自由聯想が從來信ぜられてゐた程勝手氣儘なものでない事を只今合點しました。夢の要素に對する聯想の場合にも、この事實を認承する事が出來ませう。併し果して私共が今問題としてゐるものはこの點でありませうか。先生は夢の要素に對する聯想は私達には未知の丁度この夢の要素に對應する心理的背景によつて決定されてゐると主張されるがこれに對する證據を得てゐません。夢の要素に對する聯想は夢見た人の錯綜の一つによつて縛られてゐると證明されるだらうとはかねがね豫期してゐますが、それが何の役に立ちませうか。そんな事を知つたところで夢の理解は一向捗りさうではありません。聯想實驗と所謂錯綜の智識をちよつぴり敎つただけであります。一體この錯綜と夢とはどういふ關係がありますか。」

諸君の質問は尤もだが暫く默つてゐて欲しい。何故かと申すと、さういふ質問が當然湧いてくると慮つて、私は聯想實驗をこの問題の出發點に選ぶ事を差控へたのである。この實驗にあつては反

射を決定する一つの決定物卽ち刺戟詞は私達が任意に選擇したのである。だから反射詞はこの刺戟詞と被驗者に惹び起こされた錯綜を繋ぐ一つの媒介物のやうなものだと言へる。ところが夢では刺戟詞は他のもの、夢見た人の精神生活から、卽ち夢見た人には未知の源泉に由來してゐるところのものによつて置換されてゐるのだ。換言すれば、その時の刺戟詞は直ちに「錯綜の誘導體」（Komplexabkömmling）となり得るのである。それ故に夢の要素にくつついてゐる多數の聯想は、その夢の要素そのものを作り出した錯綜、そして、私達の探してゐるその錯綜の發見に導く唯一の錯綜によつて決定されてゐると期待するのは決して無稽でないのである。

　この事實が夢の場合でも私達の期待を裏書するものだと言ふ事を他の實例で示してみよう。名詞の忘却は夢分析にも利用出來る立派なお手本である。ただ忘却の場合では一人の人が關係してゐるが、夢の分析では二人の人が關係してゐるだけが違ふ。私が暫時ある名前を忘却した時に、私は確かにその名前を知つてゐるべきだと自ら確信する事が出來る。夢見た人にも同樣な確信があるべき事實は、ベルンハイムのあの實驗を迂回してやつとこさで證明したのである。ところが忘却した、然も實際は知つてゐるべき名前は私の手の屆くところに存してゐない。熟考してみる。たとへ嚴密な意味で熟考してみたところで一向思ひ出せるものでないことは經驗が敎へて吳れる。併し忘れた

名前の代りにいつ何時でも、一つ若くば多數の代用名を聯想する事は出來るだらう。若し私にさやうな代用名が偶然浮んだ時に、初めてこの狀態と夢分析の狀態がぴつたり一致してゐる事が明らかになる。夢の要素とは決して本物ではない。ある物の代用物、私が知らない、夢を分析してから發見しなくてならぬ本來のものの代用物に過ぎない。だから兩者の區別は、名前の忘却ではその代用物は本來のものでないと卽座に承認出來るが、夢の要素が本來のものでないといふ見解を夢の要素に承認するためには、隨分苦心してこつこつ追究してみなければならなかつた。偖て名前を忘却した時にも、代用物から無意識なる本來のもの、卽ち忘れた名前に達する一路が開けてゐる。若しこの代用名に注目して、その代用名を基點として次から次へと聯想を試みるなら、ある時は短距離の、ある時は長距離の迂回をした後、その忘れた名前に逢著し、かくて、丁度私が勝手に浮べた代用名はその忘れた名前と一定の關係があり、その忘れた名前によつて決定されてゐる事實を發見するのである。

私はこの種の分析を一つお知らせする。ある日私は Monte（モンテ） Carlo（カルロ） が首府であるリヰエラの小國の名前を思ひ出す事が出來なかつたのに氣付いた。私はいらいらしたが結局駄目だつた。私はその國に就て出來る限り知つてゐる事を考へてみた。ルヂニヤン家出のアルベルト王、その王の結婚、

その王が海洋研究に興味を持つてゐること、その他それに就て私が集められるだけの事を考へてみたが結局何の役にも立たなかつた。そこで私は熟考するのを罷めて、忘れた名前の代りに、その代用の名前を聯想してみた。その聯想は早速に出て來た。第一に Monte Calro, それから Piemont, Albanien, Montevideo, Colico, Albanien は最初私の胸に浮んだが、白と黑の對照によつてか、忽ち Montenegro によつて置換された。續いて、私はこの四つの代用名が、mon と言ふ同じ綴字を持つてゐる事に氣がついた。その時突然忘れた名前を思ひ出して、Monaco と叫んだ。卽ちこれ等の代用名は本當に忘れた名前に由來してゐる。初めの四つの名前はモンと言ふ初めの綴字から、第五番目は綴字の調子とコと言ふ最後の綴字を與へてゐる。その時偶然私はモナコと言ふ名前を忘れてゐる理由を知つた。モナコは獨逸市のムュンヘンの伊太利名である。ムュンヘンの町といふ考が私に抑壓となつて動いてゐたのであつた。

偖てこの例は實事であるがあまり簡單に過ぎる。ほかの場合では、最初に浮んだ代用名を基點として次から次へと聯想を續けて行かなくてはならぬ。その結果夢の分析との相似點が自然鮮明になつてくるだらう。私はそのやうな經驗をも持つたのである。ある日のこと未知の人が私を招待して與れて伊太利の葡萄酒を御馳走しようと約束した。この葡萄酒には樂しい思ひ出があつたからであ

る。ところが一緒に旅館に行つた時、この人は丁度自分が注文しようと思つてゐるこの葡萄酒の名前を忘れてしまつてゐた。そこで私はその忘却した名前の代りに他の出鱈目な名前を次から次へと聯想さして行くうちに、私は何かヘドヰッヒといふ人に就ての思考がその人に葡萄酒の名前を忘れさしてゐるのだと思ひあたつた。そして實際にその人はこの葡萄酒をヘドヰッヒと呼ぶ人の家庭で初めて呑んだことを保證したばかりか、このヘドヰッヒの名前から忘れてゐた酒の名前を思ひ出したのである。彼は只今丁度新婚のあまさに浸つてゐる頃で、そのヘドヰッヒといふ名前は彼が思ひ出すのを避けてゐた過去の時代に屬してゐたのであつた。

忘れた名前のこの例でやつたやうに、夢の解釋でも同じに代用物を緒口としてそれにからまる聯想を辿つて遂に本來の目的に到達する事が出來るのは請合ひだ。丁度名前の忘却の例と同じく、夢の要素にからまる聯想に就ても、私達はこの浮び出る聯想はその夢の要素ばかりでなく無意識裡に存する本來の思考に依つて決定されてゐると結論を下しても差支へないのである。かくて私達はこの術式を正しと認める上にある曙光を見ひ出す事が出來たのである。

第七章　夢の顯在內容と潜在思考

間違ひに關する私達の硏究は決して無收獲でなかつた。この方面を努力して開拓したお蔭で――諸君が御承知のあの臆說の下に――二種の收獲を齎した。第一に夢の要素に就ての見解を、第二に夢判斷の術式を知ることが出來た。夢の要素に就ての見解とは次のとほりである。夢の要素とは決して本來のものではない。ある別のもの、卽ち丁度間違ひ行爲の傾向のやうに、夢見た人には未知のあるものの代用物であり、夢見た人は當然知つてゐる筈だが、その智識に近寄り難いあるものの代用物である。私達は、かやうな要素から成立してゐる夢一般にこれと同じ見解が適用出來ることを希望してゐる。次に私達の術式と申すものは夢の要素を基點として自由聯想に依つて、他の代用思考を浮べしめ、その思考からわれわれに隱されてゐるあるものを摘發しようとするのである。

私達の話を圓滑に運ばす必要上、前述したものを只今私達の術語に變更する事を申込まう。隱されてゐるとか、近寄り難いものとか、偖ては本來のものでないとか申す代りに、もつと正確に記述するために、夢見た人の意識へは達しない、若くば「無意識（ウンベウスト）」なといふ言葉を提供しておかう。諸

君にとつて忘れた言葉、あるひは間違ひ行爲のかきみだす傾向と言ふ代りに、その當時無意識的なると言ひ變へるに外ならないのだ。これに反して、夢の要素それ自身、そして聯想に依つて贏ち得られた代用思考を意識的と命名しても差支へないのである。この術語には未だ何等理論的構成さへ含まれてゐない。適切な、容易に理解出來る名前として、この無意識なる言葉を使用することには無論異存がない筈である。

私達が懷抱する夢の要素の見解を夢一般に敷衍するなら、夢とはある他のもの、卽ち無意識の歪められた代用物であり、夢判斷の使命とは實に、この無意識なるものを發見するに外ならないといふ結果が現れてくる。そして、この結果から早速に三つの次の重要な規則が誘導される。私達は夢判斷の研究中はどうしてもこの規則を嚴守しなくてはならぬ。

一。たとへ夢が合理的でも、荒唐無稽でも、鮮明でも、模糊としてゐても、決して夢の外觀の意味に拘泥してゐてはならぬ。といふのは、その外觀の意味はどんな場合でも決して私達の求めてゐる無意識なるものでないからである。（この規則に明白に限定を與へなければならぬ事はあとで自然に分かつてくる。）二。いかなる要素にもそれの代用思考を浮ばすやうに研究を調節しなくてはならぬ。代用思考を熟考したり、代用思考が果して、凱切な何物かを含んでゐるかを檢べる必要は

ない。代用思考と夢の要素がどれ程緣遠くても何等心配する必要はない。三。われわれの目的とする隱されてゐる無意識と、丁度私が報告した研究に於ける忘れた言葉モナコのやうに、自然にぴつたり焦點が合ふ迄氣長に待たねばならぬ。

自分の夢に就ていかに多く、いかに少く、とりわけいかに正確に、いかにあやふやに記憶してゐるかが一向問題にかからぬ事も只今合點出來る。記憶に殘つてゐる夢は決して本來のものでない。むしろその本來のものの歪められた代用物であつて、その代用物を基點として他の代用思考を覺醒さす事によつて本來のものに肉迫しようとする、換言すれば夢の無意識を意識にひつぱつて來ようとするに役立ち得るものなのだ。だから私達の記憶が不確實であつたならば、この代用物はさらに歪められてゐるだけになる。そして歪みが强ければ當然そこに何かの動機が存在してゐる事になる。

私達は他人の夢と等しく自分自身の夢を解釋することが出來る。自分の夢なら一そう學ぶところが豐富であり、その過程に頷く點が多い。一度この流儀で實驗を進めるなら、この解釋の仕事に對して何物かが反抗してゐる事に氣が付くであらう。勿論聯想が浮んでくる。だがその現れた聯想の總てを私達はそのまま受取り難い氣がする。その聯想を吟味し選擇の篩にかけたくなつてくる。一つの聯想が浮べば人はかう言ふ。「こいつは適切でない。こいつは方向違ひの奴だ。」第二の聯想が

浮べば「こいつはあまり馬鹿らしい。」第三の聯想が浮べば「こいつは全く中心を離れてゐる。」そして次から次へと反對しながら、解釋が全くはつきりならないうちに早くも聯想を握潰し最後には聯想をも消散さしてしまふ事を觀察するものだ。これは一方基點としての思考、即ち夢の要素自身にあまり囚はれ過ぎる傾きがあり、他方身勝手な選擇でもつて自由聯想の結果を滅茶苦茶にしてしまふのである。人が夢の解釋を自ら行はずに、自分の夢を他人に解釋して貰ふならば、何故浮んだ聯想を自分に都合のよいやうに選擇するものかといふある動機が非常にはつきり分かつてくるだらう。人はさういふ場合に折折かう言ふ。「いや。この聯想はあまり不愉快です。口にも出す氣がしません。丸で口にのぼす事も出來ません。」

かやうな反對の聲は明かに私達の研究の行手を削ぐものである。人はかういふ反對の聲に警戒しなくてならぬ。そしてその反對の聲には決して降參しないぞとしつかり肚を極めて自分の夢を解釋しなくてならぬ。若し他人の夢を解釋する時は、この聯想はあまり大切でない、あまり馬鹿らしい、こいつは方向違ひだ、こいつを報告するのは閉口だといふ四つの反對の聲のどれか一つがたとへ彼に起つて來ても、浮んだ聯想はどんな種類を答はず正直に報告しなければならぬといふ堅い規則を教へてから分析を行はねば駄目だ。彼はこの規則を守る事を約束する。そしていかに彼がこの約束

を機會ある度毎に破棄したくなるかを知つて惱まされるに相違ない。素人は抵抗といふ事實を說明していくら學問的に保證してやつても自由聯想の正しさが頭にぴんと響かないのだと極めるかも知れぬ。そして、さしづめ書物を讀ましてやるとか講演に連れてきてやるとかして、自由聯想に對する私達の奉ずる見解に歸依さしてやらねばならぬと思ひ當るかも知れぬ。だが私達は次の觀察を理由としてそんないらぬ干涉は避けることが出來るのだ。一番確實だと保證の出來る自分自身の心の中にもある聯想に對して同じ批判的抗議が擡頭して來て、やつと後程になつて、丁度第二審のやうに、その抗議を追拂ふことが出來るのだ。

私達は何も夢見た人のこの不從順をくよくよ思ふ必要はない。この經驗を利用すれば夢見た人が豫備智識を缺いてをればそれだけ價値の多いある新しい物をその人から學ぶ事が出來る。夢の解釋の仕事は、それに反抗しようとする一つの抵抗に逆つて行はれるもので、批判的抗議は實にこの抵抗の發する聲だと知つたのだ。この抵抗は夢見た人がどれ程理論を呑込んでゐようとも理論には一向無頓著に起こつてくる。私達はなほこれ以上の事を學ぶ。經驗上かやうな種類の批判的抗議は決して眞實の聲でない事を知つてゐる。眞實どころかこんな風に抑壓しようとする聯想こそ番外なしに最も重大な、無意識の發見に決定を與へる聯想である事が分かるのだ。若し聯想にこのやうな抗

議が附帶すればこの聯想こそとつつかまへる値打があるものなのだ。

この抵抗は全く新しいものであり、私達の臆說——勿論臆說にはさやうなものは包含されてゐなかつたが——の前提の下に摑み出した現象である。こんな新しい因子をまたぞろ私達の研究に考慮しなければならぬとは實のところあまりいい氣持がしない。この因子のために私達の仕事が波瀾曲折を重ねるといふ豫感に襲はれて、夢に傾倒しようとする今迄の意氣込が沮喪しかけてくる。夢といふこんなつまらないものに、そして滑るやうな鮮かな術式でなしに、このやうな辛苦を捧げなくてはならぬとは。併しこの困難こそ私達を鼓舞するものであり、仕事の努力はやがて實事に酬いられるぞといふ氣がしてくる。夢の要素が暗示する代用物を緖口として隱されてゐる無意識に突入しようと思へば、抵抗にぶつつかるのは當然である。卽ちこの代用物の背面に必定何かある意義あるものが潛伏してゐるぞと思つても差支へないのだ。さうでないなら、どこまでも頑張つて隱さうとする否定の辭は一體何を目的としてゐるのか。若し子供に見せろと言つても手をぐつと握つて開かうまいとする時は、きつと手の中に何か正しくないものを隱してゐるに相違ないのである。

私達が只今題目とした抵抗と言ふものを一つ力學的に考へてみようとするこの際にあたつて、この抵抗なる因子は量的に變異のあるものだと思惟せねばならぬ。當然大きな抵抗、小さな抵抗が存

してゐるし、私達の仕事の最中にもこのやうな大小の相違が現れてくると覺悟しておく必要がある。多分私達が夢判斷の進行中に遭遇する他の經驗にこの抵抗力を連結さす事が出來る。卽ち夢の要素からそれの無意識に潛入するためには、ある時は一つの聯想で足りる事があり、ある時は一つ以上の聯想でも十分でない事があり、又ある場合は聯想の長い連鎖を辿り、多數の批判的抗議を征服しながら辛じて成就する事もある。私はかやうな差違は抵抗力の大きさがまちまちであるために現れるのだと申したい。そしてある點迄私の言ふところは正しいと考へる。抵抗が小さい時は無意識と代用物の相去る距離は遠くないが、抵抗が大きい時は當然無意識の歪みも大きくて、從つて代用物から無意識に達するには長い道程を要するのである。

ある夢を選擇して、その夢に私達の術式をかけてみて、果して今迄の期待が實現されるかを試してみるのは今丁度もつてこいである。ぢやこの目的にどういふ夢を選拔したらよいか。この選拔の手心がどれ程私にとつてむづかしいか諸君には迚も想像出來ない。そして私は諸君にその困難がどこに存してゐるかを未だ會得さす迄になつてゐない。明かに全體としてさう歪みのきつくない夢が存してゐるに違ひない。さういふ夢を先づ手始めに分析するのは一番好都合であらう。併し一體どういふ夢がさう歪みがきつくない夢と申せるか。前に例としたあの二つの夢のやうな筋の通つた模

糊としない夢を言ふのか。さういふ考なら諸君は大きに誤つてゐる。研究を進めてみるとこのやうな夢は途方もない程度に歪められてゐることが證明される。ところで私が特別な條件を提供する事を罷めて、勝手な夢を選拔してみるとすると、必ずや諸君の失望を招くに違ひなからう。個個の夢の要素に對して浮んだ莫大な聯想を觀察したり記載したりするとなると、解釋と申す仕事を諸君に一目に了解して貰ふ事が全然不可能になつてしまふやうだ。夢を書きつけて、その夢に對して浮んだ聯想を殘り隈なく書きつけて比較するとなると、聯想の方が原文の夢の數十倍に達してしまふ。だから最も適當な方法として、短い夢を少し分析に選ぶ方がよい。そしてそのうちのどれかが少くとも私達に何かを語り何かを立證して呉れるだらう。この夢はあまり歪められてゐない夢だときつぱり極める見當を私達は經驗からも知つてゐないのだから、兎に角今述べた儘を決行してみる事にする。

ところが幸にもわれわれの行手に橫たはつてゐる問題をもつと容易に出來るある方法を私は知つてゐる。夢全體を解釋にかけずに、解釋を夢の箇箇の要素に限定することにする。そして私達の術式を應用する事によつて夢がどんなに說明されるものかを實例を追つて述べてみたいものだ。

一。ある夫人が次のやうな話をして呉れた。「私は子供時代に神樣が先の尖つた紙の帽子を冠つ

てをられる夢を何度も見ました。」　諸君はこの夫人の智慧を借らずにこの夢をどう解釋する積りか。夫人の報告に依ると、自分が子供の時に家のものがそのやうな帽子を食卓に就く時は極まつて冠せて呉れた。といふのは、自分は兄弟姉妹のお皿を覗いて、自分より澤山お皿にお茶が盛つてあるかどうかを偸見する癖があつたからである。さう聞くとこの夢は最早馬鹿らしくなくなつてくる。この帽子は明かに馬の目隱の役目をしてゐたに相違ない。極く極く平易にこの夢の歷史的由來が報告されたことになる。この要素と並んでこの短い夢全體の解釋は、夢みた夫人に次から次へと聯想を行はさして行くことによつて樂になつてくる。「神樣は全智全能であると話されてゐました。私の夢は畢竟、私は丁度神樣のやうに、いくら人が隱さうと氣張つても、總てを知り總てを見る事が出來るといふ意味を含んでゐるに過ぎません。」　と夫人が申した。この實例はかなり簡單に失するかも知れぬ。

二。一人の懷疑癖のある女患者が長い夢を見た。その夢の中である人が私の「洒落」に關する書物を彼女に話して口をきはめて推奬した。それから「運河（カナアル）」（Kanal）に就て何かの話があつた。「多分運河といふ文字の書いてある書物。いいえ何か運河の事に就て述べた書物かも知れませんわ。……分からない。……本當にぼんやりしてゐました。」

諸君はこの夢の要素たる「運河」があまり漠然としてゐて解釋を施す見込がないと信ぜられるかも知れない。諸君が推斷される困難は尤も至極であるが、それが漠然としてゐるためにむづかしいのでなくて、他の理由に依つて卽ち夢の要素を漠然とさしたと同じ物が解釋をも困難にさしてゐるのである。女患者は運河に就てちつとも聯想が浮ばぬといふ。私もまた運河に就て何の知るところもない。暫くして、實はその翌日になつて女は、あたしにある聯想が浮んだ、この聯想は恐らくその夢に關係してゐるものらしいと話した。この聯想は彼女に夢で話したといふ洒落をも釋いて吳れた。ドオバアとカレェの船中で自分の知つてゐる著述家が一人の英國人と世間話をしてゐました。その時英國人は何かの序に「Du Sublime au ridicule il n'y a q'un pas」(莊嚴から滑稽迄相去る事僅か一歩のみ。)といふ文句を引用しました。著述家は早速「Oui, le pas de Calais」(さうですね。カレェから一歩ですね。」と返答しました。著述家はこの返答によつて、佛蘭西が莊嚴で英國が滑稽だと仄かさうと思つたのであります。併し考へて見ると Pas de Calais は一つの運河、Canal la Manche 卽ち英佛海峽でありませう。偖てこの聯想が只今の夢と何か關係があると私は考へてゐると尋ねるか。確かに關係があると私は考へてゐる。この聯想は判じ物のやうなこの夢の要素に解答を與へるに相違ない。若くば諸君は、この洒落は「運河」といふ要素の無意識となつて旣に夢見

る前に存在してゐたと疑をいれるか。諸君はこの洒落はあとから發見したものだと見てとるか。この聯想は彼女が體裁上いつも仕方なく感心するその裏に極つて懷疑を起こすその懷疑癖を曝露してゐるのである。そして、抵抗は第一に彼女に聯想の浮ぶのをためらはさし、第二にそれに應ずる夢の要素をかくも朦朧とぼかさした共通原因となつてゐるのである。ここで一つ夢の要素とそれに對應する無意識の關係を眺めて欲しい。この夢の要素は恰もこの無意識の一片であり、その無意識の一暗示である。二つを引き離してしまへば夢の要素は全然理解出來ぬものとなる。

三。一人の患者が長い夢を見た。その一部はかうである。特別の形をした一つの卓子(チッシュ)(Tisch)の周圍に自分の家族の人達が坐つてゐた。この卓子(チッシュ)に對して聯想が浮んだ。患者はこれと似た家具を某の家庭を訪問した時に見たと語つた。それから彼の考は次のやうに進む。某の家庭では父親と息子の間に特別な關係が存してゐたと言ふ。その時早速に患者は自分と自分の父親の間にもこれと同じ關係が實在してゐると附加した。卽ち卓子はこの比較を描くために夢中に挿入されたのである。

この患者は久しい以前から夢判斷の學說を信賴してゐたのであらう。さうでなければ、卓子の形といふそんなつまらない事柄を硏究の題目とする事を屑としなかつたに相違ない。私達は凡そ夢に現れるもので偶然的だとか取るにも足らぬとか斷言出來るものは存してゐないと宣言しておかう。

そのやうな些細な無動機な事柄こそ夢の説明を惠む緒口となるのである。「夢の仕事」は「われわれの關係も彼等の關係と結局同じである。」といふ思考を表現するために卓子（チッシュ）といふものを選擇したのだと申せば諸君でも喫驚されやうが、某の家庭と申すのは「Tischler（チシユラア）」といふ名前のうちであるとお聞きになればこの説明はもう一そうはつきりする。彼は夢の中で自分の家族のものをこの卓子のまはりに坐らして、彼等もまたチシユラアだと言つてゐる。諸君はこの際夢のかやうな解釋を報告することによつて當然秘密がばらされるだらうと考へられよう。從つて諸君は、私が先に實例を選擇する事が實に困難だと申したその理由の一つを只今首肯されるに相違ない。私はこんな實例よりも當障のない別の實例を何時でも擧げる事が出來たのであるが、この實例で一寸罪を犯しただけでこの秘密漏洩を避け得た事と思ふ。

この機會に私はずつと前にでも出來れば使用したいと思つてゐた二つの名稱を紹介する事にする。夢の語るものを「夢の顯在内容」（Manifester Trauminhalt）と名づけ、聯想の追究によつて現れてくる隱蔽されてゐるものを「夢の潛在思考」（Latente Traumgedanken）と名づけておきたい。これ迄の實例でもお分かりのやうに、これから一つ顯在内容と潛在思考の關係に注目してみることにする。この二つの相互關係は非常にまちまちである。一と二の例では顯在要素は勿論潛在思考の一成

分であつたか、單に一小斷片に過ぎなかつた。夢の無意識思考に存する精神の大伽藍からその極く一部分が丁度それの斷章のやうに、ある時はそれの暗示のやうに、相言葉のやうに、電報文の省略のやうに顯在夢の中に姿を見せてくる。解釋法とは畢竟するにこの斷章若くばこの暗示を、丁度第三例で格別鮮やかに成功したやうに、全體のものに完成する事になる。だから「夢の仕事」が作用して生ずる歪みの一方法はあるものを一つの斷片又は一つの暗示に代用する過程になる。なほ只今の第三例で諸君は私達が次の數例で簡潔に明快に述べようとする顯在內容と潛在思考の別の關係にも氣が付かれたであらう。

四。ある男が自分の知合ひのある女を寢臺のうしろからひつぱり出した夢を見た。彼は最初の聯想によつて自らこの夢の要素の含む意味を發見した。卽ちこの夢は自分はこの女の方が好きだといふ意味である。

譯註。原文は「「Der Träumer zieht eine bestimmte, ihm bekannte Dame hinter dem Bett hervor.」hervorziehen はひつぱり出すの意味である。これが vorziehen …… よりも好きにもぢられて「Es heisst: er gibt dieser Dame den Vorzug.」の意味になるのである。

五。ある男が自分の兄が箱（カステン）の中に隱れてゐる夢を見た。彼は最初の聯想に依つて箱を長持（シュランク）（Sch-

rank) に置換した。第二の聯想に依つてこの夢の意味は「兄は生活を切詰めてゐる。」(Der Bruder schränkt sich ein.) となる。

六。ある男が夢を見た。「一つの山を登つて行くうちに、驚くべき廣大な展望を持つた。」これは全く理屈に合つた夢で、何も特別な解釋など要せない程だが、この夢がどういふ追憶に基づき、どういふ動機から喚び起こされたかを説明しなくてはならぬ。いや諸君の考は間違つてゐる。かういふ夢こそ朦朧とした夢と同樣、いやそれ以上に解釋を要すべき事が分かつてくる。卽ち夢見た人には登山の聯想などは全く浮んでこない。これに反してある知人が地球上の最も邊鄙な地方と自分達の關係を主題として「展望（ルンドシャウ）」(Rundschau) といふ名前の雜誌を發行しようとしてゐる事に氣が付いた。夢の潛在思考は卽ち夢見てゐる自分を「展望者（ルンドシャウエル）」(Rundschauer) と同一視してゐるのである。

諸君はこの例から夢の顯在要素と潛在要素に介在する關係に一つの新しい樣式を發見されよう。顯在要素は潛在要素の描寫、卽ち言語の發音に由來してゐる造形的な具象的な繪畫だと斷言出來る範圍で潛在要素が歪められたものである。勿論このためにもう一度歪みが現れたのである。私達はいかなる具象的形像から言語といふものが發生したかを長い間忘れてしまつてゐる。この故に言語が形像に依つて置換された時はその形像の意味に見當がつかないのである。大抵の顯在夢が專ら視

覺形像稀には思考や言語から成つてゐる事實を考へるなら、諸君は顯在夢と潛在思考のこの種の相互關係が夢形式にある特別の意義を占めてゐる事を理解されるだらう。諸君は又かやうな方法によつて抽象的思考の多數の代りに隱蔽の目的を果たしてゐる顯在夢の中へそれの代用形像を創造する事が可能だと察せられよう。この事實はあの判じ畫の術式である。なほこんな風な描寫に含まれてゐる洒落の姿がどこから來たかは特別な問題であつて、ここではこの問題に觸れる必要はないと思つてゐる。

顯在要素と潛在要素に介在する第四種の關係に就ては、諸君が私達の術式を十分に呑込まれる迄お預りをしておかねばならぬ。私はこれ等の相互關係を餘蘊なく枚擧しなかつたが、私達の目的には今述べた四つで十分である。

偖て諸君は夢全體を解釋してみようとする勇氣があるか。私達が果して、この問題に十二分に武裝が出來てゐるかを一つ試してみようではないか。勿論あまり漠然とした夢を例とするのは今のところ不適當だ。そこで私は夢の特徵を立派に發揮してゐる一つの實例を選んでみる事にする。

ある夫人、尤も既に數年前に結婚生活にはひつた夫人が次の夢を見た。「女は夫と一緒に劇場に坐つてゐる。坐席の片方は空席である。夫は細君にかう話す。エリゼとその未來の夫も來たがつて

ゐたが、三枚で一フランツ五十クウロンの三等席しかなかつた。それさへ彼等は買ふことが出來なかつたのだ。女はその時來られなかつたとて二人は決して不幸でないと返答した。」

夫人が話して與れた第一の事柄によると夢を作つた誘因は顯在內容にある同樣な事件に由來してゐる。彼女の夫は實際にエリゼ、卽ち彼女と同年輩の女友達が最近婚約した事を話した。夢はこの報告の反應である。私達は旣に澤山の夢に就て、前日の出來事からその夢の誘因を證明する事が容易である事、夢見た人から雜作もなしに夢の由來を引出す事が出來ることを話しておいた。夫人は顯在夢の他の要素に對しても進んで同種の報告を惠んで與れた。坐席の一方が空席であつたといふ事柄は何から來たのか。これは前週の實際の出來事の仄かしである。夫人はある芝居を見に行かうと思つて、「周章てて早くから」指定席の切符を買ひこんだ。あまり早かつたので餘分のエキストラの代金を支拂はなくてはならなかつた。さて當日に夫人が劇場に這入つた時に、自分の周章てかたがすべて無駄であつた事を知つた。といふのは指定席の片方は全く空席であつたからだ。芝居のかかる當日に入場劵を買つても十分間に合つたのに。案の定夫も彼女が「周章てて早くから」切符を買つた事に厭味をならべた。――一フランツ五十クウロンは一體どこからやつてきたのか。これは只今の芝居の話とは何の關係もない全く別の聯絡に由來してゐるが、同時に前の事柄をも仄かし

てゐる。夫の妹が夫からお祝儀に百五十フランツの金額を貰つた。そして妹は早速に丁度馬鹿な鸚鵡のやうに「大急ぎ」で寶石店に駈け込んでそのお金全部で裝飾品を買つてしまつた。——どこから三といふ數字が出てゐるか。花嫁エリゼは殆ど十年前に結婚した自分より三ケ月だけ年若であるといふ聯想が幾分妥當でないとすると、夫人はこの三といふ數字に就ては何の知るところもなかつたのである。二人しか人がゐないのに三枚の切符を買ふとは馬鹿馬鹿しいことでないか。これに對しては夫人は何も口に出さなかつた。夫人はこれに對してさらに聯想を進めることも、詳しい報告を與へる事も拒んでしまつた。

夫人は少數の聯想からこれ程多數の材料を提供して吳れた。そしてそれ等の材料を基礎として夢の潜在思考を引き出すことが出來るだらう。夫人の報告を眺めてみれば數箇所に時の限定が現れてゐて、この材料のいろんな箇所に一貫した共通性を作つてゐる事實は私達の目をひく點である。夫人は劇場の入場券を「あまり早く」から心配し、「あまり周章てて」買つてしまつた。そのお蔭で餘分のお金を支拂はなくてはならなかつた。夫の妹は同樣に「大急ぎ」で寶石店に駈け込んで、丁度「一刻も猶豫出來ない」やうに裝飾品を買ふためにお金をばらまいてしまつた。私達がこの强められた「あまり早く」「周章てて」といふ點に夢の誘因である自分よりたつた三ケ月年若の友人でも

今日立派な夫を持つたといふ報告、それから義妹に對する輕蔑を含んだ、そんなに駈け込むのは馬鹿だわといふ批評を結んでみるならば、私達は殆ご偶然のやうに夢の潛在思考を次のやうに構成することが出來る。そして正しく顯在夢は潛在思考の意地惡く歪められた代用物であることが分かる。「そんなに取り急いで結婚した私はなんて馬鹿だつたらう。エリゼを御覽なさい。私でももつとゆつくりあとで夫を持つ事が出來たのであるのに。」（大急ぎといふ意味は彼女の入場券を買ふ時の周章かたと義妹の裝飾品を買ふ時の周章かたに依つて描かれてゐる。結婚の代用物として芝居行が描かれてゐる。）これが根本思考であつたのだ。さらに、あまり確かではないがかう續けてもよいだらう。私が確かでないと申すのは、これ等の箇所の分析は夢見たこの夫人の陳述を無視してはならなかつたからである。「そして、それだけのお金を持つてをればこれより百倍も立派な品物が買へたであらうに。」（百五十フランツは一フランツ五十クウロンの百倍である。）若しお金といふのを持參金で置換すれば、夫を持參金で買つた意味になる。裝飾品と下等席は夫の代用物になつてゐる。もつと知りたいのは三枚の切符といふ要素が何か夫と關係してゐないかといふ點であるが、私達の知識はそこ迄屆かない。この夢は現在の夫への「輕蔑」と「あまり早く結婚した」後悔を表現してゐる事を私達が摘發したに過ぎないのだ。

この最初の夢判斷の結果に滿足するどころか、その結果に私達は少なからず面喰ひその結果に私達の頭は混亂したといふのが私の批評である。既に精通し得たよりも數倍の智識が一時に私達に押し寄せて來た。夢の解釋の學說は汲めども盡きせぬものであると申したことがある。私達は新しい智識と正札を附けてよいものだけをここへ數へることにしよう。

第一。最も顯著な點は、潛在思考に躁急といふ要素が專ら强められて現れてゐるが、顯在夢にはその根跡だに發見出來ない。若し分析を斷行しなかつたら、この躁急と申す因子がある役割を演じてゐる點を微塵も推察する事は出來なかつたのである。從つて主要點卽ち無意識思考の中核は結局顯在夢に姿を見せなかつたと斷言してもよい。このために夢全體の與へる印象が根本的に變化を蒙つてゐるに相違ない。第二。夢には一フランツ五十クウロンで三枚といふ馬鹿らしい文脈が存してゐる。私達は夢の思考から「(そんなに早く結婚するのは)馬鹿だつたのだ。」といふ文句を看破した。「馬鹿だつたのだ。」と申す思考は丁度顯在夢の中へ一つの荒唐的な要素を挿入する事によつて表現されたのだとは結論出來まいだらうか。第三。顯在要素と潛在要素に介在する關係は決して單純でなく、決して顯在要素が潛在要素を代用してゐるといふ工合には成つてゐない事は二つを比較すれば分かるのである。むしろ顯在と潛在の二屬の間に立體的關係が存してゐて、一つの顯在要素

は多數の潜在要素を代表し、若くば一つの潜在要素は多數の顯在要素によつて代用され得る事を考へなくてはならない。

最後に夢の意味及びこの夢見た女のおのれの夢に對する態度に就て、私達はもつと驚くべき事を述べなくてはならない。夫人はこの夢の解釋を承認したのである。それだのに夫人自らこの解釋に我ながら呆れ返つたのである。夫人は自分の夫をそんなに輕蔑しなくてならぬ事を意識してゐなかつた。何故自分が夫をそれ迄に輕蔑しなくてならぬかの理由をも知らなかつた。だからこの點に就てさらに多數の不解な點が轉がつてゐる。私達には未だ未だ夢判斷の準備が缺けてゐると信じてゐる。そして先づもつともつと敎示と豫備を仰がなければならないと信じてゐる。

第八章　子供の夢

あまり前進し過ぎたやうな氣がするから一つ少しばかり後戻りする事にする。先刻私達が提唱した術式をもつて夢の歪みの困難を征服しようとする實驗を敢行した時に、諸君にかう申した事があつた。歪みの闕知してゐる夢とか、若くばたとへ歪みが存在してゐても極く僅かの程度しか現れてゐない夢だけに範圍を限つて當分はその困難を回避するのが得策だと。この道をとる以上再び精神分析の智識の進化史を外れることになる。實際のところは、解釋術を克明に利用し歪められた夢の分析に成功して後にこのやうな歪みのない夢が存在する事に氣付いた次第である。

この歪みのない夢は小兒に發見出來る。子供の夢は短く鮮明で筋が通り、分かり易く曖昧な點がないし、おまけに正直なものである。併し子供の夢の皆が皆迄かういふ種類だと信じていけない。夢の歪みは子供時代に現れる。特筆すべきは五歳から八歳にかけての子供時代の夢には早くも後年の夢の特性の總てが含まれてゐる。若し諸君が精神活動が目立ち始める年齡から四歳乃至五歳迄と時期を限るなら「小兒性(インファンチイル)」(infantil) と稱すべき特性を具へてゐる多數の夢を發見するだらう。さ

らにその年齢以後の夢に於ても同種の夢を少數發見するに相違ない。なほまた大人にでもある條件の下には典型的の小兒性に比すべき夢が現れてゐる。

これ等の小兒の夢から非常に容易く非常に確實に私達は夢の本質の結論を引出す事が出來、この結論は總ての夢に斷定的に普遍的に正當だと證明出來るものなる事を希望しておきたいものである。

一。子供の夢の理解には何等の分析、何等の術式をも利用する必要はない。自分の夢を物語る子供にわざわざ質問する必要もない。出來るならその子供の生活に就てその一部分でも話して貰つておきたい。これはその夢を說明するものはいつもその前日の經驗である故である。凡そ夢とは睡眠中の精神生活が前日の經驗に應じた反應であるのだ。

子供の夢から一步進んだ結論を得るために少數の實例を擧げてみる事にする。

(a) 二十二箇月の男の子供が誕生日の贈物に櫻桃(さくらんぼう)のはひつた籠を貰つたと話された。家のものは明日その櫻桃を上げようと約束したにも拘らず子供は非常に不機嫌であつた。次の朝子供は「ヘルマンが櫻桃をすつくり食べてしまつた。」といふ夢を語つた。

(b) 三年三ケ月の女の子が生れて初めて湖水のボオトに乘せて貰つた。岸に着いた時子供はボオトからあがるのは厭だと駄駄をこねて大聲で泣いた。娘にはボオトに乘つてゐる時間があまり早く

たつたからである。次の朝「ゆうべあたしは湖水を乘りまはしたのよ。」と語つた。私達は「舟に乘つてゐる時間は昨日よりうんと長かつたのよ。」と附加しておいてもよい。

(c) 五年三ケ月の男の子がハルスタツト近傍のエスセルンタアルに遠足に連れて行かれた。子供はハルスタツトはダハスタイン山の麓にあると聞いてゐた。そしてこの山は子供の好奇を非常に唆つた。アウスゼエの茶店から見たダハスタイン山の眺望は實に美しかつた。茶店から望遠鏡で山頂にあるシモニィの小屋を見る事が出來た。子供は何遍も何遍も望遠鏡でその小屋を覗かうとしたが、子供が果して、小屋を旨く見付けたかどうかは誰も訊ねずにしまつた。遠足の始めは子供はことの外上機嫌で、新しい山が見え出す度に「あの山はダハスタインか」と訊ねてばかりゐた。ところが大人が子供の質問にさうぢやないと返答する度毎に、子供はだんだん機嫌を損ねて來て、最後には默り込んで、大人と一緒に瀧を見物に行くために僅かの坂路を登るのにも拗出してしまつた。大人は子供がすつくり疲れたのだと思つた。ところが翌朝子供は非常に嬉しさうに、「ゆうべ僕達が一緒にシモニィの小屋にゐた夢を見た。」と語り出した。卽ち子供が大人と一緒に遠足したいと言ひ出したのはダハスタインに登れるといふ期待があつたからである。もつと詳しく訊ねて見ると、子供は以前に「頂上迄六時間で登れる。」といふ話を聞いてゐたのであつた。

これ等の夢は私達の望む報告を悉皆與へて吳れてゐる。

二。只今のやうな子供の夢に意味がないとは申されない。これ等の夢は總て理解しやすい、天眞爛漫な精神行爲である。諸君も記憶されるやうに、嘗て私は夢の醫學的批評として、夢は恰も音樂を知らない人が十の指でピアノの鍵(キイ)をかきまはすやうなものだと言ふ比喩を引用した事がある。ところがこの比喩は只今の子供の夢と明かに一致してゐない事に氣付かれるに相違ない。この時睡眠中丁度大人が痙攣様の反射で足りるやうな場合に子供といふものは精神作用全部を働かさねばならぬと逃口上を張るなら、この比喩は隨分可笑しなものになつてしまふ。私達は子供にもつと安らかなもつと深い睡眠を賦與するいろんな理由をも知つてゐる事を附言しておく。

三。只今の夢にはあの歪みが闕知してゐた。だから一向特別な解釋法を必要としなかつた。顯在夢と潛在夢がぴつたり一致してゐたのである。夢の歪みは決して夢の本質に肝要なものでないと申せる。こんな事を聞けば諸君は定めし意外な感に打たれられるだらうが、さらに詳細に研究を進めてみれば、子供の夢にも僅少な歪み、顯在內容と潛在思考の間にある程度の相違が存してゐる事を白狀しなくてはなるまい。

四。子供の夢は前日に起つた口惜しさ、憧憬、滿たされない希望を印した出來事の反應である。

この願望は夢の中に直裁に露骨に實現される。偖て諸君は內外の肉體刺戟が睡眠の攪亂者、夢の指嗾者としてある役割を演じてゐるといふ私達の先刻の議論を一考して欲しい。私達は內外の肉體刺戟のこのやうな役割を十分確實な事實から承知してはゐるが、この役割は一部の夢にしか證明する事が出來なかつたのだ。今迄の子供の夢のごこをお探しになつてもそんな肉體刺戟が作用したといふ根跡を見付ける事が出來ない。私達の考へ方が誤つてゐるとはごうも思はれない。只今の夢は肉體刺戟を考へずとも完全に理解する事が出來たし、たやすく一目で洞察出來たのだ。併しこの理由を栖に何も夢の刺戟說を抛棄する必要なぞはない。私達が刺戟說者に反問したいのは、何故最初から、肉體刺戟と同時に睡眠をかきみだす精神刺戟が存し得る事を念頭に浮べなかつたのかと言ふ點である。精神刺戟による興奮こそ大人の睡眠をかきみだす最大原因である事を私達は確信してゐる。この興奮のために、就寢に必要な精神狀態、外界に對する興味の消失を釀す事が妨げられる。人は生命の中絕を願はないのだ。もつと旨く申せば今從事してゐる仕事を繼續したいと思ふのだ。そのために彼は寢つかれないのである。子供に於てはかやうな精神的な睡眠をかきみだす刺戟は滿たされない願望で、その願望に對する反應が卽ち夢となるのである。

五。この考へ方は最も手早く夢の機能の結論に私達を導いて吳れる。夢が心理刺戟に對する反應

であるなら、夢はこの精神刺戟を鎭めて、その結果刺戟が除去されて睡眠が繼續され得るといふ權力を持たなくてはならぬ。どんな風にこの鎭壓が力學的に夢に依つて行はれ得るかを私達は今のところ知るよしはないが、既に私達が注意したやうに、夢は睡眠の攪亂者でなくて——尤もこの見解に對してよく文句が出るが——睡眠の擁護者であり、睡眠の攪亂を追拂ふ番人であるのだ。世人は世に夢と申すものが存しないなら私達はもつとぐつすり寢られたのにと言ふがこんな苦情は大間違ひだ。世に夢の援助が存しないなら私達は本當に寢ることが出來ないのだ。私達がずつと熟睡出來るのは誠に夢のお蔭なのである。丁度喧噪をもつてわれわれを叩き起さうとする安眠妨害者を夜警が追つ拂ふためには、多少の音を立てるのは避け得られないと同樣に、夢が多少われわれをかきみだすのはどうも致方ないことである。

六。願望が夢を惹起さす者であり、この願望の實現が夢の內容であるといふ事は實に夢の重要な一特徴である。夢は思考を單純に表現するのでなくて、幻覺的經驗の形で、この願望を實現されたものとして描寫するといふのは又一つの夢の特徴である。「あたしはもつと長く湖水のボオトに乘つてゐたかつたのに。」は夢を刺戟した願望である。その夢自身は「あたしは湖水のボオトに乘つてゐる。」といふ內容を持つたのである。だから潛在夢と顯在夢の相違や、潛在思考の歪みはこん

な單純な子供の夢にでも存在してゐると申せる。この夢にでも思考が經驗に轉化されてゐる。夢を解釋するに際しては何はともあれこんな些細な變化迄突詰めなくては駄目だ。今申した事がどんな夢にでも妥當な普遍的特徵であると極まれば、前に報告した夢の斷片「私の兄が箱(カステン)の中に隱れてゐる。」と言ふ夢は、「私の兄は生活を切詰めてゐる。」と譯さずに「私の兄はもつと生活を切詰めて欲しい。」「私の兄は生活を切詰めなくてはいけない。」と譯すべきである。只今紹介した夢の二つの普遍特徵のうちでも、明かに第二特徵の方が第一特徵よりはあまり反駁なしに承認される望が多い。私達は廣い廣い研究に依つて初めて夢を作る刺戟者は常に一つの願望でなくてはならぬ、刺戟者は少くとも心配とか決意とか自責であり得ない事を確定出來るだらうが、夢はこの刺戟を單純に再現するのでなく、生命の一種を賦する事に依つて、その刺戟を隔離し除去し鎭定するといふ他の特徵に迄は未だ論及してゐない。

七。夢のこの特徵に關聯して私達はもう一度夢と間違ひ行爲を對照してみる事にする。間違ひ行爲に於てかきみだす傾向とかきみだされる傾向を區別して、間違ひ行爲とはこの二つの傾向の妥協だと申した。これと同じ比喩は夢にもうまくあてはまる。夢に於ては、かきみだされる傾向は睡眠しようとする傾向に外ならない。かきみだす傾向は心理刺戟、卽ち解放を求めて已まない願望で代表

されよう。といふのは、今日迄のところ睡眠をかきみだす精神刺戟として私達は願望以外のものを知つてをらないからである。この點から見ても夢は妥協の成果である。私が寢てゐるとする。しかも私は一つの願望の排除を經驗することになる。私は一つの願望を滿足して同時に睡眠が持續されてゐる。即ち二つとも一部は遂行され一部は放棄されてゐる。

八。非常に鮮明な一定した空想影像即ち「晝の夢」と名付けるものの存在から夢の問題を一歩深く理解する道が開けた事を記憶されるだらう。「晝の夢」は明かに願望の實現であり、私達に意識出來る功名心の願望やエロチツクな願望の實現であるが、よし空想を肆にしたところで、思考するだけで、決して幻覺的の經驗とはなり得ないのである。即ち晝の夢には夢の二つの主要特徴のうち世人が十分に認めてゐない願望といふ特徴の方は存してゐるが、睡眠狀態を必要とする、覺醒狀態では實現されない幻覺的經驗の特徴の方は全く闕如してゐる。だから夢といふ言葉の中には願望の實現が夢の主要特徴だといふ暗示が含まれてゐるのである。それに加へて、夢中の經驗はひとり睡眠狀態の條件の下で可能な、別種な空想即ち「夜見る晝の夢」(nächtliches Tagträumen) だとすれば、夢形成の過程が夜中の刺戟を除去し滿足をもち來たす事が出來るのは直ぐに理解出來る事柄である。なんとなれば、晝の夢もまた充足と密接した活動であつて、人は滿足を贏ち得るためにのみ

184

晝の夢を培ふからである。

この晝の夢といふ言葉ばかりでなく他の俗語が同一意味を表現してゐる。「豚はどんぐりの夢を見、鵞鳥は玉蜀黍の夢を見る。」「鷄は何の夢を見る。黍の夢。」といふやうな諺は人がよく知つてゐる。この諺は子供から動物へと私達よりずつと階段を下げたのである。そしてこの諺は夢の內容がある欲望の充實である事を主張してゐるのである。世上の多くの修辭、例へば「夢のやうに美しい。」とか「夢にも思はなかつた。」とか「私の最も大膽な夢にも浮べなかつた。」といふのは同じ主張を仄かしてゐるやうだ。俗語は公然と私達の味方をして吳れてゐるのだ。勿論惡夢とか苦痛な內容又は何んでもない內容を盛つた夢もあるが、さういふ夢は俗語を作る迄に到らなかつた。成程世人は「惡」夢と稱してゐるが、單に夢と呼んでゐるものは純然たる願望實現の種類に過ぎない。豚や鵞鳥が屠殺される夢を見ると證據立てる俗語などは一向存してゐないではないか。

この願望實現の特徵が夢の硏究者の注意に觸れなかつたとはどうも考へられない事だ。硏究者達はしばしばこの特徵に注意はしたが、その一人もこの特徵が普遍的なものだと認めて、夢の說明の基點とする智慧が浮ばなかつた。私達は一體何が彼等にこれを認める事を逡巡さしたかを想像するに難くない。そして私達は後日この問題をつきとめてみる考である。

それはさておき諸君は只今子供の夢の評價から、何等の苦心も要せずに、隨分豐富な智識を學ばれた。睡眠の擁護者としての夢の機能、一つは常住の睡眠要求、一つは心理刺戟を滿たさうとする努力、この二つの相葛藤する傾向から夢が發生すること、夢は意味を含んだ心理的行爲である證明、さらに夢の二つの重要特徴として願望實現と幻覺的經驗。こんな事に一生懸命になつて私達は精神分析を研究してゐる事を丸で忘れてしまつてゐた。夢と間違ひ行爲の關係以外、精神分析研究は取りたてて言ふやうな特徴を與へて呉れなかつた。精神分析の臆説に無知な心理學者でも子供の夢をこのやうに說明する事は出來たに相違ない。何故誰一人としてこの說明を下さなかつたのであらう。

小兒性といふやうな形の夢のみが夢の總てであつたなら、夢の問題はこれで落著したし私達の研究は完成したのである。それだけなら夢見た人を訊問する必要もなければ、無意識をひき出す必要もないし、自由聯想を請求する必要もなくて濟む。これから一つ公然と私達の題目をこの方向に進めてみたい。私達が普遍的だと承認出來る特徴と申すものは夢の限られた種類、夢の限られた數にのみあてはまるものだつたと再三再四敎へられたのである。だから私達の題目の焦點は、子供の夢から推論されたやうな一般特徴が、果して確固たるものか、果してこれ等の特徴が、顯在內容と前日から殘存してゐる願望との間に何の關係もないやうな、不鮮明な夢にも妥當であるかどうかの點

である。私達はこの種の夢は非常な歪みを蒙つて、そのために卽刻に判定出來ぬものである事を知つてゐる。かやうな歪みを闡明するためにこそ、丁度只今の子供の夢の理解には必須でなかつた精神分析的術式を入用とするのである。

子供の夢のやうな願望實現として直ちに承認出來る歪められない夢の一階段がなほ到るところに轉がつてゐる。絕對命令としての肉體的欲望、例へば饑渴とか性慾に依つて卽ち內在の肉體刺戟に對する反應としての願望實現によつて喚起される夢が生涯を通じて存してゐる。私は十九箇月の女の子の一つの夢を書き留めておいた。この娘は自分の名前の下に書きこまれたメニウ（アンナ・エフ……エルドベエル、ホツホベエル、卵、パツプ）の夢を見た。丁度娘はこの夢のメニウに二度現れてゐるベエル、卽ちいちごのために胃腸を害して一日絕食しなければならなかつた。その絕食の反應としてこの夢が現れたのである。同じ頃に娘の祖母も、――祖母の年と娘の年を合はすと丁度七十歲になるが――遊走腎の不安から終日絕食をしなくてはならなかつた。その夜祖母はどつかの家へお客に招かれて目の前に山海の珍味が並べられてゐる夢を見た。饑餓の儘で捨ておかれてゐる四人、旅行とか探檢の途上糧食缺乏に煩まされてゐる人人を觀察してみれば、かやうな條件の下では人間と申すものは極まつたやうに食慾を滿足してゐる夢を見るものだといふ事實を敎へられる。

一千九百四年に出版されたオツトオ・ノルデンスキエルドの「南極」と題する書中に、彼と一緒に極地で冬籠をした乘組員の話が載つてゐる。「私共の胸底に潛む思考の方向は夢の中に非常な特色をもつて現れてくる。私共の生涯を通して、極地で見た夢位鮮明な數の多いものは知らない。本國では極く稀にしか夢を見ない乘組員でさへこの極地で、朝になつて、お互にこの空想世界のつひ今見た經驗を語り合ふ時には、長い物語を話すのを常とした。乘組員の夢は極地から遠く遠く離れた本國の世界の事であつたが、夢はしばしば現在の境涯にあてはまつてゐた。…………………そのうちでは飲食は私共の夢がめぐる一番頻繁な主題であつた。ある乘組員は夜になると極まつたやうに盛大な午餐會へ行けるのを得意としてゐた。そして、朝目を覺ましてゆうべ俺は三品の午餐を喫したと仲間に報告出來る時は、喜色滿面に溢れるのを例とした。ある乘組員は煙草の夢、一山程の煙草の夢を見た。ある乘組員は船が大洋を帆を張り切つて極地を指してやつて來る夢を見た。さらにこれ等と別な夢も報告する價値がある。郵便配達夫が郵便物をもつてやつて來て、長たらしく、ごういふ理由でこの郵便がこんなに遲延したかを說明した。配達夫はつひうつかり返送してしまつて、それを再び取り戾すために大變な手數がかかつたと話した。勿論睡眠中にはもつともつと浮世離れた事柄を夢見るものだが、私が自分で見たり人から聞いた夢では殆ご總てに空想力が缺けてゐるの

が非常に著しい事であつた。このやうな夢をいちいち記錄しておけば、きつと心理學上から見て大きな興味があつたであらうと思はれる。われわれが堪らない程渴望してゐる物はどんなものでも夢が惠んで與れるのだから、睡眠は極地の私共にどれ程願はしきものだつたかを、讀者は容易に推察されるに相違ない。」私はさらに別の例をヂェ・プレルから引いて見る事にする。「ムンゴオ・パルクが阿弗利加旅行の途上饑渴のため死に瀕した時に、毎夜水の豐かな故鄕の谷や耕地の夢を見た。同様な事はマグデブルヒの星形堡で饑餓に煩まされたトレンクがめさむるやうな御馳走で身動きも出來なかつた夢を見、さらにフランクリンの第一回探檢隊に參加したヂョオジ・バックは糧食缺乏のため瀕死になつた時に毎夜極まつたやうにおいしい御馳走の夢を見た。」

夕飯にきつい藥味のはひつた食物をたべて夜中に渴をおぼえた人はいつでも何か飲料をとつてゐる夢を見るものだ。勿論強い飲食の欲求が夢のお蔭で無くなることの不可能なのは分かり切つてゐる。こんな夢から目覺めたとて矢張喉が乾いてゐるのだから本當の水を飲まなくてはならない。この場合では夢の機能は實用上大した效果はないが、寢てゐる人に覺醒と行爲を强迫しようとする刺戟に對して睡眠を擁護する任務を帶びて夢なるものが召集されたといふ事は考へられないものでない。かやうな慾望があまり激しくない時は願望實現の夢は大抵この使命を果たしてゐるのである。

同様に性的刺戟の下で夢となつて願望を充たすが、この種の夢は特筆すべき特質を示してゐる。性慾は飢とか渇に比すればその目的物に隷屬する事が一段だけ少いといふ本性のために、その慾望の充足は夢精となつて現實化される。後ほどお話する積りであるが、目的物に對する關係にある困難が横たはつてゐるために、特に頻繁にこの現實的滿足に不鮮明な內容若くば歪められた內容がからみつくのを常とする。夢精に伴ふ夢にこのやうな特色がある事は、ランクが申したやうに、夢の歪みを研究する上にまたと得がたい材料を私達に提供して吳れるのである。なほ大人に現れる願望實現の夢には總て、この滿足といふ以外に、さらに純然たる心理刺戟の源泉に由來してゐる、他のあるものを含有してゐて、その夢を理解するためには當然解釋の力を借らなくてはならない。

大人が見る小兒性といふ形で作られた願望實現の夢は、所謂絶對命令的な欲求に對する反應としてばかり現れてくるなぞとは主張する氣になれない。これと同様に明白に心理刺戟から發したと想像出來るある勢力ある情況の影響から作られたこの種に這入る鮮明な短い夢をも知つてゐる。例へば「待ち遠しい」夢といふのがある。旅行とか、特に興味のある芝居とか、演說、訪問のやうなものを待ち設けてゐる時に、その豫想が早くも夢となつて實現されて、本當の經驗の前夜に旅行の目的地に到達してゐたり、芝居を見てゐたり、訪問した家の者と話をしてゐたりすることがある。さ

らにまた「安堵の夢」といふ名で適切に呼ばれてゐる夢がある。もつと寢たくてたまらぬ時に、夢の中で既に離床して顔を洗つてゐたり、學校にちやんと來てゐたりするが、現實では未だ寢込んでゐるのである。卽ち現實ではなくてむしろ夢の中で起床しようとするのだ。私達が夢形成の中に例外なしに關與してゐると認めてゐるあの寢ようとする願望は明白にこれ等の夢に現れてゐて、この願望は夢の形成者として重要な役目を受持つてゐるのである。實にこの寢ようとする欲求は正正堂堂と他の大きな肉體欲求と比肩出來るものであるのだ。

この點に關聯して私は諸君にミュンヘンのシャック畵廊のシュヰンドの描いた名畵の複寫をお目にかけよう。これを見れば諸君は畵工は夢なるものが現在の支配してゐる境涯から釀される事を實に正しく理解してゐるかに感心されるに相違ない。題目は「囚人の夢」といふ。その內容は逃亡に外ならない。囚人が窓から逃亡しようとするのはうまい思付きである。と申すのは、その窓から光線の刺戟が差込んで、囚人の睡眠を破らうとするのである。肩つぎをしてゐる一寸法師は囚人が窓口迄攀上らうとする時に採らなくてはならぬ順次ぎの姿勢を示してゐる。そして私の考が間違つてゐず、畵工に大した深い考がなかつたとすれば、丁度格子を鋸で切つてゐる一番上の一寸法師は囚人自らがやりたいと熱望してゐる事を行つてゐる囚人自らの姿であらう。

子供の夢及びこの小兒性の夢に屬さない他の夢には既に述べたやうに夢の歪みが存して私達の突進を妨げる。だが只今のところ、丁度假定した工合に、その歪みもまた願望實現でないかどうかは何とも明言出來ないし、その顯在內容を眺めてその歪みが一體どういふ心理刺戟に發してゐるかも何とも推測致しかねるし、その歪みが同じやうにこの心理刺戟をとりのぞき若くば鎭定さうと努めるものだと證據立てる事も出來ない。歪みは解釋されなくてはならぬ。歪みは翻譯を必要とするのだ。歪みの過程を探究してそれの顯在內容を潛在內容で置換しなくてはならぬ。その曉こそ、私達は小兒性の夢に結びついてゐたあらゆるものは一切の夢にも等しく適用出來ると斷定を下す事が可能となるのである。

第九章　夢の檢閱官

子供の夢の研究を通して私達は夢の發生、本質及び機能を學び得た。凡そ夢とは睡眠をかきみだす（心理的）刺戟を幻覺的經驗の滿足をもつてとりのぞかうとするものである。私達は大人の夢から出發して所謂小兒性と名付くべき夢の一群だけを説明し盡す事が出來たが、一方他の種類の夢がどういふものか未だ知らないばかりか、殆ど理解するところ迄にも到らなかつた。先程私達は一つの結果を得た。その意義は決して輕視したくはないものである。私達がある夢を完全に理解出來たと思ふ時は毎條その夢は幻覺でもつてした願望實現に外ならないといふ事を知るのである。この一致は決して紛れあたりでもないし、決して輕輕に附すべきものでもない。

他のいろんな種類の夢を探求して、種種な方角に熟考をめぐらし、さらに間違ひ行爲の見解との相似點を參考にしてみると、かやうな夢はある未知な内容を歪めて代用してゐるもので、夢を理解するには兎に角この未知の内容を追究すべきだと敎へられてくる。この夢の歪みを研究し理解する事は實に私達の今後の使命であるのである。

夢の歪みは私達に一見夢を奇怪に且つ理解しにくくさすところのものである。私達はその歪みに就て多數の知識を持ちたいと望んでゐる。第一に歪みがどこに由來してゐるか。換言すれば歪みの力學である。第二に歪みが何をするか。第三にどうしてさうあるのか。私達は夢の歪みとは誠に「夢の仕事」の産物であるとも言ひ得る。私達は夢の仕事を記述して、次いでその仕事に作用する力といふものを探つてみたい。

さて私に次の夢を語らして欲しい。この夢は精神分析の仲間で有名なある婦人(*)が書いておいて呉れたもので、夢見た人は天禀の豐かな教養を積んださる老女である。この夢は分析されなかつた。この引用者はこの夢は精神分析家にとつては何等の解釋を要しないと申してゐる。この夢見た女自らも進んで分析しなかつたが、彼女はそれを批評した。そして、恰も自分がこの夢が何を意味してゐるかを知つてゐるやうな態度で自分の夢を咎めた。引用者はこの女に就て次のやうに語つて呉れてゐる。「このやうな不快な無智な姿に包まれた夢を見た主人公は晝も夜もただ一途に自分の子供の心配で一杯になつてゐる五十歳の女である。」

(*) フオン・フウグ・ヘルムウト女史。

さてこの夢は「愛の奉仕」の夢である。『彼女は第一衞戍病院に行つた。そして門に立つてゐる

歩哨に「何卒ぞ醫長（彼女は未知の名前を名指した。）に面會させて戴きたうございます。面會の目的は私自ら病院で何か奉仕がしてみたいのでございます。」と申し出た。彼女はこの時「奉仕」といふ言葉に特別力を入れた。奉仕と聞いて軍曹は「愛の奉仕」と早合點した。見たところ女は年をとつてゐる。軍曹は少し躊躇しながらやつと入門を許可した。ところが彼女は醫長の部屋に辿りつけずにある大きな薄暗い部屋に這入つた。部屋の中には將校や軍醫が大勢一つの長い卓子を圍んで立つたり坐つたりしてゐた。彼女は一等軍醫に向つて自分の申出を述べた。軍醫は早速に短い文句から彼女の申出の意味を察して呉れた。夢の中で彼女の言つた言葉は「私だけではございません。維納に住んでをりまする婦人達や娘共はいつでも喜んで兵隊さん、いいえ、將校のお方でも一兵卒のお方にでも、だれかれの區別なしにからだを……」この次に夢中で喧噪が起こつた。彼女の申した事を一座が正しく理解して呉れた證據には、將校連がこれを聞いた瞬間半ば面喰つたやうな半ば揶揄ふやうな顔付をしたのである。女は言ひ續ける。「私共の決心は隨分變にとれませうが、私共は心から眞面目に希望してゐるのでございます。戰場においでになる兵士のお方は命が欲しいか欲しくないかなご尋ねられないでございませう。」それから數分間氣持の惡い沈默が續いた。一等軍醫は彼女の腰に腕を廻して言ふ。「奥さん。まあ譬へてみますと私達がかうしかけたと致しますれば……

……」（喧噪）「ここにゐるお方はこの軍醫のお方とみんな同じなのだ。」と考へながら彼女は男の腕を外した。そして口を切る。「神樣。私は年とつた女でございます。私にはさやうな事は適當でございません。一つの條件を考へてみなくてはいけません。年齢と申すものを考へてみなくてはいけません。まあ年とつた女と若い青年が……。（喧噪）ああ恐ろしい事だ。」――軍醫は「あなたの仰しやる事はよく分かります。」と言ふ。二、三の將校、その中に娘時代に彼女に戀をしかけた男の姿も見えたが聲をそろへて高かに笑ひ出した。それから女は自分の知合の醫長のところへ案内して吳れるやうに哀願する。會ひさへすれば萬事がはつきりするのだ。ところが女は自分がその醫長の名前を知つてゐない事に氣付いて途方に暮れる。それだのに、一等軍醫は彼女に慇懃鄭重に、丁度その部屋から眞直に階上にかけてある非常に細い鐵の螺旋階段を昇つて二階に行くやう指し示す。階段を辿りつつ彼女は一人の將校の話聲を聞く。「實に素晴しい決心だな。相手が若からうが年增であらうがそんな事はかまふものかい。殊勝な心掛けの女だぞ。」自分の義務を手取早く果たし得たといふ感情で一杯になつて、女は數も讀めない無數の階段を昇つて行く。」

夢見た婦人の申すところに依れば――同じ夢が二、三週のうちに二度迄も、勿論ところどころの重要でない無意味な箇所は變更されたが、大體同じ筋書で繰返されたさうである。

この夢の展開される順序は晝の夢と一致してゐる。この夢には極く僅かの脱落した箇所が存してゐる。その缺けてゐる內容に含まれてゐる詳細な點は詰問してみれば十分明瞭になつたであらうが、諸君もお察しのやうに、探索せずにおいた。併し、最も顯著な、私達の興味を唆る點は、夢が數箇所で脫落してゐることである。この脫落は記憶の脫落でなくて內容の脫落である。恰も三箇所で夢の內容が抹殺されてゐるやうな奇觀を呈してゐる。丁度この脫落を蒙むつた會話は喧噪でもつてまぜかへされてゐる。私達は何等分析を斷行しなかつたのだから、嚴密に申せばこの夢の意味に就てとやかく口を利く權利はないのである。併し例へば「愛の奉仕」といふ言葉からあるものを推量してもよい暗示がこの夢に存してゐる。就中喧噪の直ぐ前に現れてゐる抹殺された會話の部分に補遺の必要が起こつてくる。その箇所を補遺するとすれば誰がやつても結局はただ一つの意味しか挿入出來ないだらう。私達がそこを塡めば、自然內容に現れてゐる空想に夢見た女は階級を答はずにごんな兵士にもごんな將校にもその燃えてゐる愛慾を滿足させてやるために、丁度愛國心を發揮する形で、いつ何時でも自分のからだをお役に捧げてもよいと言ふ意味が盛られてゐる。實に比數なき破廉恥であり大膽極まる性的空想の典型であるが、——さういふ事柄はこの夢のごこを探しても現れてゐない。かやうな告白が首を擡げる所には、丁度その顯在內容の表面に理由の分からない喧噪

が出來して、あるものが抹殺されたり若くば抑壓されてしまつたりしてゐる。

抹殺された箇所に現れてゐるこの破廉耻こそ抑壓の血祭にあげらるべき內容である事は直ちに諸君が認められるところであらう。ぢや一體只今のやうな現象と類似した事がこの世にあるだらうか。現代では何も遠い所を探し廻る必要はない。試みに諸君は政治新聞を手にとつて御覽になるがよい。新聞のところどころに原文が削除されて、その場所に紙の白さが光つてゐる。これは圖書檢閱官の干涉である事は御存じの筈だ。この白紙になつてゐる場所には檢閱官の高い權威に抵觸したある事柄が記載されてあつたのである。そのためにそこが撤回されてゐるのである。恐らく諸君は白紙を眺めて殘念だと思はれるに相違ない。と申すのはその箇所に最も興味深い新聞の「特種」が載つてゐたからである。

ある場合は檢閱官は既成の文章に干涉しない。新聞記者は前以て檢閱に抵觸すべき箇所を豫想して、その部分を警戒的に穩かにしたり、少し訂正したり、或時は自然に筆の先きから迸り湧いて出る本音を、にほがしたり仄かしたりして滿足してゐる。だから紙聞紙上には空所はないが、書き振りにある言廻しがあつたり、內容にほやけたところがある事から、新聞記者が豫め檢閱官に氣兼ねをして躊躇した箇所を推察する事が出來るのである。

この類似點を頭においてさきの夢の中の抹殺された喧噪によつて誤魔化された會話が檢閲官の槍玉に上つたものだと申せるのである。かやうな夢の歪みの一部に責任を持つてゐるものを「夢の檢閲官」（Traumzensur）と名付けたい。卽ち顯在內容に缺損のある箇所には常にこの檢閲官が出しやばつてゐるのである。さらに話を進めて見なくてはならぬ。大抵檢閲官に干涉された部分は普通ならもつと明瞭に記憶に殘つてゐてよかりさうな夢の要素が特別に弱くぼやけて怪しくなつてゐる。併し丁度この「愛の奉仕」の夢の例のやうに、極く稀だが時によると檢閲官が極めて公公然と極めて露骨に手心を加へる事もある。が、大抵の場合は第二手段を用ゐて檢閲官は本來の意味を弱めたり、言ひ廻したり、仄かしたりして干涉力を働かせる。

夢の檢閲官の第三手段に對しては圖書檢閲官の世界から適切な比較を借りて來られないが、私は一つ今迄に分析してみた夢からこの第三手段を示してみることにする。諸君はあの「三等入場券三枚で一フラン五十クウロン」の夢を思ひ出されるだらう。この夢の潛在內容には「周章てて、あまり早く」といふ要素が主格になつてゐた。換言すれば「あんなに早く結婚したのは馬鹿だつたのだ。」――あんなに早くから入場券の心配をするのは馬鹿だつたのだ。――裝飾品を買ふためにあんなに周章ててお金をばらまく義妹は馬鹿なのだとなるのである。併し夢の思考のこの肝腎な要素は

顯在夢に影も形も見せてゐない。顯在夢には單に芝居に行く事と入場劵を買ふ事が中軸となつてゐた。このやうにアクセントを移行さして內容要素を括り直す結果、顯在夢と潛在思考が似ても似つかぬものになり、そのため何人も顯在から潛在を忖度する事が出來ないのである。このアクセント移行は夢の歪みを釀す上に大切な方法である。この移行に依つて夢に奇怪性が現れて、夢見た人でさへ自分の夢を自分の作つたものと承認する事が出來ないのだ。

このやうに材料を省略し、變形し、括り直す事は夢の檢閲官の干涉であり夢に歪みを釀す方法である。誠に夢の檢閲官が歪みの張本人、いや張本人の一人であつて、この問題はこれから私達が硏究に著手しようとする題目である。私達はこれ等の變形と順序の變更を「轉移（フエルシイブング）」(Verschiebung)の名で總括してゐる。

夢の檢閲官に就て一言觸れたからこれから一つ檢閲官の力學に話を轉ずることにする。檢閲官といふ命名をあまりに形態學的に考へ過ぎて、檢閲官が恰も嚴しい小人であるとか一つの精靈であるとか早合點して、その小人若くばその精靈がいつも小さい部屋に居を卜してそこで自分の職務を掌つてゐるのだと想像して吳れては困る。或ひはあまり局部的に考へ過ぎて、檢閲官は腦髓の一つの中樞で、その中樞がさやうな檢閲的作用を命じてゐる、若しその中樞が障害されるとか剔出される

とかすれば直ちにその検閲力が消滅してしまふと想像して臭れても困る。只今のところでは検閲官といふ名は單に力學的關係を表現するための便宜上の名稱と解する位に留めておいて貰ひたい。勿論検閲官といふ言葉の中に、いかなる傾向に依つてさやうな検閲力が行使され、又いかなる傾向の上に検閲力が加へられるといふ疑問を含ましておいても差支へない。ずうと以前に、尤もさうとは名付けなかつだが、夢の検閲官に一寸觸れた事があると申せば定めし諸君は意外に思はれるかも知れない。

實際この話をした事があつた。あの自由聯想の術式を應用し始めた時に私達は驚くべき經驗に遭遇した事を憶えていらつしやるだらう。夢の要素から無意識要素——卽ち無意識要素の代用物が夢の要素であつたのだから——に突進しようと努力した時に、一つの抵抵に突きあたつてゐるのを感じた事があつた。この抵抗の大きさはまちまちで、あるものは巨大といへる時があり、あるものは軟弱といへる時があると申した。抵抗が軟弱な時は私達の解釋なる仕事はただ二、三の鎖を通るだけで十分であつたが、抵抗が巨大な時は、私達は要素から長い聯想の鎖を手繰り、要素からうねうねと迂回し、浮んだ聯想に對する批評的反駁として現れてくる障害物のありとあらゆるものを突破しなくてはならなかつた。解釋といふ仕事の間に抵抗として現れてくるものこそ夢の仕事の中で私

達が檢閲官とするものである事を只今紹介しなくてならぬ。解釋の抵抗とは取りも直さず夢の檢閲官を客觀化したものに過ぎないのだ。さらに檢閲官の力は夢に歪みを釀すだけで足れりとしない。歪みを作れば早晩消滅してしまふのでなしに、この檢閲官は一度加へた歪みはどこ迄も保持するといふ目的の下に永遠の制度としてその存在を續けてゐる事を教へて呉れてゐる。さらに解釋の抵抗は種種な要素に從つてその强弱を異にしてゐた事から、同一の夢に於ても檢閲官に依つて釀された歪みは種種な要素に從つてその大小を異にしてゐるのである。例へば顯在夢と潛在夢を比較してみれば、ある潛在要素は完全に抹殺され、ある要素は多少變形され、他の要素は原形の儘で、むしろ原形より誇張されて夢の内容中に放射されてゐる。

進んで私達はいかなる傾向がこの檢閲官を行使し、また檢閲官がいかなる傾向の上に干渉力を逞しくするかを究めたいものである。私達が分析した夢の數例を眺めてみれば夢の理解の上にも恐らく人間生活の理解の上にも根本的であるこの問題は立所に氷解するだらう。檢閲官を行使する傾向とは夢見た人の覺醒的の判斷で承認出來るものであり、その判斷に彼自らも衷心贊成を表する事の出來るものである。自分の夢を赤裸裸に解釋して貰ふのに尻込みする時に、諸君は丁度、檢閲官を行使し、夢に歪みを作り、夢判斷を必要とさすその同一動機から、さう尻込みする事を認められる

に相違ない。あの五十女の夢を考へてみたまへ。それを解釋しなくてもその夢が不快なものである。さらにフォン・フウグ女史が斷行したその夢の赤裸裸な解釋をこの席上で公開すれば、諸君は一そう憤慨されよう。丁度これと同一理由からこの女の夢では破廉耻な箇所が一つの喧噪によつて代用されてゐたのである。

一方夢の檢閲官が干渉する傾向を只今の判斷の見地から述べなくてはならぬ。この干渉される傾向は絶對に破棄すべき性質のもの、倫理的、審美的、はたまた社會的見地から不穩當な、人が思考に登す事さへ出來ない、辛じてこわごわ考へて見る位で罷めてしまふところのものである。とりわけこの檢閲に會つて夢中に歪められた表現をとる願望は氣儘な無情な自我の裸體である。何となれば、夢見た人の自我はいかなる夢にも現れてゐる。たとへ顯在内容ではうまく隱蔽されてゐても、この自我がこの夢にも主役を演じてゐるからである。この夢の「Sacro（サクロ） egoismo（エゴイスモ）」この「聖なる自我」は睡眠に導く心の狀態卽ち全外界から興味が退いた狀態と明かに關係を斷ち切る事が出來ないのである。

あらゆる倫理的桎梏から解放された自我は性衝動のすべての欲求とも密接してゐる事を私は知つてゐる。性衝動はわれわれの審美的訓練に依つて咎むべきものとなり道德と申す束縛の命令の一切

に背馳するものとなつてゐる。快感追求――私達はこれを Libido（リビド）と名付けるが――はその對象を放縦に我儘に選擇するものだ。然もリビドは禁斷の果を好んで選ばうとする。他人の女のみならず、人類が相一致して神聖視してゐる骨肉間の對象、男にあつては姉妹、女にあつては父及び兄弟（さきの五十女の夢も破倫な内容である。疑もなく自分のリビドを自分の息子に向けてゐるのである。）を選擇するのである。人性と背馳してゐるとわれわれが信ずべき熱望は夢を惹き起こすに十二分である。さらに又憎しみも肆にあれ狂ふ。人間生活に於て最も血縁のあつい最も愛すべき人、兩親、兄弟姉妹、夫婦、自分の子供に對しても復讐及び死の願望を懷くのも決して稀有な例でない。檢閲に値すべきかやうな願望はこの世ながらの地獄の底から沸き上つてくる。若し覺醒時にその夢の意味を解したならいかなる檢閲官と雖もそれに手厳しく干渉する事を怠らない筈である。

然しながら、内容が惡に滿ち溢れてゐるからとて、決して夢そのものを非難してはならぬ。夢は無害な、それどころか、睡眠の攪亂されるのを擁護する有益な機能を有してゐる事を諸君はよもや忘れてゐないだらう。かかる邪惡は夢の本質に存してゐるのでない。諸君は正當な願望ややむにやまれぬ肉體要求を滿足してゐると認むべき夢の存在を承知してをられるのだ。こんな時は確かに夢の歪みは生じないばかりか、わざわざ歪みを作る必要はないのである。自我の倫理的及び審美的傾

向を侵害せずにその機能を滿足さす事が出來るからである。諸君はまた夢の歪みが二つの因子と正比例してゐる事をも記憶してをられるだらう。一方檢閱に値する願望が極めて嫌忌すべきものであれば、夢の歪みはそう一層大きくなつてくるが、他方加へられる檢閱力が峻烈を極めるに從ひ、夢の歪みはそう一層大きくなつてくるのである。だから、嚴格な家庭に育つた若い內氣な娘では、私達醫者がリビドはリビドだが至極穩健な無害な願望と認めなくてはならぬ、そして娘自らが十年も歲月がたてば私達と同じに穩健だと許すに相違ないやうな程度の夢の衝動さへ容赦もなく檢閱官に依つて歪められてしまふのである。

私達の硏究は解釋の仕事の只今の結果を眺めて憤慨しなくちやならぬ程それまで深く進んでゐない積である。未だ未だ正しく理解するところ迄達してゐないと私は信じてゐるが必然にやつてくる非難攻擊に對してこちらの立場を闡明しておく責任がある。解釋の結果に攻擊點を探し出すのは至つてたやすい事だ。夢判斷の方法は既に申したやうに凡そ夢とは一つの意味を持つてゐるといふ事、その時無意識だといふ精神過程の存在を催眠狀態から健康な睡眠狀態に移し植えても差支へないといふ事、總ての聯想は決定されてゐるといふ事、さういふ臆說の上に立てられたのである。若しこの臆說に立脚した夢判斷から何か尤もらしい結果が贏ち得られたなら、この臆說が正しいものだつ

たと結論するのは正當だと考へられる。ところが夢判斷の結果が丁度只今述べたやうなものであるなら、どうすればよいか。この時は當然かういふ言葉が發せられるだらう。「實に有り得べからざる、荒唐無稽な、少くとも非常に疑しい結果ではありませんか。だから先生の臆說には何か間違つた點があつたのです。夢は結局心理現象でないかも知れません。若くば健康狀態では無意識と稱すものは實在し得ないかも知れません。さらに先生の術式にはどこかに缺點が存してゐたのでせう。先生が臆說に立脚して曝露したと吹聽されるあの無氣味な結論は總て承認出來ますが、どうも術式の方はさう簡單に成程と是認出來るものか怪しいですね。」

だが臆說も術式も二つながらもつと簡單に成程と是認出來るものだ。併し諸君が是認して吳れるから一そう正しいなどと申せない。私達に時間を許して吳れよ。斷定を與へる迄未だ時は熟してゐないのだ。何はともあれ夢判斷に對する斷定をもつともつと鞏固にする見込があるのだ。私達の贏ち得た結果が非常に不快で嘔吐を催す程醜惡なものだといふ事は一向重大問題とする資格がない。それよりも夢を解釋してかくかくの願望傾向が夢に含まれてゐると申した時に、夢見た當人が、昂然として尤もな理由を楯に私の結論を否認する態度の方がもつと論ずる價値がある。ある人はかういふ。「何ですつて。先生は僕の夢を解釋して僕が妹の持參金と弟の教育費に出してやつた金額を

今でも殘念に思つてゐると言ふのですか。そんな事が有りますものか。僕はもう一途に妹や弟のために稼いでやつたのです。兄として僕等の死んだ母に誓つた義務を果たす以外人生に於ける樂しみはありません。」あるひは夢見た女はかう言ふ。「私が夫の死ぬ事を希望してゐるんですつて。まあ。途方もないことですわ。先生は私なぞの言ふ事は取上げて下さらないでせうが、私共の結婚生活は本當に幸福でございます。夫が萬一死去でも致しますれば、この世界で私がいだきしめてゐます幸福が皆な葬られてしまひますわ。」又ある人は私達に反對するだらう。「僕が現在自分の妹に性慾を感じてゐるんですつて。呆れ果てたお話だ。妹なぞに何の興味があるものですか。妹と僕の仲は至つて險惡で數年來お互に口を利いた事もありません。」おまへにあるとおしつけられた傾向をこの人達が是認しなかつたり、斷乎と否定する時は私達は言葉ごほりをその儘信頼するのは早過ぎる。君達の胸底に自らが意識してゐないものが存在してゐると斷言する事が出來る。ところが私達が解釋して上げた願望とは全く正反對の聲を彼等が心中に感じ又この正反對のものが自分の心の大部を占めてゐる證據を自分の生活行爲によつてきつぱり證明する事が出來るならば、その時こそ私達は參つたと降參せざるを得ない。努力の歸著が煎詰めれば荒唐無稽となるそんな夢判斷の研究を奇麗さつぱりと見切をつけのは丁度恰好な潮時ではないか。

いや。まだ早計だ。私達が批判的に論陣を張りさへすれば、諸君の强硬な理屈でも物の實事にへこますことが出來る。精神生活には無意識な傾向があるといふ假設の下に、意識生活に無意識と正反對のものが君臨してゐる事實を證明したとて一向諸君の證明力が增したとは申せない。恐らく精神生活には反對の傾向、相ひ矛盾しあふものが共存する餘地があるのだ。實際にある一つの衝動が大勢を占める事は同時にそれと反對した衝動が無意識となつて存在する條件となるのである。從つて夢判斷の結果が簡單でないばかりか、非常に不愉快なものだといふ事實に先づ第一に反抗の火の手があがるのである。第一に反對しておきたいのは諸君がその結果を簡單にしようといか程夢我夢中になつたところで、簡單だけでは夢の問題の一つも解決する事が出來ない。諸君は今から十分に夢の問題には複雜極まりない關係が存在してゐる事を篤と念頭に置いておかなくてはならぬ。第二に申したいのは、諸君に氣に入らないとか、諸君に嫌厭の感を與へるといふ理由を科學的判斷の動機をするのは實に以ての外の間違ひだ。一體夢判斷の結果が諸君に不快味いや侮辱味や嫌惡の情を與へたとて、それが科學と何の關係があるか。私が未だ若き醫者時代に恩師シヤルコォ先生が丁度今のと似た場合に「Ça(サ) n'empeche(ナンペエシユ) pas(パ) d'exister(デグジステ)」(さうあるのだから何とて致方がない。)と申したのを覺えてゐる。この世界の現狀を學ばうと欲せば、同感と反感を奇麗に引込めるだけの雅量がな

くてはならぬといふ意味である。若し物理學者がこの地球上の有機體が早晩死滅の運命を免れぬと證明した時に、諸君は彼に突かかつて「そんな事はあり得べきでない。君の豫言はあまりに不愉快ぢやないか。」と敢て反對する積りか。他の物理學者が出現して、さきの假說又は誤謬を指摘して呉れる迄諸君はとかくの容喙を控へるだらうと私は考へる。諸君が自分に不快なものの存在を否定する位なら、諸君は夢といふものを理解し夢のからくりを看破するなどといふ柄にもない事を罷めて、矢張夢が作られるメカニズムを自分自らに繰返してをられるがよい。

諸君は檢閱に値するかやうな夢の願望の醜い本質に顏を背向けたいと望まれよう。そして人間といふ機制の中で惡なるものにこれ程大きい勢力を與へざるを得ないといふ學說はどうも肯綮に慣しないといふ事をもう一度議論し直してみたいと望まれるだらう。併し諸君は自らの體驗からさう主張するのが正當だと思惟されるのか。私は諸君自らの眞の姿がどういふものかに就て何も話したくはないが、果して諸君は先輩や競爭者に心から溫い好意を懷き、自分の敵に武士道精神を發揮し、諸君の知人に露程も嫉妬を懷かずに、人性に潛む主我的な惡なる分子に飽く迄も拮抗すべき全責任があると感じなくてはならない程道德的だらうか。人類の水平線に立つてゐる人達が性生活の一切の事件にあたつていかに放逸でありいかに賴み甲斐のないものであるかを諸君は御存じないのか。

さらに私達が夜に夢なる一切の無茶とか無法とかが毎日毎日覺醒時に犯罪としてある種の人間に現に犯されてゐるのを御存じないのか。只今精神分析のやつてゐることは要するに、プラトォの古い言葉「善き人とは他の人、卽ち惡なる人が現實に於て行ふ事を夢に見て滿足する人を言ふなり。」を立證するに外ならないのである。

一方個人から目を展じて歐羅巴の上を今もなほ荒れ狂つてゐるこの大戰爭を眺めるなら、野蠻、殘虐、さては僞瞞の無數の惡が現代の文明國に蔓延する事が默認されてゐるのを一考されるだらう。成程煽てられる幾萬の人は總て同罪と申せないが、一部の良心の痲痺した野心家と煽動家が實事にこれ等總ての惡なる精神を解放しおほせたのであるとは信ぜないか。このやうな現狀を目のあたり見てゐる諸君が矢張飽く迄も人類の精神なる構造物から惡なるものを放逐するためにどこ迄も劍をとつて戰ふ積りであるか。

諸君は私が戰爭を一側面に偏して批評してゐると非難されよう。戰爭は人類の最も美しきもの、最もけだかきもの、人類の義勇の精神、犧牲の精神、人類の社會聯帶感を發揮さすところのものだと固持されるかも知れない。誠に御尤もな御言葉だが、私達は一說を肯定せんがため他說を否定するのだとたびたび精神分析に向けられる曲解に諸君がここぞとばかりに荷擔されては困る。私達に

は何も人性に潛むけだかき努力を否定しようとする計畫などは毛頭有しない。そのけだかき努力の價値を貶すやうな行爲を一度もやつた覺えはない。いや全く反對だ。私は檢閲に價する夢の惡なる願望を諸君に御覽に入れたばかりか、その惡なるものを抑壓し隱蔽しようとする檢閲官の姿までお目にかけてあげたではないか。人類の精神生活を改良しないどころか、人類の精神生活を隱蔽するが目的で、惡なるものを極力否定する人達があるが故にのみ、力を強めて私は人類の惡なるものを長い間論じたのである。一側面に偏した倫理價値を放棄する曉こそ、私達は人性に於ける善と惡の相互關係に關して正しい公式を編み出す事が出來るのであらう。

この問題はこれだけで落著しない。夢判斷の仕事の業蹟が、たとへ奇怪な姿となるはめになつたとて、何もわざわざ捨て去る必要はない。多分後日私達は他の道程から夢を理解する事に接近出來るだらうが、現在のところでは夢の歪みは夜分睡眠中に私達を攪亂するある穩當でない願望衝動に對して自我の既知の傾向に行使されてゐる檢閲官の干渉の成果だと斷言しておく事にする。だが一體何故にこの醜い願望が丁度夜分に限つて、そして一體どこから現れてくるかといふ問題にはさらに多數の疑問と研究が殘されてゐる。

私達が只今の研究の一方の成績を正しく推擧するを怠つたとて不當は申せなかつたらう。睡眠中

にわれわれを攪亂しようする夢の願望は私達には氣付かないものである。夢判斷を通して始めてその實在を知るところのものである。卽ち私達の言葉で申せば夢の願望はその時無意識なものであるのだ。だが、この夢の願望はその時無意識である以上だと申しておかなくてはならぬ。多數の實例から學んだやうに、夢見た人が自分の夢を解釋して貰つて、その願望を承知してもやつぱり本人は執拗にその願望の存在を否定してかかるのである。丁度「Aufstossen（アウフストオセン）」の口滑りを解釋した時司會者は自分の恩師を輕蔑するやうな氣持をその時いや未だ嘗て一度も意識した事はないぞと昂然と保證したと同じ態度が夢判斷に於てもいつも反復されるのである。さやうな反駁は强く歪められた夢を解釋した時に最も頻繁に放たれる。從つて私達の懷く見解は一そう意義を强めてくる概がある。精神生活には全く氣付かない、非常に長い間全く氣付かない、いや恐らく一度も意識に登らなかつた過程、換言すれば傾向が存してゐると假定する準備が出來上つた。叙上の理由から無意識なる言葉に一つの新しい意味が這入つて來た。「その時」とか「暫時」とかいふ附けたしは無意識の本質から消失してしまつた。無意識なる名稱は、單に「その時潜在してゐた」といふ意味でなしに、永久に無意識なるといふ意味を具してもよい事になつた。だがこの無意識に就ては他日もつと詳しくお話ししなければならないのである。

第十章　夢の象徴

夢の理解を阻まうとする夢の歪みは穩當でない無意識的願望衝動に干渉する檢閲作用の成果である事實を發見した。だが私は何も檢閲官のみが夢に歪みを釀す唯一の因子と主張した憶えはない。一歩進めて研究してみると、この檢閲官の權力以外に夢の歪みになほ別種の因子が關與してゐる事を見ひ出すのである。たとへ檢閲官が追放されてしまつても、夢と申すものは私達にはやつぱり理解しにくいものであり、顯在した夢は依然潜在した夢と符節を會したやうな同一な姿をとらないと敢て斷言出來るのである。

私達の術式に横たはつてゐるある缺陷に注意すれば、夢を不透明にする他種の因子、卽ち夢の歪みの新しい寄與は自然明るみへ出てくる。被驗者は決して夢の個個の要素に對していちいち聯想を浮べる事が出來るものでないと既に諸君にも白狀しておいた。勿論浮べないといふやうな例は人が申す程多數にあるものでない。大抵の場合根氣よくやつて行けば聯想は總ての要素に浮んでくるが、聯想が全く現出しない場合や、いくら氣張つても私達の豫想してゐる何物も摑めぬ場合も數多ある

のである。若し精神分析治療中にかやうな事が起こつたとすれば、これには何か重大な意義が含まれてゐると申せる。併しここではこの治療上の重大な意義に論及するのは罷めておくが、同じ事が健康な人の夢判斷や自分自身の夢判斷の場合にも惹起してくる。かやうな場合に遭遇していくら踏張つても總てが水泡に歸したと信じた時は、この望ましくない偶然は極まつて夢のある要素にからみついてゐる事を發見する。術式が失敗したといふやうな例外の場合に行きあたつたことは、要するに、その例外には何か新しい原則を認むべき緒口が存してゐることになる。

この論法から夢のこの沈默な要素に說明をつけ、その要素を獨特な方法によつて翻譯しようといふ形勢に立ち入つたのである。若し諸君が大膽に私の言はうとする置換を信頼して斷行するなら、常に一つの滿足な意味に達する事に驚歎されようが、若しこの方法を決行せずにぐずぐずしてゐれば、夢は諸君に永久に意味のない連絡のばらばらになつた姿を示してゐるだらう。このやうな似よつた經驗を數多重ねて行くうちに、私達が最初こわごわやつた試練に確乎とした自信がついてくるのである。

只今私は簡單に一切の事を梗概的に敍する事にする。梗概を述べるのは敎授法に都合がよいので、決して決して誤魔化す目的ではないのだ。私の申す方法とは、夢の要素を丁度世人が通俗な夢占の

本と照し合せて夢見た總ての事柄を翻譯するやうに、殆ど同じ翻譯を根氣よくやつてみる事である。ついでにさつきの聯想法の術式の方は夢の要素に對して一定不變の代用物を決して引き出し得ないところを頭に置いておいて欲しい。

諸君は早速に解釋のかやうな方法は以前の自由聯想を以てした方法よりも數倍不正確であり難詰の多いものだと仰しやるかも知れぬが何も頭からさう一概に貶しつける譯には行かない。と申すのは、經驗上かやうな一定不變な代用物を澤山蒐集してみれば、夢判斷のこの部分は實際自分自らの智識から埋める事が出來たものだ、夢見た人の聯想を借らずともこの部分は明白に理解出來たものだとあとで言ひたくなる。ではどこから私達がその意味を知るやうになつたかは本章の後段で述べる事にする。

夢の要素とその翻譯の間に介在するさやうな一定不變の關係を私達は象徵的と呼んでゐる。即ち夢の要素それ自體は夢の無意識な思考の象徵であるのだ。以前私が夢の要素とその本來的なものの間に介在する關係の研究に手を染めた時に、かやうな三つの關係、即ち第一は全體を一部で置換すること、第二は諷示すること、第三は繪畫化することに區別しておいた事を記憶されるだらう。その時第四の關係を報告しておいたが名稱は與へずにおいた。この第四の關係こそ只今紹介した象徵

である。象徴に關聯して非常に面白い議論が湧いてくる。ところで象徴に特別な觀察を下す前に、一つ私達はこの議論の方を取扱つてみる事にする。恐らく象徴は夢學の最も驚くべき一章であるからだ。

先づ第一に象徴は一定不變な飜譯であるから、術式は丸で違ふが、ある點古代の夢判斷や通俗な夢占と思想的には兩者相通じてゐる。夢見た人に何の質問も提供せず、勿論夢見たその人が象徴に就て何の智識も所持してゐなくても、私達は象徴を借りて夢を解釋する事が許されるのである。常套な夢の象徴、それに加へて、夢見た人の人柄、夢見た人が呼吸する環境、夢の現出前に受けた印象を知り得たなれば、丁度一枚一枚逐字譯をするやうに、造作もなしに夢が解釋出來る武裝が調つた事になるのだ。かやうな技巧は夢占者を自惚さし夢見た人の度膽を拔くに相違ない。夢見た人にいちいち質問を浴せかけて行く以前のあの苦しい仕事に比較すれば、今度の仕事は易易として仕上つて行くのである。併し諸君は自惚のあまり邪道に落込まない用心が肝腎だ。詭計を弄するのが何もわれわれの目的でない。象徴と申す智識を土臺としてやるこの解釋は決して術式とは名付けられない。この解釋は聯想の補充乃至對照であると見做すべきである。卽ち象徴は自由聯想の補助であつて、象徴から誘導された結果は自由聯想と併用した時にのみ有效となる。然しながら夢見た人の

心理狀態に關する私達の智識に就て第一は諸君に昵懇な人達の夢ばかりを解釋にかけぬ點、第二は夢の煽動者である晝の日の出來事を大概知つてゐぬ點、第三は被驗者の聯想は私達が丁度心理狀態と稱してゐる智識を諸君に惠んで吳れる點、この三點を諸君は考察して見たいと思はれるだらう。

さらに夢と無意識に介在する象徵關係の問題に向つて激烈な非難が現れた點は特に驚くべき事で後日述べようとする事柄と關聯して注目しておいて欲しい。と申すのは、今迄長らく精神分析にともごもに好意を持つて批評し傍觀して吳れてゐた人達でさへ一度この象徵といふ問題に來ると忽ち席を蹴つて私達に傾聽する事を屑くしないのである。併し第一に象徵は夢にのみ特有なものでないし、決して夢の本質ではない事、第二に夢に現れる象徵は何も精神分析の發見したものでない事を合せ考へて見るならこの態度は隨分可笑しなものと申せる。若し近代の始めに人を求めるなら、夢の象徵の發見者はあの哲學者セルネル（一千八百六十一年）であらう。精神分析はセルネルの發見を樹立し、この發見をさらに根本的に改良したものであるのだ。

偖て諸君は夢の象徵の本質及びその實例に就て何か知りたいと望まれよう。私は喜んで私の智識を披瀝したいのだが、今日迄の造詣は殘念にも大して深いとは申上げられない。

象徵關係の本質は一つの比喩である。だがこの比喩は決して出鱈目なものでない。私達はこの比

喩にある特別條件を期待しなくてならぬが、この特別條件なるものが何であるかを一寸口に申す事が不可能だ。第一にある物質、ある現象を私達が比喩する。そのどれもこれもが總て夢の中に象徴となつて現れて來るのでない。第二に夢は勝手な總てのものを象徴化しないどころか、單に潛在してゐる夢の思考のある要素だけを象徴化しようとする。換言すればこの二方面に制限が設けられてゐるのである。只今のところ象徴の定義をきつぱり限定する事が出來ない。象徴は代用物とか描寫と混同されるし、ある時は諷示にさへ接近してしまふと白狀しておかなくてはならぬ。ある種類の象徴では、その底に流れてゐる比喩がはつきり浮かび出てゐる事があるが、他の種類の象徴では、この推定した比喩の緩衝帶をいづこに探すべきやといふ疑問が湧いてくる時さへある。この場合私達が熟考を重ねばその比喩が發見出來るかも知れぬが、ある時は永遠に私達に隱されてゐる事もある。象徴が一つの比喩であるなら、この比喩は聯想によつて引出されぬし、夢見た人も勿論この比喩に氣付かずして、知らない癖にその象徴を利用してゐるといふ事は實に奇怪な點である。もつと進むと夢見た人は象徴を突き出された時に、それを承認する事を心よしとしない事もある。以上の事實から、象徴關係は全く特殊な比喩であつて、その本質に到つては今のところまだ闡明されない節が多いのだ。だが、もつと研究を深めて行くとこの不闡明な部分にもある曙光が差込んでくるだ

らう。

夢中に象徴的描寫を借る事物はあまり數多くない。からだ全體、兩親、子供、兄弟、姉妹、分娩、死、裸體――これにもう一つ。家は全身を描寫する唯一の典型的な卽ち規則的なものである。これは既にセルネルも認めたものだが、セルネルはこの象徴に不當な意義を與へて誇張し過ぎた觀があつた。夢中である時は快感に滿たされ、ある時は恐怖に駈られて家の前面を傳つて下りてくる。壁が非常に滑かな家は男性の象徴だが、若しぶらさがる事の出來る欄干とか露臺が附いてゐる時はその家は女性である。兩親は夢中に皇帝とか女王とか、又王とか王妃とか、さらに他の偉い人となつて現れてくる。この時の夢は非常に敬虔に充たされてゐる。子供とか兄弟姉妹は夢の中ではあまり優待されない。卽ち小さい動物、毒蟲として象徴される。分娩は常に水と關聯して象徴される。水に飛び込むとか、水中から這上るとか、水中から人を救ふとか、水中から人に救はれるとか、省言すれば母と子供の關係を象徴化してゐる。死は夢中で旅立ちとか鐵道旅行で置換される。死の有樣は種種な暗黒な恰もびくつくといふ仄かしで示される。裸體は著物や正服で示される。諸君は今の例で象徴的描寫と諷示的描寫が互に混同されてゐるのに感付かれるに相違ない。

これ等の例はあまり貧弱に失するが、目を轉じて、他の圈内の事物とか内容を見るなら、驚く程

豐富な象徴で描かれてゐる。私の言ふのは性生活の圈である。卽ち、生殖器、生殖現象、性交の世界である。夢に現れる夥しい象徴はこれ悉く性的象徴であるのだ。このため不思議な不平衡が現れてくる。と申すのは、肝腎な內容は極少數だが、その內容を示す象徴は實に多數で、その結果これ等の事物のおのおのが同價値とも言へる無數の象徴で表現される。だから象徴を解釋すると、その結果は一般の人人の失望を買ふことになる。卽ち象徴の解釋は夢の歪みの千差萬別な姿に比較してあまりに單調に失するからである。象徴の解釋を知れば大抵何だと不興な顏をされるものだが、これはどうも致方がない事ではないか。

この講演で性生活に觸れるのは今度が始めてである。この機會に私はどういふ態度で性といふ題目を論ずべきやといふ心算を諸君に一言述べておく責任がある。精神分析は決して隱蔽とか暗示とかを屑しとしない。精神分析はかやうな重大な材料を研究する事を以て一向恥辱とは考へてゐない。性なる一切の現象をその眞の名前でよぶ方がむしろ正當でありまた上品であると私は考へてゐる。そして眞正直な態度で行ふ方が、くだらない餘計な聯想を最も早く取りのぞく事が出來ると思つてゐる。男女混合の聽講者に述べるとて何等その態度を變更する必要はない。科學と申すものは決して隱言葉で述べる必要はないし、さらに又おぼこ娘に話をするやうにも述べられない。この講堂に

出席された以上婦人達は男子と同等に取扱はれん事を希望してをられるのだと考へても差支へないだらう。

さて男子生殖器は夢中の描寫に於て無數に象徴化される。そしてその比喩の裏にある共通の思想は概して一目瞭然に看取される。第一に男子生殖器は全體として神聖な數字である3で象徴される。生殖器のうちで最もいやちこな、男女にとつて最も興味ある部分、即ちペニスは象徴代用として第一に、それと形態の類似した物品、即ち長い突出した物品、即ちステッキ、傘、柱、木等で示される。さらに體内に突入して肉體に傷をつける物品、即ちメス、匕首、鎗、サアベルのやうな鋭利な武器で示されるが、同時に火裝武器、大砲、ピストル、陰莖と非常に形の似てゐる連發拳銃で示される。恐怖で充たされた娘の夢の中に、メスや飛道具を手に持つた男が追跡してくる光景が大きな場面を作つてゐる。かういふ光景は夢の象徴として最も頻繁に現れるもので、諸君でもかういふ例に會へば只今から早速翻譯出來るに相違ない。さらに男子生殖器が水を流す物品に依つて代用される事も極く想像しやすい事だ。即ち樽の呑口とか水瓶、噴水に依つて示される。又長くなる物品例へば釣ランプとか繰出し鉛筆等で象徴される。鉛筆の軸、爪鑢、ハンマア、その他の物品は明らかに性的象徴であつて、これ等は悉くこの器官の最も通俗的な概念と關聯してゐるのである。

重力に反對して立ちうるペニスの驚くべき特性卽ち勃起の現象は輕氣球、飛行機、最近ではツエペリン飛行船で象徴的に描寫されてゐる。だが夢は勃起を他の、もつと印象深い姿で象徴する。夢はペニスを全人格の本質と考へてこれを「飛ぶ」といふ事で示す。諸君がよく見る美しい飛行の夢は一般に性興奮の夢、勃起の夢を意味してゐる事を拒ばないだらう。精神分析家のうちでフエデルンは種種な疑惑に反對して私の解釋が正しい事實を確定した。この人以外にその謹嚴さで一般の賞讃を博したムリイ・ヴルドは、胸とか下肢を人意的に變へてみて夢の實驗を試みた。勿論この人の學說は精神分析とはかけはなれてゐたし、精神分析に就ても一向知らなかつたらしいが、その實驗の結果は精神分析と同一の歸著に到達したのである。女も同じ飛行の夢を見るぢやないかと諸君の抗議がそこらで出る筈だ。夢は願望實現である事、女には男になりたいと言ふ願ひが意識的に又は無意識的に非常によく存してゐる事を思ひ出して欲しい。この願ひを男と同じ感情で實現する事が女に可能である事は何も解剖學の專門家を俟つ迄もない。女はその生殖器に男子と類似の小さいペニスを持つてゐる。この小さいペニスなるクリトリスは子供時代や性交經驗前の年齡に於てさへ男子の大きな陰莖と同じ役割を演じてゐるのである。

あまりしつかり理解されてゐないが、ある種の爬蟲動物と魚類が男子の性的象徴に屬してゐる。

就中蛇は有名な象徵である。帽子と外套が何故同じ目的に利用されるかに就てはつきりした事は分かつてゐないが、この象徵の意味は最早疑ふ餘地がない程確かである。最後に男子の陰莖が他の莖部、卽ち足とか手に依つて示されるのは象徵的と名付けてよいかといふ質問が出てくる。さういふ物は、夢の內容と關係があるとか又その中に女性の對象物が存してゐるとかいふ場合に、初めて象徵的だと結論を下してもよいのだ。

女子の生殖器は象徵的に凹みのある物品とか容器の總てに依つて描寫される。例へば窪、孔、洞窟とか、又一方甕、罐、紙箱、函、種種の形の箱、櫃、長持、ポケット等で象徵される。船もまたこの中に這入る。大抵この種の象徵は女子の隱部よりも子宮に關係するところが多い。例へば、杯とか竈、就中部屋はその代表的なものである。部屋の象徵は家の象徵と結びついてゐるが、戶とか戶口は生殖口を象徵してゐる。さらに木材とか紙とかいふ原料も同樣女性の象徵であり、さういふ原料から製造された物品、例へば卓子とか書物もまた女性の象徵である。動物のうちでは蝸牛と貝は明白に女性の象徵と申せる。身體各部のうちで口は生殖口の代表であり、建造物のうち寺院と敎會が女性の代表である。勿論これ等の象徵は皆が皆迄成程と卽座に理解出來るものではない。

乳房は女子の性器官に數へなければならぬ。だから女のからだの廣い半球と同樣、乳房は林檎と

か桃とか廣く一般に果實に依つて描かれてゐる。兩性の恥毛は夢の中では森とか叢に依つて記載される。女子の生殖部の複雜な地形は岩、森、水のある風景によつて非常に廣く描寫され、男子の生殖器の凛凛しいメカニズムは細述する煩に堪へない程複雜を究めた器械によつて象徵されてゐる。

女子の生殖部の象徵に就て特に申しておきたいのは玉手箱である。夢の中でも寶玉とか秘藏物が愛人と關係してゐる。美食はしばしば性享樂として描寫される。自分の性器官で慾情する事は幾多の種類の彈奏、ピアノ彈奏によつても暗示される事がある。自慰の象徵描寫は最も典型的に滑るとか、木を引抜くとかで示される。特に驚くべき象徵は自慰を夢中で齒が拔けるとか齒を拔く事に依つて表現する事である。これはどういふ譯かと言ふと、自慰の刑罰としての去勢で示される事が先づ確かなところだらう。性交の特別な描寫は、夢の中では、今迄述べた點から期待するわりにはその數はあまり乏しいが、律動的行動、例へば舞踏、乘馬、登山がこの中に屬し、さらに追ひ詰められるやうな暴行の經驗も性交を示してゐる。なほこの上に、手仕事もこの意味を暗示し、先刻述べた兇器での脅迫も性交の象徵に這入る。

これ等の象徵が極く單純に利用され翻譯されてゐると想像して呉れては大間違ひだ。總ての方面から私達の期待を裏切るものが現出してくる。一例をとれば、諸君には一寸信じ難い點であるが、

このやうな象徴的描寫にはしばしば性別が劃然と現れてゐない。ある象徴、例へば小さい子供、小さい息子、小さい娘は男女の區別なしに一般に生殖器を意味してゐる。さらにある場合には普通男性であるべき象徴が女子の生殖器に使用され、又あべこべに、女子のものが男子の生殖器に用ゐられることがある。この點は諸君が人類の性的空想の進化を研究されたなら成程と合點が出來るものである。大抵の場合このやうに象徴が曖昧なのは單に表面だけであるが、なほさういふ象徴のうちで武器、ポケット、箱は決して兩性的に用ゐられないのは特筆すべきことである。

私は象徴化された物品よりも象徴それ自身に就て一言觸れておきたい。そして諸君にこの性的象徴の大部分が一體どこの世界からやつて來たかをお話し、合せて一寸理解しにくい共通性をもつた象徴に就てなほ二、三の事を追加しておきたい。このやうな曖昧な象徴は帽子である。一般に頭部に冠るものは皆さうらしい。大概の場合帽子は男性の意味であるが、時には女性の意味をとる事がある。同樣に外套は男性であるが、いつも極まつて生殖器と關係してゐるとは申されない。何故だといふ疑問が諸君に湧いてくるのは當然だ。だらりと垂れてゐる、女が決して付けないやうなネクタイは誰が見ても男性の象徴である。白いシャツとかリンネルは一般に女性である。既にお話したやうに、衣服や正服は裸體とか人體を示してゐるが、靴とかスリッパは明白に女性の生殖器を代用

してゐる。一見謎のやうであるが、卓子とか木材は確かに女性の象徴である事は前述しておいた。梯子、阪、階段、特に昇るといふ事は明らかに性交の象徴である。深く考へてみれば、このやうに昇る時には律動が伴ふものだ。この律動が二つに共通してゐる點であらう。さらにまた、高く登るに從ひ呼吸が逼迫する、卽ち興奮の增大も共通してゐるのだらう。

風景が女性の生殖器の描寫である事は旣に論じたが、山とか岩は男性の陰莖の象徴であり、庭はしばしば女性の生殖器の象徴である。果實は子供を意味せずに乳房を意味する。野獸は肉慾に悶えゐる人類とか、さらに廣く姦黠な衝動や情熱を意味する。花卉は女の生殖器を示し、特に處女性を表してゐる。諸君は花が實際植物の生殖器である事に思ひつかれるだらう。

幾度もお話したやうに部屋は象徴に使はれてゐる。この描寫はもつと擴大さす事が出來る。例へば窓とか部屋の入口、出口は體孔の意味を含んでゐる。部屋を閉める事、部屋を開ける事も象徴であつて部屋を開ける鍵は確かに男性の象徴である。

これ迄が夢の象徴を硏究する上の材料であるが、決してこれだけでは十二分でない。さらに深く耕し廣く擴張しなくてはならないのだ。併し諸君にはこれだけでかなり十分だと考へてゐる。察するところ諸君はこれだけでもがつかりされたであらう。「まるで性的象徴にかこまれて生活してゐる

るやうですね。私の周圍に轉がつてゐる物品、私の著てゐる衣服、手に持つてゐる品物、こいつはみんな性的象徴に外ならないと言んですね。」と諸君が質問されるが、諸君のはなたれる疑問は總て同感である。これ等のうちで、ぢや、夢見た人自身が始ど又は全然その智識を與へないのに、先生は一體ごうしてそのやうな象徴の意味を知り得たのであるかが諸君の第一の疑問であらう。

私はかう答へる。種種な淵源からだ。お伽噺、神話、地口、洒落、士俗學、換言すれば風俗、慣習、言語、歌謠、詩歌及び俗語から知つたのであると。同一の象徴が到るところに散在してゐる。私達は何の豫備智識を持たなくとも、この部門の到るところに同一の象徴を發見する事が出來るのだ。若しこのやうな源泉を各部門に渡つて探つてみるなら、夢の象徴との相似が發見出來て、私達の申す解釋が結局正しい事を認めざるを得ないやうになるだらう。

セルネルに依れば人體は夢の中でしばしば家の象徴によつて描寫される。この象徴を敷衍すれば、窓、戸、戸口は體孔の入口を意味する。家の前面は滑かな事もあり、露臺のある事もあり、また支持の出來る張出のついてゐる事もある。併し俗語にも同じ象徴が發見出來る。例へば親しい知人を愛相よく「altes Haus」(古い家)と呼びかけるし、「einem eins aufs Dachl geben」(屋根の上のものを彼に與へる。彼の思ひ通りでない。)と言ふし、ある人を「es sei bei ihm nicht richtig im Obe-

rstübchen」（彼の言ふことは階上では正しくない。彼は氣がふれてゐる。）と形容する。解剖學では體孔を「Leibespforten」（體腔の門）と名付けてゐる。

夢の中で兩親が皇帝とか王及びその王妃となつて現れると聞けば一寸意外だが、こんな事は何も夢に限つたものでない。お伽噺の中に同一の事が見ひ出される。大抵のお伽噺の發端にむかしむかしまづ或るところに王樣と妃がありましたと言ふのは、むかしむかしぢいさんばあさんがありましたとさと言ふのと同じ事である。家庭にあつて私達は自分の子供をふざけて王子と呼び總領息子を皇太子と言ふ。王は自分を國父と名付ける。私達は子供をふざけて「蛆蟲」（Würmer）といひ、憐愍の情を雜へて「可哀さうな蛆蟲」とやる。

さらに家の象徵に戾つてみよう。夢において家の張出を握まへどころに利用する事實から、皆の知つてゐる諺で非常に發達した乳房を持つた女を「Die hat etwas zum Anhalten.」（あの女は握まへどころを持つてゐる。）と言ふのは同じ象徵でないだらうか。これと同じ時に俗語では「Die hat viel Holz von der Haus.」（女は家の前面に木材を澤山持つてゐる。）と申すのは、木材が女性的な母性象徵だとする私達の解釋を裏書きする觀がある。

木材に就てなほ申したい事がある。どうして「木材」が母性的、女性的の代表物となつたかを知

つてゐないが、比較言語學が早速に間に合ふだらう。獨逸語の「木材」卽ち「Holz(ホルツ)」は希臘語の材料、原料を意味する ὕλη と同じ語原から轉化したのである。原料といふ一般の名前が最後にある特殊な原料にだけ用ゐられるやうになつたのは決して稀有な變遷でないのである。大西洋の島嶼の中に Madeira(マデイラ) と呼ぶ島がある。この名前はポルトガル人がその島を發見した時に附けたので發見當時は到るところ森林が繁茂してゐたのである。マデイラはポルトガル語で木材の意である。このマデイラは殆ど同形の拉丁語の materia(マテリア) 卽ち一般に原料と解されてゐる言葉と同一のものである事を見逃してはならない。ところがマテリアは mater(マテル) 卽ち母から轉化したのである。原料から何かが製産されるが、その原料は恰も母性の生む力を持つてゐると考へたからである。木材を女、母と象徵的に用ゐたのはかやうな古い思想の遺物であるのだ。

分娩は夢の中でいつも水と關聯して表現される。水に飛び込むとか水から這ひ出るとかは子を産むとか誕生する事を意味してゐる。この象徵は進化史の事實の上から二重の意味を有してゐる事を忘れないでおいて欲しい。卽ち總ての陸棲の哺乳動物、さらに人類の祖先は水棲動物から進化したのである。これはあまり遠い事實だが――兎に角哺乳動物は殘らず、いや人類でもその生存の第一期を水中卽ち胎兒として母胎の羊水中で送つて、分娩に依つて水から出て來たのであると申せる。

夢見る人はこの事實を知つてゐるとは主張出來ないが、私は夢見る人はそんな事實を知る必要はないといふ意見を持してゐる。夢見た人は多分子供の時に話された事をうすうす覺えてゐるが、私はその記憶が象徴形成に關係してゐるとは主張したくない。人はその搖籃時代にかうのとりが子供を連れて來たと話されたものだが、ぢや一體かうのとりはどこから子供を連れて來たのか。池から濠から、卽ち水から連れて來たのである。私が預つてゐるさる患者は子供の時にこのお話を聞かされた。——この患者はその時は伯爵の息子であつたが——その話を聞いた午後ぷつつり姿が見えなくなつてしまつた。やつとして家のものはこの子供がお城の濠の側に寢そべつて顏を水面に向けて熱心に赤ん坊が水の底に現れてくるかどうかをぢつと見守つてゐるのを發見した。

ランクが比較硏究を試みた英雄の誕生に關する神話のうちには大概——最も古いものは紀元前約二千八百年のアガアデのザルゴン王の誕生であるが——一度水になげこんで次いで水から拾ひ上げるのがその主な骨子となつてゐる。ランクはこの象徴的な誕生の描寫は夢に於けると同じ意義をもつて世界の到るところに存してゐる事實を發見したのである。夢中で水から人を救ひ上げる時は、その救つた人を自分の母又は一般に女と變へるがよい。神話に於て子供を水中から救ひ上げる人はその子供の實母であるのである。御存じの一口噺にかういふ話がある。かしこい猶太の子供が「一

體モォゼのお母つさんは誰だと思ふ。」と尋ねられた。子供は卽座に「王妃だ。」と答へた。「いやさうぢやない。王妃は水から救ひ上げて自分の子供にしたのだ。」「王妃は口だけでさう言つてゐるのだ。」と子供が答へた。この一口噺は子供が神話の正しい解釋を射あてた事を證明してあまりあるのだ。

夢の中で旅出つことは死を意味する。同じ事は子供に對する慣習にもある。死んでしまつて姿の無くなつた家内の人を子供が聞きたがる時に、大人はあの人は旅行してゐるのだといふ事にしてゐる。併し夢の旅出つといふ象徴は子供に設けた遁辭的返答に由來してゐるのだと信ずる事に私は反對したい。詩人は同じ象徴を用ゐるではないか。彼岸の事を一度踏みこめばごの旅人（no traveller）も再び歸り難い夜見國と形容する。これと同じ比喩として日常生活でも「死出の旅」と言ひ習はしてゐる。古代の儀式に通曉してゐる好事家は古埃及の信仰に黄泉の國へ旅立つといふ思想がいかに眞劍に信じられてゐたかを知つてゐる筈だ。この死出の旅に際してミイラにベデカアのやうに持たしてやつた死者の書が現今まで遺されてゐる。墓地が住宅地から離れて建立されて以來死者の最後の旅立は眞實となつたのである。性的象徴は何も夢の特産物ではない。諸君は御同然女を見下げて「alte（アルテ） Schachtel（シヤハテル）」（古い箱）と言つたことがあらうが、この時生殖器の象徴を使用してゐると

はまさかお氣付きがないだらう。新約聖書には「女はこはれやすき花瓶なり。」といふ文句がある。猶太の神書は詩に近い文辭でもつて性的象徴の表現に充滿されてゐて、その表現を文字ごほりに解釋すればとんだ間違ひが起こる。が、實際例へば「ソロモンの雅歌」の註釋には多くの見當違ひの解釋が行はれてゐる。後期のヘブライ文學では女を家で描寫し、その家の戸口を玉門とするのは非常に普遍的な象徴であつたのだ。夫は新妻に處女性がないことを知つた時は「戸があいてゐた」と訴へる。卓子を女の象徴とする用法もヘブライ文學に現れてゐる。妻は自分の夫に就て「わたしは夫に卓子をひろげたが夫はそれをひつくりかへした。」と言ふ。夫が卓子をひつくりかへしたあとで生まれた子供は虚弱だと語られてゐる。私はこのやうな研究をブリュンのレヰィの「聖書及び猶太律法に現れた性的象徴」から借用したのである。

夢中の船が女を意味する事は言語學者方面からも承認されてゐる。「船」卽ち「Schiff（シツフ）」の語原は土製の甕で又船は「桶」「Schaff（シャフ）」と同じ言葉だと立證して呉れてゐる。竈が女及び母體の象徴であることは希臘神話のコリントのペリアンデルとその妻メリツサの話が保證して呉れる。ヘロドトスの譯書に從ふと暴君は自分が愛し切つてゐたが嫉妬のあまり虐殺した妻の幽靈に自分の妻の樣子を話して呉れと歎願する。その幽靈は「ペリアンデルよ。お主のパンを火のない竈に入れてみよ。」と

譬へて、いかなる人も窺ひ知ることの出來ぬ境地を隱蔽して、死體の狀態を示してやつたのである。クラウスが編輯した「Anthropophyteia（アントロポフィテイア）」といふ雜誌は、民族の性生活に關するあらゆる智識の貴重な資料であるが、その中にある獨逸の片田舍では分娩した女に就て「女の竈は粉微塵になつた。」と言ふと記載してある。火の燃えひろがること及び火に關する總ての事柄は性的象徵と密接な關係が持つて用ゐられてゐる。焰は常に男子の象徵であり、火所卽ち竈は女の子宮である。

諸君は何故夢の中に景色がしばしば女性の象徵の描寫に用ゐられるかに驚かれるなら、さらに諸君は神話學者に就て、「母なる地」が古代の思想と發祀に實に重視されてゐたこと、農業といふ概念をこの象徵によつて決定されてゐたことを敎へられるに相違ない。夢中の部屋が女を表現する事實は私達の言葉の中に女の代りに「女部屋」(Frauenzimmer)と言ふ場合を思ひ出して欲しい。卽ち人稱はその人の職務に極められた場所によつて表現されるのであらう。同樣に私達は「御門（みかど）」と言ふ言葉を使ふが、これは君主と政治を意味する。古埃及の君主ファラオといふ名前は「大御門」に外ならない。(古代の東洋では丁度中世時代の市場と同じやうに市の二重門の間に在る廣場が集會を催す場所であつた。)併しこの轉化語はあまりこぢつけだと私は考へてゐる。部屋は人間を容れる空所として女の象徵となつたのだと言ふ方が尤もらしい。私達は今迄にこの意味に於て家を知つて

ゐるのである。神話及び詩歌から町、城、館、砦を廣く女の象徴と考へても一向差支へないのである。この問題は獨逸語を話したこともない、獨逸語を全く知らぬ人達の夢からも容易に結論が下せるのである。私は最近外國人の患者を專ら治療してゐたが、さういふ外國人の夢の中に部屋が――尤もその外國人の言語には私達と同じ言葉の表現はなかつたが――女を象徴してゐる事に氣付いたのである。昔の夢占者シュウベルト（一千八百六十二年）も早くから道破したやうに、象徴は國境を超越してゐる事實を確かめるさまざまの證據が存在してゐる。併し私の患者達は獨逸語には全然不案內でないのだから、私は世界のいろんな國國で一つの國語を話す人に就て材料を蒐集して、この問題に斷定を與へられんことを精神分析家に注文しておきたい。

男子の生殖器のうち一つとして洒落とか俗語とか俗謠の文句、特に古代のクラシカルな詩歌に現れないものはない。併しかやうな象徵は夢の中に現れるばかりでなく、他の別のもの例へばいろいろの作業に使用される道具、そのうちでも第一に鋤などにも使用されてゐる。だが男子の象徴を論ずるとなると非常に多方面に涉つて、議論が百出する程だから、私は時間の浪費を恐れてすつくり割愛してしまふことにする。ただ一寸かういふ種類に這入つてゐない3といふ象徴に就て二、三言を費してみたい。3といふ數字が、その有する象徴的意義のために神聖視されてゐるのかどうかは

しつかり決定されてゐないが、兎に角天然界に存在してゐる三叉のものは大抵このやうな象徴的意義に基づいて紋章とか記章に利用されてゐるのは疑ひないところだ。三つ葉の苜蓿などはそれの代表だ。三つの花辨を持つた佛蘭西百合やトリスケレスといふもの（中心から半分曲つた肢が三つ出てゐる）――これはシシリイやアイルス・オブ・マンのやうな非常に遠く離れてゐる二つの島で奇怪な紋章となつてゐるが、――は明らかに男子生殖器を模樣化したものに相違ない。古代にあつてはペニス模型は惡魔退散のいやちこな呪符（アポトラペア）として使用された。これと關聯して、現代の福來守札のすべては一目で生殖器若くば性的象徴とうなづけるものである。小さい銀製の飾の形でさげてゐるこのやうな蒐集物を眺めてみたまへ。四つ葉の苜蓿とか豚とか松茸、さては馬蹄、梯子、煙突掃除人といふやうなものを御覽になる。四つ葉の苜蓿は象徴に適つてゐるあの三つ葉の代理を務めてゐる。豚は古代では生殖力の象徴であつた。松茸はどう考へてもペニスの象徴である。Phallus impudicus（ファルス インプヂクス）といふ分類名の松茸があるが、これはその形がペニスと間違へる程よく似てゐるからである。馬蹄は女子の生殖口の輪廓を髣髴とさす。梯子を持つてゐる煙突掃除人もこの仲間にはひる。と申すのは煙突掃除人は俗語でいふ性交に比較すべき職業をやつてゐるからである。（雜誌、アントロポフィティアを參照。）夢の中では梯子が性的象徴である事を承知してゐるが、なほ

參考迄に、獨逸語の「のぼる」卽ち「Steigen」は明らかに性的意味に用ゐられてゐる。女のお尻をおひまはすことを「Den Frauen nachsteigen」(女のうしろにのぼる)といひ、老いた漁色家を「ein alter Steiger」(老いた梯子のぼり)とやる。佛蘭西語では梯子を「la marche」と申すが老いた漁色家を御同然に「un vieux marcheur」と表現する。大きな動物の交尾はのぼること、卽ち雌に乘ることだと前提すれば、この關係は一向目新しいことではない。自慰の象徴的描寫に木を引き拔くことが用ゐられるのはただに自慰と言ふ行爲の俗語的命名に由來してゐるばかりでなく、廣く神話にもその類似が見付かるのである。併し特に注目に値するのは自慰いやむしろ自慰の刑罰としての去勢を齒の拔けること、齒を引き拔くことで表現した事實である。この表現は夢見る人は極く稀にしか知つてゐないが、土俗學には可成り散在してゐるのである。到るところの野蕃人の間に行はれてゐる割禮は去勢と同價値のものであり、去勢の代用である事實は私には疑ふ餘地がないやうに思はれる。最近の報告に依ると、オオストラリヤで土人のある部落では青年の元服式、卽ち思春式に割禮を行ふさうである。ところが、それと隣接してゐる他の部落では割禮の代りに齒をかちわるさうである。

これ位のところでこの問題を打切りたい。お話したのは極く少數の例である。私達はこの方面に

就てもつと澤山知つてゐる積りである。諸君でもこの方面の實例を蒐集すればどれ程內容豐富であるかを想像されよう。私達のやうなヂレツタントな輩を待つ迄もなく、この研究は神話、人類學、土俗學の斯道の專問家にお願ひしたいものである。以上の研究から私達は二、三の歸著を贏ち得た。その歸著は究きつめるところ迄行けないが、兎に角いろいろの問題を私達に提供して吳れたのである。

第一に私達が提供する問題は、人はその覺醒生活に於てその存在も知らない、認識さへしてゐない象徵をその夢の中に表現する力を持つてゐる事である。例へば諸君のうちの女がボヘミアの寒村生れの山出しである婢にサンスクリツトを知つてゐる事を發見したなら、何たる驚異か譬へやうがない。私達の心理學でこの事實を闡明するのは決して容易でない。象徵の智識は夢見る人には無意識であつて象徵は彼の無意識精神生活の所產である。だがこの假定だけでは物足らない。今迄私達は、人が一時的若くば持續して一向氣付かない無意識傾向があると假定するにとゞまつてゐたのが、今やこの問題は實に大きなものになつた。實にこの問題は無意識的智識、相異つた種種な物象間の思想關係、比較對照を焦點とする事になる。それに依つてある思想が他の思想で一定不變に置換されるのだ。このやうな比較對照はその度每に決して新奇に作られるのでなくて旣にちやんと出來上

つてゐるものだ。いつ何時でもちやんと準備が出來てゐるものなのだ。人種を異にしてゐても、言語を異にしてゐてもその表現には一致點が存してゐるのである。

かやうな象徵關係の智識が一體どこに源を發してゐるのであらうか。言語用法からはこれの極く一少部分しか說明出來ない。いろんな部門に渡つて種種さまざまな類似點がある事を夢見る人は大概知つてゐない。私達でさへ最初は苦心慘憺してこの關係を調べなければならなかつた位であつた。

第二に象徵關係は夢見た人若くば夢が表現される迄の「夢の仕事」に獨特なものでは決してないのである。同じ象徵が神話とかお伽噺、民族の言語や歌謠、俗語及び詩的空想に用ゐられてゐることを知つたのだ。象徵の世界は實に廣大無邊である。そして夢の象徵はその世界の一少部分に過ぎないのである。從つて夢からこの問題の全都を究めようとするのは實に無謀である。夢の象徵のあるものは他の部門の總てにも表れてゐると極まつてゐない。諸君も御覽になつたやうに、夢の象徵は他の部門のあちらこちらに散在してゐるに過ぎないのである。夢の象徵には湮滅した古い表現法が遺つてゐる。そのあるものは、他の種種な部門で種種さまざまな姿で保存され、あるものは甲の部門に、あるものは乙の部門に、あるものは少し變形されていろいろの部門に保存されてゐるやうな觀を呈してゐる。この點に關して私はさる興味ある精神病患者の描いた空想を考へずにはをられ

ない。この男は一つの「根本言語」(Grundsprache)を空想に浮べた。その根本言語の中には只今の象徴關係の一切が遺物のやうに表現されてゐたのである。

第三に考察しなくてはならぬのは、今述べたやうな他部門では象徴は決して性的象徴には限られてゐなかつたのが、夢ではその象徴の殆ど總てが性的事物や性的關係の表現に利用されてゐる點である。これは可なり面倒な問題である。その起原に性的色彩を帶びてゐた象徴が漸次他の性的でないものに轉化され、なほ象徴的描寫が衰亡して他の種の描寫に推移した事がこれに與つて力がなかつただらうか。私達が範圍を夢の象徴と限つて研究してゐる以上このやうな問題に明快な解答は求められない。この研究から本來の象徴と性慾の間には特に密接な關係があるといふ假設だけは確かと申せるだらう。

最近になつてこの問題に貴重な暗示が提唱された。言語學者のスペルベル(ウプサラ)は精神分析とは無關係な立場から、性慾といふものは言語の起原と進化に非常に大きな寄與をしたといふ意見を發表した。この言語學者に依ると最初の發音は性的配偶者に情を通じてそれを呼び出す目的にあつた。原語はさらに進化して原始人の勞働作業に伴つて使用された。これ等の作業は一致協力で行はれて、常に律動的に反復される發聲をもつて音頭を取つて進められ、その結果として作業に性

的興味が移植されたに相違ない。原始人は仕事を恰も性交と同價値のもの、性交の代用物と觀じて、喜んで作業に從つたのである。協力の下で行ふ作業の時に發見せられる言語は二つの意味を持つことになつた。卽ち一つは性交であり他の一つは性交と同價値の仕事を意味することになつた。時が進むにつれて言語から性的意味が失はれてしまつて、言語は後者の仕事だけに殘された。年代を重ねる每に同樣に性的意味を含んだ新しい言語は又新しい種類の仕事に轉用されて、再びその性的意味を失つてしまつて行つた。かやうなことを繰返すうちに言語の少數が形成されたのである。この語原たるやすべて性に發して、その性的意味を失つてしまつたものである。若し今述べた意見が正いものであるなら、私達が夢の象徵を理解する上に當然新しい世界が開けてくるのである。何故にこの原始特質を多分に保存してゐる夢なるものに性なる象徵が驚く程多數に存してゐるか、又何故に武器とか道具なるものが常に男性の象徵であり、材料と加工品が女性の象徵であるかの理由がこれによつて理解することが出來るだらう。象徵關係は言語の原始的比喩の遺物である。大古に生殖器と同じやうに呼ばれたものは現今では夢の中に生殖器の象徵となつて現れる事が出來るのである。

夢の象徵の一致點から諸君は精神分析の妙味を鑑賞することが出來よう。精神分析は心理學でも精神病學でもなほ達し得ない程破天荒な民衆の興味を喚起し得たのである。精神分析は他のあらゆ

る精神科學に根をおろしその研究の歸著は神話、言語學、土俗學、民族心理學、宗教學に貴重な結論を惠んだのである。精神分析の土壤の上に一つの雜誌が成長して行つたことは既に諸君も御存じの筈だ。一千九百十二年に創刊されハンス・ザックスとオツトオ・ランクに依つて編輯されてゐる「Imago（イマゴオ）」といふ雜誌は實にこれらの關係を開拓することを唯一の使命としてゐるのである。これらすべての部門から精神分析は敎へられたものよりそれ等の部門へ敎へたものが多かつた。精神分析は一見奇怪と思はれるわれわれの結論を他の學問界でもう一度確證し直して受けるところの利益は多かつたが、大局から見れば、精神分析はテクニカルな方法と著眼點を提供して、それを應用することによつて學問界の各方面で實に豐富な效果が收められたと申せるのである。人類の精神生活は精神分析によつて說明されることが多い。その說明の下に私達は人類の衆團の生活の多數の謎を氷解し、さらにこれ等の問題を僞のない光で眺めることが出來るやうになつたのである。

　私達はごういふ條件の下に今假定したばかりのあの「根本言語」に最も透撤した洞察を下し得るか又いかなる領域に於て根本言語の多數が今もなほ保存されてゐるかの問題に未だ一度も觸れてみなかつた。諸君がこの問題を解決しない限りは、全問題の眞意義を評價することは不可能である。いかなる領域と申すのは神經病者の世界である。神經病者の示す症候や表現こそその資料の寶庫で

ある。神經病者を研究しさらに治療してやるために精神分析が創始されたのだ。

私の申す第四の見地から眺むれば私達は最初の出發點に立歸り目指す航路をとらねばならぬ。よし檢閲官が存在してゐなくても夢はやはり理解しにくいものであると先刻申した。その譯は夢の象徴言語をわれわれの覺醒生活の思考に飜譯しなければならぬ任務が存してゐたからである。だから象徴は夢の檢閲官と同等に夢を假裝さす第二の獨立した因子であるのである。ところが象徴を利用することは、象徴の假裝によつて夢を奇怪に不理解にすることによつて檢閲官の目を誤魔化す事に役立つのである。

さらに深く夢を研究するうちには、夢を歪める他の新しい因子に遭遇しないものだらうかといふ疑問には、次にお答へすることにする。象徴が神話、宗教、藝術、言語に普遍なことは明明白白であるのに、教養ある人人の間に夢の象徴がそんなに大袈裟な反抗に觸れたと申す謎にもう一度觸れずして私は夢の象徴の題目を打切る譯に行かない。ここでもまた性慾關係がその主因であつたらうか。

第十一章　夢の仕事

夢の檢閲官と象徴に諸君は精通された筈だ。だがそれだけで夢の歪みをすつくり看破したと一安心されてはいけない。だがまづまづ大體の夢はそれだけで理解出來るだらうと思はれる。諸君はあの二つの補足し合つてゐる術式を活用し代用物から本來の物に突入出來る迄根氣よく夢見た人に聯想を續かしめ、さらに被驗者に就て諸君の知つてゐる智識を土臺としてその象徴の意味を挿入することにすれば夢は實事に理解出來るのである。この際現れてくるある種の不確實な點はいづれ後日述べる積りである。

偖て以前に夢の要素とその本來のものの間に介在する關係を研究した時に私達が不十分な方法で試みた仕事を只今もう一度やりかへてみることが出來よう。あの際私達は全體を一部で置換すること、仄かし若くば諷示、象徴關係、造形的言語描寫の四つの重要な關係を樹立する事が出來たのである。さていよいよ顯在夢全體とあの解釋法を以つて摘發した潛在夢を比較對照して、大規模に同一題目の研究に著手しようと望んでゐる。

諸君にさつきのと只今のとを混同しないやう篤とお願ひしておきたい。諸君が二つを區別することが出來るなら、私の「夢判斷」の著述をお讀みになつた讀者よりも數倍も深く夢を理解した事になるのだ。潜在夢を顯在夢に轉化する仕事を「夢の仕事（トラウムアルバイト）」と名付けた事をもう一度頭にしつかりたたきつけておいて欲しい。そして顯在夢から潜在夢に達しようとする、「夢の仕事」と逆な方向に進める仕事は私達のやつてゐる所謂「解釋の仕事（ドイツングスアルバイト）」となるのである。卽ち「解釋の仕事」は「夢の仕事」を看破するを目的としてゐるのだ。願望實現が明白に現れてゐる小兒性の夢にもまた夢の仕事が一部與してゐる。この夢の仕事は願望形式を現實に轉化し、さらに思考を視覺影像に轉化する役目をしてゐる。かういふ夢の場合は解釋なぞは無用である。ただ今の二つの轉化を逆に行けばそれだけで夢の意味がついてくるのだ。なほ他種の夢にも夢の仕事が干與してゐる證據は先程申した「夢の歪み（トラウム・エントシユテルング）」（Traumentstellung）である。この歪みとて私達の解釋法に準じて逆に進めば本來のものにつきあたるのである。

「夢の仕事」なるものが一體どういふ工合に潜在してゐる夢の思考の材料を取扱ふかといふ問題を總括的に諸君にお話する立場にやつて來た。併し諸君はあまり澤山知りたいと望まれないやうにお願ひしておきたい。ここでは極く一少部分の記述に留めておくがこの一少部分を十分落著いて注目

される事を希望する。

夢の仕事の第一作用を「壓縮(フェルヂヒツング)」(Verdichtung)と申す。「壓縮」とは顯在夢が潛在夢に比較してその內容が少い事、換言すれば、潛在夢の抄譯を意味してゐる。ある場合壓縮が缺けてゐることがあるが、大抵の場合壓縮作用は存在してゐる。場合によれば非常に法外に壓縮が行はれることがある。壓縮作用は未だ嘗て反對に行はれた事はない。卽ち顯在夢が潛在夢に比較してその內容が莫大であつたり、その規模が廣大であつたりするやうな例は決して存し得ないのである。壓縮は次のやうな過程で行はれる。第一。ある種の潛在要素が全然省略される時。第二。潛在夢に對する多數の錯綜中の斷片だけが顯在夢に移行する時。第三。ある共通點を持つた潛在要素が顯在夢として集成され、一つのまとまつた姿に融合されてしまふ時。

お好みなら只今の第三の過程だけを「壓縮」といふ名稱でおよびになつても差支ない。その壓縮作用の效果は特別平易に說明することが可能だ。諸君自身の夢をお考へになれば何の造作もなしに、いろいろの人物がたつた一人の人物に壓縮されてゐることを思ひ出されるであらう。このやうな合成人物は例へば容貌は甲のやうだが、乙のやうな着物をつけて、丙を思ひおこさすやうな仕事をやつてゐる。それでゐて本當は戊かも知れぬと考へられる。勿論この合成人物の中には四人に共通し

たものが特別に目立つてゐる。人に就てと同じに物品又は場所に就ても物品若くば場所のおのおのの中に、潜在夢が特に强めてゐるあるものが共通して存してゐるといふ條件が完備される時は一つの混合が形成されるのである。譬へばこの共通したものを核として新しい卽興的な一つの概念を形成したと申せる。お互に壓縮された各部がまた縺れあつて、丁度諸君が一つの原板で何回も撮影したやうな、輪廓のはつきりしない朦朧とした形像が出來上るのである。

このやうに接ぎ合はしたやうな姿が形成される事は、夢の仕事で特に重大なものである。卽ちこの混成に必要な共通點が、故意に作られた事は明瞭に證明出來る。こんな時は、例へば、ある思考に對して特殊な言語的表現を採つてゐるために、この共通點は最初は見逃しやすい。私達はこの種の壓縮と混成を旣に承知してゐる。さういふものは、言ひ間違ひの多くの例で御覽になつたやうに、その發現に大きな役割を有してゐたのだ。娘を begleitdigen（ベグライトディゲン） しようと欲した靑年を思ひ出されよう。なほ言ひ間違ひの外に洒落がある。洒落を分析しようとすればこの種の壓縮に溯ればよいのである。洒落の問題はさておいて壓縮と名付ける過程は全く世の常ならぬ程に奇怪なものだと敢て力說しても差支へない。夢中の混成人物の姿と同じものが私達の空想の創造物の多數のものに發見出來る。例へば、人馬（センタウレ）とか古代神話の架空動物とか、ベックリンの繪畫に於けるやうに、その各部分に、現

實上相互に關聯してゐないが空想は容易にその各部分を合成して一つのまとまつた姿を作り出すのである。「創造的空想」とて何も新機軸を發見したのでない。緣も因りもない各部分を互に寄せ集め一つのものを合成したのに過ぎない。然しながら夢の仕事が行はれる道筋に於ける特殊な點は次のやうに申せば足りる。夢の仕事に用ゐられる材料は思考である。その思考のある二、三のものは不穩當な不快味な思考であるかも知れないが、そんな思考でも正しく組立て正しく表現される。卽ちこれ等の思考は夢の仕事をうけて別の姿に轉化される。恰も思考を他の文字とか言語に移植するやうな翻譯の過程中に融合とか結合とかの方法が利用されるのは、解し難い點でもあり、また驚異に値すべき點でもある。普通申す翻譯では、原書に存してゐる分離を尊重し、就中類似のものは嚴密に區別をつけるやう努めねばならぬ。ところが夢の仕事は全くこれと違つてゐる。夢の仕事は丁度洒落のやうに、二つの思考が仄かせるやうな、曖昧な一つの言葉を選んで、二つの相異つた思考を壓縮しようと努力するのである。諸君はこの特徵を手取早く理解しようと欲してはならぬ。だがこの特徵こそ今後夢の仕事の概念上意義深いものになり得よう。

たとへ壓縮作用が夢を不透明にすると申せても、壓縮は夢の檢閲作用の結果だとは早速に斷言出來ない。私達は壓縮をむしろ機械的若くば經濟的因子に歸せしめたい。併し檢閲官はいかなる場所

へも出しやばつて干渉力を逞ましくするとは言へる。

壓縮作用は意外に大きなものである。その作用の力を借りて全く相違した二つの潛在的思考の流がしばしば一つの顯在夢となつて結合することが出來る。その結果諸君が一つの夢を外觀的に立派に解釋したと思つても、やつぱり第二の可能な意味を見逃してしまふのである。

壓縮は潛在夢と顯在夢に介在する關係にも影響を及ぼし、そのため彼我の要素の相互關係は決して單純にならない。譬へば、からみあふやうになつて、一つの顯在要素は同時に多數の顯在要素に關聯してゐるのである。夢を解釋してゐるうちに氣が付く事であるが、單一な顯在要素に對する聯想は何も次から次へと順順に總て浮ばなくてはならぬとは申されない。むしろ私達は夢全體を解釋し終る迄氣長に待たねばならぬことがある。

だから夢の仕事は夢の思考を書寫するために非常に奇拔な方法を採用する。即ち、言葉を言葉に翻譯したり、記號を記號に翻譯するのでもなければ、又ある一定の規則に準じて、例へば言葉の子音だけを復寫して、言葉の母音を省略してしまふといふやうな選擇を採用するのでもなければ、又丁度總代と言ふやうに常に多數の要素の代表としてたつた一つの要素だけを選拔するやうにも行はれない。夢の仕事は、これ等とは全く違つたこれ等とは比較にもならぬ程複雜な方法を行ふのであ

る。

夢の仕事の第二作用は「轉移(フェルシイブング)」(Verschiebung)である。轉移に就ては幸なことに既にその研究は濟んだところだ。私達は轉移が夢の檢閲官の所產だといふ事を知つたのである。轉移の表現は二つある。第一は潛在要素がその本來の組成の一部に依つて置換されるのでなく、それとは遠去かつた、卽ち一つの諷示によつて置換される。第二は心理的アクセントがある重大な要素から他の重大でない要素に移行して、その結果、夢の中心が他所に滑つて夢が奇怪な姿を呈してくる。

諷示による代用は私達の覺醒思考にも存在してゐるが、二つは全く區別さるべきものである。覺醒思考では諷示は直ちに理解がつくものであり、代用物はその本來のものと內容的關係を持してゐる。洒落もまたしばしば諷示を利用するが、洒落の場合は今の內容的關係の條件が省かれて、その代りに、發音の類似とか意味の兩義といふやうな外觀の聯想によつて置換されるのである。然しながら洒落でも曉られやすいといふ條件は保たれてゐる。諷示からそれの本來のものに逆行する事が手取早く行かぬ時は、洒落の效果は忽ち失敗してしまふからである。これに反して夢では轉移作用の諷示はこの二つの制限から自由なのだ。夢の諷示は本來の要素と最も外觀的な最も遠隔的な關係を保つてゐて、その結果その諷示は早速には理解出來ない姿を具へてくる。そして若しその諷示を

基點として元へ溯上つてみれば、諷示の解釋はある時は下手な洒落といふ印象を與へたり、こぢつけた、無茶な、こね上げられた註解といふやうな印象を與へてくるのである。萬一諷示から、どうしてもその本來のものに逆行する道筋が發見出來ぬ時は、夢の檢閲官が自分の目的を貫徹した譯になるのだ。

アクセント移行は思考表現の方法としては合法なものでない。覺醒思考では喜劇の效果を生み出すためにこのアクセント移行がしばしば使用される。私は一つの一口噺を例にとつて、このアクセントの移行から生じた見當違ひの印象を諸君に傳へたい。ある町に鍛冶屋が住んでゐた。この鍛冶屋が死刑に該當する犯罪の告發を受けた。裁判所は男の罪狀は明白だと判決を下した。ところがこの町には鍛冶屋はこの男一人きりで、町にとつてはどうしてもなくてはならぬ人間であつた。これに反して、この町には仕立屋が三人も住んでゐた。そこでその三人のうちの一人が鍛冶屋の代りに絞首臺に立つはめになつた。

夢の仕事の第三作用は心理的に興味深いものである。この作用は思考を視覺の像に轉化するのである。夢の思考の一切のものが總てこの轉化を經てゐるとは申せない、そのうちの多數の思考はその原形を保留して、思考若くば知識の姿で、顯在夢の中にも現れてゐる。視覺影像は決して思考を

轉化しようとする唯一の方法ではないが、兎に角、夢形成上本質的とも稱すべきものである。旣に知つたやうに、夢の象徵のこの作用は最も變易を蒙り難いものである。そして旣に私達は夢の各單一な要素に就て「造形的言語描寫」(Plastische Wortdarstellung)を心得たのである。

この第三作用が決してたやすいものでない事は明白だ。その難解なところをはつきり頭に入れるために、諸君は新聞の政治欄を挿繪でおきかへるやうに命令されたと假定して欲しい。卽ちアルハベットを廢止して、アルハベットを象形文字に變へてしまふとする。欄中で述べられた人物とか有形な物象は、卽座に、いやアルハベットよりもつと分かりやすく畫に書き變へることが出來るが、さて抽象的言語とか、前置詞や接續詞といふ思考の相互關係を示す文脈と申すものを描寫する段になると非常に苦心慘憺しなければなるまい。抽象的言語を描寫する時はいろいろの技巧を弄することが出來る。例へば諸君は欄中の原文を恐らく新奇な、しかももつと具象的な、從つて象形的描寫に仕上げやすい他の言語に轉化しようときばるだらう。そして、とどのつまりは抽象的言語といふものは大概は褪色した具象的言語である事を思ひ出されよう。そしてその結果諸君は、これ等抽象的言語の起原にあたる具象的意味に突きあたることになる。諸君は一つの物象の「所有格」が拉丁語のポセツシオといふ文字通りに肉體の上に安置されてゐるやうに描寫出來て躍如とするだらう。

夢の仕事もまた丁度これと同じである。かやうな事情の場合は、描寫の精確と申す點はあまり必須とはならない。例へば離婚(エエブルフ)卽ち結婚の破壞のやうな、繪畫に還元することがむづかしい要素は他のものの破壞、例へば下肢の破壞卽ち折骨(バインブルフ)で代用しようとするのである。かういふ方法で諸君はアルハベツトを象形文字で置換する時の不器用加減をある點まで大目にみるやうになるだらう。(*)

(*) この頁を校正してゐる頃、私は偶然ある新聞記事に目がとまつた。この記事は思ひもかけず私の言葉を保證して吳れてゐるやうなので、ここへ全部轉載することにする。

神の應報

離婚卽ち腕の折骨 (Armbruch für Ehebruch)

さる在鄕軍人の妻なるアンナ・Mが離婚問題でクレメンチイネ・Kといふ女を告訴した。原告の陳述に依るとこのKと申す女は夫が出征中に自分の夫のカルル・Mと私通を續けてゐた。Kの夫は戰地から相變らず月月六十クウロンの金を送つてゐた。その上Kは原告の夫から以前に少からざる金錢を卷き上げた事があつた。そんなためにアンナは子供をかかへて飢と寒さに泣かればならなかつた。原告の夫の友人達はKとMが一緒に料亭に行つて夜遲く迄酒を吞んでゐたと告げて吳れた。被告女たるK自らある時なぞ數名の在鄕軍人のゐる面前でアンナの夫にあたしを正妻とする以上はあなたは早速にあの「舊い」細君と離緣する決心があ

るかと詰め寄つた事さへあつたのだ。Kの棲まつてゐる家主のおかみもアンナの夫がKの家でだらしなくKと喋喋喃喃してゐる光景を何度となく見せつけられたと申してゐる。

昨日Kはレオポルトシュタットの判事の前でMといふ男とは一面識もない事、そんな私通沙汰は捏造も甚しいと原告の訴を極力否認した。

證人アルベルチイネ・MはKとアンナの夫がキスをしてゐるところへ折惡しく這入つたことがあつたと陳述した。第一回の審問で證人として召喚されたMは被告女との私通關係を否認した。ところが昨日その男から一通の書面が裁判所に屆いた。その書面で證人は自分が第一回の審問で答へた陳述はすべて虛構であつて、實は去年の六月以來Kと戀愛關係を續けてゐることを白狀した。男が第一回の審問で被告女との關係を否認したのは、裁判所出頭前に女が自分を訪れて來て、男に泣きついてどうか自分を救ふと思つて本當のことを言つて吳れるなと哀願したために外ならなかつたのだ。證人は手紙にかう書き續けてゐる。——「本日直ちに裁判所に出頭し一切を自白致したき念に驅られ候。と申すは予は左腕を挫き申し候。これ誠にわが犯せし罪に對する神の應報と觀念いたし候。」

判事はこの事件の審理を旣に時效消滅と判定したので、女は告訴を取下げて被告は放免となつた。

思考の相互關係を示す品詞、卽ち何となれば、然しながら、かるが故にといふ言葉を描寫する場

合は、諸君は何も只今のやうな方法に頼る必要はない。原文にあるこの品詞は繪畫に翻譯する時は脫落してしまふものである。これと同様に、夢の思考の內容は夢の仕事に依つて、物體とか活動といふものから成立してゐる原料に分解されてしまふ。描寫の出來ないある相互關係は繪畫の微妙な濃淡によつてある工合に仄かす道が可能だと知れば諸君も滿足されよう。繪畫と全く同じに、夢の潛在思考の多數の內容は、明るさとか暗さ、いろんな部分への配分といふ顯在夢の具象性に依つて實事に表現されるのである。夢が分割出來る部分夢の數は潛在夢に存してゐる思考の順序、卽ち主題の數と一致するのを常とする。例へば短い前奏曲のやうな夢はそれに續いて現れてくる主題の夢に對してしばしばはしがきとか導火線といふやうな關係を持してゐる。夢の思考中の附屬文章（ネエベンザツツ）は廻舞臺のやうな場面轉換をもつて顯在夢の中へ代用される。かういふ理由から夢の形は決して無意味なものでなくて、その形だけでも解釋にかける價値があると申せるのだ。同じ夜に見た多數の夢には大抵同一意味が含まれてゐて、こみ上つてくる一つの刺戟を何とかしてうまく鎭壓しようとする努力を語つてゐるのである。一つの夢の中にさへ特別むづかしい要素は「重複（ツブレツテン）」（Dubletten）をもつて、換言すれば多樣の象徵に假裝されて表現されてゐる。

夢の思考とそれの代用物である顯在夢をずつと比較對照して行くと、私達は今迄に豫期しなかつ

た眞相、例へば夢の馬鹿らしさとか夢の荒唐無稽にもそれ固有の意味が含まれてゐることを學ぶのである。夢に對する醫學的見解と精神分析的見解は、この點に於て、確然と區別がつけられる。醫學的見解に從へば夢は馬鹿らしいものである。夢見る精神活動は批評眼をすつくり失つてしまつてゐると言ふのがその理由である。これに反して精神分析に從ふと夢の思考に含まれてゐる批評眼、卽ち「これは馬鹿らしい。」と言ふ批判が表現された時に夢は初めて馬鹿らしい形となるのである。諸君にお馴染みのあの芝居行の夢（一フランツ五十クウロンで三枚の入場券）はこれの好例である。かやうに表現された批判は「あんなに早く結婚するのは馬鹿だつたのだ。」を意味してゐるのだ。

同樣に夢を解釋する時に、あるしかじかの要素は果して夢中に現れてゐただらうか、この要素は本當はかうでなかつただらうか、いやむしろこれとは幾分違つたものでなかつただらうかと、夢見た人からひつきりなしに疑惑や不信任をなげかけられる。一般にこのやうな疑惑や不信任は潛在思考と沒交涉である。こいつは徹頭徹尾夢の檢閱官の干涉に由來してゐて、檢閱官がさきの貫徹しなかつた抹殺に再干涉をしてゐると譬へてもよい。

夢の仕事がどんな風に潛在夢の對偶性を取扱ふかといふ方式は私達に驚くべき發見を齎す。旣に知つたやうに、潛在材料に含まれてゐる共通點が壓縮作用によつて顯在夢の中へ代用される。偖て

對偶性も共通點と同一に取扱はれ、特に好んで同一の顯在要素で表現される。だから對偶と推定出來る顯在夢のある要素は、その儘か、現れてゐる要素の正反對か若くば兩義の意味を代表してゐる。翻譯に際してどれを採用するかは夢の意味が決定を下すのである。夢の中に「否」の描寫が存し得ない事、少くとも兩義でないものが存し得ない事はこれと關聯してゐるのだ。

夢の仕事のこの奇怪な態度を裏書する類似點を言語進化が惠んで吳れる。多數の言語學者は最古の言語では、例へば、强さ――弱さ、明るさ――暗さ、大――小といふやうな對偶は同一の語根（「大古語の對偶的意味（ゲエゲンジン）」）に依つて表現されてゐたと主張してゐる。例へば古代埃及ではケンといふ言葉は語原上强と弱の兩義を有してゐた。話の際そのやうな相反（アンビヴアレント）の言語を口に出す時は、誤解を與へないやうに、語調とか身振によつて二つの區別を明かにした。文字に現す時は所謂限定語（デテルミナチイフ）、即ちそれ單獨では發語の出來ない畫を附加したのである。ケンが强いといふ意味をとる時は、そのケンといふ文字のあとに直立してゐる小さい男の姿の畫を附加し、ケンが弱いといふ意味をとる時は、そのあとへだらりとしやがんだ男の畫を書き加へた。後代になつて同じ發音を有する大古語が少しく變形を受けてこの同一語に含まれてゐる對偶は初めて二つの方向に名稱を別けるやうになつたのである。かくて强弱兩義をあらはすケンから强い意味のケンと弱い意味のカンが發生して來た。こ

の進化の最後の階段に達した大古語に限られず、非常に若い今日でもなほ使用されてゐる言語の中にもこのやうな古代の對偶的意味が遺物のやうに多分に保存されてゐる。私はこの點に關してアアベル（一千八百八十四年）の書物から二、三の記錄を引用してみよう。」

拉丁語にはこのやうな兩義の言葉は

altus（高い――深い）と sacer（神聖な――冒瀆な）

同一語根の變形の例として引用してみると

clamare ――叫ぶ。　clam ――靜か、だまつて、こつそり。」

siccus ――乾く。　succus ――液汁。

獨逸語にも同じ事は　Stimme ――聲。　stumm ――默せる。

轉化語を對照してみれば豐富な引證が湧いてくる。

英語の lock ――閉すと獨逸語の Loch ――孔や Lücke ――間隙。

英語の cleave ――裂くと獨逸語の kleben ――ひつつける。

英語の without は原語は有するといふ意味と有しないといふ兩義が含まれてゐたのが、現今では有しないといふ意味の方だけが使用されてゐる。併し、withdrow ――撤回すると withhold ――

差抑へるのやうな合成語から、with には附加するといふ意味と奪ひとるといふ意味があつたことは明らかである。獨逸語の wieder もこれと同じである。

夢の仕事に存するなほ別の特徴もまた言語進化に殘つてゐる。古代埃及では言語の發音の順序を轉倒して、違つた言語を作り原語と同じ意味を現してゐたが、これの名殘が近代語に殘つてゐる。例へば英語と獨逸語を比較してみると、

Topt（壺）—— pot（壺） boat（小舟）—— tub（小舟）。

hurry（いそぐ）—— Ruhe（休息）。

Balken（たるき）—— Kloben（丸木）—— club（棍棒）。

wait（待つ）—— täuwen（待つ）。

拉丁語と獨逸語の間にも

capere（捕へる）—— packen（捕へる）。

ren（腎臟）—— Niere（腎臟）。

只今單語に就て論じたやうな轉倒が夢の仕事によつて千差萬別に行はれてゐる。意味の轉倒、卽ちその對偶をもつて置換することは既にお話したことである。なほこの外に夢の中に場面の轉倒と

か二人の人物關係の轉倒が現れて、「さかしまの世界」の光景が描かれてくる。夢の中に兎が獵師を射とめるといふやうなことが頻繁に繰返へされる。さらに轉倒が事件の順序にも加へられて、その結果、夢中の因果關係が轉倒して結果が原因を導いてくる。田舍芝居の演劇によくあるやうに、主人公が最初にばつたり倒れて、倒れて初めて舞臺の側面で主人公を射つ鐵砲がごんと響くといふ工合である。ある時は各要素の順序全部が轉倒してしまふ夢がある。その結果一つの意味を引出すためには、最後の要素を最初に、最初の要素を最後にひつくりかへして解釋しなければ意味がつかないことがある。諸君は夢の象徵の研究から水中にはひつたり水中におちこむことが、水中から出る卽ち子供を生むとか誕生を意味することや、階段や梯子を登ることがそれを下ることと同意味であることを思ひ出すだらう。こんな描寫の自由から生じた夢の歪みに一體どういふ利益があるかは今更ら詳しく述べる必要はない。

夢の仕事に於けるこのやうな特徵を大古的(アルカイシュ)(archaisch)と名付けてもよい。この大古的特徵は古代の表現樣式、卽ち言語や文學にも同樣に見られるもので、解釋する時に同じ困難を與へるものだが、どういふ困難を與へるかはいづれこの問題を批判的に論ずる時に詳論することにしよう。

偖て進んで二、三の論題を許して欲しい。明らかに夢の仕事の焦點は言語として理解される潛在

思考を知覺形像、大抵の場合視覺の像に轉化することである。ところが私達の有する思考はもともとそのやうな知覺形像から生じて來たのである。思考の最初の材料と思考進化の最初の階梯は知覺印象正しく申せば知覺印象の記憶的形像であつたのだ。後代この種の形像に初めて言語がからみつき、次いで思考と結合したのである。この見地から夢の仕事は思考を退行的《レグレツシイフ》（regressiv）操作にかけ、思考進化の道程を溯る。そしてこの退行《レグレツシヨン》中に記憶的形像が一歩思考に迄進化した道筋で贏ち得た新しい獲得物の總ての物は篩ひ落とされねばならぬ運命をもつ。

夢の仕事とは實にこの退行的過程を指すのだ。顯在夢で味つた面白さも只今學んだやうな過程に比較すればその影が薄くなつてくる。だが私はこの顯在夢に就て、——顯在夢は私達が直接に知ることの出來る唯一のものなのだから——なほ二、三の注意を拂つてみたいと思つてゐる。

顯在夢は私達には最早何の意義をも與へぬ事になつた。顯在夢が實事に構成されてゐるとか顯在夢が何の連結もないばらばらの形像に分解出來るとかいふ事は私達には一向問題でなくなつた。よしや夢が一見したところ意味深い外觀を示してゐようとも、この外觀は夢の歪みに依つて生じたもので、丁度伊太利寺院の正面《フツサアド》がいかに輪奐の美を極めてゐようとも、これはその寺院全體の結構や様式と一向關係がないやうに、夢の外觀も夢そのものの內在的內容と何等有機的關係を持つことが

出來ないのである。然しながら、時によればこの夢の正面がそれ特有の意味を持つことがある。そして夢の潜在思考の重要な部分がある時は僅かに歪められある時は寸毫も歪められずに夢の外觀となつて再現される。だがこの事實は一寸では看破出來ない。私達はそれ迄に夢を解釋にかけてみて、どれ位の程度に歪みが加へられたか、しつかりした斷定を得ておかなくてはならない。夢の中に二つの要素が一見密接して連結してゐるやうな場合にもこれと同じ疑問を發してもよい。この外觀と內容の關係からその顯在要素に對應する潜在夢の要素も同じに連結してゐるかも知れぬといふ貴重な暗示を持つことが出來るが、ある時は反對に、思考に於て連結してゐるものが、夢となつてばらばらに散在してゐることを信ずることも出來るのである。

一般に申せば、諸君が夢を恰も連絡のある纒まつた概念を持つた、プラグマチツクな表現だといふ考への下に、顯在夢のある部分を顯在夢の他の部分から說明しようとする事を戒めねばならぬ。大抵のところ夢を角礫石だと譬へておけばよい。角礫石とはいろいろ違つた石塊がセメントで接合されたもので、出來上つた外觀の特徵はそれに含まれてゐる鑛物の特性と似ても似つかぬものになつてゐる。夢の仕事の一部に所謂「第二次推敲」(sekundäre Bearbeitung) と名付けるものが實在してゐる。この作用は夢の仕事に依つて作り上げられた第一次の結果を可なり筋道の通つた纒まつ

たものに仕上げることを目的としてゐる。その結果、第一次のものとは、全然意味が變つたやうに材料が配置され、必要と思はれる時は適當な挿句迄拋げこまれてゐることさへある。

と申して夢の仕事を過重してはならぬし、夢の仕事にあまり多くを恃んでもならぬ。今迄數へて來たものだけで大體夢の仕事の活動は盡きてゐる。壓縮、轉移、造形的描寫、夢全體の第二次推敲、夢の仕事はこの四つ以上をなし得ない。夢中に意見、批評、驚愕、さては推論が現れてゐたと云へ、それは何も夢の仕事の作用でない。極めて稀には夢をあとで考へ直した後の發現と言へる時はあるが、大概のところは潛在思考の一部が多少の變形を受けて丁度うまい連結をとつて顯在夢に移されたものである。さらに夢の仕事は會話を作り得ない。多少の例外であるが、夢中の會話は、當人が前日に聞いたり自分で行つた會話の模倣であり會話からの作り直しであつて、材料とし若くば夢の指嗾者として潛在思考中へ輸入されてゐたものなのだ。同じやうに夢の仕事は數の計算が出來ない。若し顯在夢に數字のやうなものが現れてゐる時は、大概それは數字の羅列であり、邪魔化し計算であり、計算としては途方もない出鱈目であり、潛在夢にある計算の單なる寫しに過ぎない。このやうな條件を考へて見れば、夢の仕事といふ題目に向けられてゐた興味を方向一轉さして、多少顯在夢に歪められて現れてゐる潛在思考に振向けようとするのは何も不思議である筈がない。併しあま

り潛在思考の方向に目を付け過ぎて、夢全體を見ずに夢の潛在思考だけを論理的に觀察し、單に潛在思考に適用出來るものを夢全體にこぢつけようとするのは全く正當でない。奇怪至極にも精神分析の業蹟は亂用されてその結果兩者の間に混同が釀されたのである。「夢」と稱するものは單に夢の仕事の成果、卽ち潛在思考が夢の仕事の作用下に化けた形に過ぎないのだ。

夢の仕事は比類稀なる不可思議な過程である。これに相似したものは今日迄精神生活に知られてゐない。かやうな壓縮、轉移、思考から形像への退行的變化は實に精神分析の新發見である。この新智識は精神分析の苦心慘憺な努力を十二分に酬いてくれたのである。さらにまた夢の仕事と他のものとを諸君が比較對照することによつて、精神分析の研究が他の學問界、特に言語及び思考の進化の領域といかに密接な關係が存するかを知るであらう。さらに諸君が夢形成のメカニズムがそのまま神經病の症候の發生樣式にあてはまる事を學ばれるならば、精神分析の見解に初めて一歩進んだ意義が豫想出來てこよう。

心理學に對するこれ等の業蹟から浮び出た新發見の全部を大觀するところ迄に私達が達してゐないことは私でも承知してゐるが、無意識的精神作用の實在——卽ち夢の潛在思考——に對してこのやうな新しい證據が生じて來たか、暗黑な無意識的精神生活の智識にさらに深く達する上に夢判斷

がいかに有望であるかを暗示するだけに留めておきたい。

併し諸君に既に豫備してあげた諸點を示すために次回に種種な短い夢の例をいちいち引用する時がいよいよやつて來たのである。

第十二章　夢の分析例

美しい大きな夢の解釋に與かつて貰はずに、例によつて夢判斷の斷片をもう一度お目にかけるといつて諸君は決して失望してはいけない。これ迄に十分準備が出來たのだから、私達に當然大きな夢を解釋して貰ふ權利があらう。無數の夢が立派に解釋出來たなら、夢の仕事と夢の思考に關する精神分析の主張を裏書するやうな獨特な夢の例をもつと以前に私達に集めて下さる事が出來たに相違なからうと諸君は苦狀を申立てよう。その通りである。だが、諸君の希望を果たして上げるためには未だ未だ多數の難關が横たはつてゐる。

先づ第一に、夢判斷をわが畢生の事業だと思つてゐるやうな人は恐らく一人もないと私に白狀しなければならない。それぢや、夢を解釋するのは何のためなのか。私達は時たま何等これといふ目的なしに友人の夢を研究してみたり、精神分析研究の練習に自分の夢をある期間研究してみることがある。併し、大概の場合私達は分析治療を受けてゐる神經症患者の夢を研究の對象としてゐるのである。この種の夢は獨特な材料であつて、健康な人の夢と毫も遜色がないが、治療の術式上已む

なしに、私達は夢判斷を第二とし治療目的を第一として、治療に必須と思はれるものだけを採用してしまへば、必要でない大部の夢の解釋は棄ててしまふことにしてゐた。そして治療中に現れた多數の夢に對しては完全な解釋を避けることにしてゐた。といふのは、かういふ夢は私達には心理材料の總量から湧いて來てゐるのだから、そんな夢の理解は治療が完了してから初めて出來るのである。神經病の一切の秘密を發見する上にも、さやうな夢の報告は必須だつたらうが、私達は夢を神經病研究の準備に攻究すると標榜した以上さうも行かない。

諸君は快くこの種の材料を放棄して、むしろ健康な人若くば諸君自らの夢を分析することに贊同されるに相違ない。然しながら、夢の內容の如何によつてはこれとてむづかしい。人は自分自らを若くば自分が信賴しきつてゐる他人をその夢の徹底した解釋が摘發するやうに、露骨に何の遠慮會釋もなしに曝露することは出來るものでない。諸君も御承知のやうに、夢の解釋は彼の人格の最も秘密なものに觸れてゐるからである。こんな材料調達の困難の上に、報告するに際して、他の事實を顧慮せずばなるまい。卽ち夢は夢見た當人にとつてすら異樣な姿を示してゐる。況んや夢見た人の人柄を知らない赤の他人の目には一そう特異に見えるのは當然である。私達の文獻からいつでも立派な詳細を究めた分析をお目にかける事は出來る。私自身でもある神經病者の病歷としてさうい

ふ詳しい夢の分析を公表した事がある。就中オットオ・ランクが發表したある娘の見た相互に關聯してゐる二つの夢はさういふものの最も美しい實例であらう。印刷にして夢は僅僅二頁であつたが、その分析は實に七十六頁にも及んでゐた。そんな大きな夢を分析してあげようと思へばそれだけでこの一學期は丸潰れになつてしまふ。萬一例として強く歪められた長い夢をとるなら、その夢に對する聯想と記憶から多量の材料を誘導し、分析は各方面に飛火してその結果長時間の說明を要し、結局只今の講演はごちやごちやになつて、諸君に十分な滿足を與へることはむづかしい。だから、一番容易な道として、神經病患者の夢の一小部分を報告し、いろいろの患者から斷片的の夢を示すだけで我慢して下さることをお願ひしておきたい。象徵は一番容易に習得出來る。象徵に次いで、夢の退行描寫のある特質をお話することにする。これから述べようとする夢がどういふ點で報告する値打があると考へたかは追つて說明することにしよう。

一。次の夢は二つの短い繪から成つてゐる。「土曜日であるのに叔父が煙草を吹かしてゐる。——一人の女が彼を赤ん坊のやうにあやかしたり頰づりをしてゐる。」

第一の繪に關して夢見た男（猶太人）は彼の叔父は信心深い男で、安息日に煙草を吹かすやうな大それた罪を犯したこともなければ、犯かさうとは夢にも思はなかつたらうと說明した。第二の繪

に現れた女に就て彼には母以外の何の聯想も浮ばなかつた。この二つの繪、換言すれば二つの思考は相互に關聯してゐるに違ひない。だが、どういふ工合に關聯してゐるのだらう。彼は自分の叔父が現實で夢に現れたやうな行爲をしたことを飽く迄否認してゐるから、條件法の「若しも」といふ言葉を挿入すればこのところは生きてくる。「若しも私の叔父、信心深いあの男が安息日に煙草を吹かすものなら、私でも當然母から寵愛される權利がある。」敬虔な猶太人にとつては、安息日に煙草を吹かすと同樣に、母にあやされたり頰づりされる事は許容さるべきものでない事を明白に意味してゐる。嘗て私が申したやうに、夢の仕事によつて夢の思考間に存する連絡が一切脫落してしまつて、夢の思考はその原料に分解される事を思ひ出されるだらう。だから解釋の使命はこの脫落した連絡を再び補筆することになる。

二。夢に關する著述を公にして以來私はある範圍でこの問題に關して世人の相談を受ける立場に置かれた。そして私に夢の資料を寄せられたり、私の批判を求められたりして數年來各方面の人士から多數の手紙を辱くした。解釋の可能な夢の資料を多數私に惠んで吳れた人達、さらに自らの夢にこの種の解釋を斷行された人達に私は衷心深謝せざるを得ないのである。一千九百十年にミユンヘンの醫者の送つて吳れた次の夢はこの範疇に屬してゐる。私がこの夢を發表する理由は、夢見た

人が分析者に夢に闘する報告を與へない時は、夢と申すものはいかに理解しにくいものかを諸君に示さうとするにある。何となれば私の邪推かも知れぬが、諸君は夢に象徵の意味をはめこむことを夢判斷の理想と妄信して、自由聯想の術式を省略してしまひたいと考へられてゐる。私はこのやうな有害なる妄信を正したいと思ふのである。

一千九百十年七月十三日。明方私は次の夢を見た。「私は自轉車に乘つてチュビンゲンを目指して街路を走つて行く。その時褐色のダハスフンド（獵犬の一種）が私のあとから疾走して來て私の踝に嚙みついた。私は數間走つてから自轉車から下り、石段に腰をかけて、踝にしかり嚙みついてゐる犬を離さうとし始めた。（犬が嚙みついた事及び全場面は私に不快な感情を與へなかつた。）丁度向ひ側に老いた女が二人坐つてゐて、にやにや笑ひながら私を眺めてゐる。その時私は目を覺ました。そして以前にも度度經驗したやうに覺醒狀態に將に移行しようとする刹那に今迄の夢の全部が鮮明に映つた。

この夢では象徵はあまり役に立たない。併し夢見た人は私達にかう報告して吳れてゐる。「私は最近丁度街頭を步いてゐる時に一人の娘を見染めたが、どうしても接近する道がなかつた。私は娘が連れてゐるダハスフンドを仲介にすればこの首尾は立所に適ふと考へた。實際私は非常に犬好き

は娘の代用として現れてゐるのだらう。」これに附言して彼はこれ迄たびたび見物人が驚歎する位實に巧みに犬の喧嘩を分けることを得意としてゐた。卽ち彼が懸想した娘は常にこの特殊な獵犬を連れて歩いてゐた事を知る。ところが娘は顯在夢から抹殺されて、單に娘と聯想深い獵犬だけが顯在夢に殘されてゐる。あのにやにや笑ひながら彼を眺めてゐる老女達が多分娘の代用として現れてゐるのだらう。彼が私に報告して吳れたいろいろの事柄もこの點を說明するに不十分である。夢中自轉車で走つてゐるのは、彼が記憶してゐる經驗を直接再現してゐる。卽ち彼は自轉車に乘つて町を行く時に極まつていつも犬を連れてゐる娘に出會つてゐたのである。

三。親しい人に死別した時は、その後數年間特殊な姿を持つた夢を見る。その夢の中に、その人が死んだといふ智識と、死んだ人を復活させたいといふ欲求が、實に巧みに妥協し合つて現出してゐる。ある時は、死んだ人は死者として現れてゐるが、自分がその人の死んだ事を知らないためになほ未だ生き永へてゐるやうに、恰も自分がその死を知つた時に初めてその人が本當に死んだのだといふ工合に夢に表現される。ある時は、その人はなかばは死になかばは生きてゐるやうに夢に現れて、かやうな狀態はすべて特殊な特徵を示してゐる。諸君はかかる夢を馬鹿らしいと簡單にやつ

つけてしまつてはいけない。何となれば、死者をもう一度活かしたい事は、例へばお伽噺ではこれが非常に普通であるやうに夢に於ても廣く許されてゐるからである。私がかやうな夢を分析した經驗の範圍から、死者の復活に合理的な説明が下される事、然しながら死者に生命を吹込みたいといふ敬虔な願望の方は最も奇妙な方法で描出するを心得てゐる事を知つた。ここでこの種の夢を示すことにする。この夢はどう考へても馬鹿馬鹿しい奇怪な姿を呈してゐるが、一度分析してみれば、さきに諸君に私達が理論的に準備しておいて上げた諸點をこの夢が敎示して與れる。次の夢は數年前に父を失つたある男が話して與れた。

「父は死んだが再び發掘された。その顔貌は病人のやうだ。發掘されてから父はずつと生命を保つてゐる。夢見た人は父が自分の死に氣付かないやうに萬全の策を構じてゐる。」(それからこの夢は別種の一見非常にかけはなれた事件に移行した。)

父が死んだ事は私達も承知出來る。彼が墓場から發掘された事は現實とは合致してゐない。これに續く總ての事柄も決して決して現實にはあり得ない。併し夢見た男は次の話をして與れた。父の埋葬から歸つてから急に齒が疼き出した。彼はこの齒痛を「汝の齒汝を惱まさば引拔くにしかず。」といふ猶太の箴言どほりに直さうと思つて早速に齒醫者に赴いた。ところが齒醫者は「痛いといつ

て卽座に齒を拔いちや大變です。まあしばらく我慢しなくちやいけません。痛い齒の神經を殺すために何なら一寸詰めておきませう。三日目にいらつしやい。その時こそ拔いてあげませう。」と言つた。

この「引拔く」は發掘の事ですと夢見た人は突然に叫んだ。

この男のいふところは正しいだらうか。二つは全然一致はしてゐないが、先づ大體のところは類似してゐる。齒が引拔かれるのでなくて、或物卽ち死んでしまつたものが彼から引拔かれるのである。併し他の經驗からこの種の不正確は夢の仕事の責任にしてもよい。夢見た人は壓縮作用によつて死んだ父を、死んでしまつて然もなほ保存されてゐる齒に結びつけ、一つのまとまつたものに揑ね上げたのである。顯在夢に馬鹿馬鹿しいものが現出したとて決して驚くに足らない。と申すのは齒に就て述べられた一切の事は父にそのまま適用することが出來ないからである。それではこのやうな壓縮作用を許した父と齒を結ぶ緩衝帶は一體どこに存してゐるのか。

さやうな緩衝帶は實在してゐたに相違ない。夢見た人は齒の拔けた夢を見ればこの夢は家のものに死別することを意味するといふ諺を知つてゐると報告して吳れた。

この俗界の解釋は正しくはない。少くとも、ある曲げられた意味に於てのみ正しいのである。問

題の主眼が夢の內容の別な部分に發見出來れば、諸君は夢のしくみに感歎されるだらう。
私が一步追究しないうちに彼は父の病氣と死去とさらに父と自分との關係を語り始めた。父は長い間患つてゐた。病人の看護と藥餌のために彼換言すれば父の息子に多額のお金が要した。お金といつても彼としては決して巨額といへなかつた。彼は決して父を邪魔物扱ひにしなかつた。父は結局死んでくれればよいといふ希望など一度も懷いたことはなかつた。父に對して猶太人らしい敬虔心を持つてゐること、猶太律法を心から遵守してゐることを彼自ら誇としてゐたのである。この點に於て齒に屬してゐる思考中にある矛盾を見付けないか。彼は齒と父を同視した。齒に對して彼は齒が苦惱と苦痛を與へる時は引拔くにしかずといふ猶太律法に從つて治療しようと思つた。父に對しても彼は猶太律法の綻に從つてその平癒を祈つたのである。ところが、父の場合では、猶太律法の綻は費用と苦惱がどれ程要しても、ひたすらに重荷の一切を自らに背負ひ、苦痛を與へる物に對して苟も反抗的な意圖を起こしてはならないとなつてゐる。萬一彼が內心丁度病んでゐる齒に對したと同樣な感情を、自分の病んでゐる父に懷いたなら、卽ち早くくたばつてしまへば、父の餘計な、苦痛な、お金のかかる生存に鳧がつくんだのにと望んだならば、齒と父の一致點はこぢつけとは申せなくなる。この願望は實際父の長い病中に彼が父に對して懷いてゐた心理狀態であつた事、彼の

敬虔な孝心の形式的誓言こそこの不當な願望の記憶を散じようとする目論見を有してゐる事は何等疑ふ餘地がないのである。かやうな條件の下に生みの親に對して死の願望が湧いて來る。そして死ぬことはお父さんにとつては神樣の思召だといふやうなうまい假面でこの願望は包まれるのを普通とする。併し諸君は私がこれでもつて夢の潛在思考自體から一歩飛び出たところに注目を拂つて欲しい。この思考の初めの部分は確かに單に一時的に、換言すれば、夢形成の間は無意識的であつたが、父に對する敵意はずうと無意識で、恐らく小兒時代に芽を發し、父の病中でも折にふれ意識内へこわごわ、そして假裝して忍び出てゐたに相違ない。私達はもつと大きな自信をもつて、この夢の内容に明らかに干與してゐるといへる他の潛在思考から、この敵意の實在を立證することが出來るのである、父に對する敵意は夢の中へは微塵も姿を見せてゐない。然しながら、この父に對する敵意の起原を遙かに小兒生活に探索するなら、小兒時代に父に對する恐れが實在してゐた事を記憶する。何となれば、父は早くも小兒時代に小兒の性的活動に監視の目を張る。これは丁度父が一般に子供の思春期後社會的動機から再び監視の目を緩めないのと同樣である。父に對するこの關係は只今の男にも適用出來よう。父に懷く愛の中には早期の性的威嚇に源を發してゐる畏敬と恐怖がいりまぢつてゐる。

顯在夢の次の光景は自慰錯綜から說明がつく。「父の顏貌は病人のやうだ。」といふのは、齒醫者の言つた「こんなところの齒を拔いてしまへば相が變りますよ。」といふ言葉を仄かしてゐるが、同時に、思春期の青年が過度に自慰に耽ければ、そのしるしは忽ち、外に現れて顏色が蒼くなると恐れる思考と關係してゐる。夢見た人はその顯在內容に於て例の夢の仕事の轉移作用を借りて、造作もなしに蒼いこの顏を自分から父へとなすりつけてゐるのである。「父はずうと生命を保つて」は父が生き返つて欲しいといふ願望と同時に、齒は拔かずに濟むだらうといふ齒醫者の約束と一致してゐる。さらにあの「夢見た人は父が自分の死に氣付かないやうに萬全の策を構じてゐる」といふ一段は最も巧妙を極めてゐる。この一段は私達に必然父は死んだといふ言葉を補ふやうに命ずる。併し、この意味深長な唯一の補足句はまた自慰錯綜に由來してゐる。卽ち靑年は自分の性生活を父の目から隱さうと萬全の策を構ずるのは尤もである。結論として、諸君は所謂齒痛の夢は常に自慰と自慰の威嚇的な懲罰を仄かしてゐるといふ事を記憶に留められよう。

さて諸君はこのやうな解し難い夢がどうして形成されたかを御覽にならう。卽ち手管なやうな奇怪な壓縮作用の力を借りることにより、潛在思考の中心に渦卷いてゐる一切の思考をそらすことにより、これら思考の最も深い時間的に最もかけはなれたものの代りに幾通もの意味を含む代用形像

を作り出すことによりこの夢が成立したのである。

四。私達はずうと前に、一向馬鹿らしくない一向奇怪でない姿をしてゐる筋の通つた凡庸な夢を研究しようと幾度も試みたがさういふ夢から「何の目的に人はこのやうな凡庸な材料を夢に見なくてはならないか」といふ疑問が起きてくる。そこで私はこの種の新しい例をお話することにする。私の話す夢はある若い夫人が一晩の間に見た相互に關聯した三つの夢である。

(a)「彼女は自分の家の客間を歩いて行く。その時低く垂らしてあつた釣ランプで血が出る程きつく頭をぶつた。」

この夢に就ては何の回想も浮ばない。現實ではこんな光景は一度だつて起こらなかつた。彼女の話す報告は全く思ひもつかない方向に導く。「先生も御察しのやうに、私はこの頃髪の毛が抜けて困つてゐます。昨日母が私に申しました。もうそれ以上髪の毛が抜けてしまへば、おまへさんの頭はお尻(ポポオ)のやうにつるつるになつてしまふね。」だから頭はこの夢では身體の他の末端を代用してゐる。私達はランプを早速に象徴的に解釋することが出來る。卽ち長くなり得る物品は男根の象徵であるからだ。卽ちここでの題目は陰莖との衝突によつて惹起された身體下端部の出血である。併し勿論幾通りにも解釋出來る餘地はある。夫人になほ進んで聯想を行はした結果、月經の出血は男との性

交によつて惹起されるといふ信仰を夢に見てゐたのであつた。この迷信は實に未熟な娘の間に多數に信ぜられてゐる性慾說の一片である。

(b)「彼女は葡萄園の中に深い溝を見る。その溝は彼女が一本の木を引拔いたために出來たものだと知つてゐる。」この夢に關する彼女の報告は「自分には木が無くなつてゐる。」といふ事であつた。彼女は夢中では木を見なかつたと言ふが、この言葉は他の思考を表示してゐる。その思考は只今象徵的に完全に解釋を施せるものである。この夢は小兒時代の性慾說の他の一片と關係してゐるのだ。女の子は生れた時は男の子と同じ生殖器を有してゐたが、その後の形は去勢（木を引拔くこと）によつて釀されたといふ信仰と關聯してゐるのである。

(c) 彼女は机の引出の前に坐つてゐる。若しその引出を誰かがいらふものなら、早速に氣付くやうに引出の中にちやんと目じるしがつけてある。」引出はその形、その種類を答はず總て女子生殖器の象徵である。男を知つたかどうか（彼女が申すやうにたとへ男に接觸しても）の證據は生殖器に現れるものと彼女は聞いてゐた。そして、彼女はそのやうな迷信に恐れを懷いてゐたのであつた。この三つの夢には「知る」といふことが特に强められてゐると私は考へる。彼女の思考は子供らしい性的好奇の時代、自分獨特の發見をその當時非常に得意に思つた時代に向けられてゐるのである。

五。もう一度象徴の他の例をお話することにするが、今度は夢が現れた當時の心理狀態を前以てかいつまんで知らしておかなくてはならぬ。一人の女と戀の一夜を過ごした男が述べるところによると、その女の性格は極めて母性的で、男との戀の語ひに於て子供が欲しいといふ願望が不可抗的にこみ上つてくるたちの女であつた。併し二人のあひびきの事情は受胎力のあるスペルマを子宮から離さねばならぬ注意が必要だつた。この夜から醒めた時にその女は次の夢を語つた。

「赤い軍帽をかぶつた一將校が街頭で彼女のあとをつけて來た。彼女はその男から遁れようと階段を駈け登つた。將校は相變らずつけてくる。息も切れる程せき切つて彼女は自分の部屋に駈け込む。戸をたつて鍵をかける。男は戸の外にゐるやうだ。彼女が鍵孔から覗いてみると男はベンチに腰かけて泣いてゐる。」

赤い帽子をかぶつた男に追跡されて息もたへだへに階段を登るのを性交の描寫だといふことは諸君も御承知だ。夢見た女が追跡者に對して戸をたつたのは夢に度度利用される轉倒作用と見做せる。何となれば、現實にあつては愛の行爲の究極に身を引いたのは男であつたからである。同じやうに女は自分の悲しみを相手の男に轉嫁してゐる。卽ち夢の中で泣いてゐるのは男である。同時に涙はスペルマを仄かしてゐる。

精神分析は夢の總ては性的意味を含んでゐると主張するといふ噂を聞かれたことがあらう。この非難が果たして不當であるかごうかに只今諸君自ら判決を與へる立場にある。諸君は最も明白な欲望、即ち飢とか渇、自由への憧憬を滿足するのを主題としてゐる願望の夢、また安堵の夢、待遠しさの夢、さらに純然たる貪慾と利己心の夢を學んだのである。然しながら、強く歪められた夢——全部とは申さないが——の大概は性的願望を表現してゐる事實を精神分析の所信として記憶にとゞめてゐらつしやる筈である。

六。夢に象徵が利用されてゐる例を澤山並べるのには私として特別の理由があるからだ。私は講演の冒頭に於て、精神分析の發見を諸君に篤と納得出來るやうに論述することがいかにむづかしいかを訴へておいた。そして、諸君もこれ迄に十分に私の申したむづかしさに贊成されたことと思ふ。併し精神分析の主張のおのおのは相互に至つて密接に關聯してゐる。だから、ある一點の確信から學說の大部を容易に理解出來ると言へるのである。ある人は精神分析に就てかう申してゐる。精神分析を一本の指で觸れた人は、間もなく、五本の指でそれを握りしめることが出來ると。間違ひの說明に納得された人は、その敎へられた學說を他のあらゆる事象に及ぼすことが出來る。同じ程度に觸れ易いものは夢の象徵であらう。私は只今諸君に既にごこかで發表したことのある夢を述べて

みることにする。夢見た女は門衛に奉職してゐる夫を持つた田舍出の細君である。その女は明らかに今迄に一度だつて夢の象徴とか精神分析とかいふものを耳にしたことはなかつたのである。性的象徴でもつて夢を解くことが、獨斷であるかこぢつけであるか。その點は諸君にもひとりでに判斷出來よう。

「……それから、何人かが家を破つてはひつて來た。彼女は恐怖に一杯になつて門衛をよんだ。併し門衛は二人のごろつきと諜合せて寺に行つてしまつた。寺へは數段の石段がかかつてゐた。寺の裏に山があつて、山の上には密生した森があつた。門衛はヘルメットをかぶり、ネクタイをつけ、外套をまとつてゐた。門衛は褐色の髯をはやしてゐた。おとなしく門衛について行くごろつきは腰のまはりに袋のやうに、くるくると前垂を纏つてゐた。寺から山迄道がついてゐた。この道の兩側に草叢や木立が生ひ茂つてゐて、それは漸次に密生して、山の頂上では本當の森になつてゐた。」

ここに現れた象徴は造作もなしに知ることが出來る。男子生殖器は三人の人物で示されてゐる。女子生殖器は寺と山と森の配置された一つの風景で示されてゐる。ここで階段は性交の象徴であることを知る。夢で山といふものは解剖學でもモンス・ヱネリス卽ち陰阜と名付けられてゐるのである。

七。もう一つ象徴によつて解き得る夢を述べる。夢見た人は夢判斷に就ては何等の理論的知識を傳授されてゐない。それだのに、その人は勝手に自分の夢のすべての象徴を翻譯したのは注目に價することで、特に象徴の學說を裏書きした觀がある。こんな態度は極めてめづらしいことで、その條件に就て詳しく知るところがない。

「彼は父と一緒にある場所を散歩してゐる。その場所は確かにプラアテル街である。といふのは遙に穹窿(ロツンデ)が見える。この穹窿の前に一つの小さい建物(フオルバウ)があつて、その家に繫留輕氣球が結びつけられてゐる。繫留輕氣球は幾分かすぼんでゐるやうに見える。父は彼にすべては何のためにあるかと尋ねる。彼は父の質問に一寸ごきまぎしたが、あつさり何のためかを說明する。それから廣場(ホオフ)にやつてくる。そこにブリキの大きな板が敷かれてあつた。父はそのブリキ板を破らうと考へたが、誰か見てゐないかと先づ周圍を見廻はした。父は息子に兎に角監守にだけでも一應言つておく必要があると言つた。それから父は躊躇もせずにブリキ板を破り取つた。この廣場から下へ梯子が堅坑(たてあな)迄かかつてゐる。そして堅坑の壁はやはらかく丁度革の肱掛椅子のやうにふくれてゐた。この堅坑のおしまひの所からさらに長いプラットホオムがついて、さらにまた新しい堅坑が始まつてゐた。」

夢見た人は自分で判じた。「穹窿は私の生殖器だ。穹窿の前の繫留輕氣球は私のペニスである。

と、穹窿は臀部である。——臀部は子供によつて常に生殖器の中に入れられる。小さい家は陰嚢である。夢に於て父は息子にすべては何のためにあるか、卽ち生殖器の目的と機能に就て質問した。この狀況は轉倒する必要がある。卽ち息子が質問する立場にくる。父がかやうなことを息子に質問するのは現實ではあり得ないから、夢の思考を願望とるか若くば條件法として「若し私が父に性の說明を懇願したなら」と解してもよい。この思考の續きは次の箇所ですぐ發見出來る。

ブリキの板の敷かれた廣場は眞始めから象徵的に解してはいけない。これは父の職業の場所に由來してゐる。勝手に私はこの「ブリキ」を父が商つてゐる他の金屬に置換した。置換したからとて、夢の發音は一向變化しない。夢見た人は嘗て父の商賣を手傳ふことになつた。そして莫大な儲を見越して、これ迄から不正とされてゐるある思惑に手を染めて顧客先からさんざんな誹謗を受けた。だから、前の夢の思考の續きは（若し私が尋ねれば）、丁度父が顧客先を瞞著すると同じ手管で私を瞞すだらうとなる。彼は自らこの商賣上の不德を表現するために用ゐられた破るといふことの第二の說明として「破るは自慰だ」と言ふ。破るのが自慰といふことは、私達も夙に承知してゐたばかりでなく、自慰の秘密はそれとは正反對のもの（人は自慰を公公然とやつてよい）によつて表現

されてゐる。自慰の行爲を再び父に轉嫁してゐることは私達の學說のすべての豫想と一致してゐる。丁度これは夢の第一場面の質問と同じである。彼は早速に堅坑をその壁がやわらかくふくれてゐるために膣と解した。そして私もまた昇降を性交と解したいことを附言しておかう。

最初の梯子に長いプラットホォムが續き、それからまた新しい堅坑が續くといふ光景を彼自らの經歷から說明して吳れた。彼はある期間性交を行つてゐたのである。それから抑制の結果それを中止した。そして現在は治療の救ひによつて再び復活したいことを希望してゐるのである。

八。次の二つの夢は、非常に多情な性癖の一外國人の夢で、私の學說の證明として諸君に公表する。自我は顯在夢では巧みに隱蔽されてゐるが、その夢にも顏を出してゐる。夢中のトランクは女の象徵である。

(a) 彼は旅行に出ようとしてゐる。鞄は車に積んで停車場に送られる。車には澤山のトランクが積まれてある。その中に見本のトランクのやうな、大きい黑いトランクが二つある。彼は慰めるやうに誰かに言ふ。「あのトランクは今停車場に搬ばれるんだよ。」

彼は實際澤山のトランクを持參して旅行したのである。彼もまた治療中に私に女の話をうんと打開けた。二つの黑いトランクは現在彼の生活中に重大な役割を演じてゐる二人の黑い女である。そ

の二人のうちの一人の女は彼のあとを慕つてはるばる維納迄やつて來たいと思つてゐたので、男は私に相談の上女に電報を打つた。

(b) 稅關の一光景である。同伴者が自分のトランクを開く。そして煙草を吹かしながら平然と「申告するやうなものははひつてゐないぜ。」といふ。稅關吏はそれを信用したやうに見えたが念のために、もう一度中をまぜかへして、一つの禁制品をひつぱり出して來た。旅客は諦めたやうな態度で言つた。「うん。しかたがないね。」その旅客は彼自身である。そして私がその稅關吏になつてゐる。彼は私にすべてを正しく告白してゐたのであるが、彼が最近に作つたある女との關係を私に隱さうと決心してゐたのであつた。と申すのは、彼は話さなくとも私がその女をとうから勘付いてゐると豫想してゐたのであつた。彼は發見されて狼狽する位置を未知の人に轉嫁した。だから夢の中には彼の姿は寸毫も現れてゐないのである。

九。ここで私が未だ報告してゐない象徵の例を擧げよう。二人の女友達と一緖に步いてゐる自分の妹に出合ふ。その二人の女友達は確かに姉妹であつた。彼はこの二人の女と握手した。併し自分の妹には握手しなかつた。

この夢は現實の出來事と何の關係もなかつた。その考へはむしろある時代に溯る。その時代に彼

は娘の乳房が何故さう遲く發達するかといふ疑惑を懷いてゐた。だから二人の姉妹は乳房の代用である。彼は自分の妹のでなかつたら、その乳房を手で觸れてみたいと思つたのであらう。

十。ここには夢中の死の象徵の例を示すことにする。

彼は勾配の急な、非常に高い鐵橋を、二人の人と一緒に渡つて行く。その人の名前は知つてゐたが、覺醒した時に忘れてしまつた。突然二人の人の姿を見失つた。そして彼は、帽子をかぶり、リンネルの衣服をつけた幽靈になつた人を見た。彼はその人におまへは電報配達夫かと訊ねる。……さうぢやない。ぢや御者かと訊ねる。さうぢやない。彼はそれから向ふへ歩いて行く。彼は夢の中で非常な恐怖を感じた。そして、この夢は覺醒後鐵橋が突然壞れて自分がもしや谷の中に墜落したならといふ空想に續いた。

彼が自分には未知の人だ、自分は名前を忘れてしまつたと强めてゐるその二人の人は大概彼とは親密な關係にある人である。夢見た人には二人の兄があつた。若し彼がその兄の死を竊に希望したなら、當然彼に死の恐怖が見舞つてくる筈であらう。電報配達夫に就て彼はさういふ人はいつも惡い通知を運んでくると說明してゐる。その人の服裝から彼は點燈夫だといふ。併し點燈夫は一面燈を消す職業である。卽ち死の精靈は生命の火を消すといへる。御者に就て彼はウウランドの書いた

カルル王の巡洋の詩を聯想した。そして二人の友達との危險な航海を思ひ出した。二人の友達に對して彼は詩中のカルル王の役割を演じたのである。鐵橋の墜落は最近の不幸を聯想さした。そして「生命とは釣橋のやうだ。」といふ馬鹿らしい諺を聯想した。

十一。死の描寫の別種の例は次の夢に現れてゐる。未知の紳士が夢見る人に黑枠のはひつた名刺を置いて行つた。

十二。いろいろな點で次の夢は諸君に興味があらう。

彼は汽車に乘つてゐる。列車は廣い野原でとまつた。彼は何か危險が迫つてゐると考へる。逃げなくてはならぬと考へる。そこで彼は車掌であらうが機關夫であらうが、出會ふ人は片端から打殺して、次から次へと列車をぬけて行く。

これはある友達の話の記憶であつた。ある伊太利線で一人の狂人がハルプクッペに監禁されて護送された。どうしたことか一旅客がその狂人の監禁されてゐる小さい部屋の戸を開いた。そして狂人は同列車の多數の人を殺した。卽ち彼は自分をその狂人と同視してゐる。この理由は時時彼を煩ます强迫觀念、自分の內幕を知つてゐる人は殘らず追拂はなくてはならぬといふ觀念に發してゐる。彼はこの夢を惹起した立派な動機を自ら發見した。前日彼は芝居である娘に邂逅した。彼は嘗てそ

の娘に結婚を申込む積りであつたが、娘は彼に妬嫉を燃やさすやうな事をしたので思ひ止まつたのであつた。妬嫉の燃ゆる强さによつては、萬一娘と結婚でもすれば彼はまんまんと狂氣になつてしまつたであらう。換言すれば、彼はその娘を信用のおけない女だと考へた。だから嫉妬のあまり自分の女房に關係でもした男は片端から打殺さねばならないだらうと考へたのである。ここでは列車をぬけて行くが、次から次へと部屋をぬけて行くことを私達は既婚(一夫一婦の對偶)の象徵と解してゐる。

列車が廣い野原に停車することと不幸がさし迫る恐怖に就て彼は語つて吳れる。嘗て彼が鐵道旅行をしてゐる時停車場でないところで突然列車が停つたことがあつた。その時同室の若い娘に多分列車が衝突したのであらう、こんな時は足を高くあげるのが一番よいと注意を與へた。ところがこの「足を高くあげる」(die Beine hoch) は彼がさつきの娘との幸福な初戀時代にともども樂しんだ散步や遠足と聯想を持つてゐた。卽ち夢は娘と現に結婚してをれば俺は必と狂氣になつてゐたゞらうといふ新論法である。彼の現在の心理狀態の智識から、私はそんなに狂氣になればといふ願望が今でも彼の心裡に存してゐることを保證しても差支へなかつたのである。

第十三章　夢の大古性と小兒性

夢の仕事は檢閲官の干渉の下に夢の潛在思考を全く別な表現樣式に翻譯するといふ私達の研究結論にもう一度觸れてみることにする。これ等の潛在思考とて要するに覺醒生活に於ける吾人に既知の意識思考とあまり徑庭のないもので、この目新しい表現樣式はその親しみのないいろんな特性のために現今の私達には理解し難いものになつてゐる。既にお話したやうに、この表現樣式は昔の昔のその昔に征服した私達の智的進化のある階段、象形文字の時代、象徴關係の時代、恐らく私達の思考言語の進化前に存してゐた時代に溯ることになる。この故に夢の仕事の行ふこの種の表現樣式を大古的(アルカイシユ)若くば退行的(レグレツシイフ)と名付けてゐるのである。

この事實を緒口として、諸君は夢の仕事をさらに深く研究することによつて、現今未だ闡明されてゐない吾人の智的進化の蒙昧時代に關して貴重な說明を齎し得るに違ひないと推察されよう。私とてかくありたいと希望するが、この研究には今日のところ未だ誰も手を染めてゐない。夢の仕事の引き戻して吳れるあの大古なるものには二つの意味がある。第一は個體の大古卽ち小兒時代があ

る。第二は總ての個體がその小兒時代に人類の全進化を短縮して反復する意味に於て種族の大古がある。潛在してゐる精神現象のこの部分が個體の大古に由來し、またこの部分が種族の大古に由來してゐるかをきつぱり鑑別することは私自ら不可能だとは信じてゐない。例へば個體的には決して學ばれなかつた象徵關係は明かに種族的獲得と見做す事が出來るのである。

何も象徵關係が夢の唯一の大古性とは言はない。諸君の誰でも自らの經驗から小兒時代の記憶が驚く程缺損してゐるのを承知してをられよう。私の申す意味は、人生の一歲から五歲乃至六歲、若くば八歲迄の經驗が後年の經驗のやうに記憶のうちに印象をとごめてゐない事である。子供時代から現在迄の記憶がずうと缺けずに連絡してゐると自慢出來る人に出くはすが、それは稀有な例で、大抵の人では記憶の中に空所が存在してゐるのだ。この事實はさう驚くに足らないものだと私は思ふ。凡そ子供は二歲で言葉を立派に話し、間もなく輻輳した精神狀態にうまく適應出來る能力を發揮し、數年後人から話された時には全く記憶にも浮ばないやうな事柄をその當時旣に話してゐるのである。そして後年に比べて記憶の荷が輕いために小兒時代の記憶は非常な強い力を具へてゐる。記憶力と申すものはある特別に高等な精神力だとかある特別にむづかしい精神力だと觀ずる理由はどこにもない。高尙どころか、明晰な記憶は知的に非常に低級な人人の間にでも發見することが出

來るぐらゐである。

併し私は個體の太古時代に含まれてゐる第二の特徴を示さなくてはならぬ。第二の特徴とは小兒時代の初期を包んでゐる記憶の空所からある記憶、大概造形的に印された記憶が鮮明に浮び上つてくる。そしてさういふ記憶だけが何故さう鮮明に保存されてるのだらうと自ら怪しむぐらゐである。後年經驗する印象の材料に對しては私達の記憶は丁度淘汰を行ふやうに處置する。卽ち、記憶は重要な印象をひきとどめ、重要でない印象を篩ひ落としてしまふ。現在保たれてゐる小兒時代の記憶はこれと同じやうな淘汰を受けてゐない。その記憶は決して小兒時代の重要な經驗に相當してゐないし、子供の立場から見ても重要だと斷定出來るやうな經驗にも相當してゐない。むしろ大抵の記憶は平平凡凡な無意味なもので、何故こんなとるにも取らぬ事柄を今までよくも忘れずにゐたと驚くぐらゐである。嘗て私は小兒時代の記憶缺損の謎及び忘れられずに殘つたその記憶の殘物を分析の助でつきとめようと試みた。そして最後に小兒にでも重要な印象だけが記憶の中に殘されるのだといふ結論に到達した。この重要な印象は諸君が旣に御存じの壓縮作用特に轉移作用によつて一見重要でないもののやうな姿となつて記憶の中に現れてゐるのである。この故に私はこのやうな小兒時代の記憶を「被蓋記憶(デツクエルインネルンゲン)」(Deckerinnerungen)と命名しておいた。若し分析を徹底的に行ふと

この被蓋記憶から忘却してゐる總ての記憶を引き出す事が出來るのである。

精神分析療法に於ては小兒時代の記憶の空隙を埋めることを常に第一の目的としてゐる。若し分析療法がある程度迄成功する時は、いや大抵成功するものであるが、私達は同時に忘却によつて蓋されてゐる小兒時代を再び明るみへ引き出す事まで出來るのである。小兒時代の印象は決して本當に忘却されてゐるのでない。單に觸れ難いものなのだ。換言すれば潛在となつて無意識に屬してしまつてゐるのである。時によるとこの潛在した記憶が偶然無意識から浮び上つてくることがある。詳しく申せば彼等は夢と結びついて浮び上つてくるのである。だから夢の生活はこの潛在してゐる小兒時代の經驗にまひ戻る道を知つてゐると申せる。この種の實事な例が精神分析の文献の中に記載されてゐる、私自らもこの方面に大いに貢献したのだ。ある日のこと私はある夢の續きにある人の夢を見た。その人は夢の中で非常に私の世話をして吳れた。そしてその人を私の目近にはつきり見たのだ。その人は片目で小柄ででつぷりした肩の怒つた男であつた。私は夢の前後の關係からその男が醫者であると考へた。幸なことに私は當時未だ生きてゐた母に、私が三歳の時に去つた私の誕生地の醫者が、ごんな風采の人であるかを尋ねる事が出來た。母はその醫者が片目で小柄ででつぷりした肩の怒つた人だと敎へて吳れた。同時にその醫者が私が負傷——私はすつくり忘却してゐるた

てた材料をこのやうにあやつるのが夢の第三の大古性である。即ち小兒時代の初期の忘れ果

てた材料をこのやうにあやつるのが夢の第三の大古性である。

この智識は私達が今迄に遭遇した謎のあるものと關聯してゐる。私達が夢の指嗾者は極惡無道な放逸な性的願望で、當然檢閲官と夢の歪みの厄介になるべき性質のものだつたといふ結論に達した時に、諸君がどれ程驚いてこの結論に目をみはつたかを思ひ出すだらう。私達がこの種の夢を判じてやつて、夢見た人が好都合にも私達の解釋に何の抗議も申込まなかつた時に、彼はさういふ願望は一向自分とは緣故はないし自分は全くそれと正反對の事を意識してゐたのだ、だから一體そのやうな願望はどこから湧いて來たのかと質問するに極まつてゐる。この願望の由來を證明するのは造作もないことだ。かやうな惡なる願望は過去、しばしばそれ程遠くない過去に由來してゐる。この願望は今日では知つてはゐないが、嘗て一度はその存在は當人には知れてゐた、意識されてゐたのだと證明出來る。一夫人が夢を見た。その夢は現在十七歲になつた一人娘が死んで呉れればよいのにといふ願望だと解釋された。そしてこの夫人は私達の指導の下に彼女がある時代に自分の娘に對して死の願望を懷いたといふ事實を回想した。この娘は結婚後間もなく離婚になつた不幸な同棲生活の果實であつた。夫人が娘を未だ胎內に持つてゐた頃に、夫との劇しい口論のあげく、お腹の子

供なぞ死んで吳れればよいのにと握拳で思ひきり自分の腹部を敲いたことがあつたのだ。現在では自分の子供を慈悲深く、恐らく子煩惱と言はれる程愛し切つてゐる多數の母が、過去に於て、いやいやながら受胎し、その當時自分の胎內の生命が伸びて行かないことをどれ程熱望したかも分からない。實際母達はそのやうな願望を幸福にもあまり害にならぬ、いろいろ違つた行動に轉化してしまつたのである。だから愛する人に對して後年懷く不可思議な死の願望はその人との關係の早期に由來してゐるのだと申せる。

自分の夢から一番寵愛してゐる總領息子の死を望んでゐるのだと判じられた夢判斷を正しいと認める父は嘗て一度はさういふ願望が彼の心に實在してゐた事を回顧するに違ひない。ある男で自分の子供が未だ乳呑子であつた時に、自分の結婚生活に不滿を抱いて、しばしば手足纏ひになるこんな赤ん坊なぞいつそ死んで吳れればよいが、死んでしまへば俺は妻と離別して、思ひのままに自由を樂しむのにと考へた事が分かつた。憎しみの衝動の大部分は大抵これと同じ起原を有してゐる。彼等は過去に屬した、一度は意識された、精神生活の中で嘗ては活躍したことのあるある事件の記憶であるのだ。この事實から、萬一夫婦關係中にこの種の變化が現れなかつたならば、換言すれば夫婦關係が最初から平和であつたならば、さやうな願望やさやうな夢が作られる餘地がないと結論

を下すことが至當である。既に私はこの推論を正しとしておいた。一言諸君に警告しておきたいのは、夢の文字上の意味でなしに、解釋した後の夢全體の意味を考按しなくてはならぬ。顯在夢が單に見掛けだけ愛する人に對する死の願望といふ物騷な假面を冠つてゐる時がある。さういふ場合この夢は別な方向に解釋し直すか、若くば愛すべき人は他人に代るべきごまかし姿であり得るかも知れない。

かかる場合に際して諸君の胸中に他のもつと眞劍な問題が湧いて來るだらう。諸君は言ふ。たとへこの死の願望が嘗て一度は實在してゐて、記憶によつてその存在が實證されたとて、それだけでは一向本當の說明にはならない。その願望はとうの昔に握り潰されて、現在では無意識裡に單に激情（アフエクト）を失つた氣の拔けた記憶として殘存してゐるだけで、最早到底力强い衝動となり得ない。このあとの假設に對して私達は何の實例も有してゐない。だから一體願望が何の目的で夢によつて記憶されてゐるのかと。諸君の疑問は至極當然である。この疑問に答へようと思へば私達はさらにさらに詳しく話を進めなくてはならぬ。そして夢學の最も緊要な要點に對する私達の立場を宣明せずにをられないが、私は已むなしに當分はこれ以上を出來ない事にして、この疑問に觸れないことにする。現在のところ諸君もこの疑問をひつこめることにして欲しい。この握り潰された願望こそ夢の

指嗾者だといふ證明で滿足して、さらに研究を進めて、他の惡なる願望も同様にその源泉を過去に求むべきかの問題を解決することにしよう。

私達は引續きこの排斥願望を題目にする事にする。この願望は大抵の場合夢見た人の無制限な利己心に歸せしめてよい。この排斥願望は大概夢の形成者となつてゐる。何人かがわれわれの人生の進路を阻むならば——そして人事關係が複雜になる程この妨害は頻繁に現れてくる——夢はその妨害者が父であらうと母であらうと、たとへ兄弟、姉妹、夫又は妻であらうと、一向頓着なしに、その人を死に陷れようと手ぐすね引いて待つてゐるのである。私達はこの人性に潜む惡なるものに眞から驚歎したのだ。そして夢判斷に依るこの歸著が眞實であるとは早速に諾ふ氣になれなかつたのである。ところが丁度この種の願望の起原が遠く過去に屬してゐる事實を證明して、個體の過去のある時期にあつては近親の者に向けられたかやうな利己心や願望の衝動は決して驚くに足りない事を發見したのである。私の言ふある時期とは丁度第一年の小兒時代を指してゐるのだ。この時代は後年回顧してもすべて忘却の霧に包まれてゐるが、この第一年の小兒は露骨に利己心を發揮し、大抵の場合この露骨な傾向、正しく申せばこの傾向の遺物は小兒の行動に反映する。小兒は先づ第一に自己を愛し後年になつて初めて他人を愛すること、自分の自我の幾分を他人に犧牲にすることを

習つてくる。小兒が初めから一見愛を示すやうでも、實はその人が必要であるため、換言すれば利己的動機からその人を愛するのである。後年になつて初めて愛の衝動は利己心と無關係になる。實に小兒と申すものは自分の利己心からいかに他人を愛すべきかを習ふのだ。

小兒の自分の兄弟姉妹に對する態度と兩親に對する態度を比較する時は、この利己心に就て教へられるところが多い。小さい子供は自分の兄弟姉妹に對して大抵愛の感情を懷かない。しばしば公然と嫌ひだと言ふ。疑ひもなくこれは小兒の心中に自分の競爭者を憎む傾向があるからだ。かやうな感情がいかにしばしば長年月、成熟の年齡迄、いや大人になつても、ずつと斷絶せずに巢作つてゐるものかは諸君にも周知の事實であらう。成程憎しみの感情は愛情に十分征服される。もつとうまく言へば憎しみの感情が愛情の下積となる。が大抵のところ敵意の感情は愛情よりも早く發生するやうだ。敵意の感情は二歲六ゲ月から四歲乃至五歲迄の子供で、新しい弟や妹が生まれた時に一番たやすく觀察出來る。大概子供といふものは赤ん坊の生れてくるのを眞からは喜ばない。「今度生れた赤ちやんは大厭ひだ。かうのとりが元のところへ連れて行つて吳れたらよいのに。」といふのは子供の極まり文句である。それ故子供はこの新參者を貶さうとあらゆる機會を狙ひ、ある時は赤ん坊に傷をつけたり、直接行動に出でたりするのは決してめづらしくない。二人の年齡の差が少

い時は、潑溂たる精神活動のめざめのために、子供には既に競爭心が準備出來てゐて、それだけこの新參者と競はうとする。子供がずうと大きくなつてしまへば、生れた赤ん坊は最初から面白いもの、動く人形と思はれてある種の同情が湧いて來、赤ん坊と子供の年齡の差が八歳又はそれ以上の時は、特に女の子では早くも赤ん坊に對して親切な、母らしい衝動が現れてくる。だが、正直に申せば、兄弟姉妹に對する死の願望が夢の裏面に藏されてゐる事を發見する時は、奇怪至極だと驚くのを罷めて、その願望の實在を何の苦心も要せずにずうと昔の小兒時代、いや時にはお互が一緒に棲まつてゐた後年の生活の中に求めることが出來るのである。

確かに子供部屋の中にゐる子供達同志の間に常に激しい葛藤が漲つてゐるのだ。葛藤の動機は兩親の愛の獨占、子供達に共有と極められた玩具の獨占、子供達の占める家內の場所の競爭である。この敵對行動は年上又は年下のはらからに向けられる。バアナアド・ショオの申した「若き英國婦人にして實の母以上に憎むべき人ありとすればそは自分の姉である。」といふ言葉は至言だと私は思ふ。併しこのショオの公言には私達を面喰はすあるものが藏されてゐる。兄弟姉妹の間にある憎しみと競爭心は先づこれで合點が行くとして、それではどうして娘と母、兩親と子供の關係の中に憎しみの感情が侵入してくるのだらうか。

この關係は疑もなく子供の立場から見ても好都合のものだ。從つて私達の期待にもかなふものだ。私達は兄弟姉妹の間よりも、兩親と子供の間に愛が缺ける時の方が危險が多いと考へてゐる。私達は兄弟姉妹の間の愛を冒瀆とし、兩親と子供の間の愛を神聖だとしてゐるが、日常の觀察から、兩親と大きくなつた子供達との間に介在する感情關係が社會によつて標傍されてゐる理想としばしば雲泥の差があること、その感情關係には早くも無數の敵意が蠢いてゐること、若し子としての義務、親としての義務、愛情の潤といふ制馭がなければ、この敵意は忽ちに爆發するだらうと教へられる。この敵意の動機が何であるかは一般に知られてゐる。父と息子、母と娘といふやうに同性が相反撥しようとする傾向が動機となるのだ。娘は母に於て權威を感ずる。娘にとつては母親は娘の意志を制忖するもの、性的自由の拒絶といふ社會の要求を娘に履行さす使命を奉じてゐるものとなる。ある場合は母自らが抑壓に反抗しようとする競爭者となることさへある。同樣に父と息子の關係はさらに痛ましい姿を見せる。息子にとつては父親は恰も自分の意志を屈服せしめて堪へて行かねばならぬ社會壓制の權化となる。父親は息子の意志の活動、早期の性的享樂、財產のある場合は、金錢の享樂を妨害しようと監視してゐるのである。若し財產相續權のある場合は、父が死んで吳れればといふ期待は悲劇的高潮にせまつてくる。これに反して、父と娘、母と息子の關係はあまり危險で

はない。母と息子の關係は利己心で微塵も穢されない永久不變な愛情の淸淨な典型となつてゐる。

このやうな一般に知られてゐる陳腐な事柄を何のために今さら私が言ふのか。世には現實生活に於けるこれ等の事象の意義を否定し、社會が要求する理想が、現實に行はれてゐる以上に立派に履行されてゐると揚言して憚らぬ一つの見え透いた傾向が流れてゐるからである。かやうな使命は犬儒學派の言分だと言はう。いや。むしろ心理學は眞實を申すべきものだと敢て主張しよう。勿論かやうな事象の否定は專ら現實生活にのみ行はれてゐるのだ。小說とか劇詩とかいふ藝術はこれ等の理想が傷ましくも頓挫した時に釀された動機を利用することに於ては極めて自由であるからである。

多數の人類がその夢の中に親特に同性の親を排斥しようとする願望を發見したとて何も驚くに足りない。この願望は覺醒生活にも實在してゐる、他種の動機といふ假面を冠りさへすればしばしば意識の中にも現れてくると想像してもよい。例へば夢判斷の第三例では死の願望は父親の無益な苦痛に對する憐愍の情といふものに假裝して現れてゐる。敵意が夢の場面を獨裁することは稀有である。それよりもつと多いのは、敵意が愛情に抑壓され、夢が敵意に單獨行動を許さぬ時は、敵意は愛情の裏面に潛んで現れてくる。このやうに敵意が遮斷された結果夢が巨大な姿を呈しても、私達が一度解釋したあとで夢見た人の生活に關聯した元の位置に入れてしまへば再び萎縮した姿に變つてし

まふ。（ハンス・ザックス）この死の願望は實生活に於て何等存在理由のない時、大人が覺醒生活にそんな穩當でない願望を懷いてゐるとは決して認められない時にさへ夢の中に發見出來る。特に同性間に於て離反を求める願望の最も深い最も常套な動機は早くも小兒時代に一大勢力を占めてるたといふ事實がこれの理由となつてゐるのである。

愛情の競爭は性的に深く色づけられてゐると私は考へてゐる。息子は早くも小さい子供として母親に特別に發達した愛情を懷いてくる。母をわがものと觀じ、父を自分の獨占を阻まうとする競爭者と觀じ始める。同樣に小さい娘は母を恰も自分と父の愛情關係を絕ち切らうとする妨害者、自ら獨裁しようとする自分の地位への侵入者のやうに考へる。この感情を私達はエヂプス錯綜（Ödipuskomplex）と名付けてゐるが、この感情がいかに古い起原を有してゐるかを觀察から知る事が出來る。何故ならエヂプスの神話には父を殺し母を自分の妻としようとする、息子の感情から發したこの二つの極端な願望がやや弱められた姿で現實化されてゐるからだ。私はエヂプス錯綜が子供と親の關係をすべて言ひ盡してゐるとは主張しない。子供と親の關係は確かにこれよりもつと複雜を極めてゐるからである。エヂプス錯綜は多少强く發達する時があり、ある時は轉倒の運命をとることがあるが、兎に角このエヂプス錯綜はごこ迄も子供の精神生活に於ては常套な非常に意義深い因子

となつてゐるのである。世人がこの錯綜の影響及びこの錯綜の運命を重視するよりもむしろ輕視するならその陷る危險は大と申せる。考へてみれば、親の方からしばしばエヂス ズ感情を以て應ずるやうに子供を刺戟するのである。親は自分の子供の性の相違によつて愛情の選擇をする。その結果父は娘を母は息子をより以上に愛し、萬一結婚生活が冷やかになつた場合は、子供は魅力を失つた愛の對象の代用物となるのである。

世界の人がこのエヂプス錯綜の發見に對して精神分析研究に大いに感謝すべきだと私達は主張する事が出來ない。主張しないどころか、この發見に對して大人の人の間に激しい反抗をひき起したのだ。そして禁壓されてゐるタブウに附せられてゐるこの感情の實在を否定する仲間に這入らなかつた人達でさへ私の發見後この錯綜の意味する罪科を訂正して、エヂプス錯綜の固有の價値を揉み消してしまつたのである。私は今でも自分の信念を變更しようとは思はない。私の信念には何等否定すべき何等辯解すべきものも存してゐないのだ。希臘神話によつて逃るべからざる宿命と觀ぜられたこの事實を事實とみなくてはならぬ。さらに興味深いことは、實生活から追放されたこのエヂプス錯綜が詩の中に移行して、恰も詩の世界にその安住の地を見ひ出したのである。オットオ・ランクは彼の綿密な研究中にいかにこの錯綜が劇的詩作の中へ無限の變形、稀薄、假裝の姿をもつて、

換言すれば私達が既に檢閲官の干渉として知つてゐるあの歪みを通つて豐富な動機を供したかを證明して吳れたのである。この理由からこのエヂプス錯綜が後年の生活に、兩親との葛藤が打絕えて平和に暮らしてゐる大人の夢に現れても一向差支へないし、あの去勢錯綜（Kastrationskomplex）卽ち父親が下す性生活への威嚇若くば小兒の早期性的活動の懲罰に對する反應もこのエヂプス錯綜と密接な關係のある事を知る。

今迄に知り得た事實から兒童の心理生活の硏究に廣い世界が開けてくる。そして同樣な道筋から、禁制されてゐる夢の他種の願望、放縱な性衝動を說明しようとする希望を懷いても差支へないのである。さらに進んで私達は小兒の性生活の進化をも硏究しようと鼓舞された。その硏究の結果多くの源泉から次の事實を知り得たのである。先づ第一に、小兒には性生活なぞはない、性慾は思春期に生殖器が成熟して初めて發現するのだといふ假設は許すべからざる誤謬である。それどころか大人が尋常と見做してゐる性慾とは種種な點で異つた性生活の豐富なものが誕生の第一日から小兒に存してゐるのである。私達が大人の生活に於て「倒錯（ペルヱルス）」（Pervers）と名付けてゐるものは、健常な人の性慾と次の諸點に於て違つてゐる。第一に種の境界（動物と人間の境界）を無視すること、第二に汚穢の境界を超越すること。第三に破倫の限定（血緣者に性的滿足を求める禁制）を破棄する

こと。第四に男女といふ性別を無視すること。第五に生殖器本來の任務が他の器官及び他の身體部門に移行すること。このやうな限定は何も誕生第一日から存在してゐるのでなくて、進化と教育の經過中に漸次に築き上げられたものなのだ。小さい小兒はこのやうな限定から自由である。小兒は未だ人類と動物の間に横たはる深い溝を知つてゐない。人類と禽獸とは別のものだといふ自負は後年になつて初めて發達した感情である。小兒は初めは排泄物に對して汚穢の感情を示さない。この感情は教育影響の下に漸次に獲得して來たものである。小兒は性の區別に無頓着である。むしろ男女兩性は同形の生殖器を具へてゐると想像してゐる。小兒はその最初の色慾と好奇心を自分に一番近しい人、他の理由から、最も愛すべき人、卽ち兩親、兄弟、姉妹、乳母に向ける。そして最後に小兒の心に一つの特徵が現れる。この特徵は後年愛情關係の高潮期に再び發現するものである。卽ち小兒は生殖器にのみ快感を追求せずに、多くの他の身體部門にも同樣な感覺が存してゐること、その部門が同一の快感を與へることを發見し、從つてその部門が生殖器の役目を演ずるのである。だから小兒は「多形性倒錯（ポリモルフ・ペルヱルス）」(polymorph pervers) と稱することが出來る。そしてかやうな衝動が悉く極くかすかに發現する事は、その衝動力が後年に比して極めて微弱であるためと教育が小兒の性的表現の一切を卽刻に手嚴しく抑壓してしまふことによるのである。この抑壓から一つの學說が

生じたと申せる。卽ち大人は小兒の性的表現の一部を努めて見て見ぬ振りをし、小兒に潜む性慾なる本性の意味を履違へて他の一部を隱蔽して、結局のところ小兒の性慾全體が否定出來ると考へてゐるのである。子供部屋に這入つて子供達の性的なふざけ方を嚴しく叱りつけたその人が机に向つては矢張その子供の性的無垢を辯護する光景はよく見受けるところである。子供が自由に放任された時若くば子供が誘惑の影響を蒙つた時は、しばしば倒錯した性的行動の全局面が實事に發現される。勿論大人はこれを「子供らしい」とか「遊戲」とか造作もなしに片附けてしまふ。何となれば、子供は道德律に對しても法律に對しても一向責任はないし、大人のやうに刑罰を受けないからだ。併しやつぱり實在は實在だ。小兒の性慾は實に内に潜む體質の表象となり、小兒の後年の進化の誘因とも促進ともなつて重大な意義を藏してゐ、私達に小兒の性生活、さらに廣く人類の性生活に一つの結論を惠むものとなる。だから私達の見る歪められた夢の裏面にこの種の倒錯した願望衝動を再び見ひ出す時には、この點に於ても夢は私達を小兒狀態に復歸さす事を意味してゐるのである。

禁止された願望のうちで特別著明なものは破倫願望である。卽ち兩親、兄弟姉妹に性交の對象が向けられることである。人類社會がかやうな性交に對していかなる憎惡を感じ、少くともいかなる憎惡を設けたか、そしていかに力強く破倫の禁止が强制されたかを夙に諸君は知つてゐよう。破倫

の恐れを說明するためには莫大な努力が拂はれた。ある人はかう說明する。この恐怖は種を保存しようとする自然の配慮である。近親相姦は種族の變質を來たすため、自然はこの配慮を人間に禁制として心理的に現はしめるのであると。他の人はかう主張する。小兒時代の早期から共同生活をしてゐるために、性的好奇がその家族の者に向けられなくなつたためによると。兩者とも破倫を避けることが自動的に確保されてゐるとしてゐるのだ。然もむしろ熾烈な慾望の實在の證據としか思はれないこの峻烈な綻が何のために設けられたかを解するに苦しんでゐる。精神分析研究は短刀直入に證明した。卽ち破倫的な愛情選擇は誰にでもある最初の衝動である。そして後年になつて初めてこの衝動に對して抵抗が現れてくる。だがその抵抗がどこに由來してゐるかは個體心理では十分に闡明されにくい。

兒童心理への潛心の結果、私達は夢の理解に少なからざる收獲を齎した。これ等を總括してみれば、忘却した小兒時代の經驗の材料が夢に現れる事を知つたばかりでなく、小兒の精神生活は、それに獨特な總ての本性、利己心、破倫的愛情選擇等を伴つて夢、換言すれば無意識裡に永存してゐる事、夢によつて私達は每夜この小兒の世界に復歸することが出來る事をも知つたのである。この事實から精神生活の無意識は小兒性である事を立證することになる。この證明によつて人性には多

數の邪惡が潛んでゐると言ふ物恐ろしい印象は漸次光を薄めて行くだらう。これ等の恐ろしき惡なるものは精神生活に於ては單に起原的なもの、原始的なもの、小兒性のものである。そして現實世界では小兒のうちに發見出來るものであるが、小兒に於てもその規模の小さいために一部は見逃し、一部は小兒に何等の倫理的理想を要求しないため發見するのは困難である。夢がこの小兒の階段に退行するために、夢は恰も私達の心中に潛在する惡なるものを曝露するやうな外觀を帶びる。併しこの外觀は單にぺてんに過ぎない。私達は外觀だけを見て何もそんなに戰慄する必要はない。夢を判じた時に推定する程人間は極惡なものではないのである。

夢の惡なる衝動は單に小兒性である。夢が再びその思考と感情に於て私達を子供たらしめて、私達を倫理發達の始原に復歸さすものだとすれば、このやうな惡なる夢を見たとて理性的に何も耻入る必要はないのである。理性と申すものは單に精神生活の一少部分であつて、精神には理性と名付けられないものが多數に存してゐる。その結果私達は無理性的にもかやうな惡なる夢に赤面する場合がある。かやうな願望のあるものが、歪められないあらはな姿で萬一にも意識界に闖入してくる時には私達はこれを檢閲官の精にして赤面して憤慨する。然り、私達は歪められた夢に對しても時時恰もその夢の意味を知つてゐるやうに赤面することさへある。諸君はあの愛の奉仕の夢に就て、

本人に直接には解釋せずにおいたが、その內容をぶちまけてしまへば確かにあの上品な老婦人の逆鱗を買ふ程のものだつた事を想像されよう。これだけでこの問題は落著しない。若し私達が夢に潛む惡なるものをさらに深く究めれば、人性に就て別な判斷と別な評價に達することは可能であらう。

研究全體の結果として私達は二つの見解を贏ち得た。同時にこれ等の見解はさらに新しい謎、さらに新しい疑問の緒口を齎し始めた。第一の見解は夢の仕事の退行性は、單に形式の上ばかりでなく實質の上にも存してゐる。夢の仕事はわれわれの思考を單に原始的表現樣式に飜譯するにとどまらずに、われわれの原始的精神生活、卽ち自我の古い獨裁、人類性生活の初期の衝動、さらに象徵關係を大古性と解してもよいならば、人類の大古の智的所產をも再び喚び醒ましてくることである。第二の見解は嘗て一度はわれわれを支配し獨裁を縱にしてゐたこの古代の小兒性の一切は今日にあつては私達の無意識なるものに探さなくてはならぬことである。今や私達は無意識に對する考へを改革し擴大しなくてはならぬのだ。無意識は最早その當時潛在してゐたものを呼ぶ名稱でない。無意識はその獨自の願望衝動、その獨自の表現樣式、それに固有な普通では發動しない精神的メカニズムを包含してゐる特殊な精神國である。私達が夢判斷から摘發した夢の潛在思考はこの精神國の所屬でない。潛在思考とはむしろ私達が覺醒時にも有してゐる思考の一種である。併し潛在思考も

矢張無意識であると申せる。だからどうしてこの矛盾を解決すればよいのか。私達はこの二つを鑑別しなければならぬと考へ始めて來た。私達の意識生活に由來し意識生活の特性を具備してゐるあるもの――これを「晝の殘物」(Tagesrest)と名付けてゐるが――があの精神國からやつて來たあるものと結びついて夢を形成すると言へる。そしてこの二つのものの間に立つて夢の仕事が作用力を發揮する。そこに現れた無意識がいかに晝の殘物に影響するかの程度が退行の條件となるのである。これは實に夢の本態に關する深奧な見解であつて、私達がさらに深く精神界を究めぬうちはその眞相を闡明することは覺束ない。併しやがて時機がやつて來て、夢の潛在思考の無意識的本性と小兒性の國に由來してゐるあの無意識とを區別するために別の名稱を與へることが出來るやうになるだらう。

さらに私達は睡眠中の精神活動にさやうな退行性を強制するものが何であるかといふ疑問を提供してみる。何故に精神活動は睡眠をかきみだす精神刺戟を退行性の助力を仰がずに單獨に處分しないのだらう。さらに若し精神活動が夢の檢閱官の干渉の下に、古い今日では理解出來ない表現様式の假裝を利用しなければならぬなら、一體何の目的で今日では埋埋してしまつた古い精神衝動、願望、特質、換言すれば形式的と同時に實質的な退行性を復活するのであらうか。私達を滿足さす唯

一の解答はかうである。かやうな手段によつてのみ、夢が形成され得るのであり、力學的にはこれ以外の手段では夢の刺戟を鎭壓することが出來ないのである。だが私達とて只今のところそのやうな解答を與へる權利を有してゐないのである。

第十四章　願望實現

今日迄こつこつ歩いて來た道を諸君にもう一度回顧して貰ふことにしよう。私達の發見した術式を應用した際に夢の歪みに逢著したが、私達は暫くその問題に觸れずに、夢一般の本質に就て確乎たる智識を得るために一途に子供の夢を研究してみようと決心したのであつた。次いで、私達はその研究の歸著を以て武裝して夢の歪みに突喚し、一歩一歩夢の歪みをも征服したと思つてゐる。然しながら二つの道程に於て別別に發見したところのものが、二つともぴつたり合致してゐないと言はなくてはならぬ。この二方面の結果を結びつけ比較對照することがこれからのわれわれの仕事となるのだ。

二方面から齎された結果から夢の仕事とは、專ら思考を幻覺的經驗に轉化する作用だといふ事實を學んだ。どうしてこの轉化の過程が行はれるかは實際不思議なことだが、これはむしろ心理學總論の取扱ふべき問題であつてここで詳しく論ずる暇がない。子供の夢から私達は夢の仕事の目的は願望實現を通して睡眠をかきみだす精神刺戟を除去するのだと言ふ事を學んだ。歪められた夢に就

ては、私達がその夢を解する術を理解する迄、同じ見解を發言することが出來なかつた。然しながら劈頭から歪められた夢も丁度子供の夢と同一の見地から説明することが出來るといふ豫想が懐けたのである。あらゆる夢は――子供の夢である、あらゆる夢は小兒性の精神活動と小兒性のメカニズムを行使するといふ見解に私達が達した時にこの豫想は第一番に適中したのである。夢の歪みに通曉したといふ自信がついた以上、これから願望實現といふ概念が同じく歪められた夢にも適用出來るといふ研究に著手しなくてはならい。

つひさつき夢の分析を一つ宛行つたが、その際は少しも願望實現の問題に觸れなかつた。併し諸君の胸中にはその解釋の最中に「それぢや夢の仕事の目的と稱へられてゐるあの願望實現はどうなるのですか。」といふ疑問が絶えず湧いて來たことと思ふ。諸君の質問は非常に大切なものだ。さういふ疑問は素人批評家の口からよく出るものだ。御承知のやうに、人類と申すものは新智識に對して本能的に反感を懐くものである。その反感の現れは、かやうな新智識を直ちに最も小さい周邊に短縮して、大抵の場合一つの標語に凝結されてしまふ。新しき夢學に對してはこの願望實現といふ言葉がこの標語となつたのである。夢が願望實現であると聞くと素人は早速に「願望實現は一體どこにありますか。」と質問を浴せかける。そしてその質問の裏には願望實現なぞはどこにもないぢ

やないかといふ冷かしを持つてゐる。素人は早速に自分の見た不快な感情乃至氣味惡い恐怖に包まれてゐた無數の夢を振かへつてみて、精神分析の唱へる夢の學說の主張は嘘八百だと疑ひ出してくる。歪められた夢には願望實現なぞは露骨に現れる筈がない、兎に角探さなくてはいけない、夢を解釋した後初めてこの願望實現が見付かるのだと速答出來るのだ。この歪められた夢に含まれてゐる願望は實に檢閱官の忌避に觸れた禁制の願望であつて、この願望あるがために、夢の歪みの誘因を釀し、檢閱官干涉の發動となつたのである。夢の解釋前にその夢の願望實現を質問してはいけないといふことは素人批評家にとつては解し難い點であるが、素人はきまつてこの警告を忘れてしまふ。願望實現の學說を否定しようとする態度は明白に夢の檢閱官の效果に外ならない。卽ちこの檢閱された夢の願望を否定する大勢にまかれて檢閱官の代辯をやつてゐるのだ。

勿輪悲痛な內容を持つた夢がある。特に惡夢(アングストトラウム)がある。私達もまたこの事實を說明したいのである。これを說明しようとすれば當然夢中の感情といふ問題に逢著する。夢中の感情は獨立して硏究しなければならぬ程の大問題だが、殘念にもここで詳細に述べられない。若し夢が願望實現でなくてならぬなら、夢中に悲痛な內容が存するなどはあり得ない事だといふ素人批評家の抗議は尤も至極である。だがこれ等批評家が見逃してゐる三種の混亂を先づ考察しなくてはならない。

第一に考ふべきは夢の仕事が運惡く願望實現を創造することに落第して、その結果夢の思考の悲痛な感情の一部が顯在夢に殘る場合である。分析の結果この種の夢の思考は、その思考から組立てられてゐるその夢より數倍悲痛な色彩のものだといふことが分明する。どの例に就てもいつでも實事に說明出來る。丁度喉が渴くといふ刺戟の下に現れる水を呑む夢は、本當に渴きを鎭めることにあまり成功しないやうに、私達は夢の仕事がその目的を達しなかつたことを認める。喉が渴いてやまぬ時は目を醒まして水を呑まなくてはならぬ。併しこの夢は夢としてはやつぱり正しい夢だつたのだ。この夢は夢本來の特徵を微塵も棄ててゐなかつたのだ。ut desint vires, tamen est laudanda voluntas.（酒を廢するその目的をこそ稱揚すべきである。）といふ諺を言はなくてはならぬ。確乎たる目的は少くとも稱揚に價するのだ。夢が目的に成功しない例は決して稀有な出來事でない。不成功の一原因として內容よりも感情を夢の本性に變更する方が夢の仕事にしては何層倍かむづかしいのである。感情はいつでも非常に剛情な代物であるからである。その結果夢の仕事は夢の思考に含まれてゐる悲痛な內容の方は立派に願望實現の姿に轉化してしまふが、一方その悲痛な感情は矢張元の姿の儘夢の中に織込まれてしまふのである。そのやうな夢では感情と內容とは一向調和してゐない。そのために批評家は得てして、夢の中に何等悲痛でもない內容が悲痛な感情を伴ふことがあ

るのを見てとつて夢を願望實現とするのは不可能だと抗議する。私達はこんな向見ずな抗議に對して次のやうに申したい。夢の仕事の奉ずる願望實現の傾向はこの種の夢に於て最も著明に現れてくる。何となれば內容と感情が分離されるからである。こんな間違つた考へは、神經病が何たるかを知らない人が、內容と感情の連絡は分離が出來ない程密接だと想像してそのため、內容の方は變形されても、その內容に屬する感情は元の儘で表現されることを理解しないために起こるのである。

第二に考察すべきは、素人が誰でも等閑に附してゐる非常に重要な非常に深奥な因子が存する。卽ち一般に願望實現は確かに快感を齎すに違ひない。併し、一體誰に快感を齎すのであるか。勿論願望を懷いたその當人に齎すのだ。だが、私達は夢見た人の自分の願望に對する態度は全く特殊なものだといふ事實を知つてゐる。夢見た人はその願望を非難し、檢閱する。一言で申せば夢見た人はその願望を承認しないのだ。卽ち願望の實現は夢見た人に何等の快感をも齎し得ないのである。快感どころか、快感とは正反對のものだけを齎すのだ。この快感と正反對のものが何であるかは未だ說明されてはゐないが、經驗上正反對のものは恐怖の姿をもつて現れてくる。だから夢見た人の自分の夢の願望に對する態度から言へば、夢見た人は恰も二人の別人の合體である、然も二人はある重要な共通點でかたく結びついてゐると譬へられる。この事實を詳細に述べる代りに、私は諸君

に有名なお伽噺を語ることにする。そして諸君はこのお話の中にこれと同じ關係を發見するに相違ない。親切な魔法使が貧乏夫婦二人に三つの願望をかなへてやらうと約束した。夫婦は雀躍して、十分愼重にこの三つの願望を選擇しようと決心した。ところが妻は隣の家で炙いてゐる腸詰の香氣に迷はされて、ああんな腸詰を二つ欲しいなと思つた。忽ちに腸詰が目の前に現れた。これで第一の願望が實現されたのである。これを見て夫は立腹して憤怒のあまり、糞、こんな腸詰なぞ嚊の鼻さきにぶらさがれと願つた。腸詰は妻の鼻さきにぶらさがつた。腸詰はその鼻さきからどうしても取れなかつた。これは第二の願望實現で、この願望は夫の懷いた願望である。その實現は妻にとつては至つて不愉快なものである。諸君もこのお伽噺のおしまひを御存じだらう。二人は結局のところ夫婦として一體であるのだから、第三の願望として腸詰が嚊の鼻さきからとれるやうに願つたに相違ない。私達はこのお伽噺をいろいろな意味に於て何度も拜借したいのであるが、只今のところは單に、二人がお互に一致しなかつたなら、一人の懷く願望實現は片方の人には不快なものになるといふ事實を解説するために引用したことにする。

偖て恐怖の夢をこれ以上にうまく理解するのは私達にはさして困難でない。丁度もう一つの觀察を借りてこよう。その觀察を出發點としていろいろな點で根據のある假設をたてることにする。そ

の觀察といふのは、恐怖の夢は大抵歪みの全くない換言すれば檢閲官の目から漏れた一つの內容を持つてゐる。恐怖の夢はしばしば假裝しない願望の實現である。勿論これは夢見た人が認容する願望でなくて、夢見た人が排斥する願望である。卽ち恐怖は檢閲官にとつての恐怖である。子供の夢は夢見た人が認容してゐる願望の公然たる實現であり、普通の歪められた夢は抑壓された願望の假裝した實現であるなら、恐怖の夢は抑壓された願望の公然たる實現であるといふ公式が成立してくる。恐怖は抑壓された願望が檢閲官の干涉力が及ぶ以上に强力であつたこと、抑壓された願望が檢閲官に刄向つて實現を遂行し若くば實現を遂行しつつあつたといふ特徵を具へてゐる。夢にとつては願望實現であるところのものは、夢の檢閲官の味方をしてゐる私達にとつては單に悲痛な感覺と防禦の機緣となり得る事を知るのである。その時夢に現れた恐怖は、普通ならばとつちめてやれたのに願望が强大であるために——卽ちその願望の强大に對して感ずる恐怖である。ごういふ譯でこの强大な願望に對する防禦が恐怖といふ形で現れてくるかは、夢の研究だけでは說明し難い。私達は恐怖といふ題目を別なところで公然と硏究しなければならないのである。

歪められない恐怖の夢を說明するこの假設は同時に一部歪められた夢や苦痛な感情が殆ご恐怖にも近い姿をとつた不快な夢のある種類にも適用出來る。普通恐怖の夢は覺醒夢である。夢の抑壓さ

れた願望が檢閲官を打負かして實現を肆にする前に早くも私達の睡眠は破れてしまふのを常とする。この場合夢はその目的をしくじつたことになるが、夢の本質はそのために變化されてはゐない。私達は夢を安眠が妨害されないやうに張番してゐる夜警、卽ち睡眠の番人と擬へたことがある。夜警でも萬一自分一人で妨害や危險を逐つぱらふ自信がないと感じた時は寢てゐる人を搖り起こすことがあり得るのだ。然も夢が危機に迫つて恐怖に移り始める時でさへ、私達は睡眠を持續しおはすことがままある。私達が睡眠中に「なんだ夢だつたのか。」と獨言をいつて又寢込んでしまふのは丁度この時である。

夢の願望が檢閲官を壓倒する事態に達するのは何時現るべきか。これの條件は一方夢の願望から他方夢の檢閲官から遂行され得る。願望の力は未知の理由から一度は過大になるものだが、私達は大抵の場合檢閲官の態度が二つの間の勢力比例の配分に責任を持つてゐるやうな印象を受ける。檢閲官は個個の夢に於てその干涉力を異にしてゐる。個個の要素に對してもその嚴格の程度を異にしてゐる事を話しておいた。檢閲力は一般に非常にまちまちであつて、同一に不穩なる要素に對してもいつでも同等の嚴格さを適用しないといふ假設を只今附加しておきたい。檢閲官が自分を壓倒しようと强迫するある願望に對して自己の威力の貧弱さを感ずるやうな事態に立ち到れば、歪みを利

用せずに、自分に殘された最後の手段として恐怖をよびさまして睡眠狀態を破壞するのである。

この點に就て何故この惡なる非難に價する願望が丁度夜分に湧いて來て私達の睡眠をかきみだすかの理由を今日未だ知つてゐない事は驚くべきだ。だがこれに對する返答としてそれは睡眠狀態といふ本性に歸すべきである假設をおいて外に求められない。日中の間は檢閲官の重重しい威壓がこれ等の願望に加はつて、願望が何等かの手段によつて發現する事を不可能たらしめてゐる。ところが夜中はこの檢閲官は、精神生活の興味の總てと同樣に、寢込まうとする唯一の願望に都合がよいやうに、その干渉力を休止さすか若くば少くとも強く低下さすのである。即ち檢閲力は夜中に一部低下するために、禁止されてゐる願望が再び活躍する自由を持つのである。不眠症を訴へる神經質患者があるが、さういふ患者は不眠は最初は自分が望んでゐたものだつたと私達に告白する。といふのは、さういふ患者は自分の夢、換言すれば檢閲官のこの干渉力の低下の結果に怯えてゐるために安心して寢込めなかつたのである。この故に檢閲官のこの干渉力低下は決して大きな怠慢を意味してゐないことは諸君も容易に察せられよう。睡眠狀態はわれわれの運動力を痲痺さす。だからたとへ惡なる意向が心中に活躍し始めても、この惡なる意向は實行的には無害な一つの夢を作る以上を出ないのである。そしてかやうな安らかな事態に於て寢てゐる人は「なんだ夢なのか」といふ夜

て再び寢込んでしまふのである。

に屬するが、決して夢の生活には屬してゐない、最も理性的な言葉を發する。卽ちこの言葉を許し

第三に考察すべきものとして諸君が自分の願望に反抗する夢見る人は恰も別個のしかもどこかでかたく連結してゐる二人の人物の合體であるといふ概念を記憶されるなら、どうして非常に不快なものが願望實現となつて現出するかの別な道筋を發見することが出來よう。私は刑罰に就て言はうとするのである。ここでもあの三つの願ひのお伽噺を說明に拜借してくることにする。皿の上の腸詰は最初の人卽ち妻の懷いた直接の願望實現である。妻の鼻尖にくつついた腸詰は第二の人卽ち夫の願望實現であるが同時に妻の懷いた愚な願望に對する刑罰である。神經病者には丁度このお伽噺にだけ名殘を留めてゐるこの第三の願望を起こすはめになる動機に相當する願望を發見するのだ。人類の精神生活にはこのやうな刑罰傾向が夥しく存してゐる。この傾向は非常に强力である、苦痛な夢のある部分はこの刑罰傾向に基づいてゐると申してもよい位である。今迄のものだけで有名な願望實現の學說は殆ど餘蘊なく證明出來たと諸君は考へるかも知れぬが、詳細に眺めてみれば諸君は思ひ違つてゐることに氣付かれよう。夢の本質に關する後段に述べる千差萬別な姿に比して——多數の學者の說もさうだが——願望實現、恐怖實現、刑罰實現と申す三つの解決はあまり偏狹なも

のであるのだ。なほ附加しておきたいのは恐怖と申すものは願望と正反對の性質のもの、この正反對は聯想に於て相互に特に密接してゐるものであり、既に申したやうに無意識裡で合致するものである。さらに刑罰もまた願望實現であつて、これは他の人卽ち檢閲を行ふ人の願望實現である。

大局から見て私は願望實現の學說に挑む諸君の抗議には一向讓歩しなかつた積りであるが、歪められた夢に就ていちいちその願望實現を立證してあげる責任は無論感じてゐる。決してこの責任を回避しようとする考へなどは抱いてゐない。そこで一つ以前に解釋したあの一フランツ五十クウロンで三枚の三等切符の夢、私が澤山の智識を學び得たあの夢に舞ひ戻ることにする。諸君も憶えてゐて下さるだらう。ある日夫が細君にその細君とは僅か三ケ月年若いエリゼといふ女友達が婚約したと話した。その夜にこの夫人は夫と一緒に劇場にゐる夢を見た。坐席の片方は空席である。夫は細君にかう話す。エリゼとその未來の夫も來たがつてゐたが、三枚で一フランツ五十クウロンの三等切符しか買へなかつたのでここへ來ることが出來なかつた。夫人は二人が來られなかつたとて決して不幸でないと考へた。私達はこの夢の思考の中にそんなに早く結婚してしまつたといふ後悔と夫に對する不滿が含まれてゐる事を發見した。ごういふ風にこの濁つた思考が願望實現の形に轉化されてゐるのであるか、そしてその願望實現の根跡が顯在夢のごこに姿を見せてゐるのかの問題は

私達の好奇を唆るものである。「あまり早くあまり周章てて」といふ要素は檢閲官によつて抹殺された事は既に知つてゐる。空席は丁度この要素を諷示してゐるのだ。「一フランツ五十クウロンで3枚」といふ不思議な表現は、以前に研究したやうに象徴でもつて立派に了解出來る。(*) 實際3は男を意味するのだ。そして顯在要素は「持參金で男を買ふ」(私ほどの持參金なら十倍も立派な男が買へたのに)と直ちに翻譯出來る。結婚は明らかに觀劇で代用されてゐる。卽ちあまり早く入場劵の心配をしたことは直接あまり早く結婚したといふ代用をしてゐるのである。併しこの代用物は願望實現の仕事だと申せる。夫人は自分の女友達の婚約の報に接した當日と同樣に決して自分の早い結婚に不滿なぞ感じてゐるのでなかつた。その時彼女は自分の早婚を自ら誇りと感じ、あの女友達エリゼより自分の方が遙か惠まれてゐると考へた位なのだ。內氣な娘といふものは婚約をしてしまふと、自分に今日迄嚴禁されてゐたいろんな芝居を早速に見に行くことが出來、いろんな物を見てもかまはないのだと考へて喜びに滿ち溢れるといふ話を聞いてゐる。ここに現れてゐる見たいといふ慾望、卽ち好奇は確かに最初は性的のものを見たいといふ慾望である。卽ち好奇は性的生活特に兩親の性的生活に向けられたものでこの好奇はやがて娘をして早婚に驅り立たす熾烈な動機となるのである。かういふ解釋から芝居に行くことは結婚したといふ事を明瞭に仄かす代用物となる

のだ。だから自分の早婚に對する現在の後悔の形を借りて、夫人は彼女にとつて早婚が願望實現であつたその新婚時代に復歸したのである。何故なら夫人は自分の見たいといふ願望を滿足さして、この昔の願望衝動に導かれて觀劇でもつて結婚を代用したのである。

(*) この子供のない女の見た夢に現れてゐる3といふ數字を別種に解釋したが兩者とも非常に密接してゐる。併し私はここでその解釋を述べたくない。といふのは、その分析はこの夢を說明する何の材料も惠まないからである。

隱蔽された願望實現を立證するために私達が選拔した實例は理想的なものだとは言ひ難い。歪められた他種の夢に就ても同一方法を適用しなくてはならぬ。私は只今それをやり得ないから、諸君にどんな夢にでも願望實現の發見は成功すると斷言するにとゞめておかう。併し私は夢學のこの點を今少し詳しく述べてみたい。經驗から私達は、この點は夢學のうちで最も危險視されるところで、この點に對して多數の反駁と誤解が湧いてくる事を知つてゐる。加ふるに私が夢は實現された願望、若くばその願望の正反對のもの、卽ち現實化された恐怖、若くば刑罰であると公言するなら諸君は私自らが自分の主張の一部を撤回したといふやうな印象を受けられるだらう。そしてこの機會に私がもつともつと私の主張を縮少するだらうとお考へになるかも知れない。私自身には明白に分かつ

てゐる事實なのだが、私がその事實を口に出す段になると、あまりぎこちなく、從つてあまり不得要領に描寫するといふ非難を蒙つたのである。

何人かが私達と一緒に夢判斷の曠野を彷徨し、夢判斷の今日まで齎した總ての收獲を眺めたならば、大抵願望實現といふ問題のところではつと立止つて、「夢がいつでも意味を持つてゐ、この意味は精神分析の術式で摘發出來ると承認出來ても、何故にこの夢はあらゆる反證に怯まずにきまりきつたこの願望實現といふ公式に劃一しなくてはならないのですか。」といふ疑問を提出するのだ。何故に私達のこの夜の思考の有する意味が晝の思考の有する意味に比較して千差萬別であつてはいけないのか。換言すれば夢はある時は實現された願望に相當し、ある時は諸君自らが申すやうに、願望の正反對のもの、恐怖の現實化であり、又ある時は一つの決心卽ち警告、贊否兩意の躊躇、若くば誹謗、良心の苛責、目睫にある仕事の豫行等を表現するのか。何故に夢は常に一つの願望若くば高高その願望の正反對以上を出ないのか。他の點で一致點があればこの點に關して意見が相違してゐても一向平氣だと公言してもよいのだ。私達は夢の意味、夢を認識する道筋を發見したのだ。それで十分である。若し私達がこの意味を今迄に限定しなくてならなかつたなら、これ程前進は出來なかつたのである。だが何も尻込む必要はない。この點に關して起こされる誤解は吾人の夢學の

本質に抵觸し、神經病を理解する上に必要な夢の眞價を脅かすものである。然しながら實業界で商機に拔目がないと褒められてゐるあの迎合のごの種類もわが科學界では許し難いものでありむしろ有害なものである。

何故に夢の有する意味が千差萬別に解されないのかといふ疑問に答へる私の第一の答辯は「何故に夢の有する意味がさう千差萬別であり得ないなぞといふ理由を私なぞは一向存じてゐない。」といふ極り文句である。私は今迄にその反對の何ものも見た事がなかつたのだ。私の知つてゐる限りでは夢はさうであるのだ。夢に對する私達の廣範な穩當な概念を夢は事實に於てさうあり得ないのだといふ一つのつまらない意見が邪魔するのである。私の第二の答辯として、夢は千差萬別な思考法と智的動作に一致するといふ假設は私にさへ決して新奇なものでない點を力說しておきたい。私はある時ある患者の病歷の中に一つの夢を記載した。この夢は三晚續いて現れて、それ限り二度とは現れなかつた。私はこのやうな夢の態度を說明するのに、この夢は一つの決心に相當してゐる。決心が斷行された以上はこの夢は二度と現れる必要がないのだ、と申したのである。その後私は告白に相當する夢を公表した。私はごうして矛盾を感じながら夢は常に實現された願望であると主張することが出來たのであるか。夢に就て私が努力して贏ち得た收獲を破棄しようとする偏狹な誤解、

卽ち夢と潛在思考とを混同し、ここ迄も潛在思考にのみ屬してゐるあるものを夢から裁斷しようとする誤謬を認めたくなかつたからさう主張したのである。夢は私達がさつき列擧した決心、警告、躊躇、豫行、若くばある任務決行の豫行等の總てのものを代表し又總てのもので代用され得るといふのは全く正しい考へである。併し若し諸君が正しく吟味すれば、これ等一切のものは、夢といふ姿に變形された潛在思考にのみあてはまることを認めるだらう。夢の解釋から諸君は人類の無意識思考はそのやうな決心、豫行、躊躇等を取扱ひ、さういふものを材料として、夢の仕事が夢を形成するのだといふことを學ばれよう。夢の仕事なごに興味が湧かずに、むしろ人類の無意識思考の方に非常な興味を懷くなら、諸君は夢の仕事なぞそつちのけにして、夢とは警告、決心等に相當するものだと實地上最も適切な斷定を與へるだらう。精神分析の硏究中にもかういふ場合が頻頻に起こる。私達は大概夢の形を一度毀して、夢を作る潛在思考をその代用としてその連鎖の中へ挿入しようと努めるのである。

かくて全く偶然に潛在思考の評價から、私達の列擧した非常に複雜を極めた精神行爲はすべて無意識で行はれ得るのだといふ事實を知つたのである。これは實に巨大なしかも實に混沌たる結論である。

併しあともごりをしよう。諸君が省略した言葉の言ひ廻しを使用したのだとはつきり頭に入れ、そして諸君が列擧した千差萬別といふ性質は、夢の本質に存してゐる筈だと信じないなら、諸君の考へは誠に正しいと申せるのである。夢といふ名前を口にする以上は、諸君は顯在夢、卽ち夢の仕事の產物、若くばたかだか夢の仕事そのもの、卽ち夢の潛在思考が顯在夢に轉化される心理過程を意味しなくてはならぬ。夢といふ言葉を他の意味に用ゐるなら概念の混亂が生じ、そのため取返しのつかぬ結果が起こるのである。諸君が意味する夢なるものが夢の裏に存する潛在思考を指すなら、諸君は率直にさうだと白狀して、あやふやな言葉の言ひ廻しを使用して夢の問題を誤魔化してしまつてはいけない。夢の潛在思考とは原料である。卽ち夢の仕事はその原料を顯在夢に變形するのである。何故諸君はごこ迄もこの原料と原料を處置する夢の仕事とをごつちやにするのか。諸君の智識は、夢の仕事の產物だけを知つてその產物がごこからやつて來、またごうして作られたかを說明出來ない人達より果たして幾分か進步したと申せるだらうか。

夢の唯一の本質は思考原料を處置する夢の仕事である。夢の仕事の學說がある以上たとへ實社會で等閑に附せられてゐるからと言つてそれを看過するのは正しいことでない。分析的觀察の示すところは、夢の仕事は潛在思考を諸君の御存じの大古的乃至退行的の表現樣式に翻譯するだけにとご

まらない。それだけでない。夢の仕事は晝の潛在思考に屬さない、しかも夢形成の原動力であるところのものを常にその上に附加するのである。不可缺とも言へるこの附加作用は同じく無意識願望であつて、この願望を實現するために夢の內容が變形を蒙るのだらう。だから、諸君が夢に依つて代表される思考、卽ち警告、決心、豫行等を考へに入れる限りは、夢は多藝多才と言へよう。加ふるに夢は常に一つの無意識的願望の實現である。そして諸君が夢を夢の仕事の成果と觀ずるなら、夢は無意識的願望の實現に過ぎないのである。かういふ理由から夢とは單に決心だとか警告だとか言ひ切ることは出來ない。いや夢は決心といふやうなものを無意識的願望の助を借りて大古的表現樣式に飜譯して、これ等の願望を實現の形に轉化するのだ。願望實現と申すこの一特徴は一定不變のものであるが、他の特徴はいろいろな變化を蒙る。これもまた見方によつて願望と申せる。だから夢は無意識的願望の助を借りて晝の潛在願望を實現された姿に描寫するのである。

私にはすべてははつきり分かつてゐるのだが、私の話から諸君がどの程度迄理解されてたかは何とも想像がつかない。諸君に分かり易く說明するのは私にとつては一苦勞なのだ。何となれば、澤山の夢を綿密に分析してあげなければぴんと頭に響かぬし、夢に關する私達の中で一番難解なしかも一番重要なこの點を理解して貰ふには、矢張私が後日述べようと思つてゐる諸問題と連鎖をつけ

てお話しなくてはならない。萬象はすべて相互に切つても切れぬ連鎖を有してゐる以上、ある一つの現象の本質を深く究めるためには、ごこ迄もその本質と酷似した他の現象にも論及しなくてならぬと諸君でも考へられよう。私達は夢と最も密接な連鎖を有してゐる神經病症候にちつとも觸れてはゐないのだから、今迄の智識でせいぜい滿足しておかねばならぬ。だが私はもう一例だけを說明して、新しい觀察を示してみる事にする。

も一度今迄何度も拜借したあの一フランツ五十クウロンで三枚の入場券の夢を例にとりたい。私は最初は別に深い理由もなしにこの夢を實例に拜借したのだと諸君に保證が出來るのだ。この夢の潛在思考は旣に諸君も御承知だ。細君が自分の女友達が丁度今婚約したところだといふ報に接した時に、自分があんなに周章てて早く結婚してしまつたといふ後悔と夫に對する輕蔑心、卽ち氣長に待ちさへしたなら、もつとよい男を夫に持てたであらうといふ考へである。このやうな思考を原料にして一つの夢を作つた願望が何であるかも旣に私達は知つてゐる。この夢の願望は卽ち見たいといふ願望、芝居が見に行けるといふ慾望である。凡そのところ、結婚すればごういふことが起こるかを一遍知つてみたいといふあの昔懷いた好奇心の名殘であるのだ。子供にあつてはこの好奇は常に兩親の性生活に向けられる。だからこの好奇は小兒性であり、後年なほこの好奇が存してゐる以

上この願望は深く小兒期に根を下してゐる衝動である。併し前日耳にした報知が夫人にこの見たいといふ慾望をよび起こしたとは申せない。單に後悔と懊惱を與へたに過ぎない。この見たいといふ願望衝動は最初は夢の潜在思考には屬してゐなかつた。そして、私達はそんな見たいといふ願望なご想像もせずに、分析を進めて行くうちに夢判斷からこんな結論を得たのである。この後悔はそれ單獨では夢を作る力がなかつた。「あんなに早く結婚したのは馬鹿だつた」といふ思考だけでは決して夢は作られるものでなかつた。この思考から、結婚すればごういふことが起こるかを一遍知りたいといふ古い願望が喚起されて初めてこの夢が作られたのである。次いでこの喚起された古い願望は結婚を觀劇で置換してこの夢の內容を作り、その內容に「あたしはもうお芝居に行けるのよ。子供が見ちやならないと言はれたものは何でも見てもよいのよ。あなたには未だそんな權利はない。私は結婚したのだし、あなたは未だ辛抱しなければならない。」といふあの早期の願望實現といふ姿を賦與したのである。現在の狀態はこの道筋を通つて、それと全く正反對な狀態に轉化された。古い勝利が最近の失望の代用に立つたのである。なほこの外に見たいといふ願望の滿足と利己的競爭心の滿足が合併した。かくしてこの利己的競爭心の滿足が夢の顯在內容を決定した。卽ち顯在內容の中に實際彼女は劇場の坐席に就き一方女友達は劇場に入場することが出來なかつた場面が現れた

のである。夢の内容のいろんな部分はこの實現された場面の中へ、不適當な不可解な變形の姿にされて割當てられてゐる。そして夢の潛在思考は全然この夢の內容の裏面に隱されてゐる。夢判斷とは實に願望實現を描寫する外觀に迷はされずに、いろんな諷示を土臺として苦痛な潛在思考を作り直すことを任務としてゐる。私が提供したいと思ふ第一の觀察としては、只今明るみに出た夢の潛在思考に是非諸君の注意力を集中して欲しい。併しこの潛在思考は第一に夢見た當人には無意識であるといふ點、第二にこの潛在思考は夢見た當人には完全に理解の出來る筋道を通つたもの、從つてこの潛在思考は夢をひきおこしたある刺戟に應じた理解しやすい反應と見做すことが出來るといふ點、第三に潛在思考はある精神衝動若くば知的行動に相當する價値を存し得る點、この三點をくれぐれ忘れずにおいて欲しい。これ等の思考を只今以前より嚴密に「晝の殘物(タアゲスレステ)」と命名したい。次に私はこの晝の殘物と潛在思考を區別することにする。卽ち從來の慣習を守つて夢判斷から知り得る一切のものを夢の潛在思考と名付ける。さうすると晝の殘物は夢の潛在思考の一部分になる。このやうに行くと私達の定義は次のやうになる。晝の殘物にあるもの、無意識にも屬してゐるあるもの、卽ちある强いしかも抑壓された願望衝動が附加される。この願望衝動こそ獨り夢形成を可能とさしたものである。晝の殘物にこの願望衝動が作用して、夢の潛在思考の他部が作られる。この他

部は、最早合理的な姿でなくてもよいし、吾人の覺醒生活から見ても、最早理解の出來る姿でなくてもよいのだ。

無意識願望と晝の殘物の關係を示すために私はこの場合に最も適切と思はれる一つの比喩を用ゐる。事業と申すものを起こす上には、資金を提供する資本家と思想を有しその思想をいかに運用すべきかを辨まへてゐる企業家を必要とする。夢形成に於ては資本家は常に無意識願望の役割を負擔するに過ぎない。資本家は夢形成に入用な精神エネルギイを提供する。企業家は丁度晝の殘物であつて資本家の提供した資金をいかに活用すべきかを決定するのである。勿論資本家自身も思想と專問智識を持つことが可能だし、企業家自身も資金を所有することが可能だ。この比喩は實際の立場を簡潔に說明するが、この比喩から學說の方をも說明するとなると大變むづかしくなつてくる。經濟學では一人の人に資本家と企業家の二方面が具はつてゐる時はいつもそれを區別する。だから私達の比喩の根本は間違つてゐないことになる。夢形成に於てもこれと同じ變異が現れてくる。これ以上の事は諸君にお預けしておく。

この問題に就て私達はもうこれ以上前進することは出來ない。と申すのはとうから多分一つの疑問が諸君の胸底をかきみだしてゐたことと私は考へてゐる。この疑問を一つ聞きたいものである。

「夢を形成するために是非附加しなくてはならぬあの無意識願望と同一意味に於て晝の殘物はしかく無意識でありますか。」諸君の疑問は尤もだ。諸君の疑問は全問題の核心を摑んでゐる。二つは同一意味に於て無意識ではない。夢の願望は他種の無意識、卽ち小兒期に根を下ろし特別なメカニズムを具備してゐるものと申したあの無意識に屬してゐる。無意識のこの二種類を區別するために別別の名稱を作るのは至極便宜であるが、私達が神經病の現象界に親炙する迄この名稱を控へておくことにしよう。無意識なるものが實在するといふ私達の見解は空想だと諸君は冷かす積りか。若し二種の無意識の實在の下に私達の問題が落著すると承認出來る曉は諸君はどういふ口を利くつもりだらう。

この問題は一段落を告げた。諸君はもう一つ私達の弱點を耳にしてゐる。だがこの智識が私達手づから若くば私達の後繼者によつて繼續してさらに開拓される事を將來に托せないだらうか。そして私達がこれだけでも新しきそして驚異に値すべき智識を十分學んだとは言へないだらうか。

第十五章　疑點と批判

夢の世界を去るに望んで私達は、これ迄の新學說と新見解にからまる何人も懷く疑問と不正確を批判してみようと思ふ。私の講演に留意して傾聽された諸君には、自らこの點が怪しいかとひとりでにお氣付きになる筈である。

一。諸君に氣付かれた點はかうである。夢判斷の硏究結果は、術式を正當に活用したにもかかはらず、多數に不正確を留めてゐて、その結果顯在夢を潛在思考に正確に飜譯するのは出鱈目に終らう。第一に夢の要素はその儘の意味に解すべきか、乃至は象徵的に解すべきかを知つてゐない。象徵と解した事物でも、ひよつとすると事物その儘の意味に解すべきであつたかも知れない。かう諸君は肉迫してくるに相違ない。併し、どちらであると斷定を下す客觀的理由を有してゐない以上、この點をいかに解釋するかは一つに解釋者の掌中にあるのだ。第二に夢の仕事では對偶は同一意味であるなら、夢の要素は積極的意味に解すべきか、乃至は消極的意味に解すべきか、卽ちその儘を採用すべきか、若くばそれの正反對を採用すべきかはどうもはつきりしない。ここでも解釋者が勝

手に極めてしまふことになる。第三に夢の中には頻繁に各種の轉倒が用ゐられてゐるなら、解釋者は自分の勝手な箇所にそのやうな轉倒をこぢつけることがあるかも知れない。第四に、諸君も旣に耳にされたことであるが、夢に對して私達が摘發した解釋は唯一無二のものであらうか。一つの夢でも幾通にでも解釋出來る事實を等閑に附してゐる譏がないだらうか。以上の四つの條件を提出して、諸君は解釋者の專横が多量に含まれてゐる限り、夢判斷の成績に現れた客觀的正確はどうも眉睡物だと結論されよう。或はかうも假定されるかも知れぬ。叙上の缺點は夢そのものになくて、むしろ私達の見解と前提のどこかに間違つたところがあつて、その結果、夢判斷が不完全な結果に終るのであると。

諸君の提供して下すつた材料はすべて首肯出來るものである。然しながら、私にも私の言分がある。第一に私達が開拓した夢判斷は解釋者の獨決めの所産であること、第二に解釋の結果に缺點がある以上は、私達の術式の正しさが疑はれるといふ方面から下された、諸君の結論が正しいとは信ぜられない。若し諸君が解釋者の獨決めといふ點の代りに、解釋者の、技倆、經驗、理解力を擧げるなら、私とて何も異議を挾まない積りである。このやうな個人的な要素は決して避け得られるものでない。特に解釋がむづかしい場合には、個人の技倆、經驗、理解力は特に關係するところが大

である。併しこの點では他の科學もわれわれとは五十歩百歩と申せる。ある人がある技術を他人より下手にやらない、或は上手にやらないやうに豫防する良藥などは轉がつてゐない。例へば象徴の解釋に於て獨決めと非難される點も一般に夢の思考とその各部分の連絡、夢と夢見た人の生活との連絡、夢が現れた全心理狀態を見渡して、考へらるべき解釋のうちから一つを選擇し、他の解釋は無效と捨て去ることによつて、その缺點を訂正することが出來るのである。夢判斷の不完全は私達の前提が間違つてゐるために生じたのだといふ諸君の結論も、夢の曖昧、夢の不確實はむしろ私達が必然に豫期すべき夢そのものの本質であるといふ事實を知れば、諸君の論據は至極薄弱になつてしまふ。

前述の夢の仕事は夢の思考を象形文字と類似の原始的な表現樣式に翻譯するといふ私達の見解を思ひ出して欲しい。成程この原始的表現組織のすべては當然不確實と曖昧を免れ得ないが、その點をもつて直ちにその表現樣式が實用にならなかつたと斷言するのは不當である。夢の仕事に於ける對偶同義は古代言語に存する所謂「大古語の對偶的意味」と類似のものである。この智識の開拓者である言語學者アアベル（一千八百八十四年）は大古人がこの種のアンビワレントな言葉をもつて意志を傳へたとてその言葉の意味は決して曖昧ではなかつたとわれわれに警告して吳れてゐる。語

調とか身振乃至話の筋によつて話す人がこの對偶のどちらの意味を傳へようとしてゐるかを明確に分からしたのに相違ない。文字に書く時は身振で表せぬ故その大古語に單獨では發語出來ない畵を附加した。例へば象形文字のケンといふ兩義が强い若くば弱いを意味するに從つて、その文字のあとに直立してゐる小さい男、だらりとしやがんだ小さい男の畵を書き加へた。このやうにして、發音及び文字に幾通もの意味が含まれてゐたにも拘らず、誤解は十分に避け得られたのである。大古の表現組織、例へば大古語の文字の中には現代語では殆ど許されない無數の不正確が發見される。例へばセムの文字では子音だけが表された。讀む人は自分の智識と前後の關係によつて、除かれてゐる母音を補ふことになつてゐた。象形文字は、この通りとは申せぬが、殆どこれと似寄つた原則で許されてゐたのである。現代人が古代埃及の發音をどうしても解き得なかつたのはこの理由によ る。埃及の聖語にはなほ別の不正確が存してゐる。例へば附加する畵を右から左へ、若くば左から右へ並べるかは一つに畵家の獨斷にあつた。だから、これを讀まうとすれば、先づ人物や鳥の顔の方向を知つてから讀むといふ規則を念頭に置かねばならぬ。ところが畵家は象形文字を垂直の方向に配列することがあつた。そして非常に小さい物品に彫りこむ場合には、畵家は全體の恰好とか空所とかを顧慮する結果、文字の配列はもう一段變化を蒙つた。言葉と言葉を離すことを知らなかつ

たことは、象形文字を最も不可解なものにさしたのである。繪畫は繪卷物の上に同じ間隔をおいて列んでゐる。だから、ある文字は前の文字に屬してゐるのか、次にくる新しい文字の始めを作つてゐるのか丸で見當がつかない。これに反して波斯の楔形文字では、各言葉を分離するために斜な楔を挿入したのである。

最も古い、現今なほ四億の人が使用してゐる言葉と文字は支那語である。何も私は漢字を知つてゐるのでないが、ただちよつぴり漢字を習得した。私の目的は漢字の中に夢の不正確との類似點を發見したいと希望してゐたからである。私の期待は決して裏切られなかつた。漢字はわれわれを脅かす程の不正確で充滿してゐる。漢字には無量の字音がある。そしてある時は一字だけで發音し、ある時は二時結合して發音する。日常使用の言語は約四百の字音を有してゐる。さてこの言語の單語を約四千とすると、字音は一つで平均十の違つた意味を持つことになる。そのうちでも、ある字音は十以下、ある字音は十以上の意味を持つことになる。從つて、この意味不明瞭を避けるために、各種の工夫が積まれてゐる。なんとなれば、單に語脈だけでは、話す人がその子音の十の意味のうちのどの意味を聽く人に浮べしめようと目指してゐるかを推察することが出來ない。これらの工夫のうち、二つの字音を結んで一つの言葉を作りこの綴字が發音される違つた四つの音を利用するこ

とである。この國語が文法なしにうまく活用されてゐる事實は、夢との比較研究上甚だ興味あることである。名詞でも動詞でも形容詞でも、一綴りの言葉は決して言ふことは出來ない。性、數、格、時、法を認知すべき言葉の曲げが缺けてゐる。だから支那語は原料ばかりで出來てゐると申せる。丁度思考言語が夢の仕事によつて、その關聯を示す表現を省略されて、その原料だけに分解されると同じことが成立してゐる。支那語にどれ程の不確實が存してゐてもそれの決定は文脈によつて導かれる聽手の智識にだけ委ねられてゐる。私は一つの支那の諺を知つてゐる。文字通りに譯すると「Wenig was sehen viel was wunderbar」となる。これだけでは理解し難い。むしろ「見聞の少い人程驚くべきものが多い。」とか「見ること少き人にとつては驚くべきもの多し。」とか譯してもよい。勿論文法上だけで違ふこの二つの解釋のうちどつちを採用したところで大した間違ひはない。このやうな不確實性が存してゐても支那語は思考表現上非常に特色ある方法であることは論を俟たない。だから、不確實性は必然に意味不明瞭に導くとは斷言出來ないのである。

さてこれ等の古代語や古代文字に比較すれば、夢の表現組織は非常に損な立場にあると白狀しなければならぬ。古代語や古代文字はその起原は思考傳達の手段として作られたのである。換言すれば、どういふ方法、どういふ補助手段をもつてすれば、一そうよく了解されるものかを念頭におい

て作られたのである。ところが、この特色は夢には存してゐない。夢は何人かに何かを語らうとは欲してゐない。夢は思考傳達の媒介物でない。いや反對に、分からないところに夢の本質が存してゐる。だから、夢の多義性と不確實性の多數が不問に附せられてゐるといふ結論に到達したところで、決して驚くに足らないし、決して誤解を招來する理由ともならない。只今の比較研究から得た確實な收獲は、夢判斷の正當を攻める武器とする不確實性こそむしろ一般にすべての原始的表現組織の特色であるといふ見解である。現實界に於て夢の理解はどの範圍迄許されるかは一つにその熟練と經驗に懸つてゐる。非常に廣い範圍迄可能だと私は確信してゐる。正しく習得した分析家の得た結果を總合してみれば、私の見解の正しさが證明出來る。俗人、いや科學界の俗人先生でもある科學的業蹟の難解と不確實を懷疑の目で眺めるのを自ら偉いと思つてゐる。これは大きな間違ひだと私は思ふ。バビロン・アッシリヤ文字が解かれた歴史上にも同じ心理狀態が存してゐたことは諸君はよもや知つてゐないだらう。楔形文字を釋く人は夢想家だ、この人達の畢生の研究も要するにぺてんだといふ非難が公衆の輿論となつたのは丁度その當時であつた。ところが一千八百五十七年王立亞細亞協會が斷定的な證明を與へた。楔形文字研究で令名ある四人の學者ロオリンソン、ヒンクス、フオク・タルボット、オッペルトを招聘して新しく發掘された碑文を密封してめいめいに渡

して獨立して翻譯するやうに命じた。四つの翻譯を比較してみた結果、四人の間に一致點が存してゐる事が分明し、今日迄の智識が正しいことと將來の進歩も信頼出來ることが承認された。學者と誇つてゐる俗人先生の揶揄も漸次跡を絕つて、楔形文字文献を解する力も正確になつて、爾來斯學は異常な發達を見たのである。

二。第二の疑點は恐らく諸君もお氣付になつてゐる印象と深く關聯してゐる。卽ち夢判斷をもつて解き得た結果は、强制されたもの、尤もらしいもの、曳きづられて行つたもの、換言すれば高壓的なもの、さもなくば滑稽な洒落のやうな印象を與へるといふ點である。こんな批評は度度耳にするものでそれ等の批評のうち私の手に這入つた最近のある報告を漫然と拾ふことにする。話はかうである。自由國を誇る瑞西でこの間學校長が精神分析を硏究した廉で免官された。彼は飽く迄も抗辯した。そこでベルン新聞がこの判決に就て敎育者に意見を求めて公開狀を發表した。私はこの公開狀のうちから精神分析に關するある記事を引用してみる。「さらに私共はその問題の人が參考書としてゐる、チユリイヒのフイステル博士の書物も見たが、書中の實例の大概が牽强附會なつくり話であるのに一驚した。……學校長たるものが精神分析の主張といかさまのやうなつくり話を何等批評もせずにその儘鵜呑みにした事は實に噴飯の到りである。」この記事は「冷靜に審判する人」

の下した斷定の大要である。私はこの冷靜にといふ言葉をむしろつくり事だと考へてゐる。私達は冷靜な批評にでも幾分の反省と幾分の專問智識は決して無益でないといふ豫想をもつてこの冷靜といふ言葉を今少し深く味つてみたい。

この深部心理學(チイフエンプシヒヨロギイ)の至難な問題を第一印象をもつて迅速に斷乎として判決し去るのは何人にとつても、確かに痛快至極なことである。彼の目には解釋はすべて糺問したもの强制したものと見える。解釋は彼のおぼしめしには適はない。だから解釋はすべてぺてんである。屁理窟は一文の價値もない。然しながら、これ等の解釋が批評家の目にそんなに見えるのにはそれ相當の理由があるといふ他の可能性を批判の際に念頭に浮べてゐない證據である。その理由は何であらうか。それはさらに大きな問題を提供する。

批判される立場は諸君が夢の檢閲官の最强の武器として學ばれたあの轉移作用の結果と專ら關係してゐる。檢閲官は轉移作用の下に私達が諷示と名付けた代用物を形成する。併し諷示でもそれが果たして諷示だと認識するのは容易でない。諷示からその本來のものに逆行する道筋は早速には發見出來ぬ。諷示はその本來のものと想像も許されない最も奇怪な外觀的聯想で結びついてゐるからである。考へてみれば諷示で表現されたものはすべて、隱蔽されるべきもの、秘密と定められた事

物である。そして夢の檢閲官はそれ等の隱蔽を遂行しようと欲してゐる。隱蔽されてゐるあるものは彼の位置、卽ち當然それが所在すべきと規定した場所に求めても出てくるものでない。この點では國境の監視官は瑞西の教育家よりも狡猾である。彼等は證據物件や計畫圖を嗅ぎつけるためには紙挾や手帖を探すだけで足れりとしない。スパイや密輸入者が禁制品を着物の奧の方に隱してゐないだらうかと、いろんな可能を想像して、例へば靴の二重底の中といふわれわれが迚ても想像がつかない場所を探索するのである。隱匿品がその場所に發見される以上、隱匿品は勿論非常に檢査されたのであるが、同時に隱匿品は曝露されたともいへる。

夢の潛在思考とその顯在代用物の關係は最もかけはなれた、最も奇怪な、時には滑稽な、時には洒落のやうな觀を呈してゐると認めることが可能であるなら、意味を曝露するのが大抵不成功に終つたあの夢の實例から贏ち得た豐富な經驗から敎へられるところが多い。自らいくらきばつても本來の意味に達することは多くの場合に不可能である。いかに機敏を誇る人も二つの關係を摘發することは出來ないだらう。夢見た人がその直接の聯想によつて私達に謎を解いて吳れるか、――この代用形成は彼の心理で作られたのだから彼はそれが出來るのである。――若くば夢見た人がわれわれに多量の材料を惠んで吳れて、そのため解釋上何等特別の洞察力を要せずに、丁度必然的に迫つ

てくるやうに謎が解けるのである。夢見た人が二つの方法でもつて私達を後援して異れなければ、その直面した顯在要素は永遠に不明に終る。諸君に最近に經驗した一例を擧げるを許して欲しい。私のさる女患者が治療中に父を失つた。爾來彼女は、夢の中に死んだ父を復活さすために、あらゆる手段を講じたのである。そのうちのある夢に死んだ父が一寸では解釋がつかないやうなある筋書で現れて、「十一時十五分だよ。十一時半だよ。十二時十五分前だよ。」と言つた。この奇怪な夢の判斷に彼女はたつた一つの聯想だけしか提供しなかつた。卽ち、彼女の父は大きくなつた子供達が晝食に正確な時間にちやんと並ぶ時は非常に機嫌がよかつた。成程この聯想も夢の要素と關係してゐるだらう。だがそれだけでは到底この夢の由來の緖口を與へない。ところがその當時彼女が私に治療を受けに來た事情から察して、彼女が最も愛してゐる最も尊敬してゐる父に對して注意深く抑壓してゐるある批評的反抗がこの夢の動機となつたのだと疑つたのである。一見夢とは全く關係なしに彼女に次から次へ聯想を行はすうちに、彼女は次の話を打開けた。昨日自分のところで心理學に議論の花が唉いた。その時親戚の一人が「大古人(ウウルメンシユ)（Urmesch）はあたし達みんなのからだの中に生きてゐる。」と言つた。私はこの話から早速に解決の鍵を見付けた。死んだ父をもう一度生かすにはこれは實に立派な機會である。卽ち夢の中で彼女は父を時計人(ウウルメンシユ)（Uhrmensch）にして十二時十

五分前だよと言はさしたのである。

諸君はこの例から洒落との類似點を見逃すことは出來ないだらう。實際夢見た人の洒落は解釋者の洒落と見做される場合がたびたびある。洒落を言つてゐるのか夢を言つてゐるのかたやすくは決定しかねる他の實例が存してゐる。言ひ間違ひの多數の例に於ても同一の疑問が湧いた事を覺えてをられるだらう。ある男が自分の夢を語つた。彼と叔父が叔父專用の自動車（Auto）に乘つてゐた時に叔父が彼にキスをした。この男は自分の夢を立所に解釋してかう言つた。「夢の意味は自動性慾（Autoerotismus リビド說の術語、卽ち異性對象なしに遂情することを名付ける。）であります。」この男は私達に自ら洒落をやつたのだらうか。彼に浮んだ洒落は夢の部分であつたと見せかけてゐるのだらうか。私はさうは信じない。確かに彼はその通りの夢を見たのである。それでは、夢と洒落の間に存するこんな面喰ふやうな類似はどこから來たのか。一時私は專問外にこの問題を研究したことがある。私は洒落を深く究めなければならぬ必要に迫られたのである。その研究の結論として、洒落の發生はかうである。前意識的思考の流が一瞬時無意識的推敲の作用を受ける。その推敲のため前意識は洒落の形で飛び出る。無意識に支配されて、前意識的思考の流は無意識のメカニズムの作用、卽ち壓縮作用と轉移作用をくぐる。換言すれば、私達が夢の仕事に與かつてゐると知つ

た同一過程を通過するのである。從つて洒落と夢の對照點が發見出來る類似はこのやうな共通性質に基づくと申せる。併しこんな目的のない「夢の洒落」は普通の洒落のやうな快感を與へるものでない。何故であるか。この理由は諸君が洒落を深く研究すればひとりでに分かつてくる。夢の洒落は駄洒落だ。夢の洒落は私達を笑はさない。私達に何の反響も與へないものだ。

さらに私達は古代の夢判斷の足跡をも探つてみることにしよう。古代の夢判斷の大部分は役に立たないが、そのあるものは私達自らが未だ遭遇してゐない立派な實例を與へて呉れる。ここで一つ歷史的に有名な夢の實例をお話することにする。それはアレキサンダァ大帝の夢でプルタアクとダルヂスのアルテミドルスが多少の異同をもつて語り傳へてゐる。大帝が難攻不落のチルスの都を包圍してゐた時（紀元前三百二十二年）に、一日彼はサチィルの神が踊り狂つてゐる夢を見た。彼に扈從してゐた夢占者アリスタンドロスがこの夢を占ふことになつた。彼は「Satyros（サチロス）」の言葉を σά（サァ） Τύρος（チロス）（汝チルスなり。）と分解して、チルスの都が間なく陷落することを豫言した。アレキサンダア大帝はこの夢占の敎に從つて包圍を繼續することに決心した。そしてやがてチルスは大帝の手に歸した。この夢占は一見いかにもこぢつけのやうであるが、實際は正しい解釋であつたのだ。

三。長い年月精神分析家として夢判斷に潛心してゐる人達の方から夢に對する私達の見解に抗議

が出たと聞けば、諸君こそ隨分變に思はれよう。新しい誤謬に對するこの好機が逸せられたならば、實に異例と申せよう。この抗議は、正しくない點では夢の醫學的見解と殆ど逕庭のない主張であつて概念混亂と不當な歸納の上に築かれたものである。諸君はその抗議の一つを御存じの筈だ。夢は現狀に適合しようとする試みと未來に横たはる問題を解決しようとする試みを掌つてゐる、換言すれば「豫想傾向（プロスペクチイフエ・テンデンツ）」(Prospektive Tendenz)を追求してゐるといふ主張である。(メエダア)。この主張は夢とその夢の潛在思考を混合したために生じたのだ。卽ち夢の仕事の無視を前提としてゐると私は旣に申しておいた。夢の潛在思考に屬する無意識的精神活動の特性から見て、豫想傾向は何等新事實ではないし、昔からいろいろ問題にされてゐるのだ。と申すのは、無意識的精神活動は未來の準備以外に他の多數のものを掌つてゐるからである。さらに「死の文句」がこの夢にも潛んでゐるといふ信念の根本には非常に無法な混同が横たはつてゐる。この公式が一體何を語らうとしてゐるか私にははつきり分からぬが、この公式の背面に夢と夢見た人の全人格の混同が潛んでゐると推察してゐる。

　少數の都合のよい例だけを根據として不當な歸納を試みたものに次の主張がある。この夢も二つに解釋が出來る。一つは所謂精神分析的解釋である。他の一つは本能的傾向を無視して、さらに高

等な精神作用の表現を目標とする所謂神秘的解釋(アナゴギッシエ)である。(チルベレル)。成程そのやうな夢も存してゐるが、諸君が假にこの見解を普遍したところで、かつかつ少數の夢にあてはめることが出來る位のところだ。諸君が耳にせられたうちで最も不合理なものは、總ての夢は兩性的に解釋すべきである、卽ち男性的、女性的と稱すべき二つの傾向の組合せと觀ずべきだといふ持論である。(アドレル)。勿論さういふ夢はないといへない。諸君は後日あるヒステリィ症候にそのやうな組合せが構成されることを學ばれるだらう。諸君にそのやうな抗議に警戒して貰ふため、少くともその抗議に對する私自らの意見に誤解を殘さないために、私は只今夢の新しい綜合的特徴の發見を殘らず數へたのである。

四。將來分析療法を受ける患者は、醫者が奉ずる學說に從つて夢の內容が左右されよう。ある者は專ら性衝動に關する夢を見、ある者は權力衝動の夢を見、さらにある者は再生(キイダアゲブルト)の夢さへ見よう。さういふ觀察から夢の研究の客觀的價値が疑はれる時代が到來するだらう。(ステケル)。然しながら人類は夢を左右するといふ精神分析療法が發見されない以前にも夢を見てゐたのだし、現在治療を受けてゐる人は治療前にも夢を見てゐたのだと考へると、この觀察の重味は薄弱になる。この新事實の眞相も間もなく自明なものとなり、結局夢の學說と抵觸しないことが承認されよう。夢

の導火線となる晝の殘物は覺醒生活の强い興味の殘物である。醫者の話や醫者の與へる刺戟が患者に意義深いものとなつたら、それ等は晝の殘物の圈内に侵入し、丁度感情で强められた、未だ釋放されてゐない前日の他の興味と同樣に、夢形成の心理刺戟となることが出來よう。そして睡眠中に寢てゐる人に働く肉體刺戟と同一な作用を與へるかも知れない。夢を刺戟するこれ等の指嗾者と同樣に、醫者に依つて刺戟された思考の流もまた夢の顯在內容に現れ、若くば潛在內容に證明され得るだらう。人は夢を實驗的に製造する。もつと正確に言へば、夢の材料の一部を夢の中に移入することが出來る事實を知つてゐる。だから丁度ムルリイ・ヴルドが被驗者の四肢にある位置をとらして夢を實驗したやうに、分析家は患者にこの種の影響を與へることに於ては實驗家と殆ど同じ役目を持つことになるであらう。

私達は夢見る人に、彼が何に就て夢を見るべきかに影響を與へることが出來ても、決して、彼が何を夢見るだらうかに影響を與へることは出來ない。夢の仕事のメカニズム、夢の無意識的願望はいかなる種類の外來影響にも超然としてゐる。旣に肉體刺戟に際して移入された肉體刺戟若くば心理刺戟に答へる夢の反應中には、夢の生活の特質と獨立性が證明される事を認めたのだ。從つて夢の研究の客觀性を疑はうとする敍上の主張はこの點でもまた、夢と夢の材料とを混同するところに

發してゐるのである。

私は諸君に夢の問題を澤山お話しようと欲してゐたのである。私は今迄に多數の問題に觸れた。そして諸君自ら私が殆どすべての點に於て必ずしも完全でなかつた事に氣付かれたらう。夢の現象が神經病の現象と密接してゐる以上私はすべてをぶつちやけて申せなかつたのである。私達は夢を神經病學のはしがきとして研究したのである。神經病學から夢に入門するより、夢から神經病學に入門する方が遙に正しかつた。併し考へ方によつては夢を神經病患者の理解に準備したのだから、神經病現象の智識を習得した後初めて夢を評價する方が正しいかも知れない。

諸君がこれに關してどういふ考へを抱いていらつしやるか私は知らない。だが諸君の興味と私達のために拂はれた諸君の時間の多量を夢の問題に費した事を私は決して後悔してゐないと斷言するを憚らぬ。精神分析が闘つて來た學説の正しさを出來るだけ速成に理解するには先づ夢の問題をおいて他に適切な題目はないのである。若し神經病の症候が意味を持ち目的を行使し患者の運命から發現してくることを證明するとなれば、數月いや數年の努力を要するのである。これに反して、この同一問題を、最初は見當がつかない朦朧とした夢の作用で證明して、この道を辿つて、精神分析の前提、精神過程の無意識性、それが奉ずるメカニズム、それに現れる衝動力を立證するなら、近

近数時間の努力で見事に成就する。そして私達が夢の構造と神經病症候の構造に於ける大膽な類似を、夢見る人から覺醒時の理性ある人間に直接に移し直して總括するなら、神經病もまた單に精神生活の諸種の力の平衡に變化を來たしたものに過ぎない事實を確信するのである。

精神分析入門（上卷）

定價　壹圓五拾錢

版權所有

昭和三年四月三日印刷
昭和三年四月七日發行
昭和三年五月十日十版發行

譯者　安田德太郎

發行者　北原鐵雄
東京市小石川區表町一〇九

印刷者　赤羽正巳
東京市神田區今川小路一丁目二

製本・江島

發行所　アルス
東京市小石川區表町一〇九
振替東京二四八八八番
電話小石川三五七〇番

論集

正義を求める心

大杉榮著

眞摯にして熱烈、深刻にして犀利、現代一あつて二なき大杉榮氏の一大論集である。收むる處五章三十有餘篇、論及する處勞働及び社會の諸問題より、科學、哲學、藝術の多方面に亘り、悉く氏が思想の核心と近代思想の諸相を盡し、言々句々潑剌たる氏が全生命を載せて將に躍動せんとするの慨がある。信者の如く行動しつゝ懷疑者の如く思索する、この勇敢にして不屈なる社會運動の闘將、純眞にして偉大なるこの街頭の哲人大杉榮氏の眞面目は、本書によつて初めてこれを見ることが出來る。

附錄とせる『青年に訴ふ』一篇はクロポトキン自身の云へる如く、彼の最も得意のもので、二十餘の諸外國語に飜譯された名篇である。眞理と正義と自由とを愛する青年に與へた火の如き文字は、讀む者をして全身の血潮の跳躍するを感ぜしめるであらう。

附錄◇青年に訴ふ◇　クロポトキン著

VORLESUNGEN
ZUR
EINFUHRUNG
IN DIE
PSYCHOANALYSE

フロイド
精神分析入門
上巻
田徳太郎訳

ARS

フロイド・

精神分析入門

上

安田徳太郎訳

・

ARS